B7FY-0311-04Z0

ServerView V03.30
ユーザーズガイド

本書の構成

このマニュアルでは、サーバ管理の基本事項、ServerView を使用する場合にオペレーティングシステムに固有の要件、ServerView のインストールと ServerView のユーザインタフェースについて説明しています。

このマニュアルは ServerView のドキュメンテーションの一部であり、次のコンポーネントで構成されます。

- ServerView のインストールと基本的な操作方法について説明しているマニュアル
- 個々のメニューとコマンドについて詳細な説明をしているオンラインヘルプシステム
- トラップとしきい値に関するオンラインの説明
- ServerView の情報ファイル。特に Fujitsu ServerView Hints ファイルには、マニュアルに収録できなかった最新情報が記載されています。ServerView の情報ファイルは、対応するエントリをクリックすれば ServerView のプログラムグループから呼び出すことができます。

2002 年 7 月

Microsoft、Windows、Windows NT、MS、MS-DOS は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Intel および Pentium は、米国インテル社の登録商標です。
その他の各製品は、各社の商標、登録商標または著作物です。

Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。
All Rights Reserved,Copyright© FUJITSU LIMITED 2002

本書の表記について

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：[Ctrl] キー、[Enter] キー、[→] キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「＋」でつないで表記しています。

例：[Ctrl] ＋ [F3] キー、[Shift] ＋ [↑] キーなど

■ ボタンの表記

画面に表示されるボタンは、次のように［　］で囲んで記述しています。

例：[OK]

■ コマンド入力

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:
        ↑ ↑
```

↑の箇所のように文字間隔をあけて表記している部分は、[Space] キー（キーボード手前中央にある何も書かれていない横長のキー）を 1 回押してください。

また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。

■ 本文中の表記

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

ポイント

ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。

ヘルプ

操作を間違えてしまったときの元の状態への戻しかたや、困ったときの対処方法が書いてあります。

■ 連続する操作の表記について

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「- 」でつないで記述しています。

例：［スタート］をクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

［スタート］-［プログラム］-［アクセサリ］をクリックします。

■ 画面例について

本書に記載されている画面は一例です。お使いのサーバに表示される画面やファイル名などが異なる場合があります。ご了承ください。

■ 製品の呼びかたについて

本書に記載されている製品名称を、次のように略して表記しています。

- Microsoft Windows NT Server network operating system Version 4.0 を Windows NT と表記しています。
- Microsoft Windows 2000 Server operating system を Windows 2000 と表記しています。
- RedHat Linux 7.2 を Linux と表記しています。

目次

第 1 章　ServerView の概要 1

1　ServerView について 1
2　ハードウェアの監視 2
3　ハードウェアの状態の表示 4
4　ServerView の機能 6
リカバリ機能 6
予防保守機能 7
モニタ機能 7
管理機能 7
システムセキュリティ 8
リモートアクセスサービス (RAS) を使用する 8
S.M.A.R.T. サポート 10
リモートサービスボードのサポート 10
統合オプション 10
ServerView Basic 11

第 2 章　インストール 13

1　動作環境 13
2　インストールの準備 17
動作環境を準備する（TCP/IP プロトコルと SNMP サービスのインストール）..... 17
IP アドレスが複数存在するサーバの監視について 21
Web server のインストール 21
3　サーバに ServerView をインストールする 27
ServerView Basic ／ Full のインストール 27
ServerView Windows Blade-Agent のインストール 30
ServerView Linux のインストール 31
4　ServerView の管理端末を構築する 44
5　インストール後の処理について 46
各サービスの設定（OS が Linux の場合）..... 46
Service Pack を適用する（すべてのマシンで必要）..... 51
ServerView 使用前情報を設定する（FULL/BASIC、または管理端末で必要）..... 51
ServerView の監視機能を設定する（FULL/BASIC、または管理端末で必要）..... 52
管理ユーザを設定する（FULL/BASIC、またはサーバブレードで必要）..... 52
FUJITSU SVUSER グループを手作業で作成する (FULL/BASIC、またはサーバブレードでのみ必要)..... 57
6　管理端末から管理コンソールをアンインストールする 59
7　サーバから ServerView をアンインストールする 61
ServerView Basic ／ Full のアンインストール 61
ServerView Windows Blade-Agent のアンインストール 61
ServerView Linux のアンインストール 62
8　アレイコントローラのインストール処理 63

第 3 章　ServerView の使用方法.. 67

1　ServerView を使用する前に 67
2　Server View コンソールの起動と終了 67
3　Server View コンソールのメイン画面 68
4　ServerView の重要な機能 70
監視機能 70
リカバリ機能 71
アラームの管理 72
しきい値の管理 73
レポートの管理 74
デフォルト値の管理 75
5　リモートサービスボードのサポート 77
ServerView フロントエンド 77
[Remote Service Board] プロパティウィンドウ 78
[Remote Service Board] プロパティページ 78
6　メニューの概要 79
7　サーバの一覧 83
サーバが「管理不可能」の場合 83
サーバが「管理不可能」で RSB アイコンがある場合 84
サーバ一覧の確認 84
8　新しいオブジェクトの定義と追加 86
サーバブラウザウィンドウ 86
ネットワークの参照（ブラウジング） 86
新しいサーバをサーバの一覧への追加 88
9　ServerView 92
構成情報 92
アクション 93
オペレーティングシステム 97
システム ステータス 97
外部記憶装置 97
外部記憶装置 - RAID コントローラ 101
外部記憶装置 - MultiPath 103
外部記憶装置 - DuplexWrite 105
ベースボード 108
電源 109
環境 110
ネットワークインタフェース 112
しきい値 112
レポート 112
デフォルト 112
10　Blade Server View 113
11　設定 117
外部アプリケーション 117
デフォルトの設定 117
単位の設定 118
ユーザ認証 118
12　レポート 119
レポートマネージャ 119
レポート一覧 120

13 しきい値 121
しきい値マネージャ 121
しきい値一覧 123
14 アラームサービス 124
アラームマネージャ 125
アラームモニタ 127
アラーム設定 129
ポケットベルの設定について 134
インストール後のコンピュータ情報変更 136
15 ツール 137
アーカイブマネージャ 137
データのエクスポート 141
Global Flash 141
16 ウィンドウ 142
17 プロパティウィンドウ 143
サーバブラウザ 143
プロパティの設定 143
クラスタのプロパティウィンドウ 144
ASR 設定 144
RSB プロパティウィンドウ 145
ボタンとその他の項目 145
プロパティページのタイプ 146
プロパティページ 148
18 ServerView Linux Agent の使用方法 151
ServerView Linux Agent の状態表示 151
ServerView Linux Agent の起動 151
ServerView Linux Agent の停止 151
ServerView Linux Agent のログについて 152
WebExtension/AlarmService について 152

第 4 章 ServerView Basic..... 155

1 ServerView Basic のインストール 155
2 ServerView Basic の使用方法 156

第 5 章 オプション装置の割り込み情報登録処理 157

1 概要 157
2 割り込み情報の登録処理 157
3 オプション装置のアラーム監視 159

第 6 章 LDSM 連携 161

1 LDSM 連携について 161

第 7 章　SystemWalker 連携 163

1　SystemWalker と ServerView 連携による管理 163
2　SystemWalker/CentricMGR との連携による機能 164
3　SystemWalker/CentricMGR との連携手順 165

第 8 章　UPS 管理ソフトウェア連携 171

1　UPS 管理ソフトウェア連携でできる機能 171
2　連携できる UPS 管理ソフトウェアについて..... 171
3　UPS 管理ソフトウェア連携を行うための設定について .. 172
4　UPS 管理ソフトウェア（クライアントプログラム）を ServerView 管理コンソールから起動する 176

第 9 章　RemoteControlService 177

1　RemoteControlService の概要 177
2　RemoteControlService の構成 177
3　RemoteControlService の機能 178
4　システム要件..... 179
5　RomPilot の設定 180
6　インストール／アンインストール..... 185
7　RemoteControlService/LAN の起動と終了 188
8　RemoteControlService/LAN の使用 190
RemoteControlService/LAN のメニュー 190
RemoteControlService/LAN のポップアップメニュー 192
パスワード保護 194
リモートサーバの管理 196
管理端末からのサーバの BIOS セットアップ..... 198
管理端末からのサーバのブート 199
リモートサービスボード（Telnet）のサポート 201

第 10 章　バックグラウンド情報..... 207

1　エージェントと管理コンソール..... 207
2　Management Information Base..... 209
3　SNMP の基本原理 210
SNMP のデータ要素 210
SNMP のプロトコル要素 210
コミュニティ 211
トラップ 211
Fujitsu サーバ管理..... 212

第 11 章　トラップ.....213

第 12 章　InventoryView.....215

1　構造.....215
2　サーバ管理タスクとの統合.....216
　タスクの選択.....216
3　InventoryView ウィンドウ.....218
4　エクスポート機能.....220

第 13 章　エクスポートマネージャ..221

1　エクスポートマネージャの開始.....222
2　エクスポートデータの定義とエクスポート操作.....224
3　エクスポートフォーマットの定義.....226
4　CSV フォーマットでの保存作業の定義.....227
　エクスポートファイルの構造定義.....228
5　ODBC フォーマットでの保存作業の定義.....229
6　SQL フォーマットでの保存作業の定義.....232
7　エクスポート作業の開始.....234
8　エクスポートデータの閲覧.....236
　Microsoft EXCEL ワークシートでの CSV 形式エクスポートデータの閲覧.....236
9　エクスポートされるコンテンツの一覧.....237

第 14 章　リモートサービスボード..239

1　リモートサービスボードについて.....239
2　ファームウェアのアップデート.....240
3　ドライバのインストール.....242
4　通信インタフェースの設定.....244
　LAN インタフェースの設定.....244
　シリアルインタフェースの設定.....247
5　管理ユーザの設定.....251
　LAN インタフェースからのパスワードの変更.....251
　シリアルインタフェースからのパスワードの変更.....251
6　Web インタフェース.....253
　スタート画面.....253
　[Overview] ページ.....254
　[Recovery] ページ.....256
　[ASR Properties] ページ.....257
　[Service Processor Battery Backup] ページ.....263
　[System Board] ページ.....264
　[Power Supply] ページ.....264
　[Environment] ページ.....264

[Service Processor] ページ 264
[Storage Subsystems] ページ 265
［LAN Interface］ページ 266
［SNMP Interface］ページ 266
［Serial Line Configuration］ページ 267
［User Accounts］ページ 267
［Console Redirection］ページ 267
［LMC Status/Restart］ページ 269
7 ダイヤルアップ接続 270

付録 279

1 よくある質問とその回答 279
一般的な Q&A 279
ServerView コンソールに関する Q&A 281
AlarmService に関する Q&A 282
8 トラブルシューティング 284
ServerView コンソールのトラブルシューティング 284
AlarmService のトラブルシューティング 286
9 留意事項 289
ServerView Frontend の留意事項 289
AlarmService の留意事項 292
RemoteConsoleService の留意事項 295
リモートサービスボードの留意事項 296
全般的な留意事項 297
機種ごとの制限事項 300
2 アイコンリスト 306
Server List 307
ServerView メニュー 308
Mylex の Device View ウィンドウ 309
DPT Disk Array Devices ウィンドウ 309
ネットワークインタフェースウィンドウ 310
バスとアダプタウィンドウ 310
Alarm Manager ウィンドウと Alarm Monitor ウィンドウ 311
クラスタのステータス（未サポート） 312
その他のアイコン 316
3 トラップリスト 318
dec 318
desktrap 319
dptscsi 325
duralink 326
dw 326
hd 327
ldsm 328
megaraid 328
mp 330
mylex 330
ntcluster 334
pichotplug 336
powernet 337

sc 340
serverview 344
status 345
trap 345
F5emt2o 348
Servervi 349
Asmpro 349
brocade 350
cmc32 351
Ldcm 353
PPC 354
RFC1157 354
ROMPILOT 355
tapealrt 356
Upsman 360
ddm 361
fasttrak 362
Mlxraid 363
clariion 372
S31 373

4 しきい値リスト 376

監視される値 376
概要 376

5 略語 383

1 ServerView の概要

ここでは、ServerView の概要について説明します。

1 ServerView について

ServerView はサーバを監視するソフトウェアです。

ServerView を使用すると、Windows NT または Windows 2000 が動作する標準的なパーソナルコンピュータから、ネットワーク上にあるすべての PRIMERGY サーバを監視できます。

ServerView は監視を行うためのコンソール：ServerView 管理コンソール（管理コンソール）と、監視されるサーバ：ServerView エージェント（サーバ）から成ります。

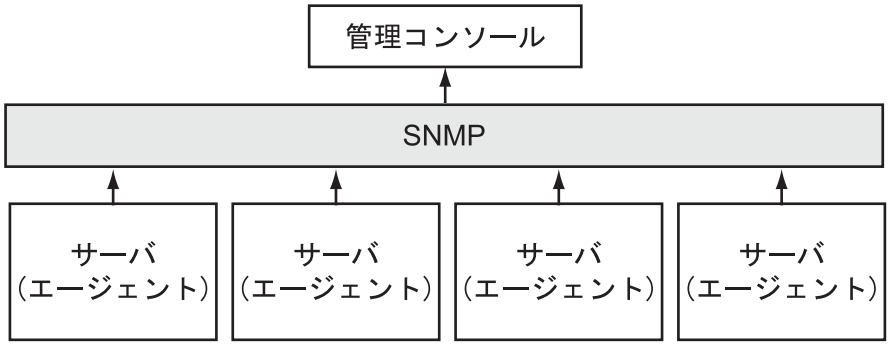


図 1：エージェントと管理コンソール

ServerView では、ハードディスクドライブ、冷却ファン、電源ユニット、または装置の温度などの重要なサーバ機能をチェックします。これらのパラメータの値が指定した値を超えたりエラーが発生した場合には、メッセージが出力され、必要なときには修正処置が施されます。

ServerView を使用してサーバを管理すると、大規模ネットワークのオペレータに次のような決定的な利点をもたらします。

- サーバの信頼性が高まるため、生産性が向上する。
- データ処理インフラストラクチャを自動的に監視することにより、コストが削減される。
- 状況の変化に問題なく ServerView を適用させることができるため、柔軟にシステムを拡張できる。
- エラー分析を簡素化したため、ダウン時間が短縮される。
- エラー発生時の対応時間が短縮される。
- ネットワークコンポーネントとそのリソースを効率的に使用することにより、総運用費（総維持費）が削減される。
- ソフトウェアの人間工学を考慮することにより操作が容易である。データのわかりやすい表示、インテリジェントなユーザインタフェース、頼りになるヘルプシステムが提供されている。

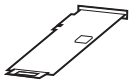
2　ハードウェアの監視

ServerView は、管理者に代わってサーバのハードウェアの状態が正常かどうかを常時監視します。サーバのハードウェアの各部からサーバに搭載されたオプション装置にいたるまで必要な監視を行います。ServerView で監視できるサーバのハードウェアおよびオプション装置は次のとおりです。

■ サーバ

監視できるハードウェア	監視内容
電圧センサ	サーバの電圧
温度センサ	筐体内の温度
CPU	搭載 CPU 情報の表示、エラー
ファン	CPU・筐体内・電源のファン
筐体	筐体の開閉
メモリ	搭載情報の表示、エラーカウントの表示
電源	故障

■ オプション装置



監視できるオプション装置	監視概要
オンボード SCSI に取り付けた内蔵ハードディスクユニット	デバイス情報の表示
SCSI カード（PG-128/129）	カード情報の表示
LAN カード（PG-185）	インターネット情報の表示 イーサネット MAC 統計情報の表示

■ RAID 監視

SCSI アレイコントローラカード

- SCSI アレイコントローラカードに接続されているディスクの状態を表示することができます。
- SCSI アレイコントローラカードの監視及び表示処理は RAIDmanager を使用してください。
- RAIDmanager が検出したエラー情報を管理コンソールに警告を通知することができます。
- SCSI アレイコントローラカードに添付されている RAIDmanager を必ずインストールしてください。RAIDmanager がインストールされていない場合、ディスクの状態監視が行えません。
  また、SCSI アレイコントローラに合う ServerView Agent もインストールを行う必要があります（「8 アレイコントローラのインストール処理」（→ 63 ページ）参照）。
- SCSI-RAIDmanager と ServerViewAgent との関係について

使用するカード	RAIDmanager	ServerViewAgent
PG-141、PG-142	StorageManager	DTP Disk Array Agent
PG-143、PG-144	GAM (Global Array Manager)	Install Mylex dac960 Disk Array Agent

接続されていないものを選択した場合、動作保証できませんので必ずシステムに合ったインストールをお願いいたします。

IDE-RAID コントローラカード

- IDE-RAID システムにおいて、接続されているディスクの状態を表示することができます。
- IDE-RAID コントローラカードの監視および表示処理は IDE-RAIDmanager を使用してください。
- IDE-RAIDmanager が検出したエラー情報を管理コンソールに警告を通知することができます。
- IDE-RAID コントローラカードの IDE-RAIDmanager を必ずインストールしてください。IDE-RAIDmanager がインストールされていない場合、ディスクの状態監視が行えません。
  また、ServerView の Agnet もインストールを行う必要があります（「8 アレイコントローラのインストール処理」（→ 63 ページ）参照）。
- IDE-RAIDmanager と ServerViewAgent との関係について

使用するカード	RAIDmanager	ServerViewAgent
IDE-RAID システム	PROMISE Fasttrak	Install PROMISE Fasttrak IDE Disk Array

接続されていないものを選択した場合、動作保証できませんので必ずシステムに合ったインストールをお願いいたします。

3　ハードウェアの状態の表示

サーバの管理者は、ServerView により監視されたサーバの現在のハードウェアの状態を、管理コンソールに表示させて確認できます。ServerView には次の 5 種類のソフトウェアがコンポーネントされています。

- OS が Windows NT または Windows 2000 の場合

ServerView の コンポーネント	表示できる場所	役割
ServerView Basic (*1)	監視対象サーバ	自サーバのみの状態を表示
ServerView Full (*1)	監視対象サーバ	すべての監視対象サーバの状態を一括表示（集中管理）
ServerView Console (*2)	任意のパソコン	すべての監視対象サーバの状態を一括表示（管理端末で集中管理）
ServerView NT Agent	監視対象サーバ	自サーバのみの状態を監視

*1）サーバの監視機能と管理コンソールがセットで含まれています。
*2）管理コンソールのみが含まれ、パソコンにインストールできます。

- OS が Linux の場合

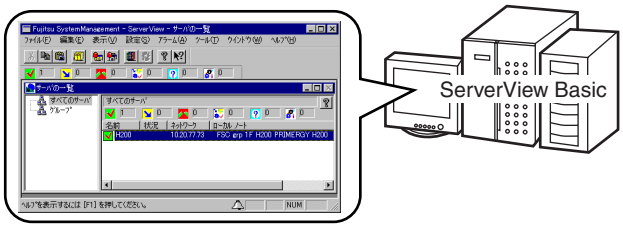
ServerView の コンポーネント	表示できる場所	役割
ServerView Linux Agent (*1)	監視対象サーバ	自サーバのみの状態を監視
ServerView Service	監視対象サーバ	自サーバのトラップデータにおいて、設定した処理を行う
ServerView Console (*2)	任意のパソコン、管理サーバ	すべての監視対象サーバの状態を一括表示（管理端末で集中管理）

*1）サーバの監視機能のみとなっています（状態を表示するのは、管理コンソールです）。
*2）管理コンソールのみが含まれ、パソコンまたは、Windows 系管理サーバにインストールできます。

ServerView で、ネットワークを管理しやすい最適な監視システムを構築するには、これらの管理コンソールを、目的に応じてご使用いただく必要があります。
次に示すように、それぞれを場合に応じてご使用いただくと最適な結果が得られます。ただし、ServerView Basic/Full には共通のサーバの監視機能もいっしょに含まれていますので、監視対象のサーバには、どちらかをインストールする必要があります。

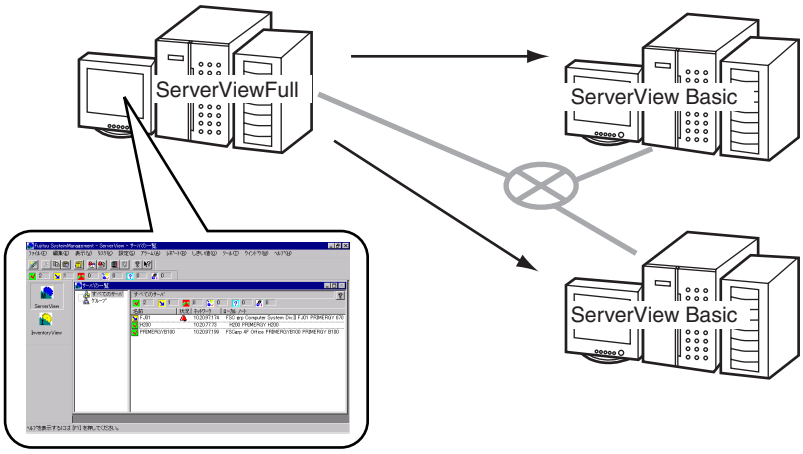
■ ServerView Basic に含まれている管理コンソール（OS が Windows NT または Windows 2000 の場合）

この管理コンソールは、監視対象のサーバ上で、自サーバの状態のみを表示できます。
管理するネットワークが小規模で監視対象のサーバがすべて管理者の近くにある場合などには、この管理コンソールだけで足りてしまうこともあります。



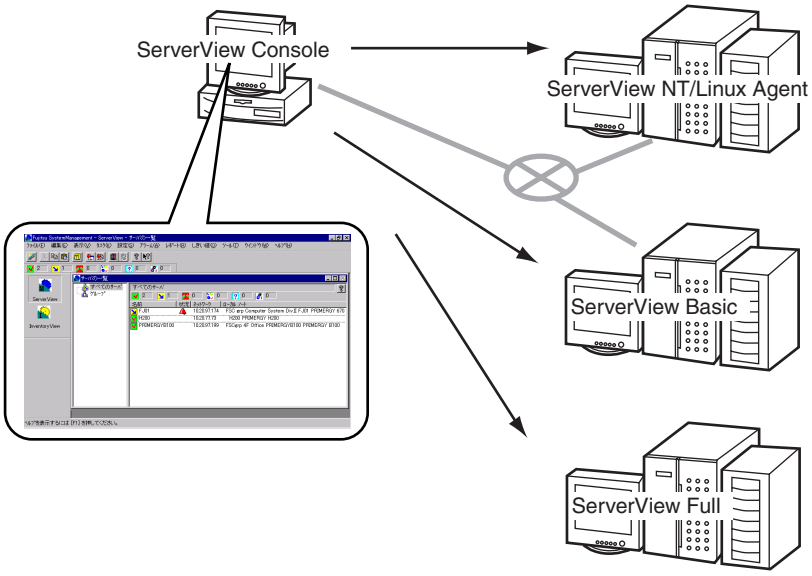
■ ServerView Full に含まれている管理コンソール（OS が Windows NT または Windows 2000 の場合）

この管理コンソールは、任意の監視対象のサーバ上で、すべての監視対象のサーバの状態を一括して表示できます。
任意の監視対象のサーバが管理者の近くにあり、他の監視対象のサーバが管理者から離れた場所にある場合などに最適です。



■ ServerView Console（管理コンソールのみ含まれる）

管理コンソールは、任意のパソコンまたは管理サーバ上で、すべての監視対象のサーバの状態を一括して表示できます。
任意の監視対象のサーバが管理者の近くにない場合、あるいは、大規模なネットワークを管理する場合などに最適です。この管理コンソール（ServerView Console）がインストールされたパソコンは、管理端末と呼ばれます。



4 ServerView の機能

ServerView には、サーバをモニタし、エラーを迅速に訂正し、ボードの故障を早期発見するための全寿命期間にわたってのモニタリング、エラーメッセージが送信されるようにする数多くのオプションを持つアラーム管理システム機能があります。
ServerView には、他のサーバ管理システムと統合する多くの方式があります。また、記憶域拡張もサポートします。
ServerView で利用可能な機能の概要を次に説明します。

リカバリ機能

サーバをモニタし、エラー発生時のその対策を ASR&R（自動サーバ再構成と再起動）の支援により、指定できます。この方式では、適切なシャットダウンを開始するか、または欠陥部分を自動的に使用不能にしてリブートできます。

予防保守機能

予防保守機能は、特定のサーバ部品のエラーを早期に検出します。これにより、障害発生前に個々の部品を訂正できます。

次の部品をモニタします。

- ファン
- CMOS バッテリ
- S.M.A.R.T. 標準をサポートする SCSI および RAID コントローラ上のハードディスク

モニタ機能

ハードウェアのインベントリ（目録）を作成し、ServerView で利用可能なモニタ機能を使用して、様々なシステムパラメータをモニタできます。このような機能により、特に次のことができます。

- インストールしたハードウェアのインベントリの作成
- サーバオペレーションの稼動時間カウンタを含むすべてのハードウェアコンポーネントのモニタ
- システムがダウンする前に、適切な通知をする全寿命期間にわたるモニタ
- 故障電源ユニットの迅速な認識
- バスシステム、プロセッサ、主記憶装置、ハードディスク（RAID ドライブを含む）、ネットワークコントローラ、およびその他の内蔵コントローラの詳細情報の取得
- 長期モニタの目的で集めた情報の記録（性能分析、エラー頻度率）
- 弊社の記憶域拡張のモニタ

管理機能

ServerView には、ユーザフレンドリな優れた構造の中央管理ツールがあります。このツールを使用すると、それぞれの必要条件に応じてシステムを最適化できます。ServerView は、次のようなシステムを提供します。

- 簡単に使用できるアラーム管理システム（アラームのグループ化、ユーザフレンドリな Alarm Manager によるトリガしたアラームとその他の機能の管理と分析）、および様々なアラーム発信メカニズム
- しきい値をモニタするためのしきい値管理システム
- 長期間にわたり、様々なサーバのパラメータをモニタするためのレポート管理システム
- ネットワーク上の別のサーバに SNMP 構成データをリファンスサーバから転送するデフォルトの管理システム

システムセキュリティ

SNMP は、パスワード入力後に限って変更できます。

リモートアクセスサービス (RAS) を使用する

Windows NT のリモートアクセスサービス（RAS）を使用すると、コンピュータをリモートのネットワークに接続できます。接続したコンピュータに ServerView がインストールされている場合、そのコンピュータを使用して ServerView エージェントを管理できます。これにより、どの場所からでもサーバを管理できます。

■ RAS の機能

RAS を使用すると、コンピュータ（RAS クライアントという）は、アナログまたはデジタルの電話回線を介して、リモートのコンピュータに接続できます。接続を実現するリモートのコンピュータ（RAS サーバ) は、「アクセスステーション」として機能します。データ通信は、PPP、PPTP または SLIP などの通常のプロトコルで行われます。RAS サーバは、ネットワーク全体にアクセス、または RAS サーバ自体だけにアクセスするように構成できます。

RAS 配下のアプリケーションは、リモートのネットワークに接続しているシステム上で実行されます。RAS サーバは、通信だけを担当し、プログラムの実行には関わりません。

接続のセットアップは常に RAS クライアントから開始するので、トラップはリモートシステムには発信されません。これとは対照的にエラーは、ページャメッセージを使用して発信できます。

■ Windows NT 環境での設定

Windows NT は、Microsoft RAS プロトコルだけではなく、RAS クライアント上の PPP および SLIP などの他のリモートアクセスプロトコルをサポートします。これにより、Windows NT ワークステーションを実行しているシステムは、Windows NT サーバ (バージョン 3.5 以上) でインターネットにリンクしている別のコンピュータにダイアルできます。または数多くの PPP または SLIP ベースの業界標準インターネットサーバにも接続できます。

Windows NT、Microsoft Windows for Workgroups、MS-DOS（Microsoft Network Client ソフトウェアをインストールしているもの）、LAN Manager または PPP クライアントを実行しているシステムは、どれでも Windows NT RAS サーバのクライアントになることができます。

Windows NT Server のアドミニストレータは、RAS Administration プログラムを使用して、RAS サーバを管理し、ユーザを管理し、許可を割り当て、RAS 伝送をモニタできます。RAS Administration の詳細については、RAS のヘルプを参照してください。

サーバは次に示すものを備えている必要があります。

- マルチポートのアダプタまたは
- モデム （許容可能な性能を得るには、最低 9600Baud を推奨）で
- アナログ回線または
- 他の何らかの WAN リンクおよび
- RAS ソフトウェアがインストールされていること
- サーバが他のネットワークにもアクセスするように構成されている場合、個別のネットワークアダプタを必要な各ネットワークに対してインストールし、そのネットワークに接続する必要があります。

クライアントは次の条件を満たす必要があります。

- モデム（最低 9600Baud）および
- アナログ電話回線または
- 他の何らかの WAN リンクおよび
- リモートアクセス用のソフトウェアがインストールされていること

RAS ソフトウェアの最初のインストール時に、RAS サーバは構成されます。特に Configuration ダイアログには、ネットワーク全体にアクセスするか、RAS サーバのみにアクセスするかを定義するオプション、LAN で使用するプロトコル（IPX および TCP/IP）を選択するオプション、暗号化された認証だけを受け入れるかどうかを選択するオプションがあります。

RAS サーバのポートは、個別に構成されます。各ポートに対して、クライアント、サーバ、またはその両方のいずれかひとつを選択できます。このような設定は、指定したポートだけに有効になり、すべてのポートに対しては有効になりません。

RAS サーバは、たとえば、ネットワーク全体にアクセスするように構成できます。この場合、COM1 は呼び出しだけを受け入れ、COM2 は呼び出しの発信と受信の両方に使用できます。この場合、リモートユーザは、両方の COM ポートを介してダイアルインできます。しかし、ローカルユーザは、発信する RAS 呼び出しに対して、COM2 だけしか使用できません。

Windows NT RAS クライアントとサーバのイベントログにイベントとエラーが記録されます。イベントログの分析は、多くの場合、問題の原因を特定するのに役立ちます。

ポイント

RAS と Windows NT 環境での RAS クライアントと RAS サーバの構成の詳細については、Windows NT のマニュアルを参照してください。

S.M.A.R.T. サポート

セルフモニタリングおよびレポーティング技術（S.M.A.R.T.）は、ハードディスクのエラーを早期に検出します。これは、S.M.A.R.T. アルゴリズムによって、実現します。このアルゴリズムは、ディスクのパラメータをモニタし、差し迫った故障を検出し、それを SCSI コントローラまたはホストに通知します。

S.M.A.R.T. の概念は、パラメータ値に基づいて、いわゆる「予測可能なエラー」だけを検出します。たとえば、突然の電源故障または機械故障による予測に反するエラーは、この方式では予期できません。

S.M.A.R.T. は、現在すべての SCSI ドライブでサポートされており、また数多くの IDE ドライブでも利用できます。

差し迫ったエラーの早期警告の効果は、主にアルゴリズムの効率と、モニタされたパラメータの数に依存します。このようなコンポーネントは、メーカ固有のものなので、ハードディスクのタイプにより異なる可能性があります。

ServerView は、SCSI および RAID のコントローラ上の S.M.A.R.T. 互換のハードディスクをサポートします。S.M.A.R.T. が差し迫ったエラーを検出すると割り込みが発生し、S.M.A.R.T. エラーが発生したドライブが特別な色 (マゼンタ) で表示されます。

リモートサービスボードのサポート

リモートサービスボード（RSB）を使用すれば、サーバの状態にかかわらず、モデムまたは LAN を介してサーバに対する SNMP アクセスおよび Web アクセスが可能になります。これにより、起動プロセスのトレースやシステム電源の投入／切断など、さまざまな管理機能をリモートで実行できます。補助電源（AC アダプタ）で動作できるため、これらの管理機能はサーバから完全に独立しています。

統合オプション

ServerView は、次に示す標準化されたプロトコルとインタフェースを使用している SNMP または DMI 標準をインプリメントする他の管理システムに簡単に接続できます。

- Intel LANDesk® Server Manager（LDSM ）連携
- SystemWalker 連携

ServerView Basic

ServerView Basic を使用すると、ローカルサーバを監視できます。ServerView Basic には、監視用に一定の ServerView 機能が備わっています。詳細情報については、「4 ServerView Basic」（→ 155 ページ）を参照してください。

2 インストール

標準のインストーラには、次の 5 つがあり、ServerView の各ソフトウェアをインストール／アンインストールできます。

- ServerView Basic のインストーラ
- ServerView Full のインストーラ
- ServerView Linux Agent のインストーラ（Linux 版のみ）
- ServerView Console のインストーラ
- Server View Basic/Full 共通のアンインストーラ
- ServerView Console のアンインストーラ

ここでは、標準のインストーラを使用して ServerView をインストール／アンインストールする方法について説明しています。

1 動作環境

ServerView が動作するのに必要なシステムの環境は次のとおりです。

■ サーバ（ServerView エージェント）

サーバのシステム		動作条件
ハードウェア	使用メモリ	32MB 以上（Linux Agent の場合は 128MB 以上）
	ハードディスク	空き領域が 130MB 以上（Linux Agent の場合は、15MB 以上）
	ディスプレイ	SVGA(800 × 600) 以上の解像度。(推奨：1024 × 768)
	LAN カード	必要（オンボード LAN でも可）
	マウス	必要
	モデム	ポケットベルを使用して公衆回線経由で通信を行う場合にだけ必要です。 サポートしているモデムについては、弊社の「PRIMERGY システム構成図」をご覧ください。
ソフトウェア	OS	• Microsoft Windows 2000 Server Operating System ServicePack1 以降 • Microsoft Windows 2000 Advanced Server Operating System　ServicePack1 以降 • Microsoft Windows NT Server Network Operating System Version 4.0　ServicePack 6a 以降 • Microsoft Windows NT Server Enterprise Edition Version 4.00　ServicePack 6a 以降 • RedHat Linux 7.2
	Web サーバ	• Microsoft Internet Information Server V5.0（Windows2000 Server の場合） • Microsoft Internet Information Server V3.0/4.0（Windows NT Server 4.0 の場合） または • ServerView Web-Server（Apache for Win32 ベース）（ServerView のインストール時に自動インストールされます） または • Apache（RedHat Linux の場合）
	プロトコル	TCP/IP が動作していること
	サービス	SNMP(サービス及びトラップ) が動作していること
	アプリケーション	OS が Windows NT または Windows 2000 の場合、Microsoft Internet Explorer 5.5 以降がインストールされていること。また、Microsoft Virtual Machine 機能は必須です。
	パッケージ（RPM）	openssl、ucd-snmp（snmpd サービス）、gcc、make、vim-minimal、glibc、libstdc++、rpm、gawk、kernel-headers、kernel-source
	アカウント	Administrator と同等の権限が割り当てられていること

■ 管理コンソール（ServerView 管理コンソール）

パソコンのシステム		動作条件
ハードウェア	パソコン	IBM PC 互換機
	プロセッサ	Pentium® 以上
	メモリ	32MB 以上
	ハードディスク	空き領域が 130MB 以上
	ディスプレイ	SVGA(800 × 600) 以上の解像度。(推奨：1024 × 768)
	LAN カード	必要（オンボード LAN でも可）
	マウス	必要
	モデム	ポケットベルを使用して公衆回線経由で通信を行う場合にのみ必要です。
ソフトウェア	OS	• Microsoft Windows 2000 Professional Operating System ServicePack1 以降 • Microsoft Windows NT Workstation Network Operating System Version 4.0　ServicePack 6a 以降 • Microsoft Windows XP Professional Operating System
	Web サーバ	• Microsoft Internet Information Server V5.0（Windows 2000 の場合） • Microsoft Internet Information Server V3.0/4.0（Windows NT 4.0 の場合） または • ServerView Web-Server（Apache for Win32 ベース）（ServerView のインストール時に自動インストールされます） • Microsoft Internet Information Server V5.1（Windows XP Professional の場合）
	プロトコル	TCP/IP が動作していること
	サービス	SNMP(サービス及びトラップ) が動作していること
	アプリケーション	Microsoft Internet Explorer 5.5 以降がインストールされていること。 また、Microsoft Virtual Machine 機能は必須です。
	アカウント	Administrator と同等の権限が割り当てられていること（Windows NT、Windows 2000、Windows XP の場合に必要）

■ WebExtension/AlarmService（Linux）

サーバのシステム		動作条件
ハードウェア	使用メモリ	128MB 以上
	ハードディスク	空き領域が 35MB 以上
	ディスプレイ	SVGA（800 × 600）以上の解像度 (推奨 : 1024 × 768)
	LAN カード	必要（オンボード LAN でも可）
	マウス	必要
	モデム	ポケットベルを使用して公衆回線経由で通信を行う場合にのみ必要です。 サポートしているモデムについては、弊社の「PRIMERGY システム構成図」をご覧ください。
ソフトウェア	OS	RedHat 7.2
	プロトコル	TCP/IP が動作していること
	アプリケーション	Netscape Navigator/Comunicator V4.78 以降
	パッケージ（RPM）	ucd-snmp（snmpd サービス）、Apache（httpd サービス）、gcc、make、byacc、rpm、gawk、openssl、mod_ssl
	アカウント	スーパーユーザ

⚠注意

BX300 に WebExtension をインストールすることはできますが、BX300 を監視することはできません。

2　インストールの準備

ServerView をインストールする前に、インストールが正しく行われるように準備をしておく必要があります。

動作環境を準備する（TCP/IP プロトコルと SNMP サービスのインストール）

ServerView が正しく動作するためには、監視機能をインストールするサーバに、TCP/IP プロトコル、および SNMP サービスが正しく設定されている必要があります。
TCP/IP プロトコル、および SNMP サービスを設定するには、サーバの OS によって次のそれぞれの手順で操作します。

■ Windows NT の場合

1. **Windows NT のコントロールパネルから［ネットワーク］アイコンをダブルクリックします。**
2. **［ネットワーク］ダイアログボックスで、［プロトコル］タブを選択します。**
3. **［ネットワークサービス］ボックスのリストの中に「TCP/IP」が表示されていない場合には、次の操作で TCP/IP をインストールします。**
    1. **［追加］をクリックします。**
    2. **［ネットワークサービス］ボックスのリストの中から「TCP/IP」を選択し、［OK］をクリックします。**
    3. **メッセージに従って操作します。**
4. **［ネットワーク］ダイアログボックスで、［サービス］タブを選択します。**
5. **［ネットワークサービス］ボックスのリストの中に「SNMP サービス」が表示されていない場合には、次の操作で SNMP サービスをインストールします。**
    1. **［追加］をクリックします。**
    2. **［ネットワークサービス］ボックスのリストの中から「SNMP サービス」を選択し、［OK］をクリックします。**
    3. **メッセージに従って操作します。**
6. **［ネットワークサービス］ボックスのリストの中の「SNMP サービス」を選択して［プロパティ］をクリックします。**
7. **［トラップ］タブを選択します。**

8 **コミュニティ名ボックスに既に「public」がある場合は「public」を選択します。**

存在しない場合はコミュニティ名ボックスに「public」を入力して［追加］をクリックします。

9 **トラップ送信先の［追加 ...］をクリックします。**

10 **コンソールをインストールするサーバのホスト名、IP または IPX アドレスを入力し、［追加］をクリックします。**

11 **［セキュリティ］タブを選択します。**

12 **コミュニティ「public」を選択します。**

13 **［編集］をクリックします。**

14 **［コミュニティ権利］コンボボックスから「READ_CREATE」を選択します。**

15 **［OK］をクリックします。**

- **［受け付けるコミュニティ名］ボックスのリストの中に、コミュニティ名「public」が存在しない場合は、次の操作でコミュニティを追加します。**

  1 **［追加］をクリックします。**

  2 **［コミュニティ権利］コンボボックスから「READ_CREATE」を選択します。**

  3 **［コミュニティ］ボックスに「public」と入力します。**

  4 **［追加 ...］をクリックします。**

16 **［セキュリティ］タブを選択します。**

17 **SNMP パケットを受け付けるホストの設定を行います。**

- **すべてのホストのパケットを受け付ける場合**

  1 **［すべてのホストからの SNMP パケットを受け付ける］をチェックします。**

- **指定したホストのパケットのみを受け付ける場合**

  1 **［次のホストからの SNMP パケットを受け付ける］をチェックします。**

  2 **［追加］をクリックします。**

  3 **コンソールをインストールするサーバのホスト名、IP または IPX アドレスを入力し、［追加］をクリックします。**

ポイント

- **SNMP セキュリティ設定では、どのコミュニティとサーバからトラップを受信するかを指定します。**
  SNMP トラップ設定では、トラップの送信先を指定します。ここでは、ServerView コンソールの IP アドレスを入力する必要があります。
  SNMP エージェントをインストール済みのサーバにおいて、独自の IP アドレスとローカル IP アドレス（「127.0.0.1」または「localhost」）からの SNMP 要求を受信できるように設定する必要があります。
- **SNMP はパスワードで保護されていないオープンプロトコルなので、相応の権限を持つマネージャだけを入力するようにしてください。無許可のネットワークユーザは、重要なシステムパラメータを変更し、サーバのオペレーションを中断させる可能性があります。**
- **Windows NT のインストールの際に、サービスパックを適用してから SNMP サービスをインストールした場合は、再度サービスパックを適用してください。**

■ Windows 2000 の場合

1 **Windows 2000 コントロールパネルから［ネットワークとダイヤルアップ接続］アイコンをダブルクリックします。**

2 **メニューバーの［詳細設定］より、［オプションネットワークコンポーネント］を選択します。**

3 **次のいずれかの操作を行います。**

- ［オプションネットワークコンポーネントウィザード］において［管理とモニタツール］がすでにチェックされていた場合は、［管理とモニタツール］を選択し、［詳細］をクリックして、［簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP）］がサブコンポーネントとしてチェックされているかを確認してください。チェックされている場合は、すでに SNMP サービスがインストールされています。この場合は、手順 4 に進んでください。
- ［オプションネットワークコンポーネントウィザード］において［管理とモニタツール］がチェックされていない場合は、次の操作で SNMP サービスをインストールします。

1 **［オプションネットワークコンポーネントウィザード］で［管理とモニタツール］のチェックボックスをクリックして選択します。**

2 **［詳細］をクリックし、［管理とモニタツール］のサブコンポーネントとして［簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP）］が選択されていることを確認し、［OK］をクリックします。**

3 **［オプションネットワークコンポーネントウィザード］で［次へ］をクリックします。**

4 **メッセージに従って操作します。**

4 **コントロール パネルから［管理ツール］アイコンをダブルクリックします。**

5 **［コンピュータの管理］アイコンをダブルクリックしてコンピュータの管理ウィンドウを開きます。**

6 **コンソール ツリーで、［サービスとアプリケーション］－［サービス］をクリックします。**

7 **詳細情報のウィンドウ領域で［SNMP Service］をクリックします。**

8 **［操作］メニューのプロパティをクリックします。**

9 **［トラップ］タブをクリックします。**

10 **コミュニティ名ボックスに既に「public」がある場合は「public」を選択します。**

存在しない場合はコミュニティ名ボックスに「public」を入力して［追加］をクリックします。

11 **トラップ送信先の［追加 ...］をクリックします。**

12 **コンソールをインストールするサーバのホスト名、IP または IPX アドレスを入力し、［追加］をクリックします。**

13 **［セキュリティ］タブを選択します。**

14 **コミュニティ「public」を選択します。**

15 **［編集］をクリックします。**

16 **［コミュニティ権利］コンボボックスから「READ_WRITE」または「READ_CREATE」を選択し、［OK］をクリックします。**

（「READ_WRITE」を推奨）

- **［受け付けるコミュニティ名］ボックスのリストの中に、コミュニティ名「public」が存在しない場合は、次の操作でコミュニティを追加します。**

  1 **［追加］をクリックします。**

  2 **［コミュニティ権利］コンボボックスから、「READ_WRITE」または「READ_CREATE」を選択します。**

  （「READ_WRITE」を推奨）

  3 **［コミュニティ］ボックスに「public」と入力します。**

  4 **［追加 ...］をクリックします。**

17 **SNMP パケットを受け付けるホストの設定を行います。**

- **すべてのホストのパケットを受け付ける場合**

  1 **［すべてのホストからの SNMP パケットを受け付ける］をチェックします。**

- **指定したホストのパケットのみを受け付ける場合**

  1 **［次のホストからの SNMP パケットを受け付ける］をチェックします。**

  2 **［追加］をクリックします。**

3 **コンソールをインストールするサーバのホスト名、IP または IPX アドレスを入力し、［追加］をクリックします。**

ポイント

- **SNMP セキュリティ設定では、どのコミュニティとサーバからトラップを受信するかを指定します。**
  SNMP トラップ設定では、トラップの送信先を指定します。ここでは、ServerView コンソールの IP アドレスを入力する必要があります。
  SNMP エージェントをインストール済みのサーバにおいて、独自の IP アドレスとローカル IP アドレス（「127.0.0.1」または「localhost」）からの SNMP 要求を受信できるように設定する必要があります。
- **SNMP はパスワードで保護されていないオープンプロトコルなので、相応の権限を持つマネージャだけを入力するようにしてください。無許可のネットワークユーザは、重要なシステムパラメータを変更し、サーバのオペレーションを中断させる可能性があります。**

IP アドレスが複数存在するサーバの監視について

ServerView では、IP アドレスが複数存在する場合（複数枚の LAN カードを持つ等）、ネットワークのバインドで設定された順序にしたがって自サーバの IP アドレスを検索します。管理コンソールとの通信を行うアダプタを最初に検索するようにバインドしてください。

Web server のインストール

ServerView の以下のコンポーネントは、Web ベースで構築され、Web ブラウザから閲覧できます。

- ServerView AlarmService
- ServerView ArchiveService
- ServerView WebExtension

動作には Web サーバが必要であり、OS が Linux の場合、Apache をサポートしています。OS が Windows の場合、Microsoft Web servers（MS Internet Information Server）、または ServerView Web-server（Apache for Win32 ベース）をサポートしています。

⚠注意

- **OS が Linux の場合、ServerView ArchiveService はサポートされません。**
  ArchiveService を使用するには、Windows の管理コンソールから監視を行う必要があります。
- **WebExtension は BX300 の監視をサポートしていません。**
  BX300 に WebExtension をインストールすることはできますが、BX300 を監視することはできません。

■ ServerView Web-Server

Web サーバとして ServerView Web-Server を使用する場合は、ServerView のインストール時に自動的にインストールされます。

■ MS Internet Information Server

オペレーティングシステムごとに、次の WWW サーバがサポートされています。

OS	説明
Windows NT 4.0 Server	Windows NT Server 4.0 では、Web サーバとして Internet Information Server（IIS）バージョン 3.0 と 4.0 がサポートされています。インターネット接続用のセキュリティ補助機能を利用する場合は、IIS 4.0 をインストールしてください。これには、補助機能として SSL（Secure Socket Layer）が用意されています。
Windows 2000	Windows 2000 のバージョンによっては、IIS v5.0 がプレインストールされている場合とされていない場合があります。 Windows 2000 IIS v5.0 はプレインストールされています。 Windows 2000 Advanced Server IIS v5.0 はプレインストールされています。 Windows 2000 または Windows 2000 Advanced Server を使用する場合は、IIS v5.0 がプレインストールされているかどうかを確認してください。 後で IIS v5.0 をインストールする手順は、Windows 2000 のすべてのバージョンで同じです。この手順は次のとおりです。 Windows 2000 CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入し、[スタート] - [設定] - [コントロールパネル] - [アプリケーションから追加と削除] から Windows コンポーネントを選択します。

（1）IIS V3.0 のインストール

IIS V3.0 をインストールするには、次のものが必要です。

- Windows NT 4.0 インストール用 CD-ROM
- Windows NT 4.0 Service Pack 3 以降

ポイント

最上位のフォルダに autorun.inf というファイルを含む CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入すれば、CD-ROM からスタートアッププログラムを実行することができます。ただし、この場合は、自動スタートアップを無視してプログラムをただちに終了してください。

IIS V3.0 をインストールするには、次の手順で行います。

1 **IIS V3.0 をインストールしようとしているシステムに、IIS V2.0 が既にインストールされているかどうかを確認します。**
V2.0 がインストールされている場合は、手順 3 に進みます。
V2.0 がインストールされていない場合は、手順 2 に進みます。

2 **Windows NT 4.0 インストール用 CD-ROM からプログラム inetstp.exe を実行し、Windows エクスプローラを利用して IIS V2.0 をインストールします。**
inetstp.exe は、フォルダ <CD-ROM ドライブ >:\I386\INETSRV にあります。

3 **Service Pack 3 をインストールします。**
これにより、IIS のバージョンが自動的に V3.0 に更新されます。

ポイント

Service Pack の言語バージョンは、OS の言語バージョンと同じでなければなりません。
Windows NT 4.0 に Service Pack 3 以降がインストールされている場合、Service Pack 3 はインストールされません。よって、IIS V3.0 もインストールされません。この場合、IIS V4.0 をインストールしてください。

(2) IIS V4.0 のインストールと構成

IIS V4.0 をインストールするには、次のものが必要です。

- Windows NT 4.0 Option Pack CD-ROM
- Windows NT 4.0 Service Pack 3 以降

ポイント

最上位のフォルダに autorun.inf というファイルを含む CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入すれば、CD-ROM からスタートアッププログラムを実行することができます。ただし、この場合は、自動スタートアップを無視してプログラムをただちに終了してください。

IIS V4.0 をインストールするには、次の手順で行います。

1 **IIS V4.0 をインストールしようとしているコンピュータに、Internet Explorer（IE）V4.01 以降が既にインストールされているかどうかを確認します。**
IE V4.01 以降がインストールされている場合は、手順 3 に進みます。
IE V4.01 以降がインストールされていない場合は、手順 2 に進みます。

2 **Windows NT 4.0 Option Pack CD-ROM からプログラム ie4setup.exe を実行し、Windows エクスプローラを利用して IE V4.01 をインストールします。**
ie4setup.exe は、フォルダ <CD-ROM ドライブ >:\Ie401\X86 にあります。
別の方法として、IE V4.01 が含まれている Windows NT 4.0 Service Pack 4 をインストールすることもできます。

ポイント

Service Pack の言語バージョンは、OS の言語バージョンと同じでなければなりません。
IE は必要に応じて、V4.01 以降をインストールしてください。

3 **Windows NT 4.0 Option Pack CD-ROM からプログラム setup.exe を実行し、Windows エクスプローラを利用して IIS V4.0 をインストールします。**

ポイント

SSL（Secure Socket Layer）機能を使用する場合は、手順 4 に進みます。SSL を完全に使用するには、適切な認証証明書が必要です。このような証明書は、MS Certificate Server などを使用して作成することができます。このCertificate ServerはWindows NT 4.0 Option Pack CD-ROM に格納されています。

ファイル setup.exe は、フォルダ <CD-ROM ドライブ >:\ にあります。標準インストールを使用する場合は、インストールプログラムの指示に従ってください。

ポイント

インストール時に、IE V4.0 より前のバージョンがコンピュータに既にインストールされていることを示すエラーメッセージが表示された場合は、インストールを終了し、手順 2 からやり直してください。

4 **Certificate Server を IIS V4.0 の追加モジュールとしてインストールします。**

この作業は、手順 3 の指示に従います。ただし、この場合は標準インストールを使用しないで、インストールプログラムのパラメータを修正し、追加コンポーネントとして Certificate Server を選択します。次にインストール指示に従ってください。
ドメイン管理者のアカウントを使用して、[コントロールパネル] - [サービス] で証明サービスを起動します。次に、サービスが正しく起動したことを確認します。確認するには、[コントロールパネル] - [サービス] で [Certificate Authority] を選択し、[スタートアップ] ボタンをクリックして、[アカウント] オプションが有効になっていることと、ドメイン管理者が入力されていることを確認します。

ポイント

コンピュータが NT ドメインに属していない場合は、アカウントを指定しないでサービスを起動してください。

5 **認証証明書が必要な場合は、適切なプロバイダから入手します。**

会社内で使用する場合は、ユーティリティルーチンを使用して認証証明書を作成することもできます。

ポイント **以下の説明はシステムによっては該当しないことがあるため、説明とは異なるステップが必要になることがあります。IIS V4.0 はMicrosoft製品であるため、以下の説明は一般的なものであり、詳細な説明ではありません。**

自分で認証証明書を作成する場合は、Microsoft の Key Manager（IIS V4.0 の標準インストールの場合、ファイル keyring.exe はフォルダ <Windows インストールディレクトリ >:\system32\inetsrv にあります）などのユーティリティルーチンが必要です。

Key Manager ユーティリティルーチンは、次のメニューで検索できます。

1 **[スタート] － [プログラム] －** [Windows NT Option Pack] － [Microsoft Internet Information Server] － **[インターネット サービス マネージャ] を選択して、IIS を起動します。**

2 **IIS ファイルツリーの ServerView インストールディレクトリを開きます。**

このディレクトリは、Internet Information Server － < ローカルホスト名 > － 既定の Web サイト － SCRIPTS の順に選択すると開くことができます。

3 **右クリックして [プロパティ] ウィンドウを開きます。**

4 **[ディレクトリ セキュリティ] タブをクリックして、[セキュリティで保護された通信] ウィンドウを開きます。**

[キー マネージャ] ボタンをクリックすると、ユーティリティルーチン keyring.exe を起動できます。

5 **[キー] － [新しいキーの作成] メニューを使用して、新しいキーを作成します。**

6 **キーの作成に成功した後、次の操作を行います。**

1 **ポート番号を 443 に変更します。**

2 **[編集] ボタンでこのリソースにアクセスする場合は [このリソースにアクセスする時に、セキュリティで保護されたチャネルを必要とする] オプションを有効にして、セキュリティで保護された通信を開始します。**

7 **ドメイン管理者のアカウントを使用して、[コントロールパネル] - [サービス] で証明サービスを確認します。**

ポイント **コンピュータが NT ドメインに属していない場合は、アカウントを指定しないでサービスを起動できます。**

8 サービスへの無許可のアクセスを防止するために、パスワードを割り当ててセキュリティを強化することもできます。パスワードを割り当てるには、次の手順に従います。

1 [ディレクトリ セキュリティ] タブで、[匿名アクセスと認識] の [編集] ボタンをクリックします。

2 [基本認識] オプションを有効にします。

3 [編集] ボタンをクリックし、システムが属しているドメインの名前を入力します。システムがドメインに属していない場合は、ここで入力する必要はありません。

3　サーバに ServerView をインストールする

OS が Windows NT または Windows 2000 であり、サーバがブレードサーバ以外の場合、ServerView Basic / Full のどちらかをインストールします（「ServerView Basic ／ Full のインストール」（→ 27 ページ）参照）。

OS が Windows でサーバがブレードサーバの場合、各サーバブレードに、ServerView Windows Blade-Agent をインストールします（「ServerView Windows Blade-Agent のインストール」（→ 30 ページ）参照）。この場合、監視を行うには別に管理端末を構築する必要があります（管理端末の構築方法は「4 ServerView の管理端末を構築する」（→ 44 ページ）を参照）。

OS が RedHat Linux の場合は、サーバの種類にかかわらず、ServerView Linux Agent をインストールしてください（「ServerView Linux のインストール」（→ 31 ページ）参照）。

インストールするには、次の操作を行います。

⚠注意

- **サーバに ServerView Basic がインストール済のサーバには、ServerView Full を追加インストールすることはできません。ServerView Full に変更したい場合には、一度 ServerView Basic をアンインストールしたあとで、新規に ServerView Full をインストールしてください。**
- **RAS 支援サービスをインストールする場合には、必ず RAS 支援サービスをインストールした後に、ServerView をインストールしてください。**
  誤って、RAS 支援サービスを後からインストールした場合は、第 2 章の「8 アレイコントローラのインストール処理」（→ 63 ページ）に従って、ServerView エージェントを再インストールしてください。
- **既に古い版数の ServerView Basic / Full がインストールされている場合、アップデート インストールを行います。**

ServerView Basic ／ Full のインストール

1　**管理者または管理者と同等の権限をもつユーザ名でログインします。**

2　**実行中のアプリケーションをすべて終了させます。**

3　**ServerView の CD-ROM から、次のいずれかの操作を行います。**

ー「ServerView Full」をインストールする場合

ServerView の CD-ROM から、次のプログラムを起動します。

```
<CD-ROM のドライブ>:¥SVMANAGE¥JAPANESE¥SV_FULL.EXE
```

ー「ServerView Basic」をインストールする場合

ServerView の CD-ROM から、次のプログラムを起動します。

<CD-ROM **のドライブ** >:¥SVMANAGE¥JAPANESE¥SV_BASIC.EXE

4 **ServerView System Requirements が表示されます。インストールを継続する場合は［OK］を、中止する場合は［キャンセル］をクリックします。**

5 **「Web サーバの選択」ダイアログが表示されます。ServerView Service で使用する Web サーバプログラムを選択します。**

選択後、インストールを継続する場合は［次へ］を、中止する場合は［キャンセル］をクリックします。

⚠注意

- **ServerView Web-Server を選択した場合、Apache for Win32 をベースとした Web サーバをインストールし、それを使用します。**
- **IIS を選択した場合、既存の IIS を Web サーバとして使用します。IIS が未インストールの場合、IIS のラジオボタンは無効になります。**
- **ServerStart により ServerView を自動インストールした場合、Web サーバは ServerView Web-Server が選択されています。IIS 使用に変更したい場合、一度 ServerView をアンインストールしたあとで、新規にインストールしなおしてください。**

「Web サーバの選択」で ServerView Web-Server を選択した場合のみ、「SSL の使用」ダイアログが表示されます。このチェックボックスを選択した場合、Web 接続時に SSL 接続が使用できるようになり、また、接続時に認証が要求されるようになります。

選択後、インストールを継続する場合は［次へ］を、中止する場合は［キャンセル］をクリックします。

⚠注意

- **自動インストールで** ServerView **をインストールした場合、**SSL **と認証の使用は無効になっています。有効にしたい場合、一度アンインストールしたあとで、新規にインストールしなおしてください。**
- **認証に使用するユーザ名とパスワードは、デフォルトでユーザ名「**svuser**」、パスワード「**fsc**」に設定されています。**

6 **「**Agent Installation Actions**」ダイアログが表示されます。オプション装置を追加監視するために必要なエージェントを追加します。**

追加するエージェントを選択して、［OK］をクリックします。

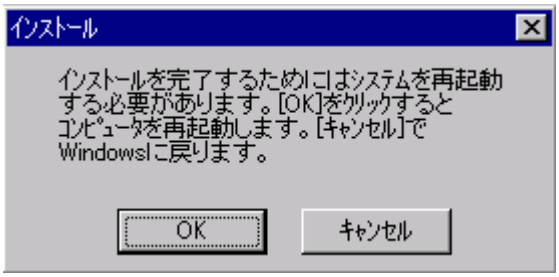
ポイント

- **サーバと管理コンソールが通信するには、各サーバに** SNMP Agent **をインストールして** ServerView **で制御する必要があります。**SNMP Agent **に関する詳しい説明については、インストール完了後**［Fujitsu ServerView］-［SNMP Agents］-［Known Problems］**を参照してください。**
- **何も選択せずに**［OK］**をクリックすると、基本のエージェント機能のみがインストールされます。**
- **オプション装置の監視に必要なエージェントについては、第 2 章の「**8 **アレイコントローラのインストール処理」（→** 63 **ページ）を参照してください。**
- **既に古い版数の** ServerView Basic / Full **がインストールされている場合、アップデート インストールを行います。そのため、「**Agent Installation Actions**」ダイアログは表示されません。**

7 ServerView Hints **が表示されます。インストールを継続する場合は**［OK］**を、中止する場合は**［**キャンセル**］**をクリックします。**

8 **インストールを完了すると、システム再起動メッセージが表示されます。**

すぐに再起動する場合は［OK］を、あとから再起動を行う場合は［キャンセル］をクリックします。



ポイント

- **インストール中にエラーメッセージが表示された場合は、インストールが正しく行われていません。この場合には、インストールされていないソフトウェアが正しくインストールされるように対処し、もう一度インストールし直す必要があります。**
- ServerView **をインストールすると、同時に管理コンソールとアラームサービスがインストールされます。アラームサービスは、監視対象のサーバから** SNMP **トラップで受け取った状態をモニタしたり、受け取る情報を選択したりするサービスです。**

インストールが終了したら、ServerView を運用するための設定を行ってください（「5 インストール後の処理について」（→ 46 ページ）参照）。

ServerView Windows Blade-Agent のインストール

1 **管理者または管理者と同等の権限をもつユーザ名でログインします。**

2 **実行中のアプリケーションをすべて終了させます。**

3 ServerView **の** CD-ROM **から、次のプログラムを起動します。**

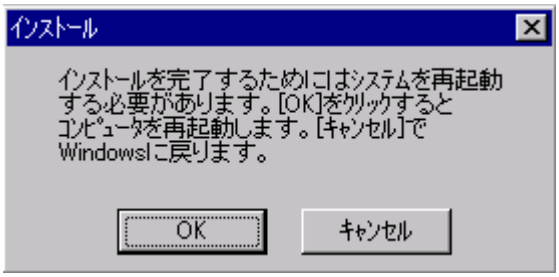
<CD-ROM **のドライブ** >:¥SVMANAGE¥JAPANESE¥BR_setup.EXE

4 ServerView System Requirements **が表示されます。インストールを継続する場合は［**OK**］を、中止する場合は［キャンセル］をクリックします。**

5 ServerView Hints **が表示されます。インストールを継続する場合は［**OK**］を、中止する場合は［キャンセル］をクリックします。**

6 **インストールを完了すると、システム再起動メッセージが表示されます。**

すぐに再起動する場合は［OK］を、あとから再起動を行う場合は［キャンセル］をクリックします。



ポイント

インストール中にエラーメッセージが表示された場合は、インストールが正しく行われていません。この場合には、インストールされていないソフトウェアが正しくインストールされるように対処し、もう一度インストールし直す必要があります。

インストールが終了したら、ServerView を運用するための設定を行ってください（「5 インストール後の処理について」（→ 46 ページ）参照）。

ServerView Linux のインストール

ServerView Linux をインストールするには、以下の方法があります。

- インストールスクリプトを使ったインストール
  （「■ インストールスクリプトでの ServerView Linux のインストール」（→ 32 ページ）参照）
- 手動でのインストール
  インストールスクリプトを使ったインストールができない場合、ServerView Linux を手動でインストールします。
  （「■ 手動での ServerView Linux のインストール」（→ 37 ページ）参照）

また、上記の機能とは別に、サーバ管理クライアント機能を WEB ベースで提供する WebExtension および、SNMP トラップの管理や、トラップをトリガにしたアクションを行う AlarmService の Linux 版をインストールすることが可能です。

WebExtension/AlarmService は、Linux のみの環境を構築する場合にどれか 1 台のサーバにインストールすることにより、他のサーバの状態も監視することができます。

- インストール方法は「■ WebExtension/AlarmService（Linux）のインストール」（→ 42 ページ）を参照してください。

⚠注意

WebExtension は BX300 の監視をサポートしていません。
BX300 に WebExtension をインストールすることはできますが、BX300 を監視することはできません。

■ インストールスクリプトでの ServerView Linux のインストール

ServerView の CD-ROM 内のインストールスクリプトを利用して、ServerView のインストールおよび SNMP サービス設定ファイル（/etc/snmp/snmpd.conf）を編集できます。

ポイント

/etc/snmp/snmpd.conf は、ServerView のインストール後に手動で編集することもできます。
手動で編集したあとは、"/etc/rc.d/init.d/snmpd restart" コマンドを実行してください。

インストールスクリプトがエラーメッセージを表示して終了した場合は、「■ インストールスクリプトのトラブルシューティング」（→ 35 ページ）を参照してください。

（1）インストールスクリプトの起動方法

インストールスクリプトによるインストールは、スーパユーザでログインして ServerView の CD-ROM をドライブにセットし、次のコマンドを実行して行います。

```
# mount /mnt/cdrom/
# cd /mnt/cdrom/Svmanage/JAPANESE
# ./inssv
```

（2）IP アドレスの入力

インストールスクリプトのタイトル表示の後、IP アドレスの入力を要求されます。
SNMP トラップを送信したい IP アドレスを入力して [Enter] キーを押してください。
サーバ自身の IP アドレス (127.0.0.1) は自動的に設定されるので、ここで入力する必要はありません。
複数装置に送信したい場合は、各装置の IP アドレスを入力します。
入力した IP アドレスは、/etc/snmp/snmpd.conf に書き込まれます。
IP アドレスを入力し終えたら [e] キーを押してください。次の処理に進みます。

```
-------------------------------------------
ServerView install / RPM control script version VX.XLXX
Copyright(C) FUJITSU LIMITED 2002

Please input IP-addresses to where you want to send SNMP-traps.
(Note : No need to input the IP address of this server,
        it will be added automatically by the installer.)
Press "e" key to continue.
```

```
>192.168.1.10
>192.168.1.20
>e
-------------------------------------------
```

(3) ロケーションの入力

コンピューターのロケーション（設置場所）を入力します。
入力されたロケーションは、/etc/snmp/snmpd.conf 内の syslocation 項目に書き込まれ、ServerView のプロパティで開いた際に、「場所」として表示されます。
半角文字で 64 バイトまで入力できます。
ロケーションを入力したら [Enter] キーを押してください。次の処理に進みます。
何も入力しないで [Enter] キーを押すことによって、デフォルト値を書き込むこともできます。

```
-------------------------------------------
Please input a location of the server.
The specified location will be shown as a property of the server
at the ServerView console.

You can change the location of the server later,
by editing the /etc/snmp/snmpd.conf.
>(Example: computer room L200)
-------------------------------------------
```

(4) 管理者の入力

コンピューターの管理者名を入力します。
入力された管理者名は、/etc/snmp/snmpd.conf の syscontact 項目に書き込まれ、ServerView のプロパティで開いた際に、「管理者」として表示されます。
半角文字で 64 バイトまで入力できます。
管理者名を入力したら [Enter] キーを押してください。次の処理に進みます。
何も入力しないで [Enter] キーを押すことによって、デフォルト値を書き込むこともできます。

```
-------------------------------------------
Please input a name of the root user.
The specified name will be shown as a property of the server
at the ServerView console.

You can change the name of the root user later,
by editing the /etc/snmp/snmpd.conf.
>(Example: Your name)
-------------------------------------------
```

(5) RPM を実行

snmpd を起動した後、ServerView Agent(eecd/agents) の RPM を実行します。
各 RPM の出力結果が表示されます。
以下は、正常時の出力結果例です。

```
-------------------------------------------
snmpd を起動中 :       [  OK  ]

The package kernel-headers or kernel-source has to be ← srvmagt-
eecd の出力
installed (kernel-headers is normaly installed by default).
and module compilation must succeed.

Compiling modules for 2.4.7-10smp:
cop(Ok) copa(Ok) i960(Ok) ihpci(Ok) ipmi(Ok) smbus(Ok) [  OK  ]
Loading modules: smbus [  OK  ]
Starting eecd[  OK  ]
snmpd を停止中 : [  OK  ] ← srvmagt-agents の出力
snmpd を起動中 : [  OK  ]
Starting agent scagt[  OK  ]
Starting agent busagt[  OK  ]
Starting agent hdagt[  OK  ]
Starting agent mylexagt[  OK  ]
Starting agent unixagt[  OK  ]
Starting agent etheragt[  OK  ]
Starting agent biosagt[  OK  ]
Starting agent securagt[  OK  ]
Starting agent statusagt[  OK  ]
Starting agent invagt[  OK  ]
Starting agent vvagt[  OK  ]

Restarting srvmagt, please wait...
Restarting eecd, please wait...
-------------------------------------------
```

(6) 実行結果の確認

ServerView Agent(eecd/agents) が正常にインストールされた場合、最終行に下記の正常終了メッセージが表示されます。

```
ServerView's RPMs are installed successfully.
```

上記メッセージが表示された場合は、「各サービスの設定（OS が Linux の場合）」（→ 46 ページ）を実施してください。
上記メッセージが出力されない場合は、「■ インストールスクリプトのトラブルシューティング」（→ 35 ページ）を参照してください。

■ インストールスクリプトのトラブルシューティング

インストールスクリプトはインストールエラーを検出すると、エラーメッセージを表示して終了します。
下記の対処方法で解決しない場合は、「■ 手動での ServerView Linux のインストール」（→ 37 ページ）を参照して、インストールスクリプトを使用しないインストールを実施してください。

エラー No.	エラーメッセージ 原因と対処方法
1001	login user is not root! Please try again as root.
	ログインユーザがスーパーユーザではありません。 **スーパーユーザでログインし直してから、ServerView のインストールスクリプトを実行してください。**
1002 ～ 1003	kernel version is under 2.4
	カーネルのバージョンが 2.4 以下のためインストールできません。
1004	Not supported Distribution.
	サポート対象外のディストリビューションです。
1005	Available disk space is not enough.
	空きディスク容量が不足しています。
2001 ～ 2999	"***" package is not installed.
	ServerView のインストールに必須の RPM パッケージがインストールされていません。 **RedHat Linux の CD-ROM から "***" の RPM パッケージを再インストールした後、ServerView のインストールスクリプトを実行してください。** **RPM パッケージのインストール方法については、「■ 手動での ServerView Linux のインストール」（→ 37 ページ）を参照してください。**
4101	failure in "mv" command.
	Linux のシステムコマンドでエラーが発生しました。 **「■ 手動での ServerView Linux のインストール」（→ 37 ページ）を参照してインストールしてください。**
4102	/etc/snmp/snmpd.conf is not exist.
	SNMP サービスの設定ファイルが見つかりませんでした。 **次のコマンドを実行した後、ServerView のインストールスクリプトを実行してください。** `# cp /mnt/cdrom/Svmanage/snmpd.conf /etc/snmp/snmpd.conf`
4103 ～ 4401	failure in "***" command.
	Linux のシステムコマンドでエラーが発生しました。 **「■ 手動での ServerView Linux のインストール」（→ 37 ページ）を参照してインストールしてください。**

エラー No.	エラーメッセージ 原因と対処方法
4402	failure in "/etc/rc.d/init.d/snmpd start" command.
	snmp サービスの起動に失敗しました。 /etc/rc.d/init.d/snmpd ファイルが存在するかどうか確認してください。 存在しない場合は、RedHat LinuxOS の CDROM から ucd-snmp の RPM パッケージを再インストールした後、ServerView のインストールスクリプトを実行してください。 RPM パッケージのインストール方法については、「■ 手動での ServerView Linux のインストール」（→ 37 ページ）を参照してください。
6001	"srvmagt-eecd" installation failed.

	ServerView Agent(srvmagt-eecd) のインストールに失敗しました。
	次のコマンドを実行して srvmagt-eecd のインストールを再試行してください。
	`# rpm -i /mnt/cdrom/Svmanage/Agent/srvmagt-eecd-X.XX-XX.redhat.rpm`
	（`X.XX-XX` はバージョンを示します。）
	`# cd /`
	`# /etc/rc.d/init.d/eecd restart`

6002	"srvmagt-agents" installation failed.

	ServerView Agent(srvmagt-agents) のインストールに失敗しました。
	次のコマンドを実行して srvmagt-agents のインストールを再試行してください。
	`# rpm -i /mnt/cdrom/Svmanage/Agent/srvmagt-agents-X.XX-XX.redhat.rpm`
	（`X.XX-XX` はバージョンを示します。）
	`# groupadd svuser`
	`# cp /mnt/cdrom/Svmanage/config /etc/srvmagt/config`
	`# chmod 644 /etc/srvmagt/config`
	`# cd /`
	`# /etc/rc.d/init.d/srvmagt restart`

7001	failure in "groupadd" command.
	グループの作成に失敗しました。 次のコマンドを実行してください。 `# groupadd svuser`
7002	failure in copy default config file.

	ServerView Agent のデフォルト設定ファイルのコピーに失敗しました。
	次のコマンドを実行してください。
	`# cp /mnt/cdrom/Svmanage/config /etc/srvmagt/config`
	`# chmod 644 /etc/srvmagt/config`
	`# cd /`
	`# /etc/rc.d/init.d/srvmagt restart`

7003	failure in \"chmod\" command.
	/etc/srvmagt/config ファイルの権限の変更に失敗しました。 次のコマンドを実行してください。 `#chmod 644 /etc/srvmagt/config`

エラー No.	エラーメッセージ 原因と対処方法
7004	failure in "cd /" command.

	カレントディレクトリの変更に失敗しました。
	次のコマンドを実行してください。
	`# cd /`
	`# /etc/rc.d/init.d/srvmagt restart`

7005	failure in "/etc/rc.d/init.d/srvmagt restart" command.

	ServerView Agent(srvmagt-agents) **の再起動に失敗しました。**
	次のコマンドを実行してください。
	`# cd /`
	`# /etc/rc.d/init.d/srvmagt restart`

7006	failure in "cd /" command.

	カレントディレクトリの変更に失敗しました。
	次のコマンドを実行してください。
	`# cd /`
	`# /etc/rc.d/init.d/eecd restart`

7007	failure in "/etc/rc.d/init.d/eecd restart" command.

	ServerView Agent(srvmagt-eecd) **の再起動に失敗しました。**
	次のコマンドを実行してください。
	`# cd /`
	`# /etc/rc.d/init.d/eecd restart`

■ 手動での ServerView Linux のインストール

インストールスクリプトでのインストールができない場合、スーパユーザでログインして手動でインストールする必要があります。

以下に、手動での ServerView のインストール手順を示します。

1 動作環境を確認します。

「1 動作環境」（→ 13 ページ）を参照して、インストールの条件を満たしていることを確認してください。

2 パッケージ（RPM）のインストール状態を確認します。

次のコマンドを実行して、ServerView が動作するのに必要なパッケージ（RPM）のインストール状態を確認します。

```
# rpm -q openssl
# rpm -q ucd-snmp
# rpm -q gcc
# rpm -q make
# rpm -q vim-minimal
# rpm -q glibc
# rpm -q libstdc++
# rpm -q rpm
# rpm -q gawk
# rpm -q kernel-headers
# rpm -q kernel-source
```

RPM がインストールされている場合は、"RPM 名 -XX.XX-XX" が表示されます（X.XX-XX はバージョンを示します）。
インストールされていない RPM は、下記の例を参考にインストールしてください。

⚠注意

次の RPM インストール方法は一例です。RedHat Linux のインストール方法によっては、" エラー : 依存性の欠如 :" が発生する場合があります。その場合には、エラーメッセージに従い、必要とされる RPM を先にインストールしてください。

RPM	インストール方法

ucd-snmp	**RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。**
	`# mount /mnt/cdrom/`
	`# rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/ucd-snmp-4.2.1-7.i386.rpm`

apache	**RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。**
	`# mount /mnt/cdrom/`
	`# rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/mm-1.1.3-1.i386.rpm`
	`# rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/apache-1.3.20-16.i386.rpm`

gcc	**RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。**
	`# mount /mnt/cdrom/`
	`# rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/cpp-2.96-98.i386.rpm`
	`# eject`
	RedHat Linux のインストール CD-ROM-2 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。
	`# mount /mnt/cdrom/`
	`# rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/binutils-2.11.90.0.8-9.i386.rpm`
	`# rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/glibc-devel-2.2.4-13.i386.rpm`
	`# rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/gcc-2.96-98.i386.rpm`

make	**RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。**
	`# mount /mnt/cdrom/`
	`# rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/make-3.79.1-8.i386.rpm`

byacc	**RedHat Linux のインストール CD-ROM-2 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。**
	`# mount /mnt/cdrom/`
	`# rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/byacc-1.9-19.i386.rpm`

vim-minimal	**RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。**
	`# mount /mnt/cdrom/`
	`# rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/vim-minimal-5.8-7.i386.rpm`

glibc	**RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。**
	`# mount /mnt/cdrom/`
	`# rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/glibc-2.2.4-13.i386.rpm`

RPM	インストール方法
libstdc++	RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。 # mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/libstdc++-2.96-98.i386.rpm
rpm	pm パッケージ以外からインストールする必要があります。RedHat Linux の開発元へお問い合わせください。
gawk	RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。 # mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/gawk-3.1.0-3.i386.rpm
openssl	RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。 # mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/openssl-0.9.6b-8.i386.rpm
mod_ssl	RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。 # mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/mod_ssl-2.8.4-9.i386.rpm
kernel-headers	RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。 # mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/kernel-headers-2.4.7-10.i386.rpm
kernel-source	RedHat Linux のインストール CD-ROM-2 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。 # mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/kernel-source-2.4.7-10.i386.rpm

3 /etc/snmp/snmpd.conf のバックアップファイルを作成します。

次のコマンドを実行します。

```
# ls /etc/snmp/
snmpd.conf
```

snmpd.conf.org が存在しない場合のみ、次のコマンドを実行してください。

```
# cp /etc/snmp/snmpd.conf /etc/snmp/snmpd.conf.org
```

4 CD-ROM から /etc/snmp/snmpd.conf をコピーします。

デフォルト値を設定済みの /etc/snmp/snmpd.conf を、ServerView の CD-ROM からコピーします。
次のコマンドを実行します。

```
# mount /mnt/cdrom/
# cp /mnt/cdrom/Svmanage/snmpd.conf /etc/snmp/snmpd.conf
# chmod 644 /etc/snmp/snmpd.conf
```

5 /etc/snmp/snmpd.conf を編集します。

/etc/snmp/snmpd.conf 内の次の項目を編集します。

⚠注意 /etc/snmp/snmpd.conf **の変更を反映するには、**"/etc/rc.d/init.d/snmpd restart" **コマンドを実行する必要があります。**

なお、snmpd.conf の詳細は、/etc/snmp/snmpd.conf 内のコメントを参照してください。

項目	設定内容
com2sec	com2sec **項目に下記の設定例を追加します。** **設定例：**com2sec svSec default public com2sec svSec localhost public com2sec svSec xxx public ※：xxx **には以下のいずれかの設定値を代入してください。** default：**すべてのサーバ** / **クライアントからのアクセスを許可します。** localhost：**自サーバのみアクセスを許可します。** <IP **アドレス** >：**特定のサーバ** / **クライアントからのアクセスを許可します。** <subnet>/<netmask>：**特定のネットワークからのアクセスを許可します。**
trapsink	trapsink **項目に下記の設定例を追加します。** **設定例：**trapsink 127.0.0.1 public trapsink <IP **アドレス** > public SNMP **トラップを送信したい** IP **アドレスを指定します。** **サーバ自身の** IP **アドレス** (127.0.0.1) **は既に設定されているので、改めて記述する必要はありません。** **複数装置に送信したい場合は、同じ記述で** IP **アドレスが異なるものを複数行記述します。**
syslocation	syslocation **項目に下記の設定例を追加します。** **設定例：**syslocation computer room L200 **コンピュータのロケーション（設置場所）を半角文字で入力します。** ServerView **のプロパティで開いた際に、「場所」として表示されます。**
syscontact	syscontact **項目に下記の設定例を追加します。** **設定例：**syscontact Your name **コンピュータの管理者名を半角文字で入力します。** ServerView **のプロパティで開いた際に、「管理者」として表示されます。**

6 RPM コマンドを実行します。

srvmagt-eecd/srvmagt-agents の順番でインストールします。

```
# /etc/rc.d/init.d/snmpd restart
# rpm -i /mnt/cdrom/Svmanage/Agent/srvmagt-eecd-X.XX-
XX.redhat.rpm
# rpm -i /mnt/cdrom/Svmanage/Agent/srvmagt-agents-X.XX-
XX.redhat.rpm
```

（X.XX-XX はバージョンを示します。）

7 RPM コマンドの実行結果を確認します。

正常にインストールできたかどうかを確認するため、次のコマンドを実行します。
RPM コマンドが正常に終了している場合は、インストールされている RPM パッケージのバージョンが表示されます。

```
# rpm -q srvmagt-eecd
srvmagt-eecd-X.XX-XX

# rpm -q srvmagt-agents
srvmagt-agents-X.XX-XX
```

（X.XX-XX はバージョンを示します。）

8 ServerView Agent のデフォルト設定を行います。

次のコマンドを実行します。

```
# groupadd svuser
# cp /mnt/cdrom/Svmanage/config /etc/srvmagt/config
# chmod 644 /etc/srvmagt/config
# cd /
# /etc/rc.d/init.d/srvmagt restart
# /etc/rc.d/init.d/eecd restart
```

9 インストール終了後の設定を行います。

「各サービスの設定（OS が Linux の場合）」（→ 46 ページ）を実施してください。

■ RPM バージョンの確認／バージョンアップ

ここでは、RPM バージョンの確認、およびバージョンアップについて説明します。

(1) RPM バージョンの確認

インストールされている RPM パッケージのバージョンは、次のコマンドを実行して確認できます。

```
# rpm -q srvmagt-eecd
srvmagt-eecd-X.XX-XX

# rpm -q srvmagt-agents
srvmagt-agents-X.XX-XX
```

(X.XX-XX はバージョンを示します。)

(2) バージョンアップ

バージョンの新しい RPM パッケージが配布された場合の上書きインストールは、スーパユーザでログインして次のコマンドを実行して行います。

```
# rpm -e srvmagt-agents
# rpm -e srvmagt-eecd
# rpm -i srvmagt-eecd-xx.xx-xx.redhat.rpm
# rpm -i srvmagt-agents-xx.xx-xx.redhat.rpm
```

(X.XX-XX はバージョンを示します。)

```
# /etc/rc.d/init.d/eecd start
# /etc/rc.d/init.d/srvmagt start
```

■ WebExtension/AlarmService（Linux）のインストール

1 動作環境を確認します。

「■ WebExtension/AlarmService（Linux）」（→ 16 ページ）を参照して、インストールの条件を満たしていることを確認してください。

2 パッケージ（RPM ）のインストール状態を確認します。

次のコマンドを実行して、ServerView が動作するのに必要なパッケージ（RPM ）のインストール状態を確認します。

```
# rpm -q ucd-snmp
# rpm -q apache
# rpm -q gcc
# rpm -q make
# rpm -q byacc
# rpm -q rpm
# rpm -q gawk
# rpm -q openssl
# rpm -q mod_ssl
```

RPM がインストールされている場合は、"RPM 名 -XX.XX-XX" が表示されます（X.XX-XX はバージョンを示します）。

インストールされていない RPM は、「■ 手動での ServerView Linux のインストール」（→ 37 ページ）の「2 パッケージ（RPM）のインストール状態を確認します。」（→ 37 ページ）を参考にインストールしてください。

3 RPM コマンドを実行します。

```
# mount /mnt/cdrom/
# cd /mnt/cdrom/Svmanage/JAPANESE/Sv/
# ./InstallAlarmService AlarmServiceStarter-X.X-
X.i386.rpm
# cd /mnt/cdrom/Svmanage/JAPANESE/WebExt/
# ./InstallWebExtension WebExtensionStarter-X.X-
X.i386.rpm
```

（X.XX-XX はバージョンを示します。）

4 RPM コマンドの実行結果を確認します。

正常にインストールできたかどうかを確認するため、次のコマンドを実行します。
RPM コマンドが正常に終了している場合は、インストールされている RPM パッケージのバージョンが表示されます。

```
# rpm -q AlarmService
AlarmService-X.X-X
# rpm -q WebExtension
WebExtension-X.X-X
```

（X.XX-XX はバージョンを示します。）

5 httpd サービス設定ファイルを編集します。

/etc/httpd/conf/httpd.conf 内の下記の項目を編集します（Linux インストール時に設定した HOST 名を記述します）。

```
----- httpd.conf -----
ServerName h200linux
----------------------
```

6 httpd サービスを再起動します。

次のコマンドを入力し、httpd サービスを再起動します。

```
# /etc/rc.d/init.d/httpd restart
```

7 httpd サービスの自動起動を設定します。

setup コマンドを使用して、httpd サービスの自動起動を設定します。
setup コマンドについては「■ SNMP サービスの自動起動設定」（→ 47 ページ）を参照してください。

8 Firewall の設定

「■ Firewall の設定」（→ 48 ページ）に加えて、Firewall Configuration - Customize 画面で WWW(HTTP) にも [*] 印を付けます。

4 ServerView の管理端末を構築する

ServerView の監視システムを使用するには、管理端末に使用したい任意のパソコンに ServerView Console をインストールする必要があります。
ServerView Console をインストールするには、次の操作を行います。

⚠注意

- **新規に管理端末を構築する前に、必ず「2 インストールの準備」（→ 17 ページ）を行ってください。**
- **インストールは最後まで確実に行ってください。**
- **既に古い版数の ServerView Console がインストールされている場合、アップデート インストールを行います。**

1 **管理者または管理者と同等の権限をもつユーザとしてログインします。**

2 **実行中のアプリケーションをすべて終了させます。**

3 **ServerView の CD-ROM から、次のプログラムを起動します。**

```
<CD-ROM のドライブ>:¥SVMANAGE¥JAPANESE¥CONSOLE.EXE
```

4 **ServerView System Requirements が表示されます。インストールを継続する場合は［OK］を、中止する場合は［キャンセル］をクリックします。**

5 **「Web サーバの選択」ダイアログが表示されます。ServerView Service で使用する Web サーバプログラムを選択します。**
選択後、インストールを継続する場合は［次へ］を、中止する場合は［キャンセル］をクリックします。

⚠注意

- **ServerView Web-Server を選択した場合、Apache for Win32 をベースとした Web サーバをインストールし、それを使用します。**
- **IIS を選択した場合、既存の IIS を Web サーバとして使用します。IIS が未インストールの場合、IIS のラジオボタンは無効になります。**
- **自動インストールで ServerView をインストールした場合、Web サーバは ServerView Web-Server が選択されています。IIS 使用に変更したい場合、一度アンインストールしたあとで、新規にインストールしなおしてください。**

「Web サーバの選択」で ServerView Web-Server を選択した場合のみ、「SSL の使用」ダイアログが表示されます。このチェックボックスを選択した場合、Web 接続時に SSL 接続が使用できるようになり、また、接続時に認証が要求されるようになります。
選択後、インストールを継続する場合は［次へ］を、中止する場合は［キャンセル］をクリックします。

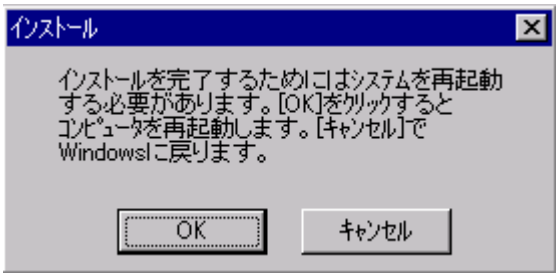
⚠注意

- **自動インストールで ServerView をインストールした場合、SSL と認証の使用は無効になっています。有効にしたい場合、一度アンインストールしたあとで、新規にインストールしなおしてください。**
- **認証に使用するユーザ名とパスワードは、デフォルトでユーザ名「svuser」、パスワード「fsc」に設定されています。**

6 **ServerView Hints が表示されます。インストールを継続する場合は［OK］を、中止する場合は［キャンセル］をクリックします。**

7 **インストールを完了すると、システム再起動メッセージが表示されます。**

すぐに再起動する場合は［OK］を、あとから再起動を行う場合は［キャンセル］をクリックします。



⚠注意

- **途中で処理を中断したり、インストール中にエラーメッセージが表示された場合は、インストールが正しく行われていません。この場合には、インストールされていないソフトウェアが正しくインストールされるように対処し、もう一度インストールし直す必要があります。**
- **管理コンソールをインストールすると、同時にアラームサービスがインストールされます。アラームサービスは、監視対象のサーバから SNMP トラップで受け取った状態をモニタしたり、受け取る情報を選択したりするサービスです。**

インストールが終了したら、ServerView を運用するための設定を行ってください（「5 インストール後の処理について」（→ 46 ページ）参照）。

5 インストール後の処理について

ServerView をインストールしたあとは、ServerView を正しく運用できるように以下の処理を行います。また、ご使用の際には、ご使用上の留意事項をよくお読みになり、正しくご使用ください。

各サービスの設定（OS が Linux の場合）

OS が Linux の場合、ServerView をインストールしたあとに、サーバで以下の設定をする必要があります。

- 「■ SNMP サービスの自動起動設定」（→ 47 ページ）
- 「■ Firewall の設定」（→ 48 ページ）
- 「■ ServerView コンソールから ASR 設定やシャットダウン、再起動するための設定」（→ 49 ページ）

■ SNMP サービスの自動起動設定

setup コマンドでサービスを有効にしていない場合、次にシステムを再起動したときにサービスを手動で起動しなければいけません。有効にしておけば、システム再起動時に自動でサービスが起動されます。setup コマンドでサービスを有効にする方法を次に示します。

1　スーパユーザでログインし、次のコマンドを実行します。

```
# /usr/sbin/setup（setup コマンドは RedHat 専用のコマンドです）
```

メニュー画面が表示されます。

```
Text Mode Setup Utility 1.7  (c) 1999-2001 Red Hat, Inc.
        ツールを選択
  Authentication configuration
  Firewall configuration
  Keyboard configuration
  Mouse configuration
  Network configuration
  Printer configuration
  System services
  Sound card configuration
  Timezone configuration
  X configuration
     実行ツール     停止

<Tab>/<Alt-Tab> 項目間の移動|  <Enter> 設定内容の編集
```

2　「System services」を選択し、［Enter］キーを押します。

サービス画面が表示されます。

```
ntsysv 1.2.22 - (C) 2000-2001 Red Hat, Inc.
        サービス
  自動的に起動させるサービスを指定してください。
        [ ] rusersd      a
        [ ] rwalld       a
        [ ] rwhod        a
        [ ] sendmail     a
        [ ] smb          a
        [*] snmpd        #
        [*] srvmagt      a
        [*] sshd         a
        OK      取り消し
サービスに関する詳細については、<F1> を押してください。
```

3　「snmpd」の項目に「＊」印を付けます。

［↑／↓］キーで「snmpd」項目にカーソルを合わせ、［Space］キーを押します。

4　サービス画面で［Tab］キーを使って「OK」を選択し［Enter］キーを押します。次に、メニュー画面で［Tab］キーを使って「停止」を選択し［Enter］キーを押し、setup を終了します。

■ Firewall の設定

RedHat Linux 7.1 から Firewall が標準で装備されています。インストール時に「Firewall なし」に設定できますが、ここでは Firewall を設定するときの方法を説明します。

Firewall の設定は、Linux インストール時または setup コマンドで行います。

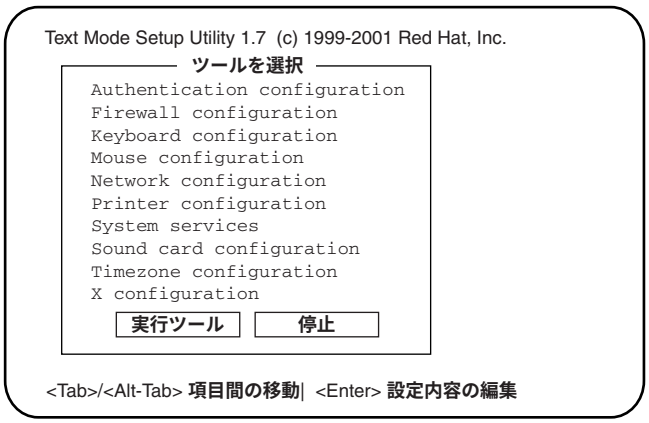
以下に setup コマンドでの設定方法を示します。

なお、Linux インストール時と setup コマンド実行時で画面が異なりますが、設定項目は同じです。Linux インストール時の設定方法については、Redhat Linux のマニュアルおよび次の設定方法を参考にしてください。

1　スーパユーザでログインし、/usr/sbin/setup を実行します。

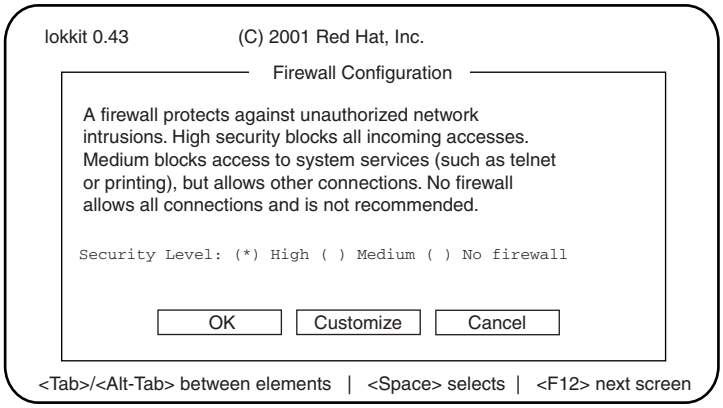
```
# /usr/sbin/setup
```

メニュー画面が表示されます。



2　「Firewall configuration」を選択し、［Enter］キーを押します。

Firewall Configuration 画面が表示されます。



3 **「Security Level」を選択します。**

「High」に（＊）印をつけ、［Tab］キーで [Customize] を選択し、［Enter］キーを押します。

Firewall Configuration - Customize 画面が表示されます。

```
lokkit 0.43                (C) 2001 Red Hat, Inc.

                 Firewall Configuration - Customize

   You can customize your firewall in two ways. First, you can select to
   allow all traffic from certain network interfaces. Second, you can allow
   certain protocols explicitly through the firewall. Specify additional
   ports in the form 'service:protocol', such as 'imap:tcp'.

   Trusted Devices: [*] eth0 [ ] eth1

   Allow incoming:  [ ] DHCP       [ ] SSH         [ ] Telnet
                    [ ] WWW (HTTP) [ ] Mail (SMTP) [ ] FTP
                    Other ports snmp:tcp_________________

                          OK

<Tab>/<Alt-Tab> between elements | <Space> selects | <F12> next screen
```

4 **Firewall Configuration - Customize 画面で使用するプロトコルを指定し、そのプロトコルが Firewall の外へ出るように設定します。**

次のプロトコルを設定します。

プロトコル	説明
snmp	snmp サービスを立ち上げるのに必須

1 **ネットワークが接続されている Trusted Devices を選択します。**

「eth0」に [*] 印を付けます。

2 **Other ports に「snmp:tcp」と記述します。**

3 **［Tab］キーで [OK] ボタンを選択し、［Enter］キーを押します。**

ポイント **その他の機能を有効にする場合、この Firewall を設定する必要がある場合があります。**

5 **Firewall Configuration 画面に戻り、［Tab］キーで [OK] ボタンを選択し、［Enter］キーを押します。**

■ ServerView コンソールから ASR 設定やシャットダウン、再起動するための設定

ServerView エージェントが稼働中に、ServerView コンソールから、ASR（Automatic Server Recovery）設定（ファン／温度／再起動設定など）や電源の投入／切断を行うには、管理ユーザのユーザ名とパスワードの入力が求められます。

管理ユーザは、以下の手順で設定できます。

⚠注意

ServerView での管理ユーザとは、「svuser」グループに所属しているユーザです。
ServerView をインストールスクリプトでインストールした場合、「svuser」グループは自動的に作成されます。

1 **新規ユーザを管理ユーザとして作成します。**

スーパーユーザでログインし、次のコマンドを実行します。

```
# useradd -G svuser <ユーザ名>
# passwd <ユーザ名>
```

⚠注意

- **useradd コマンドの G オプションでは、「svuser」グループを指定します。**
  <ユーザ名> には、作成するユーザのユーザ名を指定します。
- **passwd コマンドでは、作成したユーザのパスワードを設定します。パスワードは、確認のため、2 回入力します。**
  なお、作成したユーザ名は、パスワードを設定すると有効になります。

各コマンドの詳細は、useradd(8),passwd(1) **の** man **ページを参照してください。**

2 **既存ユーザを管理ユーザとして設定します。**

設定する既存ユーザが、複数のグループに属しているかどうかをシステム管理者に確認し、次のコマンドを実行してください。

ー ユーザがメイングループにのみ属している場合

```
# usermod -G svuser <ユーザ名>
```

ー ユーザが複数のグループに属している場合

```
# usermod -G svuser,<所属グループ,…> <ユーザ名>
```

⚠注意

- usermod コマンドの G オプションでは、「svuser」グループを指定します。複数のグループを指定する場合は、カンマ (,) で区切って指定します。なお、以前所属していたグループをここで指定しなかった場合は、そのグループからは削除されます。所属すべきグループは、すべて指定してください。
  < ユーザ名 > には、管理ユーザにするユーザ名を指定します。
  usermod コマンドの詳細については usermod(8) の man ページを参照してください。
- vigr コマンドを使用して直接グループを設定することや、GUI ツールを使用して設定を行うこともできます。詳細は vigr(8) の man ページ ,RedHat のマニュアルを参照してください。

Service Pack を適用する（すべてのマシンで必要）

ServerView を使用する前に、Service Pack の適用を行ってください。

- Windows NT4.0 の場合、Service Pack 6a 以降を適用します。
- Windows 2000 の場合、Service Pack 1 以降を適用します。

⚠注意

Service Pack の適用は必ず行ってください。Service Pack を適用しない場合には、動作は保証されません。

ServerView 使用前情報を設定する（FULL/BASIC、または管理端末で必要）

ServerView を使用する前に、下記設定処理の適用を行ってください。

- ServerView の CD-ROM から、次のプログラムを起動します。

  <CD-ROM のドライバ >:¥SVMANAGE¥TOOLS¥VMSETUP.EXE

  Microsoft Virtual Machine がインストールされます。

Microsoft Internet Explorer において、プロキシ サーバを使用するように設定されている場合、アラームサービスのウィンドウが表示されない場合があります。
現在使用しているマシンの IP アドレスに対しては、プロキシ サーバを使用しないようにしてください。

以下に、Microsoft Internet Explorer 5 を例に設定手順を示します。

1 **［ツール］メニューの［インターネット オプション］を起動します。**
インターネットオプション プロパティが表示されます。

2 **［接続］タブをクリックします。**

3 **［LAN の設定］ボタンをクリックします。**
ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定ダイアログボックスが表示されます。

4 **プロキシサーバ ダイアログボックスの［詳細］ボタンをクリックします。**
プロキシの設定ダイアログボックスが表示されます。

5 **［例外］フィールドに、現在使用しているマシンの IP アドレスを追加し、［OK］ボタンをクリックします。**

ServerView の監視機能を設定する（FULL/BASIC、または管理端末で必要）

「3 ServerView の使用方法」（→ 67 ページ）をよくお読みになり、ServerView の監視機能を設定してください。

管理ユーザを設定する（FULL/BASIC、またはサーバブレードで必要）

監視機能をインストールすると、デフォルトで ServerView の管理権限をもつグループ（FUJITSU SVUSER）が設定されます。このグループに属するユーザだけが ServerView で監視対象サーバの設定変更、シャットダウンなどが行えます。このグループに属するユーザは自動的に作成されませんので、監視対象サーバごとに ServerView の管理者を FUJITSU SVUSER グループに追加します。

FUJITSU SVUSER グループにユーザを追加するには、以下の操作を行います。

ポイント

- FUJITSU SVUSER グループに、（グローバル）グループを追加しても、追加されたグループに含まれているユーザには管理権限は与えられません。
  FUJITSU SVUSER グループには、ユーザのみを追加してください。
- リモートサービスボードを取り付けている場合は、サーバのシステム上で「FUJITSU SERVER」グループに登録したユーザアカウントと同一のユーザ名とパスワードを持つユーザアカウントを、リモートサービスボードにも作成してください。リモートサービスボードのユーザアカウントの作成については、「14 リモートサービスボード」の「6 Web インタフェース」の「［User Accounts］ページ」（→ 267 ページ）を参照してください。
- FUJITSU SVUSER グループは、自動的に生成されない場合があります。この場合、「FUJITSU SVUSER」という名前のグループを、手作業で直接作成してください。詳細は「FUJITSU SVUSER グループを手作業で作成する (FULL/BASIC、またはサーバブレードでのみ必要)」（→ 57 ページ）を参照してください。
- 管理ユーザを SVUSER 以外に設定した場合、プログラムの起動直後にログオンを行うと失敗する場合があります。この場合、いったん［キャンセル］ボタンをクリックしログオン画面から抜けます。その後、サーバのプロパティのログインタブにてログオンの設定を再度行ってください。

■ Windows NT Workstation の場合

1 **スタートメニューから［プログラム］－［管理ツール（共通）］－［ユーザー マネージャ］を選択します。**

2 **［ユーザー マネージャ］ウィンドウで、FUJITSU SVUSER グループをクリックします。**

3 **［ユーザー］メニューの［プロパティ］をクリックします。**

ユーザー アカウントのフル ネームを表示するには、[フル ネームで表示] をクリックします。
ローカル グループにほかのドメインからのユーザーが多数含まれている場合は、表示に時間がかかることがあります。

4 **新しいメンバーを追加するには、[追加] をクリックし、[ユーザーとグループの追加] ダイアログ ボックスで必要な情報を設定します。**

■ Windows NT Server で、プライマリ・ドメイン・コントローラ、またはバックアップ・ドメイン・コントローラではない場合

1 スタートメニューから［プログラム］－［管理ツール（共通）］－［ドメインユーザー マネージャ］を選択します。

2 ［ユーザー］メニューの［ドメインの選択］を選択します。

3 「¥¥ コンピュータ名」（コンピュータ名の前に円記号を２つ付けます）のように入力し、［OK］をクリックします。

4 ［ドメイン ユーザー マネージャ］ウィンドウで、FUJITSU SVUSER グループをクリックします。

5 ［ユーザー］メニューの［プロパティ］をクリックします。

ユーザー アカウントのフル ネームを表示するには、[フル ネームで表示] をクリックします。
ローカル グループにほかのドメインからのユーザーが多数含まれている場合は、表示に時間がかかることがあります。

6 新しいメンバーを追加するには、[追加] をクリックし、[ユーザーとグループの追加] ダイアログ ボックスで必要な情報を設定します。

■ Windows NT Server で、プライマリ・ドメイン・コントローラ、またはバックアップ・ドメイン・コントローラの場合

1 プライマリ・ドメイン・コントローラ、またはバックアップ・ドメイン・コントローラの場合、FUJITSU SVUSER グループは自動的に作成されないので「 FUJITSU SVUSER グループを手作業で作成する (FULL/BASIC、またはサーバブレードでのみ必要)」（→ 57 ページ）を参考にグループを作成します。

2 スタートメニューから［プログラム］－［管理ツール（共通）］－［ドメインユーザー マネージャ］を選択します。

3 ［ドメイン ユーザー マネージャ］ウィンドウで、FUJITSU SVUSER グループをクリックします。

4 ［ユーザー］メニューの［プロパティ］をクリックします。

ユーザー アカウントのフル ネームを表示するには、[フル ネームで表示] をクリックします。
ローカル グループにほかのドメインからのユーザーが多数含まれている場合は、表示に時間がかかることがあります。

5 新しいメンバーを追加するには、[追加] をクリックし、[ユーザーとグループの追加] ダイアログ ボックスで必要な情報を設定します。

⚠注意 対象のサーバ本体をバックアップ・ドメイン・コントローラとして使用している場合には、設定終了後に必ず再起動してください。

■ Windows2000 で ActiveDirectory を使用しない場合

1 ［コントロール パネル］から［管理ツール］アイコンをダブルクリックします。
2 ［コンピュータの管理］アイコンをダブルクリックしてコンピュータの管理ウィンドウを開きます。
3 ［コンソール ツリー］で、［ローカル ユーザーとグループ］の［グループ］をクリックします。
4 FUJITSU SVUSER をクリックします。
5 ［操作］をクリックし、［プロパティ］をクリックします。
6 ［追加］をクリックします。
7 追加するユーザーまたはグループの名前を下のボックスに入力するか、ユーザーまたはグループを上のボックスで選択して［追加］をクリックします。
8 追加するユーザー名またはグループ名を確認する場合は、［名前の確認］をクリックします。
9 必要なすべてのユーザーを追加したら、［OK］をクリックします。

■ Windows 2000 で Active Directory を使用する場合

1 ［コントロールパネル］から［管理ツール］アイコンをダブルクリックします。
2 ［Active Directory ユーザとコンピュータ］アイコンをダブルクリックして、Active Directory ユーザとコンピュータウィンドウを開きます。
3 ユーザを FUJITSU SVUSER グループに追加します。
    1 ［ツリー］で Users をクリックします。
    2 FUJITSU SVUSER をクリックします。
    3 ［操作］－［プロパティ］の順にクリックします。
    4 ［メンバー］タブを選択して、［追加］ボタンをクリックします。
    5 追加するユーザ名を下のボックスに入力するか、または上のボックスで選択して［追加］ボタンをクリックします。
    6 必要なすべてのユーザを追加したら、［OK］をクリックします。
4 Windows2000 で ActiveDirectory を使用している場合、ユーザは Administrator グループに属している必要があるので、ユーザを Administrator グループに追加します。
    1 ［ツリー］で Users をクリックします。
    2 Administrator をクリックします。
    3 ［操作］－［プロパティ］の順にクリックします。

4 ［メンバー］タブを選択して、［追加］ボタンをクリックします。

5 追加するユーザ名を下のボックスに入力するか、または上のボックスで選択して［追加］ボタンをクリックします。

6 必要なすべてのユーザを追加したら、［OK］をクリックします。

ポイント

- ServerView からログインするためのユーザは、「ローカルログオン」ができる必要があります。
  ローカルにログオンできない場合は、以下を確認してください。
  - 新規ユーザを作成した場合、［ユーザは次回ログオン時にパスワード変更が必要］のチェックボックスがオンになっています。このチェックボックスをオフにするか、ローカルにログオンしてパスワードの変更を行ってください。
    また、パスワードの期限が切れた場合も［ユーザは次回ログオン時にパスワード変更が必要］のチェックボックスがオンになるので、ローカルにログオンしてパスワードの変更をしてください。
  - ［アカウントを無効にする］のチェックボックスはオフにしてください。

  上記を行っても、対象のユーザでローカルにログオンできない場合、ローカルログオンの権利が与えられていない可能性があります。
  対象のユーザを FUJITSU SVUSER グループに追加したのと同様の手順でローカルの Users グループにも追加してください。
- 正しく設定しローカルへのログオンに成功しても ServerView でログインできない場合は、SNMP が正しく設定されていない可能性があります。「動作環境を準備する（TCP/IP プロトコルと SNMP サービスのインストール）」（→ 17 ページ）を参照してください。

FUJITSU SVUSER グループを手作業で作成する (FULL/BASIC、またはサーバブレードでのみ必要)

FUJITSU SVUSER グループは、自動的に生成されない場合があります。この場合、「FUJITSU SVUSER」という名前のグループを、手作業で直接作成してください。以下に各 OS での作成方法を示します。

■ Windows NT Workstation の場合

1. **スタートメニューから［プログラム］－［管理ツール（共通)］－［ユーザー マネージャ］を選択します。**
2. **［ユーザー マネージャ］ウィンドウで、［ユーザー］－［新しいローカルグループ］を選択します。**
3. **グループ名に「FUJITSU SVUSER」と指定して［OK］をクリックします。**

■ Windows NT Server の場合

1. **スタートメニューから［プログラム］－［管理ツール（共通)］－［ドメインユーザー マネージャ］を選択します。**
2. **［ドメイン ユーザー マネージャ］ウィンドウで、［ユーザー］－［新しいローカルグループ］を選択します。**
3. **グループ名に「FUJITSU SVUSER」と指定して［OK］をクリックします。**

■ Windows 2000 で Active Directory を使用しない場合

1. **［コントロール パネル］から［管理ツール］アイコンをダブルクリックします。**
2. **［コンピュータの管理］アイコンをダブルクリックしてコンピュータの管理ウィンドウを開きます。**
3. **［コンソール ツリー］で、［ローカル ユーザーとグループ］の［グループ］を選択します。**
4. **［操作］－［新しいグループ］を選択します。**
5. **グループ名を「FUJITSU SVUSER」と指定して［作成］をクリックします。**

■ Windows 2000 で Active Directory を使用する場合

1 ［コントロールパネル］から［管理ツール］アイコンをダブルクリックします。

2 ［Active Directory ユーザとコンピュータ］アイコンをダブルクリックして、Active Directory ユーザとコンピュータウィンドウを開きます。

3 「ツリー」で Users を選択します。

4 ［操作］－［新規作成］－［グループ］をクリックします。

5 以下のように設定し、［作成］をクリックします。

項目	設定値
グループ名	FUJITSU SVUSER
グループの範囲	ドメインローカル
グループの種類	セキュリティ

6　管理端末から管理コンソールをアンインストールする

管理端末を他のパソコンに切り替えて使用する場合、または ServerView をレベルアップする場合などに、管理端末から現在の管理コンソールをアンインストールするには、次の操作を行います。

⚠注意

- **管理コンソールをアンインストールする前に、すべての ServerView プログラムを必ず終了させてください。アラームサービスおよび管理コンソールが起動している状態でアンインストールを実行した場合、その後の OS 動作が保証されません。**
- **下記のアンインストールの操作は、途中で中断したり、操作説明から外れた操作を行うと、正しくアンインストールされません。アンインストールは最後まで確実に行ってください。**
- **ServerView をアンインストールした後、ディレクトリ、サブディレクトリ、ファイルが削除されないことがあります。また、アンインストールした後に ServerView がプログラムグループから削除されないことがあります。**

1　**［スタート］ボタンから［プログラム］を選択し、［Fujitsu ServerView］内の［Uninstall Fujitsu ServerView］を実行してください。**

アンインストールを開始するメッセージが表示され、アンインストールが開始します。

2 「自動アンインストール」を選択し、［次へ］を実行します。

⚠注意 ここでは、必ず「自動アンインストール」を選択し実行してください「詳細アンインストール」を選択すると、アンインストールを行いたいファイル、レジストリの選択ができますが、一部のファイルやレジストリをアンインストールした場合に、その後の動作が保証されません。

3 ［アンインストール］を実行します。

4 アンインストールが開始します。

アンインストールが完了すると、アンインストール画面が自動的に終了します。

⚠注意 アンインストールの画面において、図と文字が一部重なる場合があります。動作に影響はありません。

7 サーバから ServerView をアンインストールする

ServerView Basic ／ Full のアンインストール

サーバをレベルアップしてサーバの監視システムを再構築する場合などに、サーバから現在の ServerView Basic / Full をアンインストールするには、次の共通操作を行います。

ポイント

- **ServerView をアンインストールする場合、全ての ServerView プログラムを終了させてから行って下さい。ServerView をアンインストールした後、ディレクトリ、サブディレクトリ、ファイルが削除されないことがあります。また、アンインストールした後に ServerView がプログラムグループから削除されないことがあります。**
- **アンインストールを行う時に、途中で処理を中断したり下記手順以外の操作を行うと、正しくアンインストールされません。アンインストールは最後まで確実に行ってください。**
- **サーバの BIOS に記憶された項目は ServerView をアンインストールしても元の状態に戻りません。設定を元の状態にしてから、ServerView をアンインストールしてください。**
  （「2 ASR（Automatic Server Reconfiguration & Restart）（自動再構築／再起動）」（→ 93 ページ）、および「6 電源 ON ／ OFF タイマの設定」（→ 110 ページ）参照）

1 **管理者または管理者と同等の権限をもつユーザ名でログインします。**

2 **実行中のアプリケーションをすべて終了させます。**

3 **管理コンソールをアンインストールします。**
（「6 管理端末から管理コンソールをアンインストールする」（→ 59 ページ）を参照）

4 **ServerView の CD-ROM から、次のプログラムを起動します。**

```
<CD-ROM のドライブ>:¥SVMANAGE¥JAPANESE¥UNAGENT.EXE
```

ServerView Windows Blade-Agent のアンインストール

ServerView をアンインストールするには、次の操作を行ってください。

1 **管理者または管理者と同等の権限をもつユーザ名でログインします。**

2 **実行中のアプリケーションをすべて終了します。**

3 ServerView の CD-ROM から、次のプログラムを起動します。

```
<CD-ROM のドライブ>:\SVMANAGE\JAPANESE\UNAGENT.EXE
```

ポイント

- ServerView をアンインストールする場合は、すべての ServerView プログラムを終了してから行ってください。
  ServerView をアンインストールしたあと、ディレクトリ、サブディレクトリ、ファイルが削除されないことがあります。
  また、アンインストールしたあとに ServerView がプログラムグループから削除されないことがあります。
- アンインストールを行うときに、途中で処理を中断したり上記手順以外の操作を行うと、正しくアンインストールされません。アンインストールは最後まで確実に行ってください。
- サーバの BIOS に記憶された項目は ServerView をアンインストールしても元の状態に戻りません。設定を元の状態にしてから、ServerView をアンインストールしてください。
  （「2 ASR（Automatic Server Reconfiguration & Restart）（自動再構築／再起動）」（→ 93 ページ）、および「6 電源 ON ／ OFF タイマの設定」（→ 110 ページ）参照）

ServerView Linux のアンインストール

アンインストールは、スーパユーザでログインして次のコマンドを実行して行います。

```
# rpm -e srvmagt-agents
# rpm -e srvmagt-eecd
```

■ WebExtension/AlarmService（Linux）のアンインストール

アンインストールは、スーパーユーザでログインして次のコマンドを実行して行います。

```
# rpm -e WebExtension
# rpm -e AlarmService
```

8　アレイコントローラのインストール処理

サーバに搭載 / 接続されているオプション装置の監視機能を有効にする場合には、各オプション装置の監視ソフトウェアをインストールする必要があります。
オプション装置によりインストール方法等に違いがありますので注意してください。

1 **管理者または管理者と同等の権限をもつユーザとしてログインします。**

2 **実行中のアプリケーションをすべて終了させます。**

3 ServerView **の** CD-ROM **から、以下の操作を行います。**

1 **監視サーバの** ServerView **エージェントをアンインストールするため、以下起動します。**

<CD-ROM **のドライブ** >:¥SVMANAGE¥JAPANESE¥UNAGENT.EXE

⚠注意

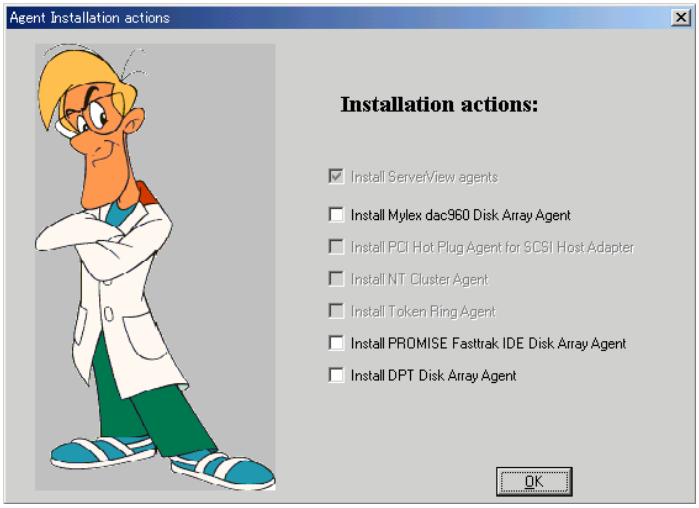
- **アンインストールするのは、エージェントのみで、上記のコマンドのみ使用してください。管理コンソールがインストールされていないと、オプション装置の追加インストールが行えません。**
- ServerView **管理コンソールをアンインストールせずに、**ServerView SNMP Agent **をアンインストールした場合は** SNMP Agent **がプログラムグループから削除されないことがあります。この場合、管理コンソールのアンインストール時に削除されます。**

アンインストール後、再起動を促すメッセージが表示されますので、マシンを再起動してください。

2 **オプション装置を追加監視するエージェントの追加インストールを行うため、以下を起動します。**

<CD-ROM **のドライブ** >:¥SVMANAGE¥TOOLS¥ADDAGENT.EXE

「Agent Installation Actions」ダイアログボックスが表示されます。



Install ServerView agents

基本のエージェントのみをインストールします。

Install Mylex dac960 Disk Array Agent

基本のエージェントおよび PG-143/144 アレイコントローラエージェントをインストールする場合に指定します。

Install PCI Hot Plug Agent for SCSI Host Adapter

基本のエージェントおよび PCI Hot Plug のエージェントをインストールする場合に指定します。(未サポート)

Install NT Cluster Agents

基本のエージェントおよび NT Cluster のエージェントをインストールする場合に指定します。(未サポート)

Install Token Ring Agents

基本のエージェントおよび Token Ring のエージェントをインストールする場合に指定します。(未サポート)

Install PROMISE Fasttrak IDE Disk Array Agent

基本のエージェントおよび IDE アレイコントローラエージェントをインストールする場合に指定します。

Install DPT Disk Array Agent

基本のエージェントおよび PG-141/142 アレイコントローラエージェントをインストールする場合に指定します。
StorageManager がインストールされている場合、この指定を行わなくても参照が可能です。

3 インストール方法を選択し、[OK] をクリックします。

インストーラが起動し、インストールが完了すると、インストール画面が自動的に終了します。

⚠注意

- **途中で処理を中断したり、インストール中にエラーメッセージが表示された場合は、インストールが正しく行われていません。**
  この場合には、インストールされていないソフトウェアが正しくインストールされるように対処し、もう一度インストールし直す必要があります。
- SCSI-RAIDmanager **と** ServerViewAgent **との関係について**

使用するカード	RAIDmanager	ServerViewAgent
PG-141、PG-142	StorageManager	DPT Disk Array Agent
PG-143、PG-144	GAM (Global Array Manager)	Install Mylex dac960 Disk Array Agent

- IDE-RAIDmanager **と** ServerViewAgent **との関係について**

使用するカード	RAIDmanager	ServerViewAgent
IDE-RAID**システム**	PROMISE Fasttrak	Install PROMISE Fasttrak IDE Disk Array Agent

- **対応するハードウェアが装着済みである場合に限り、追加** Agent **をインストールしてください。存在しないハード用の追加** Agent **をインストールした場合、そのハードを検出しようとしてエラーが発生する場合があります。**
- **ご使用のサーバがブレードサーバの場合、オプションの設定はすでに適切に設定されています。**
  この章の作業は実行しないでください。

3 ServerView の使用方法

この章では、ServerView の使用方法について説明します。

ServerView は、便利な GUI（グラフィカルユーザインタフェース）を使用して操作します。ウィンドウ内のメニューの操作方法は GUI の規格に準拠しているため、ここでは詳しく説明しません。

1 ServerView を使用する前に

Server View の管理タスクを実行できるようにするには、監視するコンピュータに ServerView 管理コンソールをインストールし、管理対象のサーバに ServerView エージェントをインストールする必要があります。

ポイント

画面表示は、使用しているシステムによって部分的に異なることがあるため、ご使用のシステムに表示されるものと細部が正確には一致していない場合があります。また、使用できるメニュー項目もシステムによって異なる項目が表示される場合があります。

2 Server View コンソールの起動と終了

ServerView を起動するには、［スタート］－［プログラム］－［Fujitsu ServerView］－［Fujitsu ServerView］をクリックします。

ポイント

ServerView **コンソールを起動できない場合は、インストールディレクトリに** CTxxxx.tmp**（この場合の** xxxx **は、**0000 **から** FFFF **の間の** 16 **進数）というファイルがないかどうかをチェックし、あれば削除してください。**

ServerView コンソールを終了するには、ファイルメニューの終了メニュー項目を使用します。

3　Server View コンソールのメイン画面

ServerView を起動すると、以下のメインウィンドウ［サーバの一覧］が表示されます。

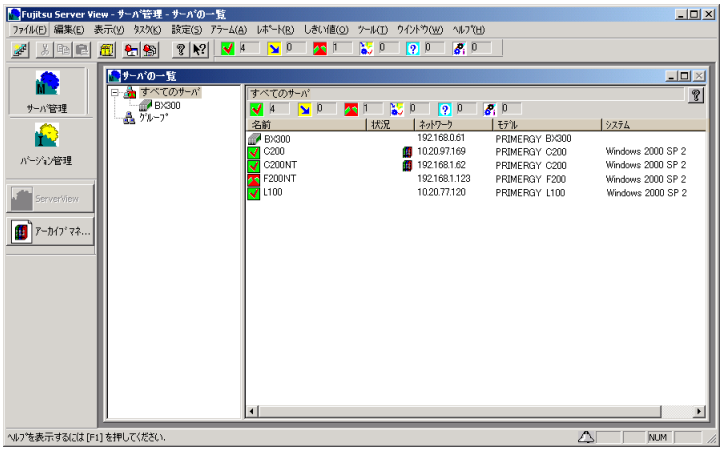


図 2：サーバの一覧ウィンドウ（中央）

ポイント　**ServerView をインストールした後に初めて ServerView を起動すると、ローカルサーバが自動的にサーバの一覧に追加され、［サーバの一覧］メインウィンドウに表示されます。**

サーバの一覧ウィンドウには、ユーザ定義グループにある設定済みオブジェクトのすべての概要が表示されます。このウィンドウが、管理者が実行する大部分の管理タスクの開始点です。

サーバの一覧ウィンドウは次の 2 つの領域に分割されています。

- 左側には、ファイルツリー構造で既存のグループが表示されます。
- 右側には、選択されたグループのサーバが表示されます。

画面の右側からは、次の情報を取得できます。

- 選択されたグループの名前が付いたタイトルバーと Help ボタン
- 選択されたグループに含まれるすべてのサーバのステータスの概要
- 選択されたグループのすべてのサーバのリスト

表示メニューで詳細メニュー項目を選択すると、すべてのサーバのリストの詳細が出力され、次の情報が得られます。

- 対応するサーバのステータスアイコンと名前
- サーバのステータスやほかのイベントのステータスに関する情報を提供する各種のアイコン
- ネットワーク情報。たとえば、ネットワークプロトコルに関する情報など。

- モデル名（表示可能な場合）
- システム名（表示可能な場合）
- 対応するサーバに関するユーザ定義コメントをその中に格納できるローカルノート

サーバの一覧ウィンドウの列幅は列ごとに設定できます。「...」という文字列が入っている場合は、テキストが列幅に収まらなかったということです。
また、サーバの一覧ウィンドウは、各列（項目）のヘッダ部をクリックすることにより、項目ごとにソートすることができます。

サーバの一覧ウィンドウの補足情報は、「7 サーバの一覧」（→ 83 ページ）に記載されています。
それぞれのアイコンの詳細情報については、「付録 4 アイコンリスト」（→ 306 ページ）に記載されています。
ServerView には包括的なヘルプシステムも備わっています。

4　ServerView の重要な機能

ServerView を用いて実行できる重要な機能を、以下の項目で簡単に説明します。

監視機能

■ サーバステータスのチェック

サーバの一覧には、監視されるすべてのサーバのリストが表示されます。このリストに入力された各サーバは、そのステータスを知らせるアイコンによって示されます。これらのアイコンの意味は、「付録 4 アイコンリスト」（→ 306 ページ）で説明しています。

■ 新しいサーバの選択

［ファイル］メニューで［新しいサーバ］を選択して、サーバブラウザを立ち上げます。ここでは、新しいサーバの名前とインターネットアドレスを入力し、適用ボタンを使用してそのサーバを監視対象のサーバのリストに追加することができます。詳細は「8 新しいオブジェクトの定義と追加」の「 新しいサーバをサーバの一覧への追加」（→ 88 ページ）で説明しています。

なお、ServerView Basic では、サポートしていません。

■ サーバの削除

［サーバの一覧］ウィンドウにおいて、今後監視対象としないサーバを選択して強調表示にします。次に、ファイルメニューで削除メニュー項目を選択します。

なお、ServerView Basic では、サポートしていません。

■ 監視対象サーバの表示

［サーバの一覧］ウィンドウには、監視対象サーバのリストが表示されます。サーバの名前をダブルクリックすることにより、サーバの詳細情報を含むウィンドウを開きます。詳細は「9 ServerView」（→ 92 ページ）で説明しています。

■ 選択したステータスのサーバだけの表示

［表示］メニューで［サーバのフィルタ］を選択し、サーバのフィルタウィンドウを開きます。そのウィンドウにおいて、特定のステータスを有するサーバだけをサーバの一覧に表示させるかどうかを指定できます。

■ 監視対象サーバへの接続のチェック

［ファイル］メニューで［接続テスト］を選択します。その後、ServerView により監視対象サーバのステータスがチェックされ、ネットワーク接続、SNMP エージェント、またはトラップ接続に関する問題がある場合は通知されます。

■ ［サーバの一覧］ウィンドウの表示の変更

［表示］メニューには、［サーバの一覧］ウィンドウの表示を変更するために使用できる機能が用意されています。詳細は「■ 表示メニュー」（→ 80 ページ）で説明しています。

■ グループの作成

［サーバの一覧］ウィンドウで、親になるグループを選択してから、［ファイル］メニューで［新しいグループ］を選択します。

■ サーバデータの要求

［サーバの一覧］ウィンドウで、データを要求するサーバをダブルクリックします。その後、ServerView ウィンドウの中のサブシステムグループの外部記憶装置、ベースボード、電源、環境というボタンを用いて、対応する設定に関する情報を要求するか、または構成情報ボタンを用いてグローバルシステム情報を呼び出すことができます。

リカバリ機能

■ ASR 設定の指定

［サーバの一覧］ウィンドウで必要なサーバをダブルクリックして Server View ウィンドウを開きます。［Server View］ウィンドウー［アクション］ボタン、［アクション］ウィンドウー［ASR］ボタン、とボタンをクリックする事で ASR プロパティの設定ウィンドウが開きます。
ASR プロパティの設定ウィンドウでは次の 4 つのアクションを選択できます。

- ファンをチェックする時刻を指定し、ファンが故障したときに起動されるアクションをファンタブにて定義します。
- 温度センサからのアラームへの対応を温度センサタブにて定義します。
- 停電後のサーバの反応と、サーバのシャットダウンから再起動の試行を開始するまでの待機時間、またはサーバでの再起動の試行回数を再起動設定タブにて指定します。サーバが指定した試行回数内に再起動されない場合のシステムの反応を定義します。ソフトウェア　ウォッチドッグとブート　ウォッチドッグの設定も再起動設定タブにて指定します。
- ポケットベル タブページは未サポートです。

詳細は「2 ASR（Automatic Server Reconfiguration & Restart）（自動再構築／再起動）」（→ 93 ページ）で説明しています。

■ アーカイブ

［ツール］－［アーカイブ マネージャ］を選択、またはタスクバー上の［アーカイブ マネージャ］ボタンをクリックして、アーカイブ マネージャウィンドウを表示します。

このウィンドウでは、アーカイブ データの作成、表示および比較を行うことができます。
作成したアーカイブは、ServerView ウィンドウの表示データで選択することで、作成時のデータを参照できます。
詳細は、「15 ツール」の「 アーカイブマネージャ」（→ 137 ページ）を参照してください。

アラームの管理

■ アラームの表示

［アラーム］メニューで［マネージャ］を選択し［アラーム マネージャ］ウィンドウを起動すると、アラームログリストに記録されたすべてのアラームがここに表示されます。アラームログリストに記録させるアラームを指定するには、「12 アラームサービス」の「アラームのアクション」（→ 78 ページ）を参照してください。

アラーム マネージャのフィルタ機能を使用して、表示させるアラームを定義することもできます。これを実行するには、アラーム マネージャの［フィルタの設定］ボタンをクリックして、フィルタの設定を行い、［フィルタを有効にする］ボタンでフィルタを有効にしてください。
アラームマネージャの詳細は「14 アラームサービス」の「 アラームマネージャ」（→ 125 ページ）で説明しています。

［アラーム］メニューの［モニタ］を用いて、アラームを表示させることもできます。現在の ServerView セッション中に記録されたすべてのアラームがここに表示されます。詳細は「14 アラームサービス」の「 アラームマネージャ」（→ 125 ページ）で説明しています。

■ アラーム設定

［アラーム］メニューの［設定］でアラームの設定の開始ウィンドウを開きます。
ここでは、ウィザードを使用してすべての設定を行う（デフォルト）か、いずれかのウィンドウに直接ジャンプするかを選択できます。詳細は「14 アラームサービス」の「 アラーム設定」（→ 129 ページ）で説明しています。

● 共通設定

このウィンドウでは、アラーム処理の全体的な設定を定義できます。［共通設定］ウィンドウが開きます。
「14 アラームサービス」の「■ 設定」（→ 130 ページ）を参照してください。

● サーバのフィルタ

このウィンドウでは、特定のサーバからのアラームメッセージを受信しないように設定できます。
「14 アラームサービス」の「■ サーバのフィルタ処理」（→ 131 ページ）を参照してください。

● アラームグループの作成／編集

このウィンドウでは、新しいアラームグループの作成、または既存のアラームグループの編集を行います。アラームグループにはサーバのセットとアラームの

セットの組み合わせで、指定したアラームグループに対する複数のアクションをグループ化して設定できます。
「14 アラームサービス」の「■ アラームグループの編集」（→ 131 ページ）を参照してください。

● **アクションの作成／編集**

このウィンドウでは、先に設定された全てのアラームグループに対するアクションを設定できます。
「14 アラームサービス」の「■ アラームのアクション」（→ 132 ページ）を参照してください。

● **全設定の表示**

このウィンドウでは、すべてのアラーム定義の概要を表示できます。
「14 アラームサービス」の「■ 全設定の表示」（→ 133 ページ）を参照してください。

しきい値の管理

■ しきい値の設定

最初に［しきい値］メニューで［マネージャ］を選択し、［しきい値マネージャ］ウィンドウを開きます。次に必要なサーバを指定し、［テーブルの設定］ボタンをクリックして、しきい値テーブルを定義します。しきい値テーブルにおいて、必要な値を指定することができます。

［監視しない項目］フィールドから変数のリストを選択し、監視対象とする変数を［監視する項目］フィールドに追加します。

変数を追加すると、［しきい値設定の追加］ウィンドウが開きます。ここでは、しきい値のタイプ、ポーリング間隔の秒単位の時間、監視対象とする値の範囲を定義します。［しきい値テーブルの設定］ウィンドウに戻るには、［OK］ボタンをクリックします。［保存］ボタンを用いて［しきい値テーブルの設定］ウィンドウから出て、このしきい値テーブルの名前を入力します。次に［しきい値テーブルの設定］ウィンドウで［OK］ボタンをクリックします。

監視を開始するには、［開始］ボタンをクリックします。2 つの異なるテーブルで同じ変数が選択されるような競合を避けるために、1 つのサーバで開始できるタスクは 1 つだけです。

■ しきい値テーブルの編集

［しきい値テーブルの設定］ウィンドウでは、既存のしきい値テーブルを編集できます。［編集］ボタンを用いて、変数の追加や削除、およびしきい値の設定の編集を行うことができます。

しきい値テーブルがアクティブな場合、変更を有効にするには、しきい値テーブルを停止してから再度起動する必要があります。

■ しきい値監視の終了

［しきい値］メニューで［マネージャ］を選択してから、対応するサーバとしきい値テーブルを選択します。次に、［停止］ボタンをクリックします。これでタスクが停止されます。

■ しきい値の表示

［しきい値］メニューで［一覧］を選択します。ここでは、アクティブなすべてのしきい値タスクに関する情報を入手できます。

レポートの管理

■ システム値の記録

最初に［レポート］メニューで［マネージャ］を選択し［レポート マネージャ］ウィンドウを開きます。必要なサーバを指定してから、［テーブルの設定］ボタンをクリックして［レポート テーブルの設定］ウィンドウを開きレポートテーブルを定義します。レポートテーブルにおいて、必要な値を指定します。

［監視しない項目］フィールドで変数のリストを選択してから、［監視する項目］フィールドに監視対象とする変数を追加します。

［保存］ボタンを押して、このレポートテーブルの名前を入力し、その後［レポート テーブルの設定］ウィンドウを閉じます。

レポートマネージャの期間では、値を監視する期間を指定します。単位に無期限と入力すると、システム値が常に監視されます。つまり、時間の制限はありません。

次に、レポートテーブルの名前を指定し、［開始］ボタンをクリックして監視を開始します。2 つの異なるテーブルで同じ変数が選択されるような競合を避けるために、1 つのサーバで開始できるタスクは 1 つだけです。

一覧メニュー項目を用いると、すべてのレポートのリストを取得できます。

■ システム値の記録の終了

システム変数の記録に制限時間が指定されている場合、その制限を超えると記録が停止されます。

制限時間を超える前に記録を終了させる場合や、制限時間のない変数の記録を終了させる場合は、レポートメニューでマネージャメニュー項目を選択し、対応するレポートテーブルを指定してから停止ボタンをクリックします。

■ システム値の表示（一覧）

［レポート］メニューで［一覧］を選択します。ここでは、すべてのレポートに関する情報を取得できます。

デフォルト値の管理

■ 別サーバのデフォルト設定の使用、または別サーバへのデフォルト設定の転送

［設定］メニューで［デフォルトの設定］を選択します。［デフォルトの設定］ウィンドウでは、次の作業を行います。

- ［コピー元］の［セット］で、デフォルト設定を使用するサーバを指定します。
- ［コピー先］の［セット］で、デフォルト設定の転送先とするサーバを指定します。

■ ファイルからのデフォルト設定の読み取り、またはファイルへのデフォルト設定の書き込み

［設定］メニューの［デフォルトの設定］を選択します。［デフォルトの設定］ウィンドウでは、次の作業を行います。

- ［コピー元］の［セット］で、デフォルト設定を読み取るファイルを指定します。
- ［コピー先］の［セット］で、デフォルト設定を書き込むファイルを指定します。

5　リモートサービスボードのサポート

リモートサービスボード（RSB）を使用すれば、サーバの状態にかかわらず、モデムまたは LAN を介してサーバに対する SNMP アクセスおよび Web アクセスが可能になります。これにより、起動プロセスのトレースやシステム電源投入／切断など、さまざまな管理機能をリモートで実行できます。補助電源（AC アダプタ）で動作できるため、これらの管理機能はサーバから完全に独立しています。

ServerView フロントエンド

ServerView フロントエンドは、次のように完全に独立した 2 つのルートを介してサーバ情報を受信します。

- サーバが稼動中の場合は、プライマリチャネルを介して受信します。
- サーバが稼動中でない場合は、セカンダリチャネルを介して受信します。このチャネルで受信できる情報は限られています。

プライマリチャネルはサーバ本体の LAN であり、オペレーティングシステムと共有されます。
セカンダリチャネルは、RSB の LAN です。
IP アドレスを使用することで、ServerView フロントエンドは情報を送信したチャネルを識別できます。
サーバにアクセスできないことがわかると、ServerView フロントエンドは RSB にアクセスできるかどうかを確認します。RSB がセカンダリチャネルを介して応答した場合、次のアイコンがサーバの一覧に表示されます。

図 3：RSB アイコン

このアイコンをダブルクリックすると、［ServerView in RSB Mode］ウィンドウが開きます。RSB モードでのサーバは、機能が限られています。

- ［アクション］ボタンを押すと、サーバを監視する方法を指定し、アラームに対するリアクションを定義できます。
- ［System Board］ボタンを押すと、ボード上のデータを照会できます。
- ［電源］ボタンを押すと、電源の設定とステータスを照会できます。
- ［環境］ボタンを押すと、ファンのステータスなどのサーバ環境を照会できます。

各機能の説明は、「7 サーバの一覧」（→ 83 ページ）を参照してください。

［Remote Service Board］プロパティウィンドウ

［Remote Service Board］プロパティウィンドウで、RSB のパラメータを定義できます。このウィンドウを開くには、［アクション］ウィンドウの［RSB］ボタンをクリックします。プロパティページを利用して、さまざまなパラメータを表示、定義することができます。

■ ［再起動設定］プロパティページ

このプロパティページで、サーバの起動／シャットダウン、再起動の定義、起動ステータスの表示を行うことができます。サーバ電源の投入と切断は、パスワードで保護されています。［サーバのプロパティ］プロパティウィンドウの［ログイン］プロパティページでパスワードを保存しておくよう設定することもできます。

■ ［バックアップバッテリ］プロパティページ

このプロパティページで、オプションのバッテリパックのステータスを表示できます。［Do Charge Cycle］ボタンを使用して、バッテリパックの充電と放電を行います。

なお、バックアップバッテリはサポートしていません。

■ ［インタフェース］プロパティページ

このプロパティページで、プライマリ／セカンダリチャネルと電話番号の設定を表示できます。

［Remote Service Board］プロパティページ

［Remote Service Board］プロパティページは、［Setting Properties for <server>］ウィンドウに追加された新しいページです。このプロパティページには、セカンダリチャネルの IP アドレスとサーバ名が表示されます。［RSB 接続テスト］ボタンを押すと、RSB への接続をテストできます。

このプロパティページは、［サーバブラウザ］プロパティウィンドウにも表示されます。このウィンドウに表示されるプロパティページでは、プライマリチャネルを介してサーバにアクセスできない場合に使用されるセカンダリチャネルの IP アドレスとサーバ名を指定できます。サーバにアクセスできるようになると、自動的にプライマリチャネルが再入力されます。

■ ［設定］ボタン

このボタンを押すと、RSB の Web インタフェースが開き、ユーザ名とパスワードの入力を求められます。

RSB の Web インタフェースの詳細については、「14 リモートサービスボード」の「6 Web インタフェース」（→ 253 ページ）を参照してください。

6　メニューの概要

以下に、高度な ServerView メニューについて説明します。このマニュアル内のより詳細な情報は相互参照で検索することができます。またすべてのメニュー項目は、ヘルプでも詳しく説明されています。

■ ファイルメニュー

ファイルメニューのメニュー項目

メニュー項目	説明
新しいサーバ ...	サーバの一覧で新しくサーバを作成するときに使用します。
新しいグループ	サーバの一覧で新しくグループを作成するときに使用します。
インポート → アーカイブ	ServerView にアーカイブをインポートすることができます。
インポート → サーバ	サーバの一覧にサーバをインポートすることができます。
開く	選択したサーバの Server View ウィンドウ、選択したデスクトップの DeskInfo アプリケーションを開くときに使用します。
アプリケーション ...	すべての登録済みアプリケーションを表示するアプリケーションリストボックスを開く。サーバの一覧で選択したオブジェクト用のアプリケーションを起動するには、リストからアプリケーションを選択し、OK ボタンをクリックするか、そのアプリケーションをダブルクリックします。
印刷 ... 印刷プレビュー プリンタ設定 ...	他のアプリケーションから認識する印刷ダイアログを起動するときに使用します。
削除	サーバの一覧からオブジェクトを削除するときに使用します。
名前の変更	サーバの一覧のグループの名前を変更するときに使用します。
サーバのプロパティ	サーバプロパティページを起動し、サーバパラメータを定義するときに使用します。
グループのプロパティ	グループプロパティページを起動し、グループパラメータを定義するときに使用します。
接続テスト	サーバの一覧で選択したサーバやクラスタへの接続をテストするときに使用します。
サーバの再検出	選択したオブジェクトのステータスチェックプロセスを開始します。このプロセスは、サーバがネットワークに存在するかどうかを動的に確認します。サーバが SNMP プロトコルに応答できるかどうかのテストも行います。このメニュー項目を選択したことにより取得される結果と、定期的に実行される自動ステータスチェックの結果は同じです。
終了	ServerView を終了するときに使用します。

表 1：ファイルメニューのメニュー項目

■ 編集メニュー

編集メニューのメニュー項目

メニュー項目	説明
切り取り	サーバオブジェクトを別の場所に挿入するためにクリップボードに移動するときに使用します。
コピー 貼り付け	サーバオブジェクトをサーバの一覧にコピーまたは貼り付けるときに使用します。

表 2：編集メニューのメニュー項目

■ 表示メニュー

表示メニューのメニュー項目

メニュー項目	説明
ツールバー	ServerView ウィンドウの上隅にあるツールバーを表示または非表示にするときに使用します。
ステータスバー	ServerView ウィンドウの下隅にあるステータスバーを表示または非表示にするときに使用します。
ステータスサマリ	ツールバーの下にステータスバー（サーバステータスの概要）を表示するために使用されます。
タスクバー	タスクバーを表示するときに使用します。
大きいアイコン 小さいアイコン 一覧 詳細	サーバの一覧ウィンドウでのサーバのレイアウトや表示を変更するときに使用します。各機能は Windows エクスプローラの機能と同一です。
サーバのフィルタ ...	サーバのリストに対するフィルタを編集するときに使用します。たとえば、現在特定の状態にあるすべてのサーバを表示するようにフィルタを定義することができます。
すべてのサーバの再検出	すべての定義済みサーバのステータスのクエリを再度行います。このプロセスは、サーバがネットワークに存在するかどうかを動的に確認します。サーバが SNMP プロトコルに応答できるかどうかのテストも行います。このメニュー項目を選択したことにより取得される結果と、定期的に実行される自動ステータスチェックの結果は同じです。

表 3：表示メニューのメニュー項目

■ タスクメニュー

タスクメニューのメニュー項目

メニュー項目	説明
サーバ管理	このメニュー項目を選択すると、サーバ管理用のツールが使用できます。サーバの一覧からは ServerView ウィンドウが起動されます。
バージョン管理	このメニュー項目を選択すると、バージョン管理用のツールが使用できます。サーバの一覧からは InventryView が起動されます。

表 4：タスクメニューのメニュー項目

■ 設定メニュー

設定メニューのメニュー項目

メニュー項目	説明
レポートを無効にする	このメニュー項目をチェックすると、現在定義済みでかつアクティブなすべてのレポートが、このメニュー項目のチェックを外すまで停止されます。
外部アプリケーション	サーバに割り当てる外部アプリケーションを定義するときに使用します。
デフォルトの設定	サーバの初期値設定を定義するときに使用します。
単位の設定	温度表示の測定単位を設定するときに使用します。
ユーザ認証	［サーバへのログイン］プロパティページを起動し、選択したサーバへのユーザ名とパスワードを定義するときに使用します。

表 5：設定メニューのメニュー項目

■ アラームメニュー

アラームメニューのメニュー項目

メニュー項目	説明
マネージャ	アラームマネージャを起動し、アラームログリストに格納されたアラームメッセージを参照して編集するときに使用します。
モニタ	アラームモニタを起動し、アラーム割り込みされたメッセージを参照するときに使用します。
設定	［アラーム設定の開始］ウィンドウを開きます。このウィンドウで、アラームを設定できます。
受領	選択したサーバのアラームインジケータを消去します。
すべて受領	すべてのサーバのアラームインジケータを消去します。

表 6：アラームメニューのメニュー項目

■ レポートメニュー

レポートメニューのメニュー項目

メニュー項目	説明
マネージャ	レポートマネージャを起動するときに使用します。
一覧	レポート一覧を起動し、アクティブなすべてのレポートを表示させるときに使用します。

表 7：レポートメニューのメニュー項目

■ しきい値メニュー

しきい値メニューのメニュー項目

メニュー項目	説明
マネージャ	しきい値マネージャを起動し、サーバのしきい値の有効化や無効化を行うときに使用します。
一覧	しきい値一覧を起動し、アクティブなすべてのしきい値を表示させるときに使用します。

表 8：しきい値メニューのメニュー項目

■ ツールメニュー

ツールメニューのメニュー項目

メニュー項目	説明
アーカイブマネージャ	アーカイブマネージャを起動します。
エクスポートマネージャ	エクスポートマネージャを起動します。
Global Flash	GlobalFlash ツールを起動します。

表 9：ツールメニューのメニュー項目

■ ウィンドウメニュー

ウィンドウメニューのメニュー項目

メニュー項目	説明
アイコンの整列 重ねて表示 縦に並べて表示	アイコンの整列、重ねて表示、縦に並べて表示メニューオプションを含むウィンドウメニューは、他の Windows アプリケーションのウィンドウメニューと同様に使用します。
すべて閉じる	サーバ一覧以外の、すべてのウィンドウを閉じます。

表 10：ウィンドウメニューのメニュー項目

■ ヘルプメニュー

ヘルプメニューのメニュー項目

メニュー項目	説明
トピックの検索	トピックの検索は ServerView Help システムを呼び出すときに使用します。
アラーム	弊社によって指定されたアラームの説明を含みます。
アイコン	ServerView の表示要素の説明を含む Server Manager Help システムのセクションを開くときに使用します。
用語	このメニュー項目をクリックすると、Help システムが起動し、Help システム用語集が表示されます。ヘルプが必要なエントリをここで選択できます。
ServerView について	使用中の ServerView のバージョンに関する情報を返信します。

表 11：ヘルプメニューのメニュー項目

7　サーバの一覧

サーバの一覧は、その後のすべての設定や定義の基礎になります。それは、サーバをサーバの一覧から選択した場合に限り、定義や設定を指定できるからです。その他の設定は、選択したサーバが存在しており、かつアドレス指定が可能な場合のみ行うことができます。

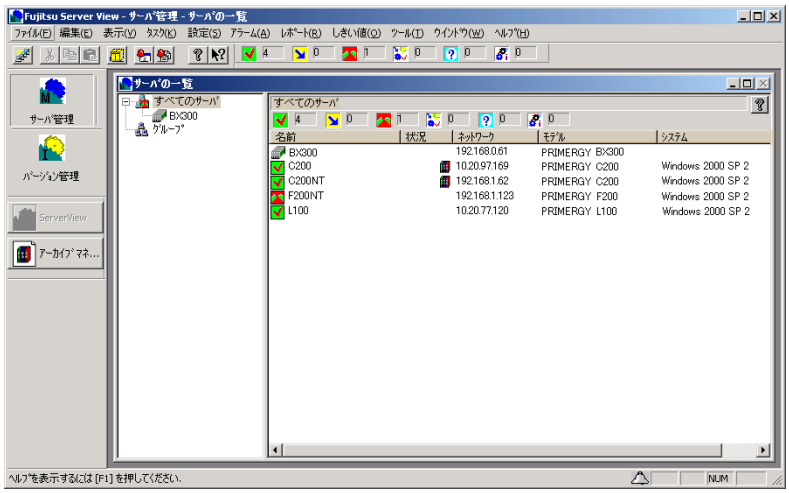


図 4：設定済みサーバの一覧の例

サーバが「管理不可能」の場合

サーバが「管理不可能」のアイコン付きで［サーバの一覧］ウィンドウに表示された場合は、そのサーバと管理コンソールの設定を確認します。
たとえば「PRIMERGY」というサーバの設定は、以下のようにして行います。

1. **そのサーバの BIOS において Server Management 設定（Server メニュー）が「Enabled」に設定されていることを確認します。**
2. **BIOS の ASR&R 機能（Server メニュー）がすべてのデバイスで起動されていることを確認します。**
3. **エージェントがすべてのサーバにインストールされており、かつ SNMP サービスがすべてのデバイスで起動されていることを確認します。**

サーバが「管理不可能」で RSB アイコンがある場合

ServerView フロントエンドは２つの完全に独立した経路を経由してサーバの情報を取得します。

- サーバが起動していればプライマリチャネル経由
- サーバが起動していなければセカンダリチャネル経由（このチャネル経由では情報は限られたものになります）

プライマリチャネルは OS と共有されますが、セカンダリチャネルは RSB によってのみ使用される LAN アダプタです。

サーバがアクセス不能な場合、ServerView は RSB がアクセス可能かどうか調査します。RSB がセカンダリチャネル経由で反応をかえした場合、次のアイコンがサーバの一覧に表示されます。

図 5：RSB アイコン

このアイコンをダブルクリックすると、RSB モードの ServerView ウィンドウが起動します。RSB モードのサーバは限られた以下の機能を持っています。

- ［アクション］ボタンでは、サーバ監視方法、アラームへの反応を指定できます。
- ［ベースボード］ボタンでは、ボード上のデータの問い合わせができます。
- ［電源］ボタンでは、電源のステータスと設定の問い合わせができます。
- ［環境］ボタンでは、サーバの環境（つまり FAN のステータス）を問い合わせできます。

サーバ一覧の確認

サーバの一覧を設定すると、監視機能が自動的に起動されます。システム全体とそのサブシステムのステータスが表示されます。たとえば、外部記憶装置、ベースボード、電源、ファンと温度の監視機能、OS が対象となります。

⚠注意

サーバの一覧のセットアップを行う場合は、サーバの一覧で設定するコンピュータ名が有効であることを確認する必要があります。コンピュータ名は、OS のインストール中にサーバに割り当てられた名前です。1 つの IP アドレスに複数のコンピュータ名を同時に割り当てることはできません。

1 **サーバ名と IP アドレスが正しく入力されていることを確認します。**

2 **［ファイル］メニューの［接続テスト］を用いて指定されたタイムアウト期間内にサーバが応答するかどうかをテストします。**

4 種類のテストを行います。

1 **ネットワークのコネクティビティ（Ping）。IP プロトコルが設定されている場合、このテストは ping ユーティリティを用いて行います。**

2 SNMP **のコネクティビティ**（Check Inventory MIB）。**エージェントがサーバにインストールされているかどうかを確認するためにサーバのクエリを行います。**

3 **チャネルタイプ**（Channel Type）。**このアドレスのタイプが、**Fujitsu **サーバ制御エージェントから受信したチャネルタイプに適合するかどうかチェックします。**

4 Test **トラップ**（Send Test Trap）。**このサーバからのトラップが受信可能かどうかを確認するテストを行います。**

3 **上記のステップを各サーバについて繰り返します。**

さらに、フィルタ機能を用いると［サーバの一覧］ウィンドウへの表示を特定のサーバに限定できます（詳細については、「監視機能」（→ 70 ページ）を参照）。

8　新しいオブジェクトの定義と追加

サーバブラウザウィンドウ

サーバブラウザを用いて、［サーバの一覧］ウィンドウに新しいサーバを追加することができます。
サーバブラウザの［サーバのアドレス］プロパティページに、サーバ名とアドレスを直接指定するか、もしくはブラウザ部（画面下部）にてサーバを選択することにより、［サーバの一覧］ウィンドウに追加するサーバを指定することができます。
また、その他のプロパティページにより、追加するサーバに関する詳細なパラメータを設定することもできます。

ネットワークの参照（ブラウジング）

ブラウザ部の左側のウィンドウには、マイネットワークと Network Discovery の、2 つの検索開始ポイントが用意されています。

（1）マイネットワーク

マイネットワークは、Windows エクスプローラと同様に使用できます。
サブツリーには、Micorosoft Windows Network にて検出されるすべてのネットワークエンティティが表示されます。
マイネットワークには、以下のサブノードが用意されています。

- ローカルドメイン
  ログインしたコンピュータが所属するドメイン。
- ネットワーク全体
  コンピュータにインストールされたすべてのネットワークプロバイダ。
  （Microsoft Windows ネットワーク等）

ドメインにおいて、ブラウザは、コンピュータ名や説明情報を取得できますが、IP アドレスを取得するには、DNS、WINS、または broadcast messages を利用する必要があります。

（2）Network Discovery

Network Discovery は、IP サブネットまたはドメインベースのブラウジングをサポートします。サブネット（IP アドレスの最初の 3 桁）、もしくはドメイン名を指定することにより、ブラウザはその範囲のコンピュータ名と説明情報を検索し、表示します。
サブネットによる検索は、Windows NT ドメインによる検索より、より大きな範囲での検索を可能とします。すなわち、Linux サーバの検索やブレードサーバの検索などが可能となります。

ブラウザ部の右側のウィンドウには、各ネットワークエンティティ内で検出された、すべてのコンピュータ（サーバ）が以下の情報とともに表示されます。

名前： **コンピュータ名（ステータスアイコン付）**

アドレス： IP **アドレス**

説明： **ブラウザが検出した説明情報（**OS **の種類等）**

サーバは、［適用］ボタンのクリックやドラッグ アンド ドロップなどの操作により、［サーバの一覧］ウィンドウに簡単に追加することができます。

■ トラブルシューティング

ブラウザは常に正常に動作するとは限りません。多数の原因が考えられ、その影響もさまざまです。

- ServerView により、現在電源が入っているコンピュータしか検出されない。
- Microsoft Windows ネットワークの走査中に一部のネットワーク情報が検出されないことがある。この現象は、ネットワーク情報を取得するために Windows が使用している方法（ブロードキャスト方法の使用）により発生します。
- セキュリティポリシの設定により、ドメインにアクセスできない。また、ドメインサーバにアクセスできないために、ドメインにアクセスできない。この場合、タイムアウトの期限を超えた後、ブラウズ操作がキャンセルされます。ただし、これには数分かかることがあります。
- 他のネットワークシステム（NetWare サービスなど）が同様の理由でアクセスできない。
- ブラウザが完全に失敗し、ブラウザウィンドウを数分間ブロックしている。悪くすると、ブラウザウィンドウが永久にブロックされたり、ブラウザ処理中に ServerView アプリケーション全体がブロックされることがあります。この現象は、Windows NT ドメインに問題がある場合や、ネットワークパフォーマンスが非常に悪い場合に発生します。
  この場合は、そのブラウザメカニズムを使用しないでください。ブラウザウィンドウを含むコンポーネントは、［参照 <<］ボタンをクリックすることにより閉じることができます。
- IP アドレスに対するコンピュータ名の解決に時間がかかる場合は、ログインコンピュータで Windows Internet Name Services（WINS）または Domain Name System（DNS）が正しくセットアップされていない可能性があります。プライマリ WINS サーバやセカンダリ WINS サーバのアドレス、または DNS サーバのアドレスが有効でない可能性があります。WINS プロトコルが正しく起動されていない場合、IP アドレス解決では非常に低速の名前クエリブロードキャストが使用されます。WINS や DNS は、ネットワーク設定の TCP/IP プロパティで設定できます。
- IP アドレスが見つからなかった場合は、次のようないくつかの原因が考えられます。
  - リモートコンピュータに TCP/IP がインストールされていない。
  - ログインしているコンピュータで WINS が有効でない。
  - LAN に WINS サーバ、DNS 情報、または LMHOSTS ファイルがない。
  - WINS データベースが更新されていない。

- WINS、DNS、またはいずれかの LMHOSTS ファイルを用いてアドレスを解決できなかった場合は、名前クエリブロードキャストが使用中です。このブロードキャストは、たとえばドメインのルータによって名前クエリブロードキャストが送信されないような場合に、ネットワークトポロジやパフォーマンスの問題により失敗することがあります。

新しいサーバをサーバの一覧への追加

(1) 新しいサーバを［サーバの一覧］へ追加するには

1 ［サーバの一覧］へ追加したいサーバを、下記のいずれかの方法で選択してください。

- ［サーバのアドレス］プロパティページで、サーバを指定する。
- 1 つ（または複数）のサーバをブラウザ部で選択する。

2 追加するサーバのタイプを選択してください。

- 自動
  追加するサーバのタイプを自動検出する場合
- サーバ
  ServerView Agent により監視されているサーバを追加する場合
- ブレードサーバ
  ServerView Agent により監視されているブレードサーバを追加する場合
- クラスタ
  クラスタを追加する場合（未サポート）
- デスクトップ
  デスクトップを追加する場合（未サポート）
- LDSM
  LDSM（Intel LANDesk（R）Server Manager）により監視されているサーバを追加する場合
- その他
  TCP/IP オブジェクトを追加する場合

3 選択したサーバを［サーバの一覧］に、下記のいずれかの方法で追加してください。

- ［適用］ボタンをクリックします。
- 選択したサーバを［サーバの一覧］画面にドラッグアンドドロップします。
- ［サーバ ブラウザ］画面メニューより［編集］-［コピー］を選択後、［サーバの一覧］画面メニューの［編集］-［貼り付け］を実施します。

⚠注意

- **追加するサーバの名前とネットワークアドレスは、一意である必要があります。**
  すなわち、すでに［サーバの一覧］画面に登録されているサーバと、同じ名前または同じネットワークアドレスのサーバを追加することはできません。
- **ネットワークエンティティ全体を［サーバの一覧］画面に追加することができます。**
  この場合、ネットワーク内の全てのコンピュータが、新しいグループとして追加されます（ただし、参照できなかったコンピュータは追加されません）。
- **ブレードサーバ内に装着された個々のサーバブレードについて、一般的なサーバと同様に［すべてのサーバ］グループに追加することはおすすめしません。**
- **サーバブレードを［サーバの一覧］画面に追加しようとした場合、そのサーバブレードを含むブレードサーバ全体を追加するかどうかについて、ダイアログボックスが表示されます。**
- **クラスタやブレードサーバなどの特殊グループ内に、手動でサーバの登録はできません。**
  特殊グループに含まれるサーバ（サーバブレードなど）は、自動的に追加されます（クラスタの管理は、現在サポートしておりません）。

(2) サブネットを Network Discovery グループに追加するには

以下の方法により、サブネットを Network Discovery に追加することができます。

1. **［ファイル］メニュー、またはコンテキストメニュー（マウスの右ボタンをクリックすると開くメニュー）にて、［サブネット追加］を選択します。**
2. **IP アドレスの最初の 3 桁を指定します。**

(3) ドメインを Network Discovery グループに追加するには

以下のいずれかの方法により、ドメインを Network Discovery に追加することができます。

1. **［ファイル］メニュー、またはコンテキストメニュー（マウスの右ボタンをクリックすると開くメニュー）にて、［ドメイン追加］を選択します。**
2. **ドメイン名を入力します。**

または、

1. **ドラッグアンドドロップ もしくは コピーアンドペーストにより、マイネットワークグループ内のドメインを、Network Discovery グループにコピーします。**

⚠注意

- **すべてのユーザ定義ドメインは、**Network Discovery **グループに追加可能です。**
- Windows NT **サーバドメイン名のみ指定することができます。**
- Microsoft Windows Network **で検出できなかったドメイン名を入力した場合、エラーメッセージが表示されます。**

(4) サブネットまたはドメインを Network Discovery グループから削除するには

1 **削除したいサブネットまたはドメインを、**Network Discovery **グループから選択します。**

2 **［ファイル］メニュー、またはコンテキストメニュー（マウスの右ボタンをクリックすると開くメニュー）にて［削除］を選択するか、［Delete］キーを押します。**

(5) ブラウザオプションを変更するには

ブラウザオプションの変更は、オプションメニューより実施します。
ブラウザオプションには以下の 2 つが用意されています。

- DNS、WINS、またはブロードキャストでホスト名を獲得
  通常ネットワークの検索には、SNMP プロトコルを使用してホスト名とデスクリプション情報を取得しますが、このオプションを選択することにより、SNMP リクエストに失敗した時にも DNS、WINS、ブロードキャストによる名前解決を行えます。
- 管理可能か PING（ICMP）を用いて検査
  通常ブラウザは、SNMP プロトコルを使用してオブジェクトのタイプと管理可能かをチェックしますが、このオプションを選択することにより、SNMP リクエストに失敗した時にも PING（ICMP）によりアクセス可能かをチェックできます。

⚠注意

- **プラウザオプションは、ある特定のサブネットもしくはサーバブラウザ全体について有効にすることができます。ブラウザオプション画面にて［OK］ボタンをクリックした場合、選択したサブネットについてのみ設定は有効となります。**
  一方、［すべて更新］ボタンをクリックした場合、サーバブラウザ全体について設定は有効となります。
- **マイネットワークもしくはドメインについて、ブラウザオプションを設定した場合、サーバブラウザ全体についての設定とみなします。**
- **オプション設定画面にて、ブラウジングを中止することができます。**
  すなわち、ホスト名の検索や PING によるチェックを無効にすることにより、中止することができます。
- **これらのオプションを選択した場合、処理が完了するまでに非常に時間がかかることがあります。**

(6) ソートを実施するには

ブラウザ部の右側画面の各ヘッダ（名前、アドレス、説明）をクリックすることにより、各項目ごとにソート（並べ替え）することができます。

(7) 不明なサーバの表示を行うには

以下の方法で、不明なサーバをブラウザ画面に表示するようにすることができます（デフォルトでは、表示しません）。

1 **［表示］メニューの［不明なサーバの表示］を選択します。**
なお、不明なサーバとは、以下を示します。
- ホスト名、デスクリプション情報が存在しない
- PING リクエストに応答がない（PING オプションが選択されている場合のみ）

(8) 現在の画面を更新するには

以下の方法で、ブラウザ画面の情報を最新に更新することができます。

1 **［表示］メニュー、またはコンテキストメニュー（マウスの右ボタンをクリックすると開くメニュー）にて、［更新］を選択します。**

(9) ブラウザ全体を更新するには

以下の方法で、参照中のすべてのサブネットとドメインを更新することができます。

1 **［表示］メニュー、またはコンテキストメニュー（マウスの右ボタンをクリックすると開くメニュー）にて、［すべて更新］を選択します。**

9 ServerView

［ファイル］メニューの［開く］を使用すると、Server View ［サーバ名］ウィンドウが開きます。
［ServerView］ウィンドウにより、選択したサーバに関する詳細情報が表示されます。

図 6：ServerView ウィンドウ

サーバがシステム識別灯表示をサポートしていれば、このウィンドウの左上隅の［システム識別表示］ボタンを利用して、システム識別灯表示の切り替えが行えます。
表示データプルダウンメニューでは、データが現在のデータかアーカイブデータのいずれかを指定します。ServerView では、［プロパティの設定［サーバ名］］ウィンドウの［アーカイブ］タブ（「15 ツール」（→ 137 ページ）を参照）を用いてアーカイブデータを設定できるので、サーバが利用不可能な場合に記録済みのアーカイブデータにアクセスすることができます。これにより、必要な場合は障害の原因を確認できます。

構成情報

選択したサーバの一般情報は、構成情報ボタンをクリックすると表示されます。表示される情報には以下のものがあります。

- System Info（インストールされいてる OS などのシステム情報）
- MassStorage（ハードディスク、論理ドライブ、ファイルシステムに関する情報）
- Network Interfaces（接続されているネットワークカードに関する情報）
- Expansion boards（拡張ボードに関する情報）

- Recovery（エラーバッファの内容）
- Others（サーバの電源とアップ / ダウン時間）
- Overall Information（すべての情報）

アクション

サーバの継続的な監視とアラームへの応答は、［アクション］ボタンをクリックすることにより指定できます。重大な状況が発生すると、ServerView プログラムはユーザが設定したとおりにこの状況に対応します。

このため、たとえばオーバヒートの発生時、サーバを自動的にシャットダウンし、一定の遅延時間の後、自動的に再起動するように指定することができます。

図 7：アクションウィンドウ

（1）Maintenance （メンテナンス）

［Maintenance］ボタンをクリックすると、［メンテナンス］ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、内蔵の CMOS バッテリやファンの使用期間に関する情報が表示されます。

（2）ASR（Automatic Server Reconfiguration & Restart）（自動再構築／再起動）

［ASR］ボタンをクリックすると、［ASR プロパティの設定 ［サーバ名］］ウィンドウが開きます。

⚠注意

ASR プロパティページでの設定は、サーバの Bios に記憶されます。
これらを変更したまま、ServerView をアンインストールした場合、予期せぬ原因でサーバがシャットダウンされることがあります。

図 8：ASR プロパティの設定ウィンドウ

● ファン

ファンチェック時間を使用すると、ファンをチェックする時間を設定し、ファンの障害時に実行する対応を定義することができます。利用できるオプションは以下のとおりです。

- 継続稼動する：
  ファンの障害時にもサーバの実行を継続させます。
- 指定した時間後にサーバをシャットダウンする：
  この場合、サーバは一定の遅延時間の後に制御済みの方法でシャットダウンされる。遅延時間は秒単位で指定できます。

⚠注意

拡張ディスク装置を接続すると、拡張ディスク内のファン情報が表示され、［シャットダウン - 自動電源断］が選択されている場合がありますが、拡張ディスク装置の自動シャットダウンを行うことはできません。

● 温度センサ

ここには、サーバの考えられるオーバヒートに関する情報が表示されます。実行の必要がある対応も定義できます。

- 継続稼動する：
  オーバヒート時にもサーバの実行を継続させます。
- ただちにサーバをシャットダウンする：
  温度が危険な値に達すると、サーバは制御済みの方法で即座にシャットダウンされます。
  Windows NT では、サーバのシャットダウン動作も制御できます。

⚠注意

拡張ディスク装置を接続すると、拡張ディスク内の温度センサ情報が表示され、［シャットダウン - 自動電源断］が選択されている場合がありますが、拡張ディスク装置の自動シャットダウンを行うことはできません。

● **再起動設定**

再起動設定では、再起動を実行する条件を定義します。以下のオプションを利用できます。

- 以前の状態
- サーバを再起動しない
- 常にサーバを再起動する

また、オーバヒートの場合などにサーバを冷却できるように、遅延期間［自動電源投入までの待ち時間］のあとにサーバを再起動することができます。
［再起動の最大リトライ回数］を超過したあとは、次の 2 つのアクションを実行できます［再起動リトライ回数超過時のアクション］。

- **診断システムを開始する（未サポート）**
- **再起動を中止し、電源を切る**
  サーバの再起動の試行が停止され、シャットダウンされます。

⚠注意

UPS による復電、またはスケジュール運転を行う場合、サーバに自動的に電源を入れるためには、設定内容が制限される場合があります。
（「• UPS 使用時の注意事項」（→ 299 ページ）を参照）

● **ソフトウェアウォッチドッグ**

ここではソフトウェアウォッチドッグの起動や停止を行うことができます。
ソフトウェアウォッチドッグにより、ServerView エージェントの機能が監視されます。ServerView エージェントが BIOS に接続されると、ソフトウェアウォッチドッグが起動されます。
ServerView エージェントは、あらかじめ定義された間隔でサーバ管理ファームウェアに報告する必要があります。ServerView エージェントがサーバ管理ファームウェアへの報告を停止すると、システムが正常に実行していないと見なされ、その後、定義済みのアクションが起動されます。
時間間隔は、ウォッチドッグタイムアウトディレイにおいて分単位で設定できます。時間の妥当性は、管理コンソールとエージェントで確認されます。指定できる最小時間は 1 分です。
Action では、指定したタイムアウトを超過すると起動されるアクション（再起動する、継続稼動する）を定義します。
エージェントが停止すると（SNMP コマンドの net stop などによる）、ウォッチドッグが自動的に停止し、予定外の再起動が行われないようにします。

● **ブートウォッチドッグ**

ここでは、ブートウォッチドッグの起動や停止を行います。
ブートウォッチドッグにより、システムが起動してから、ServerView エージェントが利用可能になるまでの間隔が監視されます。ServerView エージェントにより、定義された期間内にサーバ管理ファームウェアとの接続が確立されないと、ブートアッププロセスが失敗したと見なされ、定義済みのアクションが起動されます。
時間間隔はウォッチドッグタイムアウトディレイにおいて分単位で設定できます。
アクションでは、指定したタイムアウトを超過すると起動されるアクション（再起動する、継続稼動する）を定義します。

● **ポケットベル**

このページは未サポートです。

● Power ON/OFF

このページではサーバの起動／終了時間を指定することができます。
詳細は、「■ 「Power ON/OFF」プロパティページ」（→ 149 ページ）を参照してください。

ポイント

ASR&R が記憶媒体や、サーバの運用ステータスにおいて深刻な状況（CPU エラー、メモリエラー、OS のハングなど）を検出すると、システムが再起動され、問題のあるハードウェアコンポーネントは再起動中に使用不可能になります。

⚠注意

- **誤った設定を行うと、システムが起動しなくなる場合がありますので、システムにあった設定を行ってください。**
- **ウオッチドックタイマー値について**
  ServerView で参照および設定可能な値は「1 ～ 120」分となります。
  なお、「1 ～ 120」分以外が設定されている場合、ServerView での表示は「N/A」となります。
  「N/A」と表示されている場合、各機種で設定されたツールにより設定時間の確認をお願いいたします。

（3）RSB（Remote Service Board）

［RSB］ボタンをクリックすると、［RSB プロパティ ［サーバ名］［ランレベル］］ウィンドウが開きます。このウィンドウには、RSB に含まれる情報（ブート ステータス、バックアップバッテリ ステータス、インタフェース）が表示されます。サーバが RSB モードであれば、電源の on/off 制御が可能です。

ポイント

このボタンは、RSB が利用でき、かつ Server Control agent でサポートされている場合のみ有効になります。

（4）Restart （再起動）

サーバを再起動します。サーバが再起動されるまでに必要な経過時間もここで指定します。セキュリティのために、ログインダイアログが最初に呼び出されます。したがって、このタスクを実行するには、サーバ用のユーザ名とパスワードが必要です。

（5）Shutdown and Off （シャットダウン／電源切断）

サーバをシャットダウンし、電源を切断します。サーバがシャットダウン＆電源断されるまでに必要な経過時間もここで指定します。セキュリティのために、ログインダイアログが最初に呼び出されます。したがって、このタスクを実行するには、サーバ用のユーザ名とパスワードが必要です。

（6）Abort Shutdown （シャットダウンの中止）

ここでは、（3）、（4）で開始されるシャットダウンを中止させることができます。セキュリティのために、ログインダイアログが最初に呼び出されます。したがって、このタスクを実行するには、サーバ用のユーザ名とパスワードが必要です。

ただし、既にシャットダウンが開始されてしまっている場合は中止できません。

ポイント

ログインウィンドウで「デフォルトユーザの変更」を行った場合、一時的にデフォルトユーザが変更されます。しかし、ServerView をいったん終了させるとこの情報は失われてしまうため、常用する変更であれば、サーバのプロパティのログインプロパティページで設定してください（「■「ログイン」プロパティページ（サーバ）」（→ 148 ページ））。

オペレーティングシステム

オペレーティングシステムボタンをクリックすることにより、サーバにインストールされている OS に関するデータを取得します。現在実行しているプロセスに関するデータや、OS の名前、バージョン、言語などを取得できます。システム稼働時間も表示されます。

システム ステータス

システムステータスボタンをクリックすることにより、ステータスエージェントのシステム情報を表示できます。

システムは、コンポーネントが集合したサブシステムへ細分化されており、ツリービューでは、既知のすべてのサブシステムとコンポーネントのステータスについての概観が表示されます。

この画面は、サーバの一覧から右クリックしポップアップメニューの［ステータス］を選択することで表示されます。この場合、常に現在の値を表示します。

また、ServerView ウィンドウからシステム ステータスボタンをクリックして表示した場合は、［表示データ］コンボボックスで選択した値によって、現在の値とアーカイブデータの値を切り替えることができます。

外部記憶装置

［外部記憶装置］ボタンをクリックすると、ハードディスクとコントローラに関する詳細情報が表示されます。

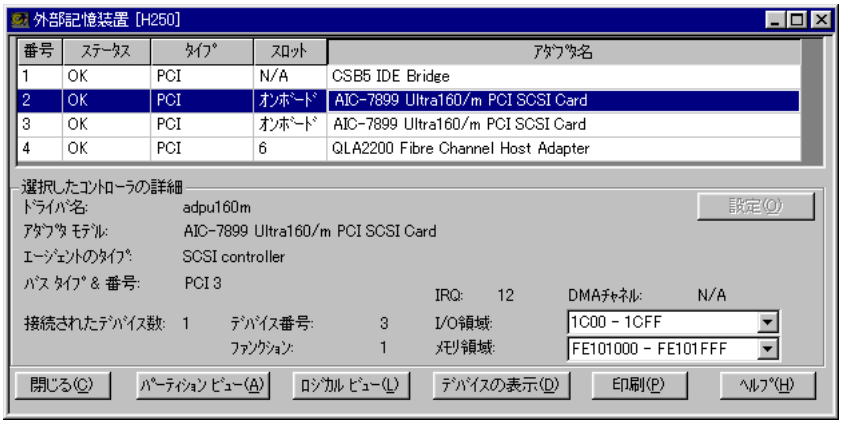


図 9：外部記憶装置ウィンドウ

コントローラリストには、コントローラに関する重要なデータ、番号、ステータス（OK または FAIL）、タイプ（EISA、PCI、ISA）、スロット、ドライバ名が表示されます。

［選択したコントローラの詳細］には、HD と EISA MIB に関するデータが表示されます。それには、ドライバ名、アダプタモデル（EISA MIB のモデル）ステータス（値は HD MIB を参照）、エージェントのタイプ（HD Adapter Bus Type など）、バスタイプ & 番号（EISA 0 など）、Slot Number、ファンクション、チルドレンの数、接続されたデバイス、IRQ、DMA チャネル、I/O 範囲、メモリ範囲があります。

［外部記憶装置］ウィンドウには、［パーティションビュー］、［ロジカルビュー］、［デバイスの表示］の各ボタンも表示されます。これらのボタンを使用して、追加情報を呼び出すことができます。

選択したコントローラを設定するために使用するアプリケーションは、［設定］ボタンをクリックして起動します（［設定］ボタンはすべてのコントローラに対して表示されるわけではありません）。

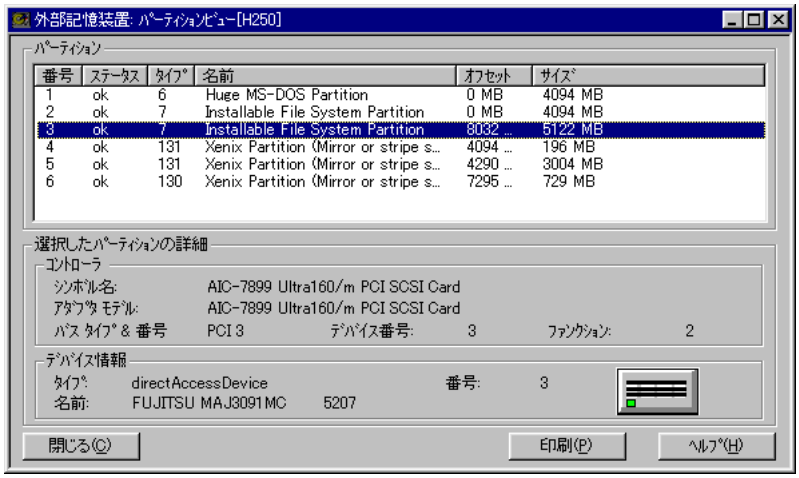
ポイント

情報を取得するリストエントリを必ず最初にクリックします。それ以外の場合、別のリストエントリの情報が表示されることがあります。

（1）パーティションビュー（外部記憶装置共通）

ここには、最も重要なサーバパーティションデータ（番号、ステータス、種類、名前、オフセット、サイズ）が表形式で表示されます。

選択したパーティションの詳細には、リストから選択したパーティションに関する追加データが表示されます。



● **コントローラ**

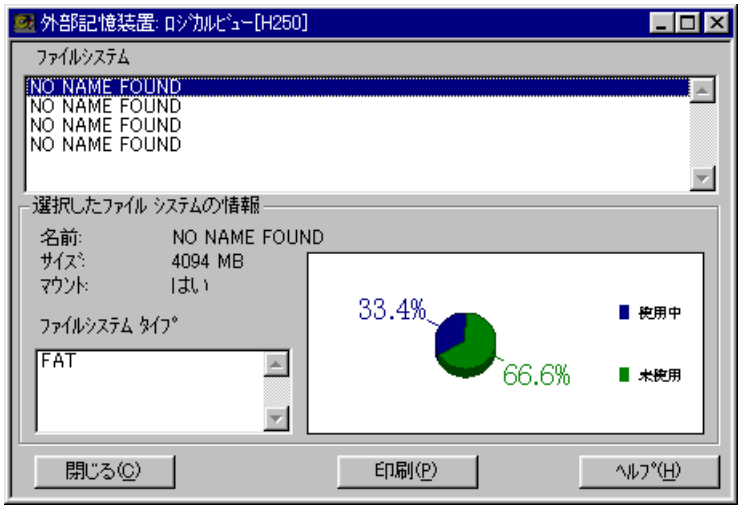
パーティションが所属するコントローラを示します（シンボル名、アダプタモデル、バスタイプ＆番号、デバイス番号、ファンクションによる）。

● **デバイス情報**

パーティションが作成されたデバイスを示します（種類、名前、番号、およびディスプレイのステータスを持つデバイスタイプのシンボルによる）。

(2) ロジカルビュー（外部記憶装置共通）

ここには、論理ドライブ上に存在するファイルシステムに関する情報が表示されます。



● **ファイルシステム**

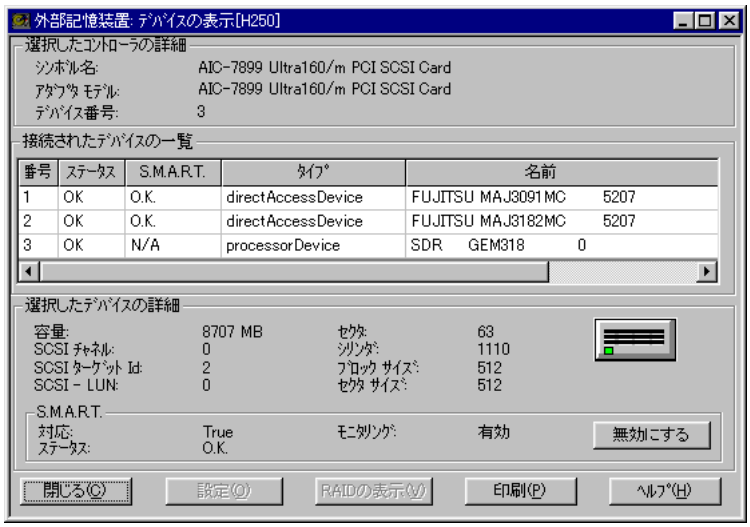
選択したサーバのファイルシステムが、ファイルシステムの下に表形式で表示されます。

● **選択したファイルシステムの詳細**

選択したファイルシステムの詳細には、選択したファイルシステムに関する追加情報（名前、サイズ、マウント、ファイルシステムタイプ、パーセント単位の Used およびフリー状態のファイルシステム領域）が表示されます。

(3) デバイスの表示

ここには、特定のコントローラに接続されている記憶装置に関する詳細情報が表示されます。



● **選択したコントロールの詳細**

［選択したコントロールの詳細］には、これらのデバイスを制御するコントローラに関する最も重要なデータが再表示されます。表示されるデータは、シンボル名、アダプタモデル、デバイス番号です。

● **接続されたデバイスの一覧**

［接続されたデバイスの一覧］には、このコントローラに接続されているデバイスに関する最も重要なデータが表示されます。表示されるデータは、No.、Status、S.M.A.R.T.、Type （HD-MIB を参照）、Name です。このリストから 1 つまたは複数のデバイスを選択できます。

● **選択したデバイスの詳細**

［選択したデバイスの詳細］には、リストから選択したデバイスに関する追加データが表示されます。表示されるデータは、容量、SCSI チャネル、SCSI ターゲット Id、SCSI-LUN、セクタ、シリンダ、ブロックサイズ、セクタサイズ、およびディスプレイのステータスを持つ Device Type のシンボル）です。

－ S.M.A.R.T. （Self Monitoring and Reporting Technology）
S.M.A.R.T. に表示される情報は、S.M.A.R.T. プロシージャから返信されます。S.M.A.R.T. は、ハードデバイスのエラーを早期に検出するために使用する技術です（PDA = Prefailure Detection and Analysis）。SCSI ハードドライブと ATA ハードドライブがサポートされます。

ポイント

S.M.A.R.T. は、Windows NT でのみ利用できます。

（4）設定

［設定］ボタンにより、選択したコントローラを設定するためのアプリケーションが起動されます（利用可能な場合）。

現在、以下のアプリケーションがサポートされています。

- GlobalArrayManager（GAM:PG-143B）
- StorageManager（PG-142B/PG-142C）

外部記憶装置 - RAID コントローラ

SCSI-RAID アレイコントローラカード

- SCSI アレイコントローラカードに接続されているディスクの状態を表示することができます。
- SCSI アレイコントローラカードの監視および表示処理は RAIDmanager を使用してください。
- RAIDmanager が検出したエラー情報を管理コンソールに警告を通知することができます。
- SCSI アレイコントローラカードに添付されている RAIDmanager を必ずインストールしてください。RAIDmanager がインストールされていない場合、DISK の状態監視が行えません。
  また、SCSI アレイコントローラに合う ServerViewAgent もインストールを行う必要があります（「8 アレイコントローラのインストール処理」（→ 63 ページ）参照）。

IDE-RAID コントローラカード

- IDE-RAID システムにおいて、接続されているディスクの状態を表示することができます。
- IDE-RAID コントローラカードの監視および表示処理は IDE-RAIDmanager を使用してください。
- IDE-RAIDmanager が検出したエラー情報を管理コンソールに警告を通知することができます。
- IDE-RAID コントローラカードの IDE-RAIDmanager を必ずインストールしてください。IDE-RAIDmanager がインストールされていない場合、DISK の状態監視が行えません。
  また、ServerView の Agent もインストールを行う必要があります（「8 アレイコントローラのインストール処理」（→ 63 ページ）参照）。

(1) デバイスの表示

［デバイスの表示］の左側の表に、そのコントローラで定義済みのシステムドライブが一覧表示されます。表のエントリは、シリアル番号、ステータス、SCSI ID（PG-142B/PG-142C のみ）、メガバイト単位のサイズ、RAID レベル、キャッシュタイプです。

システムドライブを選択すると、これらのシステムドライブが定義されているハードディスクドライブがチャネル ID 表で強調表示されます。チャネル ID グリッドの選択ボタンは、ステータス（Online/Dead/Standby-Rebuild を示す色付きのシンボル）とサイズをメガバイト単位で表示させる場合に使用します。ハードディスクドライブの代わりに別のデバイス（CD-ROM、ストリーマ、プリンタなど）が接続されている場合は、対応するイメージが選択ボタンに表示されます（選択ボタンの詳細については、「付録 4 アイコンリスト」（→ 306 ページ）を参照）。

● アダプタ ビュー

［コントローラ］アイコンをクリックすると、［アダプタビュー］ウィンドウが開きます。［ハードウェアの情報］には、デバイスのモデル、ファームウェアのバージョン、BIOS のバージョン、キャッシュサイズ、バスのタイプ、スロット、IRQ、ベースアドレス、EEPROM サイズ（PG-143B のみ）などコントローラ固有のデータが表示されます。［ディスクアレイの情報］には、チャネル番号、再作成タスク優先順位、論理セクタサイズ、物理セクタサイズ、システムドライブ数、システムドライブの最大数、物理デバイス数、物理デバイスの最大数、BIOS のバージョン（PG-143B のみ）が表示されます。

● 物理的なデバイスの表示

チャネル ID グリッドの選択ボタンをクリックすると、［物理的なデバイスの表示］ウィンドウが開き、接続されているデバイスに関する詳細情報が表示されます。［SCSI デバイスの情報］には、デバイスモデル、デバイスタイプ（ディスク、CD-ROM など）、アダプタチャネル、チャネルのアダプタ ID、SCSI アトリビュート（Fast SCSI、Wide SCSI、タグ付きキューイング）に関する情報が表示されます。［ディスクの情報］には、ステータス、SMART ステータス、キャパシティ、再作成速度、パリティエラー、ソフトエラー、ハードウェアエラー、その他のエラーが表示されます。

(2) ブリッジコントローラの詳細

SCSI ハードドライブブリッジコントローラがサーバにインストールされていると、サーバマネージャにより検出され、ユーザは［外部記憶装置］ウィンドウのデバイスの表示ボタンをクリックすることにより特別なウィンドウを開くことができます。このウィンドウには、サーバ上の特定のコントローラに接続されている記憶装置に関する情報が表示されます。

図 10：外部記憶装置ウィンドウ : PG-143B **コントローラの** Device View

このウィンドウには、［設定］ボタンと［RAID の表示］ボタンも表示されています。

［設定］ボタンをクリックすると、選択したコントローラを設定するために使用するアプリケーションが起動されます。

［RAID の表示］ボタンをクリックすると、そのコントローラで定義されているシステムドライブに関する情報が表示されるウィンドウが開きます。システムドライブを選択すると、それらのシステムドライブが定義されているハードディスクドライブがチャネル ID 表で強調表示されます。

ここに示した情報とボタンに関する説明は、「3 デバイスの表示」（→ 100 ページ）に記載されています。

外部記憶装置 - MultiPath

MultiPath がインストールされていると、［外部記憶装置］ボタンをクリックすることにより、MultiPath に関する詳細情報も表示されます。以下に、「 外部記憶装置」（→ 97 ページ）に示したシステム出力との相違部分について説明します。

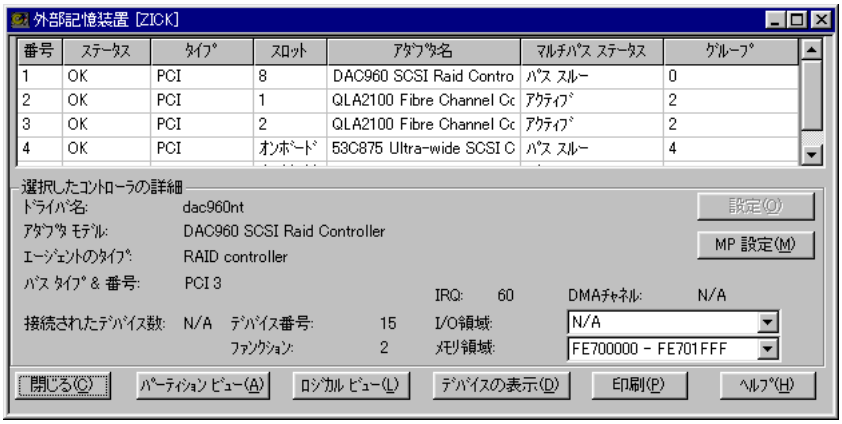


図 11：外部記憶装置ウィンドウ : MultiPath **ドライバがインストールされている場合のデバイスの表示**

MultiPath を使用すると、複数の HBA（ホストバスアダプタまたはファイバチャネルホストバスアダプタ）を、冗長パスを経由して同一の記憶装置に接続できます。MultiPath により、接続や HBA の障害が発生してもデバイスに対する高可用性が得られます。障害が発生した場合、入力や出力は別の I/O パスを経由してデバイスに転送されます。さらに、負荷をより均等に分散するためにロードバランシング機能も提供されます。

ドライバの設計は、元になる SCSI またはファイバチャネルホストアダプタに依存しません。IDE ディスクコントローラはサポートされません。ドライバの設計は MSCS に準拠しています。

MultiPath がインストールされていると、ServerView の［外部記憶装置］ダイアログに項目が追加されます。それには、マルチパスステータス列、グループ列、MP 設定ボタンがあります。

(1) マルチパスステータス

マルチパスステータス列のエントリには、次のいずれかの値が表示されます。

値	意味
パススルー	2 番目のポートを使用できない。
アクティブ	起動中のチャネル。ユーザが選択する。
スタンバイ（非活性）	停止中。ユーザが選択する。ロードバランス機能が有効な場合、このステータスは表示されません。
無効	メンテナンスアクティビティのため、停止中。
エラー	このポートでエラーが発生した。
MultiPath Port はありません	このチャネル / ポートは MultiPath 機能（atapi など）をサポートしない。

表 12：マルチパスステータス

(2) グループ

MultiPath のグループ番号、または MultiPath 機能にエントリが存在しない場合は '-' が示されます。

1 つのグループは、システムキャビネットと外部記憶装置キャビネット間の 2 つ（または最大 4 つ）の冗長接続で構成され、すべて同じデバイスに接続されます。

MultiPath Group を設定するには、外部記憶装置リストでエントリを選択し、［MP 設定］ボタンをクリックします。［マルチパス設定］ダイアログが起動されます。

（3）MP 設定

［MP 設定］ボタンにより、［マルチパス構成グループ］ダイアログが起動されます。このダイアログは、MultiPath グループを設定する際に使用します。MultiPath がインストールされている場合は、常に MP Configure ボタンが表示されます。

（4）Configuration Group

このダイアログでは、単一の MultiPath グループを設定できます。［マルチパス構成グループ］ダイアログでのすべての変更（チェックボックスやボタンなど）は、即座に MultiPath の設定に反映されます。

図 12：マルチパス構成グループ

このウィンドウのさまざまな要素とその機能は、対応するヘルプテキストで説明されています。

外部記憶装置 - DuplexWrite

［外部記憶装置］ウィンドウでデバイスの表示ボタンをクリックすると、特別なウィンドウが開きます。DuplexWrite ドライバがインストールされいている場合、このウィンドウには、そのドライバに関する情報が表示されます。

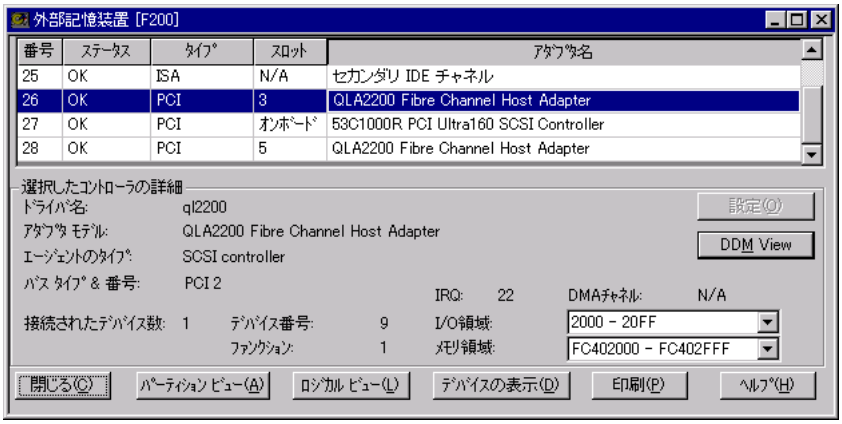


図 13：外部記憶装置 : デバイスの表示ウィンドウ

DuplexWrite は、ディスクストレージサブシステムの能力を向上させるソフトウェアです。ファイバチャネル接続技術を共に使用することにより、災害許容設定をセットアップできます。DuplexWrite により、異なるディスクストレージサブシステムの 2 つのディスクに同一の情報が含まれるよう、書込み操作が複製されます。このソリューションは、ファイルシステムデータなどの論理データ構造に依存しないので、「物理ミラーリング」と呼ばれます。

いずれかのドライブが失敗すると、まだ動作しているディスクにアクセスして割込みを行わなくても、DuplexWrite によりデータの処理を継続できることが確認されます。問題のあるドライブが修復されると、通常の運用中にデータのリカバリを実行できます。再起動は必要ありません。このことは、複雑な RAID ボリュームだけでなく物理ディスクにも適用されます。

DuplexWrite がインストールされている場合、ServerView の外部記憶装置 - Device View ダイアログに以下の項目が追加されます。

- 列 : Write ステータス、Duplex Disk
- ボタン : DW 設定

(1) Write ステータス

Write ステータス列のエントリには、次のいずれかの値が表示されます。

値	意味
オンライン	DuplexWrite **ディスク。優先的に読み取られる。**
エラー	**エラー状態のため、ディスクがオフラインである。**
アクション	**ディスクがリカバリ中である。**
無効	**メンテナンスアクティビティのため、ディスクが停止に設定されている。**
シンプレックス	**ディスクが** DuplexWrite **用に設定されていない。**
N/A	DuplexWrite **がインストールされていないか、ステータスを取得できない。**
MultiPath	MultiPath **を経由した、ディスクまでの第** 2、**第** 3、**または第** 4 **のパス。**

値	意味
Missing	ディスクが存在しない（パートナディスクの COD により生成されるエントリ。「COD」の説明は用語集を参照）。
<name>	ディスクが他の MSCS クラスタノード <name> により使用されている。

(2) Duplex Disk

Duplex Disk 列は、DuplexWrite グループ（詳細については、用語集の「Duplex Write group」を参照）を指定するために必要です。DuplexWrite グループは、1 つまたは 2 つのディスクで構成されます。

(3) DW 設定

［DW 設定］ボタンをクリックすると、［Disk group］サブメニューが開きます。このメニューは、DuplexWrite グループを設定する際に使用します。

DuplexWrite グループを設定するには、外部記憶装置 : Device View メニューでエントリを選択し、［DW 設定］ボタンをクリックします。これにより、［ディスクグループ］ダイアログが開きます。

DW 設定ボタンは、選択したサーバに DuplexWrite エージェントがインストールされており、かつ選択したエントリに N/A、MultiPath、<cluster node name> 以外の DuplexWrite ステータスが表示されている場合に選択できます。

(4) ディスクグループ

このダイアログでは、単一の DuplexWrite Disk グループを設定できます。

ポイント DuplexWrite **設定におけるすべての変更は、即座に** DuplexWrite **の設定に反映されます。**

図 14：DuplexWrite: **ディスクグループウィンドウ**

ポイント

ServerView は、データのスナップショットと設定データのオフラインでの読み取りのために Archive Data モードを用意しています。このモードが有効な場合は、DuplexWrite の設定を行えません。Close、Print、Help ボタンを除くすべてのボタンとチェックボックスは使用できません。

このウィンドウの構成要素とその機能は、対応するヘルプテキストで説明されています。

ベースボード

［ベースボード］ボタンをクリックすると、プロセッサ、メモリモジュール、バスシステム、コントローラに関するデータ（ベースボードの Board-ID や OS の BIOS Version など）が表示されます。

図 15：ベースボードウィンドウ

（1）Utilization

Utilization には、プロセッサの使用率や、マルチプロセッサシステムにおける単一プロセッサの使用率を表示できます。

（2）メモリモジュール

［メモリモジュール］ウィンドウには、すべてのメモリモジュールについて、その番号、バンク、モジュールの状態、エラーカウント、開始アドレス、サイズ、承認、名称（オプション）が表示されます。

(3) 電圧

電圧ボタンは、サーバ上のベースボードの電圧に関する情報を表示させるときに使用できます。

(4) バスとアダプタ

［バスとアダプタ］ウィンドウには、利用可能なバスシステム（EISA、PCI など）、および接続されているコントローラとその機能に関する情報が表示されます。

電源

［電源］ボタンをクリックすると、サーバの電源に関する設定とステータスが表示されます。
電源が正常に動作している場合は、対応するダイアグラムの右下隅に緑色の四角が表示されます。
冗長電源は、重なり合う 2 つの四角で示されます。

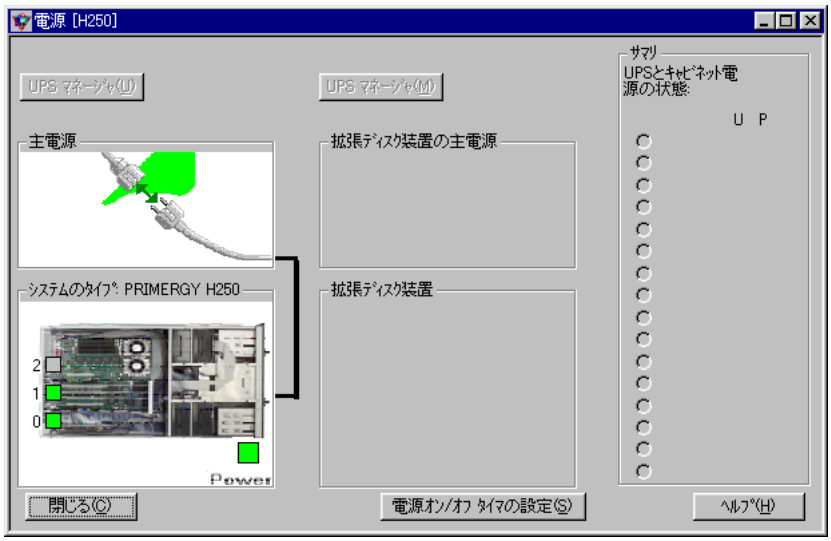


図 16：電源ウィンドウ

(1) UPS マネージャ

使用できません。

(2) 主電源

サーバに接続されており、必要な場合は拡張記憶装置に接続される黒色のケーブルが表示されます。サーバや拡張記憶装置の誤動作は、黄色または赤色の四角で示されます。
通常、状態は 60 秒ごとに調べられます。無停電電源の本線の電圧に障害があると、表示された値の高速ポーリング（5 秒間隔）を開始するトラップが送信されます。

その後、Elapsed Time UPS running on Battery フィールドが黄色で縁取られます。無停電電源の本線は赤色で表示されます。

(3) システムのタイプ

サーバと、利用可能な場合は収納装置内の BBU がここに表示されます。サーバの電源の全体的なステータスが、緑色、黄色、または赤色の四角で示されます。

(4) 拡張ディスク装置

ここには、存在する拡張記憶装置が表示されます。BBU の設置もここで検出できます。拡張記憶装置内の電源の全体的なステータスが、緑色または赤色の四角で示されます。

(5) サマリ

ここでは、［選択］ラジオボタンを使用して拡張記憶装置を選択できます。同時に、各選択ボタンの隣にある緑色または赤色の四角により、すべての拡張記憶装置内の電源のステータスが常に通知されます。

(6) 電源 ON ／ OFF タイマの設定

このボタンをクリックすると、ASR のプロパティページ「Power ON/OFF」ページを開くことができます。
このページではサーバの起動／終了時間を指定することができます。
詳細は「■ 「Power ON/OFF」プロパティページ」（→ 149 ページ）を参照してください。

環境

［環境］ボタンをクリックすると、サーバとサーバに接続されているメモリ拡張ユニットの温度とファンのステータスが表示され、ドアやサーバのケースが開いているかどうかも表示されます。

ポイント

すべてのサーバタイプが、ドアまたはサーバのケースが開いているかどうかの情報を返信するわけではないことに注意してください。

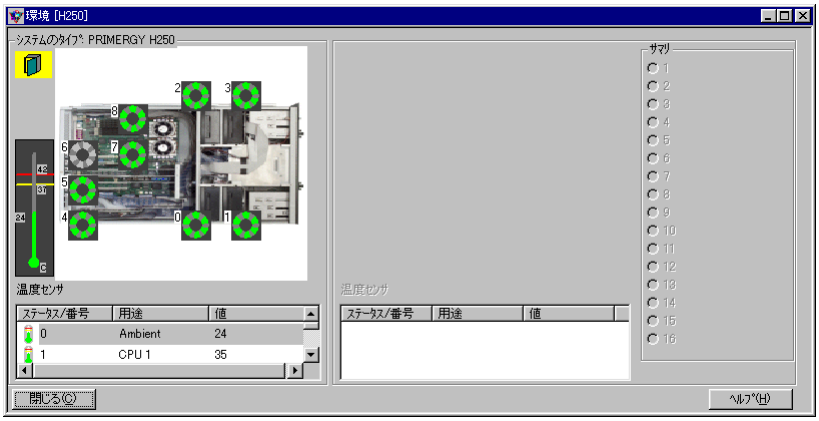


図 17：環境ウィンドウ

ダイアグラムの左上隅にある黄色のサーバアイコンは、ドアまたはサーバのケースが開いていることを意味します。これは、拡張記憶装置についても［サマリ］フィールドの黄色の四角により示されます。

ファンと温度は、アイコンで示されます。アイコンの意味は「付録 4 アイコンリスト」（→ 306 ページ）に記載されています。さらに、それぞれの色の一般的な使用法に対応するカラーシンボルのシステムが使用されています。

	シャットダウン	危険	OK	センサの故障	確認不可能
温度	**赤色**	**黄色**	**緑色**	**青色**	**灰色**
ファン	**赤色**	**黄色**	**緑色**	---	**灰色**

温度センサは、最も重要なセンサの値を常に表示します。つまり、すべてのセンサのリストが表示され、その中で値が最も高いセンサが示されます。すべてのセンサの値が同じ（たとえば緑色）場合は、リストの中で最後のセンサが表示されます。単一のセンサのステータスを呼び出す場合は、リストからそのセンサに対応する行をクリックします。それにより、値が温度計に転送されます。

冗長ファンは、重なり合うファン制御シンボルによって示されます。シンボルはどちらも真の冗長性を示す緑色である必要があります。

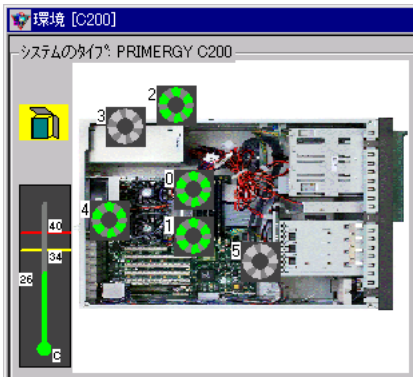


図 18：冗長ファンを示すウィンドウ

ネットワークインタフェース

［ネットワークインタフェース］ボタンをクリックすることにより、ネットワークに関するデータを取得できます。
既存のネットワークボードに関して取得できる情報には、アダプタモデル、種類、物理アドレス、IPX ネットワーク、スピード、IP アドレス、IP サブネットマスク、バスタイプ＆番号、スロット番号、ファンクション、IRQ、DMA チャネル、I/O アドレスレンジ、メモリアドレスレンジなどがあります。

ポイント

常に、情報を取得する必要があるリストエントリを最初にクリックしてください。そうしないと、別のリストエントリの情報が表示されることがあります。

しきい値

このボタンをクリックすると、［しきい値マネージャ］ウィンドウが開きます。「しきい値マネージャ」（→ 121 ページ）を参照してください。

レポート

このボタンをクリックすると、［レポートマネージャ］ウィンドウが開きます。「レポートマネージャ」（→ 119 ページ）を参照してください。

デフォルト

このボタンをクリックすると、［デフォルト設定］ウィンドウが開きます。ここでは、サーバのデフォルト値を指定できます（「11 設定」（→ 117 ページ）も参照）。

ポイント

しきい値、レポート、アラームの各メニューのマネージャは、それらが呼び出されると、画面の下隅にアイコンとしてのみ表示されます。ServerView セッション中にこれらのウィンドウを閉じることはできません。

10 Blade Server View

[サーバの一覧] ウィンドウにて、ブレードサーバを選択すると、Blade Server View 画面が表示されます。

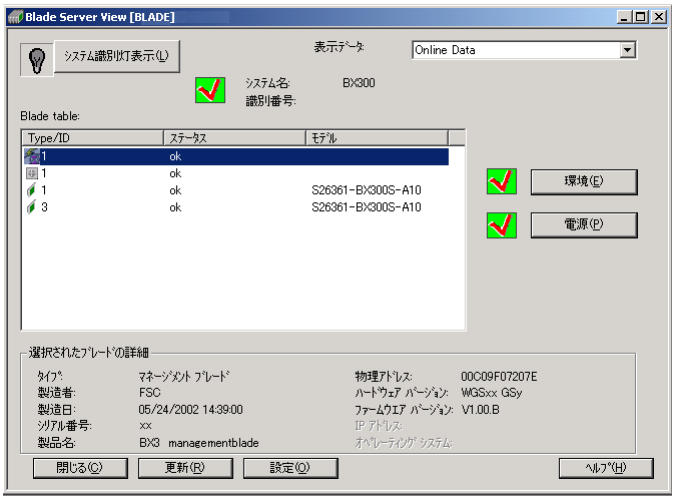


図 19：Blade ServerView 画面

この画面では、ブレードサーバ内のマネージメントブレードからの情報を表示します。

- システム識別灯表示ボタン
- 表示データ
- システム全体のステータス
- システム名
- 識別番号
- Blade table
- 選択されたブレードの詳細
- 環境ボタン
- 電源ボタン
- 更新ボタン
- 設定ボタン

■ システム識別灯表示ボタン

ボタンの横に表示されるアイコンは、システム識別 LED の現在の状態を示します。

システム識別 LED は、以下の 3 種類の状態が表示されます。

点灯中

消灯中

点滅中（システム異常を示します）

[システム識別灯表示] ボタンにより、この LED の状態を変更（点灯から消灯、消灯から点灯）することができます。
ただし、点滅中のアイコンが表示されている場合（システム異常時）には、このボタンにより LED の状態を変更することはできません。

マネージメントブレード上でセキュリティが有効になっている場合、ボタン操作時にユーザログイン処理が必要となります。
ユーザ名とパスワード（大文字と小文字は区別されます）は、マネージメントブレードに telnet もしくは Web Interface で接続し、設定することができます。

詳細は、ブレードサーバ（マネージメントブレード）のマニュアルを参照してください。

■ 表示データ

選択したブレードサーバについて、表示するデータの種類を指定します。
アーカイブデータを取得している場合、アーカイブデータの選択肢もコンボボックス内に表示されます。

■ システム全体のステータス

ブレードサーバ全体のステータスをアイコンで表示します。

■ システム名

マネージメントブレードに設定したブレードサーバシステムの名前を表示します。

■ 識別番号

ブレードサーバシステムの ID 番号を表示します。

■ Blade Table

ブレードサーバシステム内に存在する、すべてのブレードのテーブルを表示します。
ブレードの種類は、以下のタイプアイコンで表示されます。

マネージメントブレード（マスタ）

マネージメントブレード（スレーブ）

スイッチブレード

サーバブレード

タイプアイコンは、ブレード ID の横に表示されます。
また、テーブル内には、各ブレードのステータスとモデルも表示されます。
テーブル内でブレードを選択すると、そのブレードに関する詳細情報が選択されたブレードの詳細に表示されます。

■ 選択されたブレードの詳細

選択したブレードの詳細情報が表示されます。
表示される情報は、ブレードのタイプに依存して変化します。

タイプ：	**ブレードタイプ（マネージメント、スイッチ、サーバ）**
製造者：	**ブレードの製造者**
製造日：	**ブレードの製造日**
シリアル番号：	**ブレードのシリアル番号**
製品名：	**ブレード製品の名前**
物理アドレス：	**ブレードの物理アドレス**
ハードウェアバージョン：	**ブレードのハードウェアバージョン**
ファームウェアバージョン：	**ブレードのファームウェアバージョン**
IP **アドレス：**	**ブレードの** IP address
オペレーティングシステム：	OS **の名前とバージョン**

■ 環境ボタン

環境サブシステム（ファン、温度）に関する状態を表示します。
環境ボタンを押下することにより、環境画面が起動します。

■ 電源ボタン

電源サブシステムに関する状態を表示します。
電源ボタンを押下することにより、電源画面が起動します。

■ 更新ボタン

画面に表示されている情報を更新します。

■ 設定ボタン

マネージメントブレード、またはスイッチブレードを選択している場合、設定ボタンを押下することにより、各ブレードの設定画面が（Web ブラウザ）が起動します。

各ブレードの設定画面については、マネジメントブレードとスイッチブレードのマニュアルを参照してください。

なお、サーバブレードを選択している場合、このボタンは無効です。

11 設定

［設定］メニューの［レポートを無効にする］をチェックすると、定義済みで起動中のすべてのレポートを無効にできます。

アプリケーションプログラムやその開始パラメータの定義は［外部アプリケーション］で行います。定義したアプリケーションプログラムは、［ファイル］-［アプリケーション］で開かれる［アプリケーションの起動］ウィンドウに表示されます。

［デフォルトの設定］ウィンドウを用いて、特定サーバの初期設定値のコピーを作成し、その値を別のサーバに割り当てることがきます。この手順により、多数のサーバのインストールや設定に必要な時間が大幅に削減されます。

［単位の設定］では、表示される温度値の測定単位を設定できます。

［ユーザ認証］では、ユーザ名とパスワードを設定できます。

外部アプリケーション

このウィンドウでは、アプリケーションプログラムとその開始パラメータを定義します。定義したアプリケーションプログラムはファイル - アプリケーションウィンドウに表示されます。

デフォルトの設定

初期値管理により、ServerView で指定された設定（しきい値やレポートなど）の別のサーバへの格納や転送、またはその保存を実行できます。

サーバの設定を完了した後、［設定］メニューの［デフォルトの設定］を選択します。

図 20：デフォルトの設定ウィンドウ

現在までに登録されたサーバのリストが表示されます。

1 **設定の転送や格納を行うサーバを選択します。**

コピーする設定（SNMP セットパラメータ、レポートの設定、しきい値の設定、アラーム転送の設定）を選択します。

2 **設定の転送先のサーバを選択するか、ファイル名を指定して選択を確認します。**

これで、選択したサーバに、以前にユーザが設定したサーバと同じ設定が適用されます。

この手順を用いると、SNMP パラメータ、アラーム転送、しきい値、レポートの各機能の設定を非常に簡単にコピーできるので、毎回設定し直す必要はありません。そのため、多数のサーバのインストールや設定に必要な時間を大幅に削減できます。

これらの値はファイルに格納されるので、必要な場合はいつでも定義済みの初期設定にアクセスできます。

単位の設定

単位の設定では、温度値を摂氏と華氏のどちらで表示するかを定義できます。

ポイント　**すでに開いているウィンドウに表示された測定単位は、単位の設定で新しい設定を定義しても変更されません。**

ユーザ認証

［ユーザ認証］では、サーバのオブジェクトの変更や監視を行うすべての操作を保護するために使用されるユーザ名やパスワードの入力が求められます。

ユーザ名とパスワードは、インストール後のサーバの設定で、「管理ユーザを設定する（FULL/BASIC、またはサーバブレードで必要）」（→ 52 ページ）で設定したものを用います。

セキュリティシステムは、ServerView エージェントと ServerView コンソールを使用している場合にだけ使用できます。SNMP は、パスワード保護を提供していないため、他の管理システムを使用している場合は、システムセキュリティ機構が無効になります。

12 レポート

［レポート］メニューにより、操作時間カウンタが評価され、サーバの長期的な監視が可能になります。

選択した値は、一定の期間、定期的に計測され記憶されます。その後、このデータは評価のために表または図の形で表されます。

ユーザは、パフォーマンスの問題のために不定期に発生する問題を、プロセッサの追加、ディスク容量の追加、より高速なネットワークアダプタのインストール、またはその他同様の方法により解決できます。

レポートマネージャ

ここでは、レポートの開始と停止を実行できます。レポートを開始する前に、監視対象の MIB 変数を指定したレポートテーブルを定義する必要があります。それらの変数が記録される開始時刻や期間も定義できます。

レポートマネージャでは、開始時刻、頻度、曜日、期間、単位を指定します。

テーブルの設定ボタンを用いて、表または図の形で出力できる Report List を設定します。テーブルの設定をクリックすると、Report Table Settings ウィンドウが開きます。このウィンドウでは、レポート（レポートテーブル）に表示させる MIB 変数値を指定します。追加ボタンや削除ボタンを用いて、この変数のリストの内容を指定します。

レポートを選択したら、既存のレポートの内容を編集できます。1 つのレポートに表示できる変数の総数は最大 13 個に制限されています。

ServerView のレポートは、ASCII 形式でファイルに書き込まれます。作成されたテキストファイルは、repnnn.txt という名前でディレクトリ ServerView_installdir\Reports\server_name\ に保存されます。必要であれば、このファイルを Excel にエクスポートできます。エクスポートするには、レポートを生成し、

Excel テキストウィザードを使用して Excel にインポートします。この処理の時点では、ServerView のレポートのフィールドは固定幅ではなく、空白で区切られていることに注意してください。次に、Excel のレポートレイアウトをカスタマイズするか、グラフィック形式に変換することができます。

レポート一覧

［レポート一覧］ウィンドウは、［レポート］メニューの［一覧］を使用して開きます。レポート一覧は、レポート名、ステータス、レポートテーブル、サーバ名、開始時刻、頻度と期間という各パラメータと共に、このウィンドウに表示されます。

13 しきい値

アラームの割り込みを要求する運用状態やサーバのシャットダウンを除き、一部のパラメータには固有の値を定義できます。この「しきい値」は、評価を行い、アラーム管理機能と組み合わせて、追加アラームの割り込みに使用することもできます。しきい値の定義や設定は、しきい値メニューで行います。

しきい値は、管理者が自らの経験に従って、しきい値テーブルで定義できます。上限や下限、差分しきい値、測定間隔などを定義できます。

アラームマネージャで行った指定と共に使用すると、アクションを結び付けることができます。相対値の上限、相対値の下限、上限、下限という 4 つのしきい値により、アラーム管理にリンクされます。これらのしきい値はすべて固定で、デフォルト有効化されます。しきい値の管理は、管理コンソールで行われます。しきい値の測定とアラームの割り込みは、サーバのエージェントにより個別に処理されます。

しきい値マネージャ

しきい値マネージャのテーブルの設定では、選択したサーバで監視される変数の選択や設定を実行できます。これらの変数は、テーブル（しきい値テーブル）にグループ化され、しきい値マネージャでサーバに割り当てられます。同じ変数が誤って 2 つのテーブルで参照され、その変数が停止されることを防ぐために、1 つのサーバで開始できるテーブルの数は 1 つだけです。

図 21：しきい値マネージャウィンドウ

⚠注意

しきい値マネージャでの設定は、ServerView で元々監視している各監視項目とは直接関連がありません。
しきい値マネージャで設定した範囲を逸脱した場合、以下のしきい値逸脱のトラップが送信されますが、（「環境」で表示される温度センサの設定範囲など）元々の監視項目で使用されている値は変更されず、エラー報告もされません。

固定値で設定した値から逸脱： `Threshold exceeded`
`Threshold underflow`
相対値で設定した値から逸脱： `DELTA-Threshold exceeded`
`DELTA-Threshold underflow`

このトラップに対して何らかのアクションを起こしたい場合、AlarmService にて設定を行ってください（「アラーム設定」（→ 129 ページ）参照）。

■ テーブルの設定

- 変数の選択
  以前に定義した変数リストから 1 つを選択するか、定義済みのリストから 1 つまたは複数の変数を用いて変数リストを新しく作成します。
- 監視する項目
  追加を使用して変数を監視する項目にコピーすると、［しきい値設定の追加］ウィンドウが自動的に表示されます。初期値に対して必要な変更を行うか、またはデフォルト値を使うを用いて設定を確認します。
  保存を用いると、ユーザが設定した変数リストに名前を割り当てることができます。この名前は、しきい値マネージャのしきい値テーブルに表示されます。
  開始を用いると、選択したサーバでこのしきい値テーブルの監視を開始できます。ただし、最初にしきい値名の入力が求められます。このしきい値名は、テーブルが存在するサーバを一意に識別し、しきい値一覧に表示されます。各テーブルは選択したサーバで開始できますが、1 つのサーバで 1 度に開始できるテーブルは 1 つだけです。
  監視を開始する前に、ServerView により、選択したサーバ用のユーザ名とパスワードの入力が求められ、ユーザ認証メニューが表示されます。

⚠注意

OS のインストール中、ユーザ名とパスワードを割り当てる必要があります。セットアップ - ユーザ認証メニューでは、ユーザ名とパスワードの両方の入力が求められます。これらのデータは、サーバ上のオブジェクトの変更や監視を行うすべての操作を保護するために使用されます。

- しきい値一覧
  ［しきい値一覧］ウィンドウへの切替に使用します。しきい値名、しきい値テーブル、サーバ名、開始時刻が表示されます。
  サーバのしきい値を定義すると、更新されたしきい値テーブルが保存され、そのテーブルから対応する値を監視するタスクがサーバのエージェントに割り当てられます。これらの値はサーバと管理コンソールの両方で維持されるので、以下のような状況で矛盾が生じることがあります。

- サーバが［サーバの一覧］ウィンドウから削除されたが（再インストールなどによる）、しきい値は削除されず、その後サーバがサーバの一覧に再度追加されたとき。
  ServerView によりしきい値の監視が再開されますが、値は表示されません。
  解決策 : しきい値の監視を停止するか、エージェントを再インストールします。
- シャットダウンや再インストールの後、エージェントによりすべてのしきい値の監視が停止されたが、サーバから値が返信されないにもかかわらず、ServerView によりしきい値監視の通知が継続される。
  解決策 : しきい値マネージャを用いて問題のあるサーバのしきい値監視を停止してから、サーバを再起動します。

しきい値一覧

しきい値名、しきい値テーブル、サーバ名、開始時刻が表示されます。

図 22：しきい値テーブルウィンドウ

リストには、ユーザが起動したしきい値監視、使用されているしきい値テーブル、しきい値監視が開始されたサーバ名、しきい値監視の開始時刻が表示されます。

14 アラームサービス

アラームサービスにより、情報を受信しようとするイベントと運用状態を定義できます。ネットワークにおいてサーバの可用性は非常に重要なので、サーバの可用性を危険にさらす可能性のあるステータスは適切に設定します。アラームはさまざまな段階で起動し、適宜セットアップすることができます（メール、ポケットベル）。

エージェントによりサーバの異常な運用ステータスが検出されると、SNMP を経由してアラームサービスにアラーム（割り込み）が送信されます。

アラームサービスは、管理コンソールソフトウェアと共に自動的にインストールされます。

アラームサービスは、次のコンポーネントで構成されています。

- **アラームマネージャ**
  アラームマネージャは、アラームログリストに格納されたすべてのアラームを参照し編集するために使用できます。「アラームマネージャ」（→ 125 ページ）を参照してください。
- **アラームモニタ**
  アラームモニタは、すべてのアラームを参照するために使用できます。「アラームモニタ」（→ 127 ページ）を参照してください。
- **アラームの設定**
  アラームの設定は、アラームを設定するために使用できます。たとえば、アラームアクションや、アラームメッセージの転送先を定義できます。「アラーム設定」（→ 129 ページ）を参照してください。

これらのコンポーネントでは、Web ベースの GUI が採用されています。このため、HTML バージョン 3.2、Javascript、および Java をサポートしているブラウザ（Microsoft Internet Explorer）であれば、どれでもこれらのコンポーネントを実行することができます。

ServerView からアラームサービスの各コンポーネントを開くと、同時にアラームサービスウィンドウも開かれます。

このウィンドウから、直接アラームサービスの各コンポーネントを開くことができます。

⚠注意

アラームサービスは、ブレードサーバを構成する個々のサーバブレードについて、処理を行いません。
すなわち、アラームサービスの設定機能（サーバのフィルタ、アラームグループの作成／編集）や参照機能（アラームマネージャ／アラームモニタ）は、ブレードサーバ全体についてのみ処理可能です。

図 23：アラームサービス

■ アラームの表示

受信されたアラームは、［ServerView］ウィンドウのステータスバーに表示されます。同時に、アラームアイコンが［サーバの一覧］ウィンドウの状況列のサーバの隣に表示されます。同じサーバについて複数の受領前のアラームが受信された場合には、重大度のもっとも高いアラームが表示されます。

■ アラームアイコンの削除

アラームアイコンを削除するには、まずアラームを受領する必要があります。次の方法で、1 つ以上のアラームを受領できます。

- 選択したサーバのアラームを受領するには、ポップアップメニューから［アラーム設定］を選択するか、［アラーム］メニューから［設定］を選択します。
- すべてのサーバのアラームを受領するには、アラームメニューから［すべてを認証］を選択します。

アラームマネージャ

アラームマネージャを使用すると、アラームログリストにあるすべてのアラームの編集、管理を行うことができます。アラームメニューからマネージャを選択して、アラームマネージャを起動します。起動すると、次のウィンドウが表示されます。

図 24：アラームマネージャ

ウィンドウ上部にはアラームの概要が表示されます。［アラーム数］にログされたアラームの総数、表の部分には受信時間、アラームタイプ、重要度、サーバ、アクション、受領の情報が表示されます。

アラームが転送された場合またはエントリが削除された場合には、表示内容が更新されます。

短いテキストメッセージ（関連する MIB から）が［アラームの詳細］に表示されます。これは、選択したアラームの詳細を示すメッセージです。

［アラームノート／アクション］に、必要なアラームまたはアクションに関する詳細情報を示す短い注を入力できます。［保存］を使用してこの情報を保存します。このエントリは変更できませんが、別のエントリを追加できます。エントリが作成されて初めてアラームは受領されます。

［アラームマネージャのフィルタ］には、アラームの現在のフィルタ設定が表示されます。［フィルタの設定］ボタンを使用して、新しいフィルタ設定を定義します。設定できるフィルタは次のとおりです。

サーバの選択

選択したサーバのアラームにフィルタをかけます。

種類の選択

重大性のレベルが選択したレベル以下か、以上かによってアラームにフィルタをかけます。

アラーム

未処理か受領済みのアラームに基づいてフィルタをかけます。

時刻

アラームが指定した時刻の前と後のいずれに発生したかによって、アラームにフィルタをかけます。

未処理のポケットベル

未処理のポケットベルメッセージに基づいてフィルタをかけます。

未処理のマネージメントステーション

トラップを他のマネージメントステーションに送信した未処理のアラームに基づいてフィルタをかけます。

［フィルタを無効にする］ボタンを押すと、アラームのフィルタ設定が無効になります。
ボタンを用いて、次のアクションを実行できます。

アラームの情報

アラームに関する詳細情報を表示するウィンドウが開きます。

削除

選択した受領済みのアラームをすべて削除します。

すべて選択

すべてのアラームを選択します。

アラームの受領

すべてのアラームを受領します。

アラーム設定

［共通設定］ウィンドウを開きます。このウィンドウでアラーム設定を編集できます。

アラームモニタ

アラームモニタには、受信したすべてのアラームが表示されます。アラームモニタを起動するには、アラームメニューから［モニタ］を選択します。次のウィンドウが表示されます。

図 25：アラームモニタ

［アラーム数］には、アラームエントリの数が表示されます。

アラームの概要には、現行セッション中のアラームの［受信時間］、［アラームタイプ］、［重要度］、［サーバ］、［アクション］が表示されます。

［アラームの詳細］には、選択したアラームを多少詳細に説明した短いテキスト（関連する MIB から）が表示されます。

ボタンを用いて、次のアクションを実行できます。

アラームの情報

アラームに関する詳細情報を表示するウィンドウが開きます。

ログ

選択したアラームをアラームログリストに書き込みます。

削除

選択したアラームをアラームの概要から削除します。

すべて選択

すべてのアラームを選択します。

除外アラーム一覧

フィルタ設定をリセットします。

印刷

選択したアラームを印刷します。

アラームマネージャ

アラームマネージャを呼び出します。「アラームマネージャ」（→ 125 ページ）を参照してください。

アラーム設定

［共通設定］ウィンドウを開きます。このウィンドウでアラーム設定を編集できます。

テストトラップ

接続テストのためにトラップを送信するサーバを選択できるウィンドウを開きます。［テストトラップ］ボタンを使用してテストを開始します。

アラーム設定

アラーム処理の設定を定義するために使用するコンポーネントを起動するには、［アラーム］メニューから［設定］を選択します。アラームサービス自体が実行されていない場合でも、このメニュー項目を呼び出すことができます。［アラーム設定の開始］ウィンドウには次のオプションがあります。

ウィザード使用

デフォルト値です。ウィザードで表示されるそれぞれのウィンドウに従って、アラームパラメータを設定できます。

共通設定

このオプションでは、アラーム処理の全体的な設定を定義できます。［共通設定］ウィンドウが開きます。「■ 設定」（→ 130 ページ）を参照してください。

サーバのフィルタ

このオプションでは、アラームメッセージを受信したくないサーバを非表示にできます。［サーバのフィルタ］ウィンドウが開きます。「■ サーバのフィルタ処理」（→ 131 ページ）を参照してください。

アラームグループの作成／編集

このオプションでは、新しいアラームグループの定義や、既存のアラームグループの編集ができます。［アラームグループの作成／編集］ウィンドウが開きます。「■ アラームグループの編集」（→ 131 ページ）を参照してください。

アクションの作成／編集

このオプションでは、アラーム転送の設定を定義できます。［アクションの作成／編集］ウィンドウが開きます。「■ アラームのアクション」（→ 132 ページ）を参照してください。

全設定の表示

このオプションでは、すべてのアラーム定義の概要を表示できます。［全設定の表示］ウィンドウが開きます。「■ 全設定の表示」（→ 133 ページ）を参照してください。

起動するには、［次へ］ボタンをクリックします。

■ ボタン

複数のウィンドウで次のボタンを使用できます。

次へ

次のウィンドウを表示します。

戻る

直前のウィンドウに戻ります。

適用

変更を確認し適用します。

終了

［アラーム設定の開始］ウィンドウに戻ります。

ヘルプ

オンラインヘルプシステムを呼び出します。

■ 設定

［共通設定］ウィンドウで、アラーム処理の全体的な設定を定義できます。

フィルタ設定

次のフィルタ設定を定義できます。

○ **フィルタリング間隔（秒）**

定義時間内に同一サーバから同じアラームが発行された場合にフィルタをかけます。

○ **不明なアラームのフィルタ処理**

不明なアラームにフィルタをかけます。

○ **不明なサーバのフィルタ処理**

不明なサーバにフィルタをかけます。

○ **重要度 <severity> に基づくフィルタ処理**

エラーの重要度に応じてフィルタをかけます。

アラームの削除

アラームを削除する時期を指定します。指定の時間が経過した場合またはアラームログリストに指定の数のエントリが作成された場合に、アラームを削除できます。

アラームアクション

トリガされる着信アラームのアクションです。それぞれのエラーカテゴリに応じて、エントリをアラームログリストに保存するかどうか、アラームモニタウィンドウを最前面にポップアップするかどうかを設定できます。任意の組み合わせが可能です。重大なエラーは、必ずアラームログリストに書き込まれます。

アラームマネージャ

アラームログリストに書き込めるエントリの最大数を指定し、この最大数に達した場合の動作を指定します。

○ **警告ポップアップ**

メッセージが出力されます。

○ **上書き**

もっとも古いエントリがシステムにより上書きされます。

■ サーバのフィルタ処理

［サーバのフィルタ］ウィンドウで、アラームにフィルタをかけるサーバを指定できます。サーバ上でアラームサービスが実行されておりサーバの一覧に別のサーバが入力されていない場合に、アラームサービスが実行されているサーバがローカルホストとして表示されます。この場合、追加設定は必要ありません。
これ以外の場合は、サーバの一覧にあるすべてのサーバが［サーバの一覧］ウィンドウに表示されます。［>>>］ボタンと［<<<］ボタンを使用して、必要なサーバを選択できます。一度に選択できるのは 1 つのサーバだけです。［情報］ボタンをクリックすると、選択したサーバに関する追加情報を表示できます。

■ アラームグループの編集

［アラームグループの作成／編集］ウィンドウで、新しいアラームグループの定義や既存のアラームグループの編集ができます。アラームグループとは、サーバのグループであり、そのグループに対するアラームです。アラームグループを定義するには、新しいグループの名前を入力します。既存のアラームグループを編集するには、アラームグループのリストから該当するアラームグループを選択します。

サーバの選択

このアラームグループに入るサーバを指定します。［グループに属するサーバ］のリストが空である場合、既知のサーバだけでなく、すべてのサーバがアラームグループに追加されます。

○ >>>

選択したサーバがアラームグループに追加されます。

○ <<<

選択したサーバがアラームグループから削除されます。

○ **すべて**

既知のサーバがすべてアラームグループに追加されます。

○ **情報**

選択したサーバの追加情報が表示されます。

アラームの選択

アラームグループのアラームを定義します。

○ **アラームの並べ替え**

Severity、Name、File、または Source に基づいて、選択したアラームにフィルタをかけることができます。次に、選択リストに追加値が表示されます。たとえば Severity を選択した場合はエラーの重大度がリストに表示されるので、必要な重大度を選択できます。

○ >>>

選択したアラームがアラームリストに追加されます。

○ <<<

選択したアラームがアラームリストから削除されます。

○ **全て**

表示されたアラームがすべてアラームリストに追加されます。

○ **情報**

選択したアラームに関する追加情報が表示されます。

(1) アラームグループの削除

次の方法でアラームグループを削除します。

1 **リストからアラームグループの名前を選択するか、手作業で名前を入力する。**

2 **［削除］ボタンをクリックしてアラームグループを削除する。**

■ アラームのアクション

［アクションの作成／編集］ウィンドウで、アラームのアクションに関する設定を行うことができます。アラームグループを選択し、次にこのアラームグループによりトリガできるアクションを定義します。アラーム転送の実際の処理は、［有効］ボタンで有効または無効にできます。

アラームグループが次のアクションを行うかどうかを指定できます。

- メールの送信
- メッセージの出力
- アラームのログ
- ポケットベルまたは携帯電話の呼び出しのトリガ

- 実行プログラムの開始
- ブロードキャストメッセージのトリガ
- トラップの作成

選択したオプションに応じて、追加ウィンドウが表示されます。これらのウィンドウでさらに詳細な設定を行います。これらのウィンドウの説明を見るには、［ヘルプ］ボタンをクリックしてください。

■ メールの転送

（1）メールの設定

アラーム転送用の［メール］オプションを選択すると、デフォルトのメール設定を示すウィンドウが表示されます。使用されているメールサービスに応じて、MAPI または SMTP と表示されます。

注）MAPI によるメール転送はサポートしていません。SMTP を利用してください。

ポイント　**異なるプロファイル名やパスワードを入力すると、メールメカニズムは機能しません。**

［プロパティ］を選択し、以下のフィールドの情報を入力してください。

差出人：	**差出人のメールアドレス**
SMTP **サーバ：**	SMTP **サーバのサーバ名、または** IP **アドレス**
ポート：	SMTP **サーバで** SMTP **サービスを提供しているポート番号（デフォルト値は** 25 **です）**

■ サービスメールの転送

この機能はサポートしていません。

■ 全設定の表示

［全設定の表示］ウィンドウには、アラーム定義の概要が表示されます。表示内容は、［ルート選択］で選択した並べ替え順序によって異なります。

［アクションの作成／編集］ウィンドウで行った設定によっては、［有効］ラジオボタンが使用できないことがあります。

ポケットベルの設定について

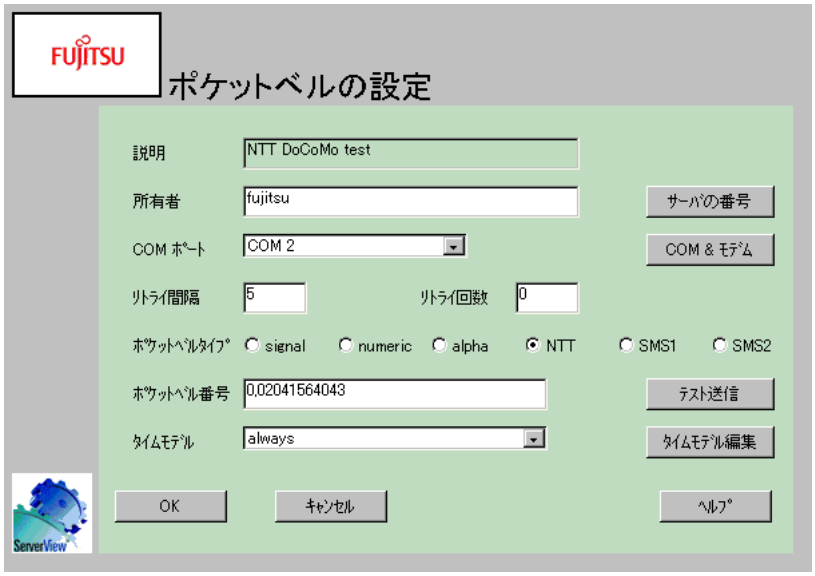
⚠注意

- **海外では、ポケットベルへの送信はできません。**
- **NTT のポケットベルのみ対応しています。**

■ ポケットベル送信の設定

以下のように設定してください。
以下のとおりでない場合、正常に動作しません。

ポケットベルの設定

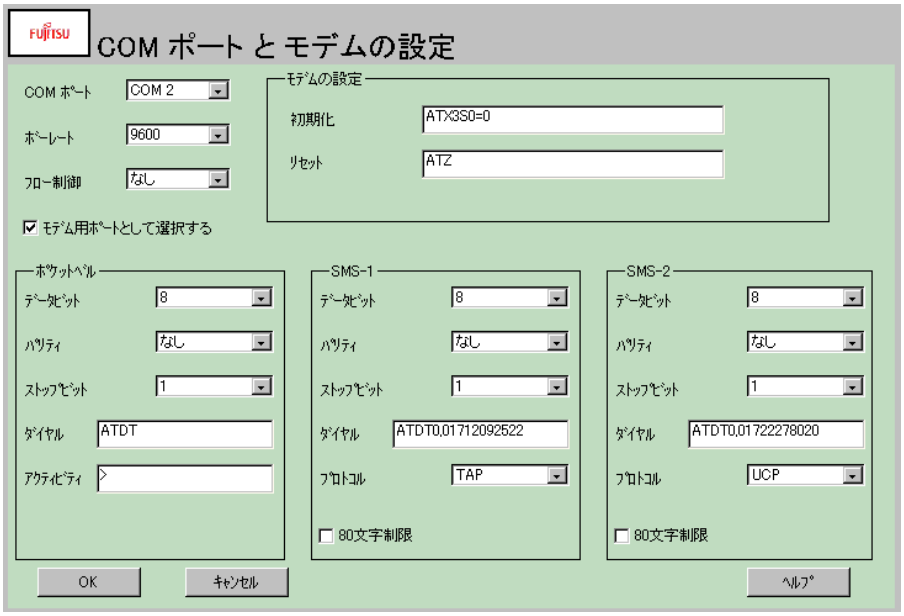


設定項目	設定値　説明
説明	任意
所有者	任意
COM ポート	モデムを接続した COM ポートを選択してください。
リトライ間隔	5 ～（5 以下に設定しないでください）
リトライ回数	0 ～（0 を設定した場合は、リトライしません）
ポケットベルタイプ	NTT（必ず「NTT」を選択してください。他の項目を選択した場合は、その後の動作は保証されません）

設定項目	設定値　説明
ポケットベル番号	ポケットベルの番号を設定します。 0 発信の場合は、「0,」をポケットベルの番号の前に付けてください。
タイムモデル	任意

通信ポート（COM）とモデムの設定

以下のように設定してください。



設定項目	設定値　説明
COM ポート	モデムを接続した COM ポートを設定します。 サーバのポケットベルプロパティページの［ポートの設定］で設定した値と同じ番号を設定してください。
ボーレート	モデムの性能によります。モデムの仕様を確認して設定してください。
フロー制御	None（モデムの性能によりますが、通常は「None」を設定します。）
モデム用ポートとして選択する	必ずチェックボックスをオンにします。
データビット	8（モデムの性能によりますが、通常は「8」を設定します。）
パリティ	None（モデムの性能によりますが、通常は「None」を設定します。）
ストップビット	1（モデムの性能によりますが、通常は「1」を設定します。）

設定項目	設定値　説明
ダイアル	ATDT
アクティビティ	>

■ 送信されるメッセージのフォーマットについて

ポケットベルにメッセージを送信する場合、以下のフォーマットで送信されます。

送信	フォーマット
テスト送信ボタンで送信した場合	4/TESTSERVER
通常の場合	x/yyyyyyyyy x：1= 危険、2= 重度、3= 軽度、4= 情報 yyyyyyyyy：サーバ名　文字数制限があります。

留意事項

- サーバ名に、日本語名は設定しないでください。
- サーバ名は、英数半角 12 文字以内で設定してください。
  12 文字以上で設定した場合、13 文字目からは送信されません。
- サーバ名に英小文字を設定した場合、英大文字に変換して送信されます。
- サーバ名に、NTT DoCoMo ポケットベルで表現できない文字を使用した場合、代わりに「?」が表示されます。

使用できない文字の例：_、+、など

インストール後のコンピュータ情報変更

ServerView をインストール後に、インストールしたマシンのコンピュータ名、または IP アドレスを変更した場合、次の操作を行います。

1. **ServerView およびアラームサービスのウィンドウを起動している場合には、すべて終了します。**
2. **［スタート］－［プログラム］－［Fujitsu ServerView］－［Change Computer Details］をクリックします。**
3. **新しいコンピュータ情報を設定します。**
4. **ServerView エージェントがインストールされている場合は、［スタート］－［プログラム］－［Fujitsu ServerView］－［SNMP Agents］－［Restart Services］を実行します。**

15 ツール

［ツール］メニューには［アーカイブマネージャ］、［エクスポート］、［Global Flash］があります。

アーカイブマネージャ

アーカイブ マネージャはサーバからアーカイブ データを作成する機能、および、アーカイブ データの表示、比較を行う機能を提供します。アーカイブ マネージャには、ServerView のデータベースからすべてのサーバとグループ、すべてのスケジュール タスク、すべての有効なアーカイブを表示します。

アーカイブマネージャの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

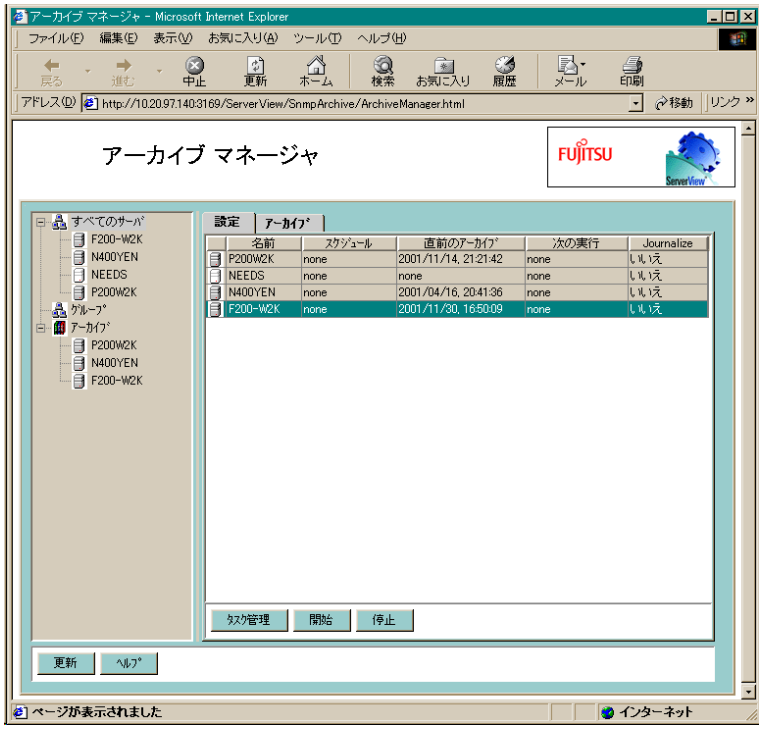


図 26：アーカイブマネージャ

■ アーカイブマネージャの起動

ServerView のメニューから［ツール］－［アーカイブマネージャ］を選択します。

または、［スタート］－［プログラムフォルダ］－［Fujitsu ServerView］－［Fujitsu ArchiveManager］を選択します。

■ サーバの一覧

アーカイブマネージャ ウィンドウの左側には、ServerView データベースのサーバの一覧ツリーが表示されます。このオブジェクトは複数選択が可能で、ウィンドウの右側の各タブページでは、左側で選択した（複数の）グループに含まれるすべてのサーバについての情報が表示されます。

■ 設定タブ

このタブページでは、サーバについてのタスク管理の情報が表示されます。
ウィンドウ右側の項目を以下に示します。

項目	説明
名前	**オブジェクトの名前**
スケジュール	**このサーバのタスクスケジュール**
直前のアーカイブ	**このタスクで直前に作成されたアーカイブ**
次の実行	**このタスクで** Archive Service **が次回に実行される時間**
Journalize	Journalize **情報**

ユーザは（複数の）行を選択できます。タスク管理ボタンをクリックすると、右側の枠で選択した（複数）サーバについてのアーカイブの設定ページが別ウィンドウで表示されます。すでにアーカイブの設定ページが存在している場合、このページは新たに選択した設定で更新されます。

開始ボタンをクリックすると、選択したサーバのアーカイブをただちに開始できます。停止ボタンをクリックすると、選択したアーカイブ スケジュールを停止できます。

設定タブは、タスクが開始・停止されるたび、またはアーカイブ設定が変更されるたびに自動的に更新されます。サーバの一覧や、タスク情報を含む、Web ページ全体をただちに更新するには、更新ボタンをクリックしてください。

（1）アーカイブの開始

アーカイブ機能を開始する手順を以下に示します。

1 **［サーバの一覧］から表示したいサーバ（グループ）を選択してから、設定タブで、設定したいサーバを選択します。**

2 **［設定］タブの［開始］ボタンをクリックすると、選択した（複数の）サーバで一度きりのアーカイブタスクをただちに開始します。**
または、
［タスク管理］ボタンをクリックして［タスク管理］ウィンドウを表示し、開始したいタスクを選択して［開始］ボタンをクリックします。

(2) アーカイブの停止

1 ［サーバの一覧］から表示したいサーバ（グループ）を選択してから、設定タブで、設定したいサーバを選択します。

2 ［停止］ボタンをクリックすると、選択した（複数の）サーバで現在実行中のアーカイブを停止します。
または、
［タスク管理］ボタンをクリックして［タスク管理］ウィンドウを表示し、開始したいタスクを選択して［開始］ボタンをクリックします。

(3) タスク管理

1 ［サーバの一覧］から表示したいサーバ（グループ）を選択してから、設定タブで、設定したいサーバを選択します。

2 ［設定］タブの［開始］ボタンをクリックすると、選択した（複数の）サーバでタスクの作成・編集・削除・開始・停止を実行できる、Archive Task Management ウィンドウが開きます。

図 27：アーカイブタスク管理
このウィンドウの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

■ アーカイブタブ

図 28：アーカイブマネージャ－アーカイブタブ

● アーカイブデータの表示

アプリケーションのアーカイブデータを表示する手順を以下に示します。

1. **サーバの一覧から表示したいアーカイブデータが存在するサーバを選択します。**
2. **［アーカイブ］タブページから対応するアーカイブを選択します。**
3. **［コンポーネント］の一覧で表示したい内容だけを選択して、出力を制限できます。**
4. **［表示］ボタンをクリックして処理を開始します。**

これで、アーカイブマネージャの HTML ビューアに要求したアーカイブデータが表示されます。

● アーカイブの比較

サーバのアーカイブデータを比較する手順を以下に示します。

1. **サーバの一覧から比較したいアーカイブデータが存在するサーバを（複数）選択します。**
2. **［アーカイブ］タブページから対応するアーカイブを 2 つ選択します。**
3. **［コンポーネント］の一覧で必要な内容だけを選択して、出力を制限できます。**

4 **［比較］ボタンをクリックし処理を開始します。**

相違点は第 1 カラムで識別され、2 つの異なる色を使用して示されます。アーカイブのどちらか片方にあり他方にない内容と、アーカイブの両方にあるが値が互いに異なる内容は区別されます。

● **アーカイブデータの削除**

1 **サーバの一覧から削除したいアーカイブデータが存在するサーバを（複数）選択します。**

2 **［アーカイブ］タブページから対応するアーカイブを選択します。**

3 **［削除］ボタンをクリックして処理を開始します。**

データのエクスポート

ServerView フロントエンドのエクスポート機能を使用すると、あらゆるサーバの内容を外部ファイルに出力することができます。この機能の説明については、「4 エクスポート機能」（→ 220 ページ）を参照してください。

Global Flash

使用できません。

16 ウィンドウ

［ウィンドウ］メニューの［アイコンの整列］、［重ねて表示］、［縦に並べて表示］を用いて、管理コンソールのウィンドウを再編成できます。

［すべて閉じる］では、［サーバの一覧］ウィンドウ以外の管理コンソール内のすべてのウィンドウを閉じることができます。

ポイント

ここで説明されていないすべてのメニュー項目は、他の MS Windows プログラム（Print メニューなど）のメニュー項目と同じ方法で機能するか、またはメニューが明白で説明の必要がないものです。

17 プロパティウィンドウ

ServerView では、プロパティウィンドウのプロパティページを用いて複数のサーバのパラメータの表示や設定を 1 度に行うことができます。

すべての ServerView プログラムの機能には、ServerView ウィンドウのプルダウンメニューを用いて到達できます。また、ポップアップメニューも利用できます。
ServerView でのサーバやクラスタのパラメータの設定に使用するプロパティウィンドウには、次の 3 種類があります。

- サーバやクラスタを新しく定義する場合は、サーバブラウザウィンドウが表示されます。
- 登録済みのサーバのパラメータを変更する場合は、プロパティの設定ウィンドウを使用します。これらの 2 種類のウィンドウについては、以下で詳しく説明します。
- システムの監視にかかわるサーバエージェントのパラメータの変更や表示には、［ASR プロパティの設定］ウィンドウを使用します。

これらの異なるウィンドウには、表示や変更の対象となるパラメータを実際に表示するダイアログである、プロパティページが含まれます。プロパティページにはさまざまな種類があり、それぞれで異なる種類のパラメータが扱われます。

これらのウィンドウにはさまざまなボタンがあります。

次に、プロパティウィンドウの詳細について説明します。

サーバブラウザ

サーバブラウザウィンドウを用いて、サーバの一覧にサーバを新しく定義することができます。新しいサーバのパラメータを定義するには、プロパティページを使用します。その後、ブラウザからサーバを選択して適用ボタンをクリックするか、サーバをサーバの一覧ウィンドウにドラッグします。

プロパティの設定

［プロパティの設定］ウィンドウは、次のように起動します。

- サーバの一覧から 1 つまたは複数のサーバを選択し、サーバのプロパティを選択する。

クラスタに属するサーバのプロパティウィンドウは、次のように起動します。

- サーバの一覧からクラスタを選択し、サーバのプロパティを選択する。

このプロパティウィンドウは、通常のプロパティウィンドウとは異なり、2 つのモードを使用できるように拡張されています。1 つ目のモードは、サーバの一覧からサーバを 1 つ選択し、マウスの右ボタンを用いてメニューで設定を指定する際に使用します。このモードの表示は、通常のプロパティウィンドウの表示と同じですが、［サーバ一覧 >>］ボタンが追加されています。このボタンを押すと、プロパティウィンドウが 2 つ目のモードに切り替わります。チェックリストには、そのグ

ループに属するすべてのサーバが表示されますが、チェックリストボックスでは、サーバの一覧から選択したサーバだけが選択されます。

2 つ目のモードは、サーバのグループや複数のサーバを選択し、［プロパティ］アクションを起動する際に使用します。その後、プロパティウィンドウには、選択したサーバまたは選択したグループに属するサーバを含むチェックボックスリストが表示されます。［サーバ一覧 <<］ボタンを押すことにより、プロパティウィンドウの 1 つ目のモードに戻ることができます。選択したグループにサブグループが含まれる場合、そのサブグループのサーバは無視されます。表示されるのは、そのグループ自体に含まれるサーバだけです。

プロパティウィンドウの右下隅に［すべて有効］ボタンがあります。このボタンを押すと、チェックリストボックスに表示されたすべてのサーバがチェックされます。すべてのサーバがチェックされると、［すべて有効］ボタンが［すべて無効］ボタンに変わります。［すべて無効］ボタンにより、サーバのすべてのチェックが解除されます。

チェックリストでは、以下の 2 つのアクションを実行できます。

- 該当するサーバの隣にあるチェックボックスをクリックすることにより、サーバをチェックできます。サーバをチェックすると、［適用］ボタンまたは［OK］ボタンを押したとき、［アクティブ］プロパティページに表示された値がそのサーバに適用されます。
- サーバをクリックすることにより、そのサーバを選択できます。これにより、選択した通常のモードでその名前が表示されます。また、ユーザがこのサーバの現在の値を参照する必要があることが、プロパティページに通知されます。これらの値は、異なるサーバの値の編集や設定を行うための起点として使用できます。

複数のサーバのチェックや選択を 1 度に行うことができます（後述するシングルサーバプロパティページでの作業中を除く）。

複数のサーバを選択すると、選択した各サーバの値が比較されます。値が一致すると、その値がプロパティページのフィールドに表示されます。一致しない値があると、一致する情報だけが表示され、その他のフィールドには灰色の影が付けられます。

プロパティページの値は必要に応じて変更し、これらの値を適用するサーバをチェックすることができます。データを変更したり、サーバをチェックした場合、そのサーバ名の隣に * が表示されます。これは、そのサーバのデータが変更されたが、まだ保存されていないことを意味します。［適用］または［OK］ボタンをクリックして値を保存します。これで、チェックしたサーバに値が保存され、その名前の隣にある * が削除されます。

クラスタのプロパティウィンドウ

この機能は未サポートです。

ASR 設定

Automatic Server Recovery（ASR）設定により、システムを監視するエージェントの値の表示や設定を実行できます。ASR 設定には、ファン制御、温度センサ制御、およびこのエリアでエラーが発生したときにシステムに通知するために使用されるコマンドが含まれます。

プロパティページの右下隅に、［有効］チェックボックスがあります。［サーバ］チェックリストボックスで選択したサーバ（1 つまたは複数）の設定が変更可能である場合は、このチェックボックスがチェックされます。選択したサーバの設定が変更不可である場合は、このチェックボックスはチェックされません。

チェックボックスが灰色である（選択できない）場合は、選択したサーバに、設定の変更ができるものとできないものがあります。

⚠注意

すべての設定が、すべてのサーバでサポートされるわけではありません。サーバを選択し、1 つまたは複数のフィールドが "N/A" に設定されていることが確認された場合、それらのパラメータがサポートされないことを意味します。

RSB プロパティウィンドウ

リモートサービスボード（RSB）のパラメータの設定を実行できます。

このウィンドウはアクションウィンドウの［RSB］ボタンをクリックすることで開くことができます。パラメータの表示と定義についての追加情報は状況依存ヘルプを参照してください。

ボタンとその他の項目

■ ［適用］ボタン

［適用］ボタンをクリックと、現在のプロパティページに表示された値が、チェックしたすべてのサーバに適用されます。ただし、追加設定を指定する必要がある場合でも、このウィンドウが開いたままになります。現在のページで値を変更し、次のプロパティページに移動しようとすると、ページを移る前に変更した値を適用するかどうかを尋ねられます。

■ ［キャンセル］ボタン

このボタンをクリックと、ウィンドウが閉じられ、サーバへの変更は行われません。

■ ［すべて有効］ボタン

サーバをすべてチェックする場合、このボタンを押します。サーバをすべてチェックし、［適用］または［OK］をクリックすると、現在のプロパティページに表示された値がすべてのサーバに適用されます。すべてのサーバをチェックすると、ボタンのラベルが［すべて無効］に変わります。サーバのチェックをすべて解除する場合は、［すべて無効］をクリックします。この後［適用］または［OK］をクリックしても、サーバの値は変わりません。

■ ［設定］ボタン

［設定］ボタンをクリックすると、RSB の設定を行うために WEB ブラウザを起動します。設定を行う前にユーザ名とパスワードの入力が求められます。再起動設定のリストでサーバを On ／ Off するには、このログインデータの入力が必要です。

■ ［OK］ボタン

［OK］ボタンを押すと、現在のプロパティページに表示された値が、チェックされているすべてのサーバに適用され、ウィンドウが閉じられます。

■ ［サーバ一覧 >>］ボタン

Server プロパティページが表示されていないときに値の設定または参照を行っているサーバの名前を参照する場合、このボタンを押します。Server チェックリストボックスが表示されると、このボタンのラベルが Servers << になります。Servers << のラベルが付いているときにこのボタンをクリックすると、プロパティページが消えます。

■ サーバチェックリストボックス

このエリアでは、プロパティを参照するサーバや、プロパティを設定するサーバを指定します。
値を参照するサーバを選択し、値を設定するサーバをチェックします。

プロパティページのタイプ

各プロパティページの右上にはそのページのタイプを表すアイコンが付いています。そのタイプによって、設定可能な項目、パラメータの保持される場所、複数設定の可否などに違いがあります。
以下に各プロパティページの名前と種類を表示します。

■ サーバプロパティページ

サーバプロパティページでは、サーバ（場合によってはクラスタ）のパラメータを設定できます。これらのパラメータはローカル（データベース）に記憶されます。1 度に複数のサーバの値を設定できます。

■ シングルサーバプロパティページ

シングルサーバプロパティページでは、サーバ、および場合によってはクラスタのパラメータを設定できます。これらのパラメータはローカル（データベース）に記憶されます。ただし、各ページには 1 つのサーバにのみ有効なパラメータ（IP アドレスなど）が含まれます。このため、これらのページで 1 度に設定できるのは 1 つのサーバの値だけです。

■ ブレードサーバプロパティページ

ブレードサーバプロパティページでは、ブレードサーバのパラメータを設定できます。
これらのパラメータはローカル（データベース）に記憶されます。

■ クラスタプロパティページ

この機能は未サポートです。

■ 新しいサーバプロパティページ

［新しいサーバ］プロパティページでは、サーバの一覧にまだ設定されていない、新しいサーバやクラスタのパラメータの表示や設定を行えます。各パラメータはローカル（データベース）に記憶されます。ただし、このページには、1 つのサーバにのみ有効な、シングルサーバプロパティページのパラメータと同様のパラメータ（IP アドレスなど）が含まれます。ブラウザリストから複数のサーバを選択すると、このページのプロパティのエントリが削除され、フィールドに灰色の影が付けられます。ただし、［適用］ボタンをクリックすると、値がサーバに適用されます。

■ サーバスタートプロパティページ

サーバスタートプロパティページでは、サーバのパラメータの表示や設定を実行できます。これらのパラメータはサーバ（リモート）に記憶されます。各パラメータは、サーバから取得され、サーバに転送される必要があります。このタスクは、ネットワーク接続や、値の表示や設定を行うサーバの数によっては、多少時間がかかることがあります。この間に、後述するメッセージボックスが表示されます。このメッセージボックスには、このタスクをまだ完了していないサーバのリストが含まれ、必要な場合にはタスクをキャンセルできるようになっています。

すべてのサーバスタートプロパティページとシングルサーバスタートプロパティページには、ページの右下に［有効］チェックボックスが表示されます。［サーバ］チェックリストボックスで選択したサーバが設定を変更できるように構成されている場合、このチェックボックスがチェックされ、サーバの設定を変更できます。設定を変更できないように構成されている場合、このチェックボックスはチェックされず、設定を変更しようとするとエラーが発生します。チェックボックスが灰色（不確定）の場合、選択したサーバに、設定を変更できるように構成されているものと変更できないように構成されているものも含まれます。

［適用］ボタンまたは［OK］ボタンをクリックすると、チェックしたサーバへのログインが試行されます。そのサーバが、パスワードなしで設定を変更できるように構成されている場合、または［サーバのログイン］プロパティページにサーバの正しいパスワードが格納され、ログインが成功している場合は、値が設定されます。サーバのログイン手順が失敗した場合、値の設定が許可される前に、そのサーバへの Login ウィンドウが表示されます。値の設定時にエラーが発生すると、メッセージボックスが現れます。

このページでは、複数のサーバの値の表示や設定を 1 度に実行できます。

■ シングルサーバスタートプロパティページ

シングルサーバスタートプロパティページは、サーバスタートプロパティページに似ています。両者の違いは、シングルサーバスタートページには特別なサーバ設定（ファンや温度センサなど）用のパラメータが含まれることです。このため、1 度に値の表示や設定を行えるサーバは 1 つだけです。

プロパティページ

■「サーバ（クラスタ）のアドレス」プロパティページ（サーバ／クラスタ／サーバブラウザ）

このプロパティページでは、サーバまたはクラスタのアドレスやアドレスのタイプを設定できます。実際の動作は、使用中のプロパティページのタイプによって異なります。

■「ネットワーク／ SNMP」プロパティページ（サーバ／クラスタ／サーバブラウザ）

このプロパティページでは、ネットワーク上のサーバやクラスタの操作用のパラメータを設定できます。複数のコンポーネントのネットワークパラメータを 1 度に設定する際に使用できます。指定できる値は、［コミュニティ名（ユーザコミュニティの名前）］、［ポーリング間隔］、［タイムアウト値］、［接続状態変更トラップ（サーバのステータスが変化したときにトラップを送信する）］および［更新間隔］（開いたウィンドウを更新する間隔）です。

■「ローカルノート」プロパティページ（サーバ／クラスタ／サーバブラウザ）

このプロパティページでは、サーバやクラスタのローカルノートを編集できます。ローカルノートは、［サーバの一覧］ウィンドウでサーバを見つける際に役立ちます。［MIB からコピー］ボタンをクリックすると、エージェントから取得した MIB 情報がローカルノートに追加されます。ローカルノートが MIB 情報以外は同一である場合、その特定の場所に［MIBINFO<>］が表示されます。

■「ログイン」プロパティページ（サーバ）

このプロパティページでは、サーバへの設定／変更の要求の送信時に使用される［ユーザ名］と［パスワード］を指定できます。

セキュリティ上の理由から、パスワードの設定を行うには、「パスワード設定」チェックボックスをチェックする必要があります。

同様に、セキュリティ上の理由から、パスワードはデータベースに保存されません。1 度パスワードを設定すると、プログラムが終了するまでは有効ですが、再立ち上げすると、再度設定する必要があります。パスワードを保存しない設定にして、毎回入力を求める事も可能です。

■「トラップの設定」プロパティページ（サーバ）

このプロパティページでは、指定したサーバのトラップの有効、無効を切り替える事ができます。指定したトラップを有効にすると、サーバがそのシステムでエラーを検出し、このエラーに対してトラップが定義されている場合、サーバから管理コンソールにトラップが送信されます。トラップを無効にすると、トラップは送信されません。

■ 「TCP アプリケーション」プロパティページ（サーバ）

このプロパティページでは、TCP/IP 機器用のアプリケーションの設定をすることができます。
アプリケーションのパスとコマンドラインパラメタを参照ボタンをクリックダイアログから設定するか、編集フィールドを用い直接入力してください。
（例：DOS のコマンドラインで「ping -n 25 127.0.0.1」のように入力している場合、ping 自身もコマンドラインパラメタに含まれます）

■ 「リモート サービス ボード」プロパティページ（サーバ／サーバブラウザ）

リモート サービス ボード（RSB）ページでは、サーバ名とセカンダリチャネルの IP アドレスを表示できます。［RSB 接続テスト］ボタンで RSB との接続をテストする事ができます。
このページは、サーバブラウザウィンドウ内にも表示されます。ここではサーバがプライマリチャネル経由で接続できない場合、サーバ名とセカンダリチャネルの IP アドレスを指定できます。サーバが再び有効になればプライマリチャネルは自動的に再入力されます。

■ 「ファン」プロパティページ（ASR）

このプロパティページでは、ファンアクションを定義できます（「● ファン」（→ 94 ページ）参照）。

■ 「温度センサ」プロパティページ（ASR）

このプロパティページでは、温度センサアクションを定義できます（「● 温度センサ」（→ 94 ページ）参照）。

■ 「再起動設定」プロパティページ（ASR）

このプロパティページでは、サーバの再開始アクションを定義できます。（「● 再起動設定」（→ 95 ページ）参照）

■ 「ポケットベル」プロパティページ（ASR）

この機能は未サポートです。

■ 「Power ON/OFF」プロパティページ

ここでは、サーバのオン／オフ時間を曜日ごとに設定できます。これにより、たとえば週末にはサーバをシャットダウンし、月曜に再起動することができます（このオプションはすべてのサーバでサポートされるわけではありません）。

サポートモデル一覧
PRIMERGY B225/C200/F200/L200/P200
PRIMERGY H200/N400

⚠注意

この設定はスケジューリングを行うサーバの Bios に記憶されます。
ServerView をこのサーバからアンインストールする前には必ず、スケジューリングを無効にしてください。
有効なまま、ServerView をアンインストールしてしまうと、予期せぬ時間にサーバがシャットダウンされることがあります。

■ 「クラスタ情報」プロパティページ（クラスタ）

この機能は未サポートです。

■ 「バックアップ バッテリ」プロパティページ（RSB）

バックアップバッテリプロパティページでは、追加バッテリパックのステータスを表示します。［充電サイクル］ボタンは、バッテリパックを充電／放電を行います。

■ 「インタフェース」プロパティページ（RSB）

インタフェースプロパティページでは、プライマリ／セカンダリチャネルの構成と電話番号設定を表示します。

■ 再起動設定ページ（RSB）

このプロパティページではサーバの起動、シャットダウン、再起動の定義、起動ステータスの表示が行えます。サーバの電源 On、Off 処理はパスワードで保護されています。パスワードは、サーバプロパティウィンドウのログインプロパティページで定義するか、またはこのアクションを実行するたびに毎回指定できます。

ポイント

すべての再開始プロパティが、すべてのサーバでサポートされるわけではありません。サーバを選択し、フィールドが N/A に設定されていることが確認された場合、このパラメータがサポートされないことを意味します。

18 ServerView Linux Agent の使用方法

ServerView Linux Agent の状態表示

ServerView Linux Agent の状態を知りたい場合は、スーパユーザでログインし、次のコマンドを実行します。なお、出力結果は例です。

```
# /etc/rc.d/init.d/srvmagt status
Running agents: sc bus hd mylex unix ether bios secur sta-
tus inv vv

# /etc/rc.d/init.d/eecd status
eecd (pid 2085 2084 2059 1980 1979 1978 1977 1976 1975
1974 1973 1972 1971 1967 1965 1964 1963 1962) is run-
ning...
```

ServerView Linux Agent の起動

ServerView Linux Agent は、サーバ起動時に自動的に起動されます。

⚠注意

ServerView Linux Agent を起動する場合は、スーパユーザでログインし、次のコマンドを実行します。

```
# /etc/rc.d/init.d/eecd start
# /etc/rc.d/init.d/srvmagt start
```

/etc/rc.d/init.d/srvmagt が起動できない場合は、SNMP サービスの状態を確認し、SNMP サービスが停止していたら起動してください。

```
# /etc/rc.d/init.d/snmpd status
# /etc/rc.d/init.d/snmpd start
```

ServerView Linux Agent の停止

ServerView Linux Agent を停止する場合は、スーパユーザでログインし、次のコマンドを実行します。なお、出力結果は例です。

```
# /etc/rc.d/init.d/srvmagt stop
Stopping agent scagt      [ OK ]
Stopping agent busagt     [ OK ]
Stopping agent hdagt      [ OK ]
Stopping agent mylexagt   [ OK ]
Stopping agent unixagt    [ OK ]
```

```
Stopping agent etheragt  [ OK ]
Stopping agent biosagt   [ OK ]
Stopping agent securagt  [ OK ]
Stopping agent statusagt [ OK ]
Stopping agent invagt    [ OK ]
Stopping agent vvagt     [ OK ]

# /etc/rc.d/init.d/eecd stop
Shutting down eecd: TERM [ OK ]
```

ServerView Linux Agent のログについて

ServerView Linux Agent 起動中のログが、/var/log に log.xxxx という名前で格納されます。
ただし、これらのログは ServerView Linux Agent を再起動するとクリアされるので注意してください。
以下に、ログの例を示します。

```
-rw-r--r-- 1 root root 194 8 月 23 13:25 /var/log/log.biosagt
-rw-r--r-- 1 root root 193 8 月 23 13:25 /var/log/log.busagt
-rw-r--r-- 1 root root 30 8 月 23 13:25 /var/log/log.eecd
-rw-r--r-- 1 root root 195 8 月 23 13:25 /var/log/log.etheragt
-rw-r--r-- 1 root root 191 8 月 23 13:25 /var/log/log.hdagt
-rw-r--r-- 1 root root 193 8 月 23 13:25 /var/log/log.invagt
-rw-r--r-- 1 root root 268 8 月 23 13:25 /var/log/log.mylexagt
-rw-r--r-- 1 root root 257 8 月 23 13:25 /var/log/log.scagt
-rw-r--r-- 1 root root 194 8 月 23 13:25 /var/log/log.securagt
-rw-r--r-- 1 root root 195 8 月 23 13:25 /var/log/log.statusagt
-rw-r--r-- 1 root root 193 8 月 23 13:25 /var/log/log.unixagt
-rw-r--r-- 1 root root 280 8 月 23 13:26 /var/log/log.vvagt
```

WebExtension/AlarmService について

ここでは、サーバ管理クライアント機能を WEB ベースで提供する WebExtension についての説明および、SNMP トラップの管理や、トラップをトリガにしたアクションを行う AlarmService について説明しています。

WebExtension/AlarmService は、Linux のみの環境を構築する場合にどれか 1 台のサーバにインストールすることにより、他のサーバの状態も監視することができます。

■ WebExtension/AlarmService の起動／停止について

WebExtension/AlarmService は、httpd サービスとして動作しますので、個別に起動／停止を行うことはできません。

■ WebExtension/AlarmService の操作方法

ブラウザを使用して、WebExtension/AlarmService をインストールした＜サーバ＞に下記のとおり接続します。

```
http://<サーバの IP アドレス >/sv_www.html
http://<サーバ名 >/sv_www.html
```

WebExtension/AlarmService の操作方法については、「WebExtension ユーザーズガイド」を参照してください。

■ インストールされている WebExtension/AlarmService の動作確認

インストールされている WebExtension/AlarmService の動作状況は、次のコマンドを実行して確認できます。

```
# /etc/rc.d/init.d/sv_fwdserver status
snmptrapd (pid xxxx) を実行中 ...
```

4 ServerView Basic

ServerView Basic には、ローカルサーバの監視に必要な重要な機能だけが備わっています。

ServerView Basic では、次の機能は使用できません。

- レポート作成のためのレポートメニュー
- しきい値管理のためのしきい値メニュー
- 外部アプリケーションを統合するための、［設定］メニューの［外部アプリケーション］コマンド
- InventoryView アプリケーションのための、タスクメニューの［InventoryView］コマンド
- デフォルト値設定のための、［設定］メニューの［デフォルトの設定］コマンド
- サーバにインストールされているオペレーティングシステムに関する情報を表示するための、［Server View］ウィンドウの［オペレーティングシステム］ボタン
- サーバに関する一般情報を表示するための、［Server View］ウィンドウの［構成情報］ボタン
- ハードディスクとコントローラに関する追加情報を表示するための、［外部記憶装置］ウィンドウの［ロジカルビュー］ボタンと［パーティションビュー］ボタン
- 使用可能なバスシステムに関する情報を出力するための、［ベースボード］ウィンドウの［バスとアダプタ］ボタン

ローカルモニタリングを行うには、対応するエージェントをローカルサーバにインストールする必要があります（「2 インストール」（→ 13 ページ）を参照）。

1 ServerView Basic のインストール

ServerView Basic のインストール手順は、ServerView のインストール手順と同じです（「2 インストール」（→ 13 ページ）を参照）。

ポイント

ServerView Basic または ServerView のどちらか一方を完全にインストールできますが、両方を同時にインストールすることはできません。

2　ServerView Basic の使用方法

ServerView Basic を起動するには、［スタート］－［プログラム］－［Fujitsu ServerView］－［Fujitsu ServerView］をクリックします。

ポイント

ServerView Basic を起動できない場合は、インストールディレクトリに CTTxxxx.tmp（この場合の xxxx は、0000 ～ FFFF の間の 16 進数）という名前のファイルがないかどうかをチェックし、あれば削除してください。

ServerView Basic が起動すると、［サーバの一覧］メインウィンドウが表示されます。

インストール後に初めて ServerView Basic を起動すると、ローカルサーバが自動的にサーバの一覧に追加されます。

ServerView Basic の動作と設定は、限られた機能の範囲内では ServerView と全く同じです（「3 ServerView の使用方法」（→ 67 ページ）を参照）。

ServerView Basic を終了するには、ファイルの［終了］メニューを使用します。

5 オプション装置の割り込み情報登録処理

1 概要

ServerView によるオプション装置の割り込み認識を行う場合は、オプション装置の割り込み情報の登録を行う必要があります。

2 割り込み情報の登録処理

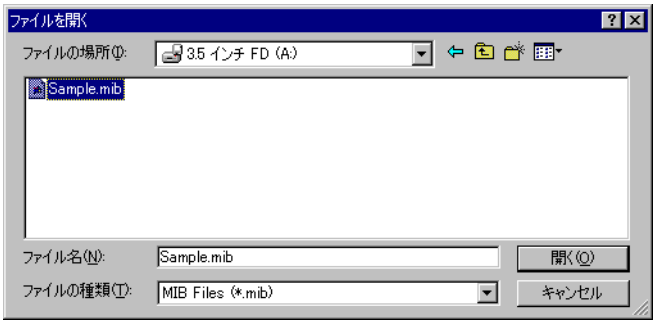
ServerView の監視システムに、オプション装置の割り込み情報の登録をします。

以下に、監視システム（管理端末、サーバ）に割り込み情報の登録を行う操作方法を示します。

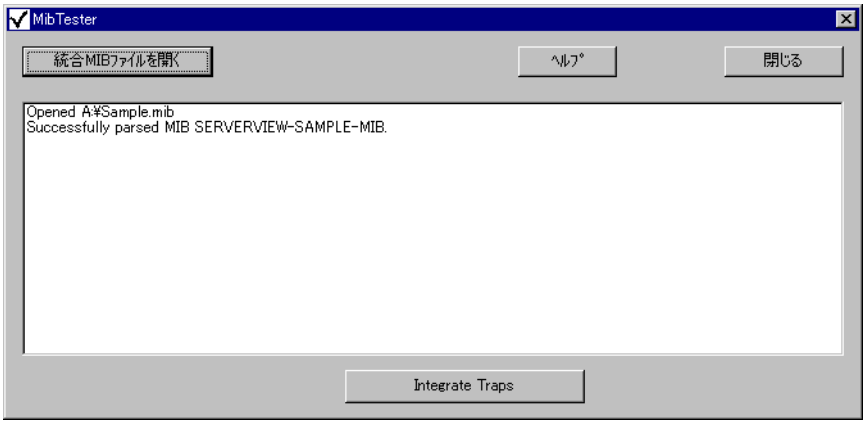
1 **スタートメニューから [プログラム] ー [Fujitsu ServerView] ー [MIB Integrator] を選択します。**

割り込み情報の登録処理が起動し、［Mib Tester］ダイアログが表示されます。

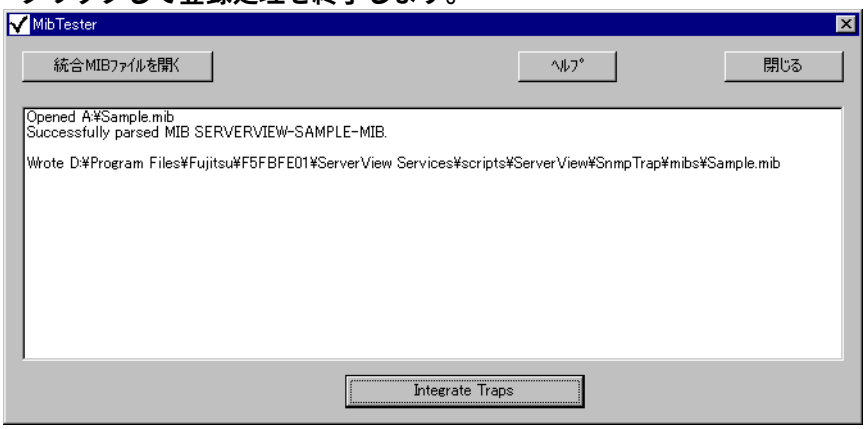
2 **［Mib Tester］ダイアログで、[統合 MIB ファイルを開く] ボタンをクリックして、登録する MIB ファイルを選択します。**



3 [Mib Tester] **ダイアログで、選択したファイルが選択されていることを確認し、**[Integrate Traps] **ボタンをクリックして登録処理を行います。**



4 **下記のメッセージが表示されていることを確認し、[閉じる] ボタンをクリックして登録処理を終了します。**



以上の操作で、オプション装置の割り込み情報が登録されます。
なお、監視する管理端末が複数のシステムに存在する場合には、すべての管理端末で同様の処理が必要となります。

3　オプション装置のアラーム監視

アラームサービスでは、ServerView の［サーバの一覧］ウィンドウに登録されていない IP アドレスからのアラーム（SNMP トラップ）は、不明なサーバからのアラームとして処理します。オプション装置自身が SNMP トラップによるアラームを送信する場合は、次の操作を行うことにより、アラームサービスでオプション装置からのアラームを受け取ることができます。

1　ServerView 管理コンソールを起動します。

[スタート] － [プログラム] － [Fujitsu ServerView] － [Fujitsu ServerView] をクリックします。

2　［アラーム］メニューの［設定］を選択します。

アラームサービスが起動し、［アラーム設定の開始］ウィンドウが開きます。

3　［共通設定］を選択して、［次へ］ボタンをクリックします。

共通設定ウィンドウが開きます。
アラーム設定の開始ウィンドウにおいて［ウィザード］を選択し、［次へ］ボタンをクリックして共通設定ウィンドウを開くこともできます。その場合、共通設定ウィンドウには［終了］ボタンは表示されずに、［次へ］／［戻る］ボタンが表示されます。

4　［不明なサーバを除外］のチェックマークをはずして、［適用］ボタンをクリックします。

［終了］ボタンをクリックすると、［アラーム設定の開始］ウィンドウに戻ります。

図 29：共通設定ウィンドウ

ポイント

オプション装置からのアラームは、アラームモニタに表示されます。
オプション装置からのアラームを受信すると、［共通設定］ウィンドウの［デフォルト アクション］で指定されたアクションを実行します。それ以外のアクションを指定することはできません。
［共通設定］ウィンドウの下記 2 点のアラームについては、［デフォルトアクション］の「メッセージのポップアップ」および「イベントログの格納」は行われません。アラームモニタで表示されるのみとなります。

1 不明なアラームを除外

2 不明なサーバを除外

6 LDSM 連携

ここでは、Intel LANDesk® Server Manager（LDSM）連携について説明します。

1 LDSM 連携について

LDSM で管理されているサーバを ServerView 管理コンソールに登録する以下の手順により、LDSM で管理されているサーバを、ServerView 管理コンソールに登録することができます。

1 **ServerView 管理コンソールのサーバブラウザウィンドウを開き、［LDSM］ラジオボタンをクリックします。**

2 **LDSM で管理されているサーバ名をリストから選択して、［適用］ボタンをクリックします。**

3 **LDSM で管理されているサーバ名が、ServerView 管理コンソールのサーバの一覧ウィンドウに登録されます。**

ポイント

［自動］ラジオボタンを指定して［適用］した場合、ServerView 管理コンソールは、LDSM サーバとして認識しません。
必ず、[LDSM] ラジオボタンを指定してください。

留意事項

- LDSM 連携では、LDSM V6.0 コンソールとのみ連携することができます。
  LDSM V2.52 以前のコンソールとの連携はできません。
- LDSM 連携を行うには、LDSM コンソールを ServerView 管理コンソールと同じ PC にあらかじめインストールしておく必要があります。
- ServerView Basic では、本機能（LDSM 連携）は使用できません。

■ LDSM コンソールを ServerView 管理コンソールから起動する

以下の手順により、ServerView 管理コンソールから LDSM コンソールを起動することができます。

1 **ServerView 管理コンソールのサーバの一覧ウィンドウから、LDSM で管理されているサーバの名前をダブルクリックします。**

2 **LDSM コンソールのユーザ名 / パスワードを入力する画面が表示されます。**
詳細は、LDSM のマニュアルを参照してください。

3 **LDSM コンソールが起動されます。**

留意事項

- サーバの一覧ウィンドウで、タスクが「InventoryView」になっている場合、LDSM コンソールは起動しません。
  タスクを「ServerView」に変更してください。
- LDSM で管理されていないサーバを、LDSM で管理されているサーバとして ServerView 管理コンソールに登録した場合、そのサーバ名をダブルクリックしても LDSM コンソールは起動できません。

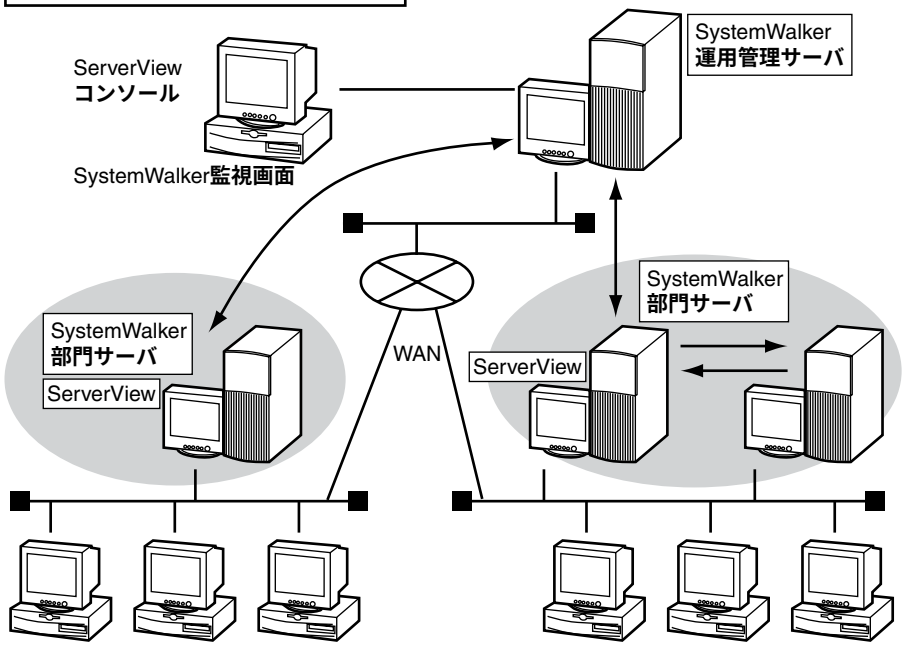
7 SystemWalker 連携

ここでは、SystemWalker 連携について説明します。

1 SystemWalker と ServerView 連携による管理

SystemWalker は、エンタープライズ環境における、システム、ネットワーク、アプリケーションなどの統合運用管理に特化されており、ServerView からの SNMP トラップ連携により、ServerView からの異常通知を運用管理サーバへ通知することで、各部門（単一セグメント）における ServerView の被監視 PRIMERGY サーバを、エンタープライズ環境において、統合管理することができます。
SNMP トラップ連携を行うことができるものは運用サーバのみとなります。

エンタープライズ環境での運用管理



2 SystemWalker/CentricMGRとの連携による機能

- **SystemWalker による ServerView からの Trap イベントの監視**
  各部門サーバが受信する ServerView から送信される Trap メッセージを、監視者が分かるようなメッセージテキストに変換して、SystemWalker の監視画面に表示できます。
- **SystemWalker による、Trap イベントの絞込み監視**
  ServerView で受信した PRIMERGY サーバからのメッセージを、条件で絞り込んで監視できます。
- **SystemWalker 画面から、ServerView 画面の起動**
  SystemWalker の監視画面の操作メニューから、ServerView 画面を起動することができ、異常の発生した PRIMERGY サーバに対して、即座に ServerView 画面から対処することができます。
- **PRIMERGY サーバの MIB 値取得／拡張**
  PRIMERGY サーバの MIB を取得して、SystemWalker の MIB 拡張機能により、以下の MIB などを設定できます。
  - Server コントロール MIB：FAN などのデバイス、CPU 温度、サーバ管理用 MIB
  - インベントリ MIB：しきい値設定などシステム全体の状態監視用 MIB
  - HDD MIB：HDD デバイスなどの監視用 MIB
  - Trap MIB：ServerView の Trap 用 MIB
- **PRIMERGY サーバの MIB を用いた MIB しきい値監視**
  上記で拡張された MIB を用いて、SystemWalker の MIB しきい値監視機能により、CPU の温度監視など、MIB のしきい値監視を行うことができます。

⚠注意

SNMP トラップの連携を行う場合、OS の SNMP サービスにおいて、トラップ先に運用管理サーバの設定を行う必要があります。
この設定が行われていない場合、運用サーバ上にはトラップ通知が受け取れないため、トラップ連携処理は動作しません。

3 SystemWalker/CentricMGRとの連携手順

ServerView の SystemWalker/CentricMGR との連携では、以下の手順を行うことによって、SystemWalker によるエンタープライズ環境での統合管理を実現します。

⚠注意 **統合管理が行えるサーバは、運用管理サーバのみです。**

1. ServerView **からの** SNMPTrap **のメッセージテキスト変換（**NTC**）定義**
2. **手順** 1 **のイベントのフィルタリング定義**
3. ServerView **の操作メニューへの登録**
4. PRIMERGY **サーバアイコン設定**

■ SNMPTrap のメッセージテキスト変換（NTC）定義

ServerView からの SNMP Trap を、SystemWalker 監視画面へメッセージテキストとして監視者がわかるような形で表示するためのメッセージテキスト変換定義を行います。

1 変換定義データのメッセージテキスト

変換定義データのメッセージテキストには、ServerView からのメッセージだと判別できるように、メッセージテキストの先頭に、「[ServerView]」のキーワードが埋め込まれています。
例：ServerView からの SNMP トラップが変換されて、表示される場合

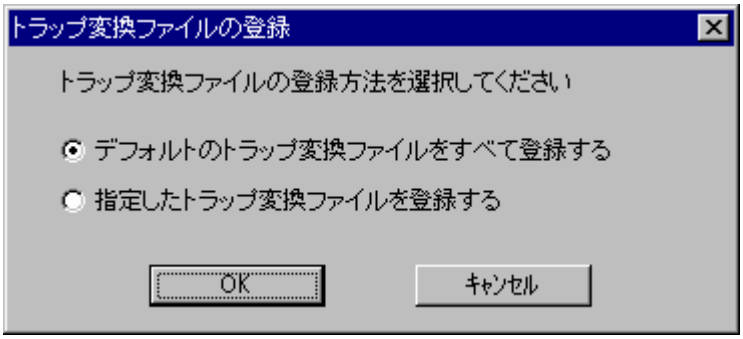
```
AP: MpAplLink: ERROR: 106: [ServerView]: SMART predicts
failure on disk .....
```

2 トラップ変換ファイルを SystemWalker に適用します。

以下の変換定義適用コマンドを実行します。

```
<CD-ROM のドライブ >:¥SVMANAGE¥Tools¥
SystemWalker¥F5FBSW01.exe
```

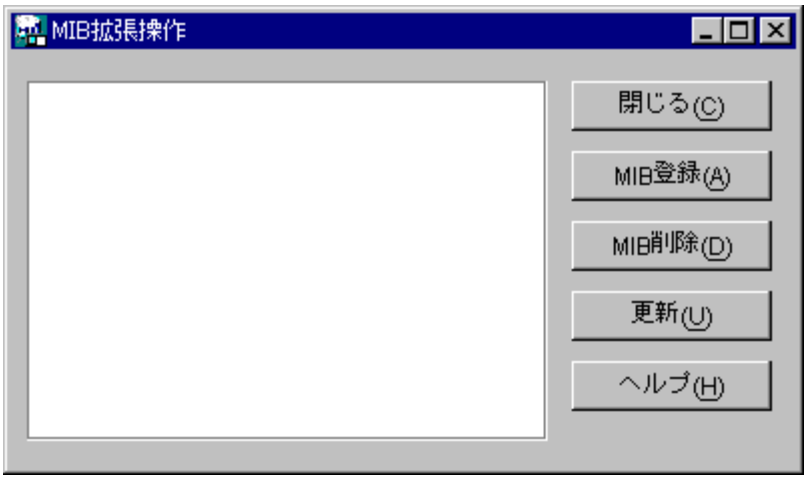
以下のダイアログより、「デフォルトのトラップ変換ファイルをすべて登録する」をチェックして、[OK] ボタンをクリックし適用操作を実行します。



登録が終了すると、以下のダイアログボックスが表示されます。

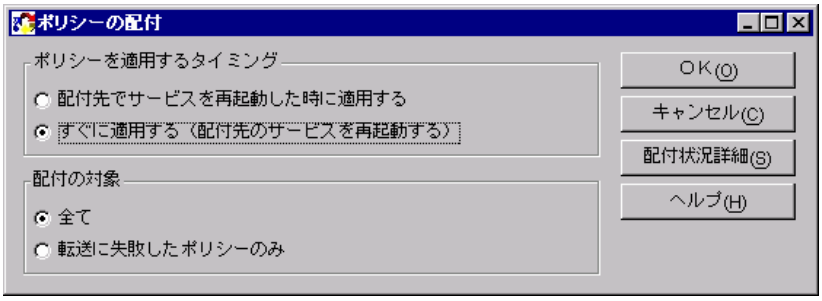
3 **Trap 変換で使用される OID をキャラクタ表記させるために、MIB 拡張操作を行います。**

画面の操作メニューから、MIB 拡張操作を選択し、以下のダイアログで、登録操作を行います。
操作方法の詳細については、SystemWalker/CentricMGR のマニュアルを参照してください。
拡張 MIB ファイル格納フォルダ：SVMANAGE¥Tools¥SYSTEMWALKER¥mib



4 **SystemWalker に適用された Trap 変換ファイルを各部門サーバ、運用管理サーバへポリシー配布を行います。**

画面のポリシーメニューから、ポリシー配布を選択し、以下のダイアログで「すぐに適用する」をチェックして、OK ボタンをクリックしてポリシーを各部門サーバへ適用します。

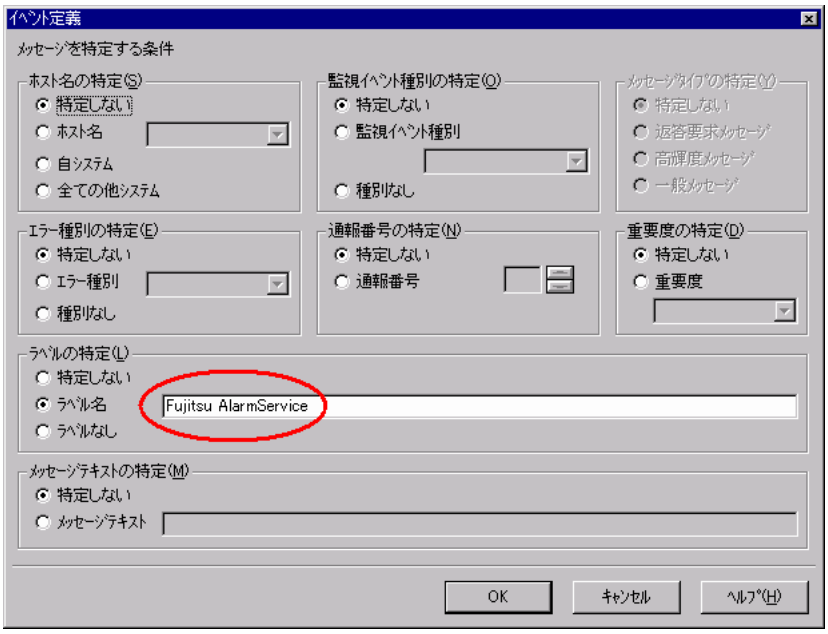


■ イベントフィルタリング定義

1 **ServerView AlarmService が格納する NT イベントログに対するフィルタリング定義を行います。**

操作方法の詳細については、SystemWalker/CentricMGR のマニュアルを参照してください。

ポリシーメニューから、［ポリシーの定義］-［イベント］-［フォルダ］を選択します。「イベント監視の条件定義ウィンドウ」のイベントメニューから、［イベント追加］を行います。



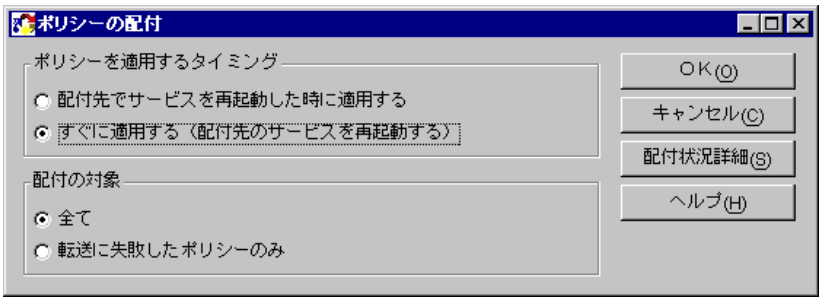
［ラベル名の特定］において、［ラベル名］に「Fujitsu AlarmService」を指定します。

2 **「イベント監視の条件定義ウィンドウ」のアクションメニューから［アクションの設定］-［アクション定義］を行います。**

［上位システムに送信］、［ログ格納］において共に「しない」を設定します。

3 **イベントフィルタリング定義を各部門サーバ、運用管理サーバへポリシー配布を行います。**

画面のポリシーメニューから、ポリシー配布を選択し、以下のダイアログで［すぐに適用する］をチェックして、［OK］ボタンをクリックしポリシーを各部門サーバへ適用します。

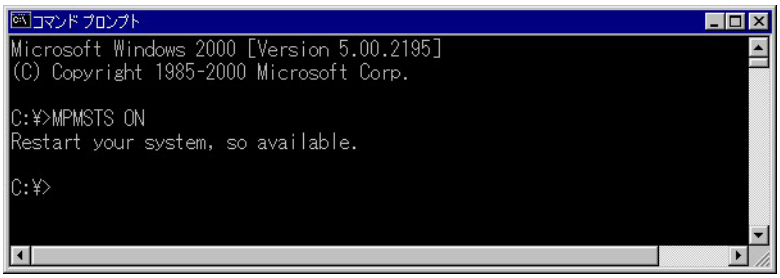


4 **コマンドプロンプト画面より以下のコマンドを実行します。**

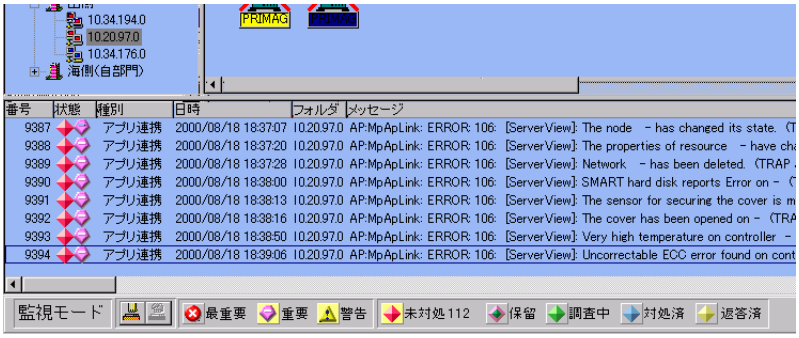
```
MPMSTS ON
```

SystemWalker/CentricMGR V5.0 の場合

SystemWalker/CentricMGR V10 の場合



5 **システムの再起動後 Trap イベントが正しく変換されて、監視画面に表示されるようになります。**

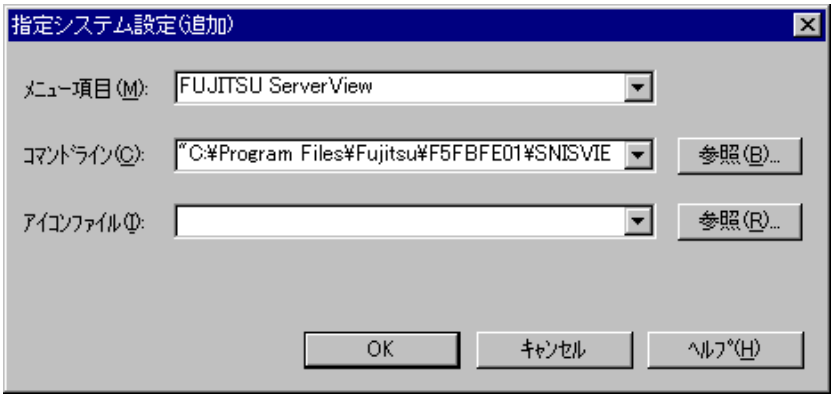


■ メニュー登録

1 **SystemWalker から ServerView を起動できます。以下のように、操作メニューに ServerView コンソールプログラムを登録します。**

画面の操作メニューから、操作メニュー追加を選択し、操作メニューを追加します。

メニュー項目、起動アプリを指定して、操作メニューを追加します。

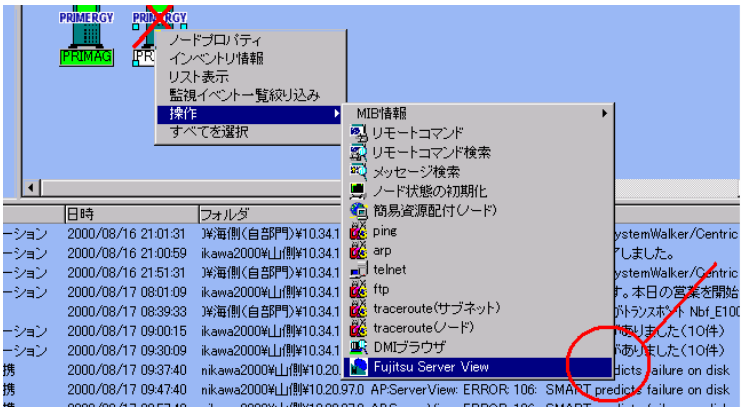


上記のように、項目を「FUJITSU ServerView」
起動コマンドを「"C:¥Program Files¥Fujitsu¥F5fbfe01¥SNISVIEW.exe"」
と指定します。

ポイント　**コマンドは必ず""（ダブルクォーテーション）で括ってください。操作メニューに表示されないことがあります。**

2　PRIMERGY サーバノードから、ServerView コンソールの起動

登録された操作メニューから、ServerView を選択して起動できるようになります。



8 UPS 管理ソフトウェア連携

ここでは、UPS 管理ソフトウェアとの連携機能について説明します。

1 UPS 管理ソフトウェア連携でできる機能

- ServerView **管理コンソールのステータスアイコン変化**
  UPS 管理ソフトウェアから、商用電源異常（停電など）が通知されると、ServerView 管理コンソールのステータスアイコンを変化させ、異常を知らせることができます。
- **バックアップ残り時間を表示**
  バッテリ運用時、ServerView 管理コンソールにバックアップ残り時間を表示します。
- UPS **管理ソフトウェア（クライアントプログラム）起動**
  ServerView 管理コンソールの電源ビューの「UPS マネージャ」ボタンをクリックすることで、UPS 管理ソフトウェア（クライアントプログラム）を起動できます。

2 連携できる UPS 管理ソフトウェアについて

連携できる UPS 管理ソフトウェアを、以下に示します。

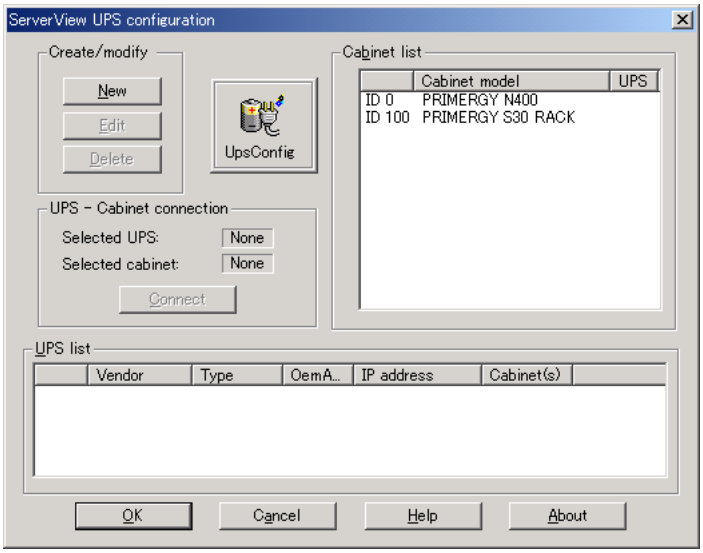
- NetpowerView F V4.8 以降
  高機能無停電電源装置（NetpowerProtect シリーズ）を管理するソフトウェアです。

3　UPS 管理ソフトウェア連携を行うための設定について

UPS 管理ソフトウェア連携を行うためには、UPS Configuration を使用して ServerView に UPS 接続情報を設定する必要があります。
また、UPS 管理ソフトウェアを別途インストールする必要があります。

■ UPS 接続情報設定（UPSConfiguration）

1　[**スタート**] ー [**プログラム**] ー [Fujitsu ServerView] ー [SNMP Agents] ー [Ups Configuration] **をクリックし、**UPS Configuration **を起動します。**



○ Create ／ modify

ー New
新規に UPS 設定を行います。

ー Edit
UPS list 内の UPS 設定を変更します。

ー Delete
UPS list 内の UPS 設定を削除します。

○ UPS ー Cabinet connection

ー Connect
UPS と Cabinet を接続します。

ー Disconnect

UPS と Cabinet を切断します。

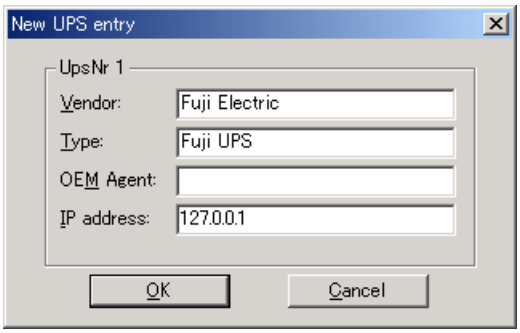
○ Cabinet list

ServerView で監視できる Cabinet（装置）を表示します。

○ UPS list

設定した UPS を表示します。

2 ［New］ボタンをクリックします。



下記のとおり各設定項目を入力します。

○ Vendor、Type

UPS 管理ソフトウェアで指定の文字列を入力してください。
文字列については、UPS 管理ソフトウェアの取扱説明書を参照してください。

○ OEM Agent

入力の必要はありません。

○ IP Address

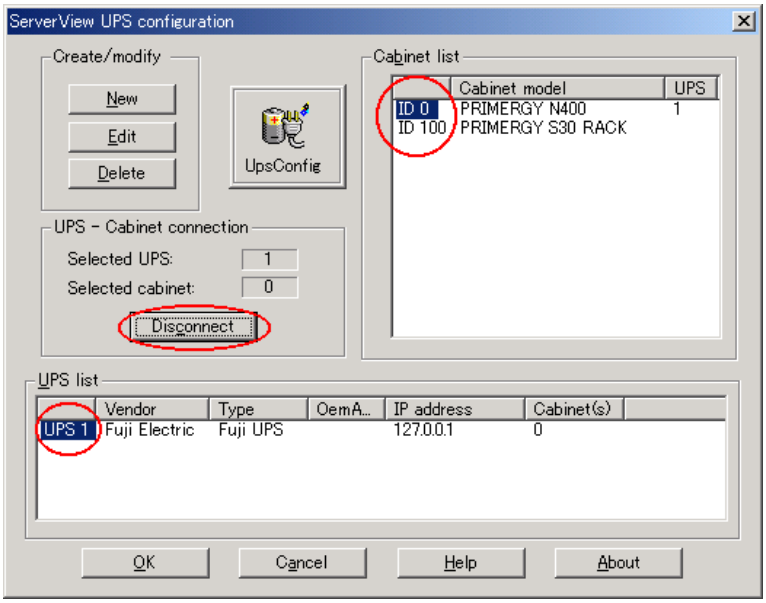
UPS を接続し、UPS 管理ソフトウェアが動作しているサーバの IP アドレスを入力してください。

入力終了後、［OK］ボタンをクリックしてください。
「UPS list」に設定した UPS が追加されます。

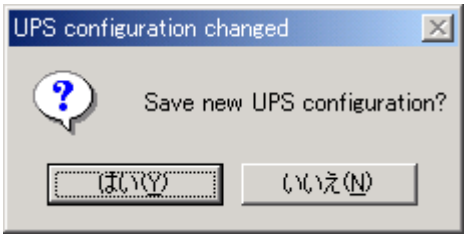
3 設定した UPS と、「Cabinet list」に表示されている装置の接続設定を行います。

これは、UPS から電源を供給されている装置を選択するものです。
なお、UPS から電源供給されていても、「Cabinet list」に表示されていない装置は設定できません。

UPS list の「UPS x」、Cabinet list の「ID xx」を選択し、「UPS － Cabinet connection」の「Connect」ボタンをクリックします。
UPS list の「Cabinet(s)」に ID が設定されます。

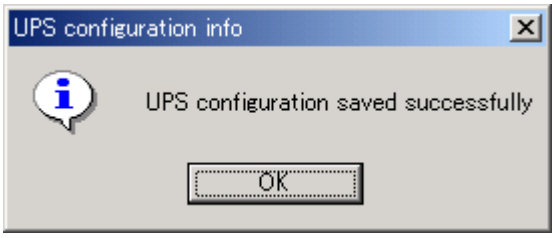


4 **[OK] ボタンをクリックすると、以下のダイアログが表示されます。**

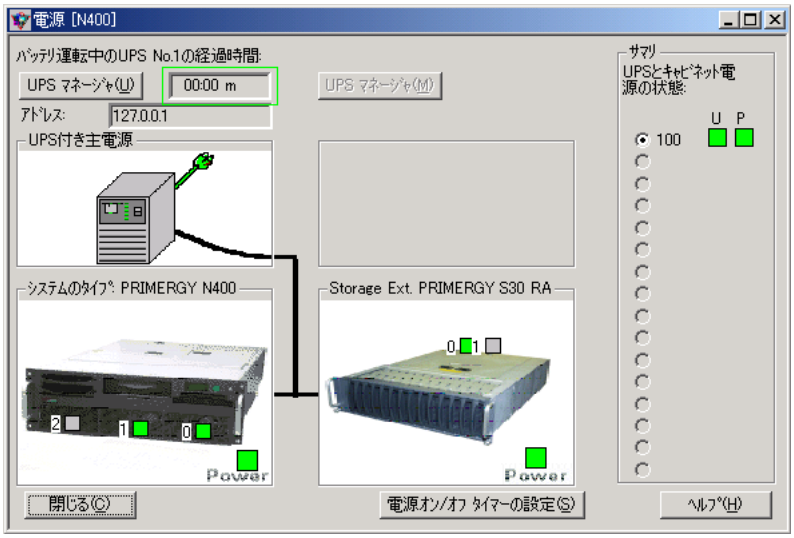


「はい」をクリックします。

5 **以下のダイアログが表示されますので、[OK] をクリックします。**



6 ServerView 管理コンソールの電源ビューを開くと、以下のように UPS の図が表示されます。



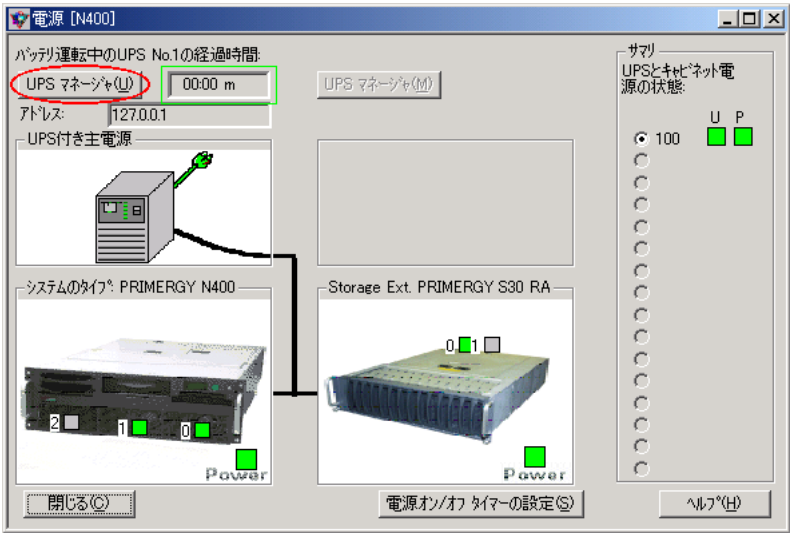
4 UPS 管理ソフトウェア（クライアントプログラム）を ServerView 管理コンソールから起動する

ServerView 管理コンソールの「電源ビュー」を開きます。

「UPS マネージャ」ボタンが、有効状態になっている場合、ボタンをクリックすると UPS 管理ソフトウェアを起動できます。

「UPS マネージャ」ボタンを有効状態にするには、サーバに対して UPS を設定し、UPS 管理ソフトウェア連携に対応したソフトウェアをインストールしてください。

（UPS の設定については、「3 UPS 管理ソフトウェア連携を行うための設定について」（→ 172 ページ）を参照）



9 RemoteControlService

1 RemoteControlService の概要

RemoteControlService は、PRIMERGY サーバ向けリモートコントロール用ソフトウェアです。

RemoteControlService を使用すると、管理端末からサーバのシステム起動フェーズ（POST）にアクセスし、リモートコントロールできます。これにより、管理端末からサーバの BIOS セットアップなどを行えます。

また、管理端末にセットした MS-DOS のフロッピィディスクから、サーバ上に MS-DOS を起動し、MS-DOS 上で動作するプログラムを実行することができます。

RemoteControlService の操作は、管理端末から LAN 経由または WAN 経由で行います。

RemoteControlService とサーバの LAN 経由接続は、サーバの BIOS 拡張機能（RomPilot または RemoteConsoleManeger: 以下「RomPilot/RCM」と記述します）でサポートされています。RomPilot/RCM の機能により、サーバの POST 時における LAN 経由のリモートコントロールが実現されます。

また、サーバにリモートサービスボードを取り付けると、RemoteControlService から、LAN 経由または WAN 経由で、サーバの画面表示／キーボード操作（テキストモード時のみ)、電源投入、電源切断などを行うことができます。なお、リモートサービスコントローラを内蔵しているサーバでは、標準で本操作を行うことができます。

また、ブレードサーバのサポートについては PRIMERGY BX300 マネジメントブレード取扱説明書を参照してください。

2 RemoteControlService の構成

RemoteControlService は次のコンポーネントから構成されています。

- RomPilot/RCM
  RomPilot/RCM はサーバの BIOS 拡張機能で、サーバの POST 時の LAN ドライバをサポートします。RomPilot/RCM により、POST 時のサーバに LAN 経由でアクセスできます。
  サーバにオンボード LAN がある場合、オンボード LAN ドライバはサーバに標準実装されています。
- RemoteControlService/LAN
  管理端末にインストールし、サーバをリモートコントロールするソフトウェアです。

3 RemoteControlServiceの機能

リモートコントロール用ソフトウェアとして、RemoteControlServiceでは次のことができます。

- リモートドライブ
  管理端末にセットしたフロッピィディスク、またはイメージファイルから、サーバ上にMS-DOSを起動することができます。
  なおこの機能は、RomPilot/RCMをサポートしているサーバでのみ有効です。
- コンソールリダイレクション
  サーバのPOST時に、管理端末からサーバの画面の表示、キーボード操作および再起動をリモートコントロールできます。リモートドライブでサーバ上にMS-DOSを起動した場合は、MS-DOS動作時もリモートコントロールできます。
- Wakeup On LAN（WOL）
  サーバのネットワークアダプタがWOLをサポートしていると、管理端末からLAN経由でサーバの電源を入れることができます。サーバのWOL機能については、サーバの取扱説明書を参照してください。
- リモートサービスボード／リモートサービスコントローラのサポート
  サーバにリモートサービスボードを取り付けると、LAN経由またはWAN経由で、サーバの画面表示／キーボード操作（テキストモード時のみ）、電源投入、電源切断などを行うことができます。なお、リモートサービスコントローラを内蔵しているサーバでは、標準で本操作を行うことができます。以降の説明において、特に断りがない限り、リモートサービスボードという記述はリモートサービスコントローラも含んでいます。
  また、ディスクアレイ装置にリモートサービスボードを取り付けると、LAN経由またはWAN経由で、ディスクアレイ装置の電源投入、電源切断、状態表示などを行うことができます。
  なお、以降の説明では、サーバとディスクアレイ装置を合わせて「サーバ」と記述しています。

4　システム要件

ここでは、サーバと管理端末用のハードウェアとソフトウェアの要件について説明します。

■ サーバ要件

ハードウェア	ソフトウェア
• LAN カード　必須（オンボード LAN がある場合は、オンボード LAN のみ使用可）	条件なし

表 13：サーバ要件

■ 管理端末要件

ハードウェア	ソフトウェア
• パソコン　IBM PC 互換機 • プロセッサ　Pentium® 以上 • メモリ　32MB 以上 • ハードディスク　空き領域が 25MB 以上 • ディスプレイ　SVGA(800 × 600) 以上の解像度 • LAN カード　必須（オンボード LAN でも可） • マウス　必須	• OS ー Microsoft Windows 2000 Professional Operating System ServicePack1 以降 ー Microsoft Windows NT Workstation Network Operating System Version 4.0 ServicePack 6a 以降 • プロトコル　TCP/IP が動作していること • サービス　SNMP が動作していること

表 14：管理端末要件

5 RomPilot の設定

RemoteControlService の RomPilot の機能を使用するには、サーバの RomPilot の設定を行う必要があります。RomPilot の設定に必要な RomPilot セットアップディスクの作成、および RomPilot の設定を以下の手順で行います。

■ ServerStart の場合

1 **フォーマット済みのフロッピィディスクを 1 枚用意します。**

2 **RomPilot の設定に必要な、RomPilot セットアップディスクを作成します。**

ServerView の CD-ROM 内の次のディレクトリにあるすべてのファイルを、書き込み可能なフォーマット済みのフロッピィディスクにコピーします。

```
<CD-ROM のドライブ >:¥SVMANAGE¥TOOLS¥ROMPILOT¥
```

3 **「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」を作成します。**

ServerStart CD-ROM から作成します。以下に作成方法を示します。詳細は、「PRIMERGY ソフトウェアガイド」を参照してください。

1 **ServerStart の CD-ROM からシステムを起動します。**

2 **ServerStart の画面で「フロッピービルダ」をクリックします。**

3 **「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクの作成」をクリックします。**

メッセージに従ってサーバ本体に添付の「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」をフロッピィディスクドライブに挿入します。

4 **以降は画面のメッセージにしたがって作業を続行します。**

自動的にフォーマットされ、ファイルのコピーが開始されます。

4 **「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」をフロッピィディスクドライブにセットし、サーバ本体の電源を投入します。**

5 **「Basic(BIOS Environment Support Tools)」を選択し、[Enter] キーを押します。**

6 **作成した RomPilot セットアップディスクをサーバにセットします。**

7 **次の通り入力し、[Enter] キーを押します。**

```
A:\>rompilot.bat [Enter]
```

RomPilot セットアップが起動します。

8 **1 行目の［Enabled］設定（1）を選択して、RomPilot 機能を有効にします。**

［Enabled］を選択しないと、他の設定は有効にはなりません。

9 **他の設定を選択します。**
（「■ RomPilot セットアップでの設定」（→ 182 ページ）を参照してください）

10 [F3] **キーを押して設定を保存します。**

11 [Esc] **キーを押して** RomPilot **セットアップを終了します。**

■ ServerWizard の場合

1 **フォーマット済みのフロッピィディスクを 1 枚用意します。**

2 RomPilot **の設定に必要な、**RomPilot **セットアップディスクを作成します。**
ServerView の CD-ROM 内の次のディレクトリにあるすべてのファイルを、書き込み可能なフォーマット済みのフロッピィディスクにコピーします。

```
<CD-ROM のドライブ>:¥SVMANAGE¥TOOLS¥ROMPILOT¥
```

3 **サーバの電源を投入し、**ServerWizard **の** CD-ROM **をセットします。**
電源を投入して、POST 中（RAM モジュールのチェックなどのメッセージが表示されている間）に、CD-ROM の取り出しボタン（EJECT）を押して、ServerWizard の CD-ROM をセットします。

4 **「**Basic(BIOS Environment Support Tools)**」を選択し、**[Enter] **キーを押します。**

5 **作成した** RomPilot **セットアップディスクをサーバにセットします。**

6 **次の通り入力し、**[Enter] **キーを押します。**
（ServerWizard CD-ROM で起動すると、FPD は B: ドライブになります。）

```
A:\>B: [Enter]
B:\>rompilot.bat [Enter]
```

RomPilot セットアップが起動します。

7 **1 行目の［**Enabled**］設定（**1**）を選択して、**RomPilot **機能を有効にします。**
［Enabled］を選択しないと、他の設定は有効にはなりません。

8 **他の設定を選択します。**
（「■ RomPilot セットアップでの設定」（→ 182 ページ）を参照してください）

9 [F3] **キーを押して設定を保存します。**

10 [Esc] **キーを押して** RomPilot **セットアップを終了します。**

■ RomPilot セットアップでの設定

項目	説明
Network Driver/Slot	LAN 接続の場合、ネットワークアダプタとこれに対応したドライバが必要です。スロットは、LAN 接続に使用するネットワークアダプタのスロット番号を表しています。[F2] キーを押すと、システムで利用でき、RemoteControlService でサポートされているネットワークアダプタが載ったサブメニューが表示されます。目的のアダプタを選択します。ドライバは RomPilot セットアップディスクからインストールされます。 注：[F2] キーは、使用しないでください。オンボード LAN のドライバは、標準でインストールされています。
Driver Load String	ここで入力した文字列は LAN ドライバに渡されます。[F2] キーを使用して LAN ドライバをロードする場合は、デフォルトの文字列がここに入力されます。 注：[F2] キーは、使用しないでください。オンボード LAN のドライバは、標準でインストールされています。
Server Name	サーバを識別する名前。サーバ名は最大 16 ASCII 文字にできます。特殊文字も使用できます。
Local IP Address	サーバに装着されている LAN アダプタの IP アドレス。使用できるのは数字だけです。 オペレーティングシステムで使用しているのと同じ IP アドレスを使用してください。
Subnet Mask	サーバに装着されている LAN アダプタのサブネットマスク。使用できるのは数字だけです。 オペレーティングシステムで使用しているのと同じサブネットマスクを使用してください。
Gateway Address	サーバに装着されている LAN アダプタのゲートウェイアドレス。使用できるのは数字だけです。 オペレーティングシステムで使用しているのと同じゲートウェイアドレスを使用してください。
Front End 0/1/2 IP	RemoteControlService/LAN を実行する管理端末（最大 3 つ）の IP アドレス。RomPilot はまず Front End 0 に、次に Front End 1 に、最後に Front End 2 に接続を試みます。いずれの Front End にもエントリがない場合、RomPilot に接続することはできません。
Second SNMP Port	RomPilot は TCP ポート 9162 に SNMP トラップを送信します。このポートが別のアプリケーションですでに使用されている場合は、代替ポートをここで定義することができます。 注：RemoteControlService/LAN を使用する場合、TCP ポートは 9162 に設定してください。

項目	説明
Reset on lost conn.	この設定を有効にした場合、RemoteControlService/LAN に接続されます。この接続が失われると、RomPilot は自動的にサーバをリセットします。
Connect Timeout	接続待ち時間。Front End 0/1/2 IP に 2 つ以上の管理端末を指定した場合、RemPilot から Front End 0、1、2 に順次接続を試みる際の待ち時間。時間内に接続が確立されなければ、次の Front End に接続を試みます。
Password	サーバのパスワード。このパスワードは暗号化されて表示されます。RemoteControlService/LAN でサーバに接続する時に、ここで設定したパスワードを入力する必要があります。 注：RomPilot を使用するために必ず設定してください。
Confirm Password	確認のためにサーバのパスワードをもう一度入力してください。
<F1>	[F1] キーを押すと、RomPilot セットアップに関するオンラインヘルプを表示できます。
<F2>	[F2] キーを押すと、サブメニューが表示されるので、別のネットワークアダプタとドライバを選択できます。 注：RomPilot は、オンボードのみサポートしています。オンボード以外の Slot は、設定しないでください。
<F3>	[F3] キーを押すと、現在の設定が保存されます。
<ESC>	[ESC] キーを押すと、変更内容が保存されずにセットアップメニューが終了します。

ポイント

- RomPilot 機能を有効にし、設定を行うと、サーバの起動時に RomPilot から管理端末に SNMP トラップが送信されます。送信された SNMP トラップは管理端末に ServerView がインストールされていれば ServerView のアラームサービスで参照できます。また、管理端末で RemoteControlService/LAN が起動されている場合、RomPilot からの SNMP トラップを受けると、自動的にそのサーバのリモートウィンドウが開きます。
- RomPilot の設定において、設定を保存する時（[F3] キー押下時）に、下記メッセージが表示される場合があります。

```
Network Driver/Slot inappropriate for
detected adapter(s): Select via <F2>
```

上記メッセージが表示された場合、次の操作を実施してください。

1. [F2] キーを押して Select Network Driver メニューを表示します。
2. < ↑ / ↓ >（矢印キー）を使用して "Onbrd" を選択します。

```
Slot   NetworkAdapter                    DriverFile
Onbrd  Intel EtherExpress PRO 10/100(+)  E100BNEU.OMF
```

3. [Enter] キーを押して Driver を設定します。
4. [F3] キーを押して設定を保存します。
5. [Esc] キーを押して RomPilot セットアップを終了します。

6　インストール／アンインストール

■ インストール

管理端末に RemoteControlService/LAN をインストールするには、次の操作を行います。

ポイント　**インストール中にエラーメッセージが表示された場合は、インストールが正しく行われていません。この場合には、インストールされていないソフトウェアが正しくインストールされるように対処し、もう一度インストールし直す必要があります。**

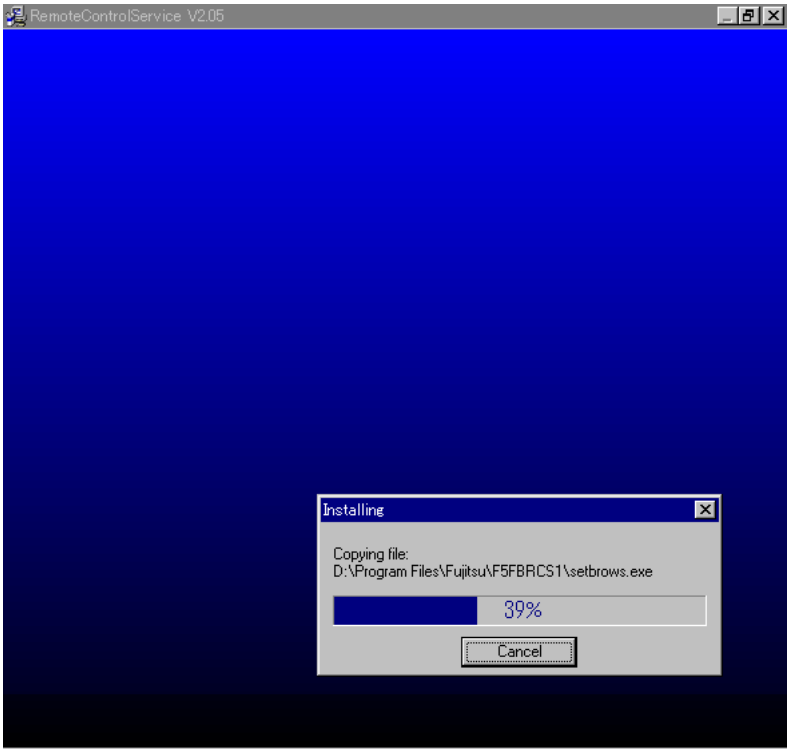
1　**管理者または管理者と同等の権限をもつユーザ名でログインします。**

2　**実行中のアプリケーションをすべて終了させます。**

3　ServerView **の** CD-ROM **から、次のプログラムを起動します。**

<CD-ROM **のドライブ** >:¥SVMANAGE¥JAPANESE¥RCS¥SETUP.EXE

インストール画面が表示されます。



インストールが完了すると、インストール画面が自動的に終了します。

■ アンインストール

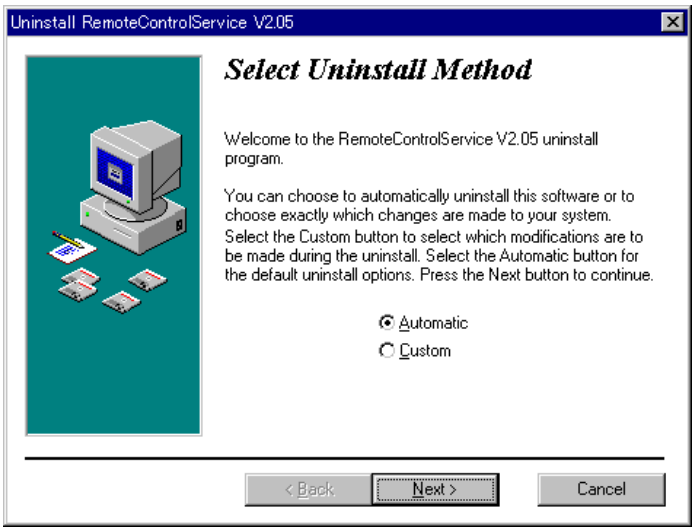
管理端末から RemoteControlService/LAN をアンインストールするには、次の操作を行います。

ポイント

アンインストールを行う時に、途中で処理を中断したり下記手順以外の操作を行うと、正しくアンインストールされません。アンインストールは最後まで確実に行ってください。

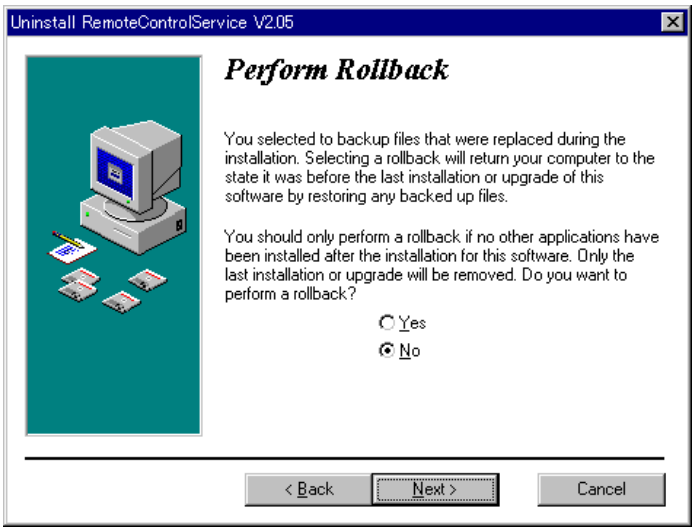
1 **[スタートボタン] ー [プログラム] ー [Fujitsu RemoteControlService] ー [Uninstall Fujitsu RemoteControlService] をクリックします。**

次の画面が表示されます。



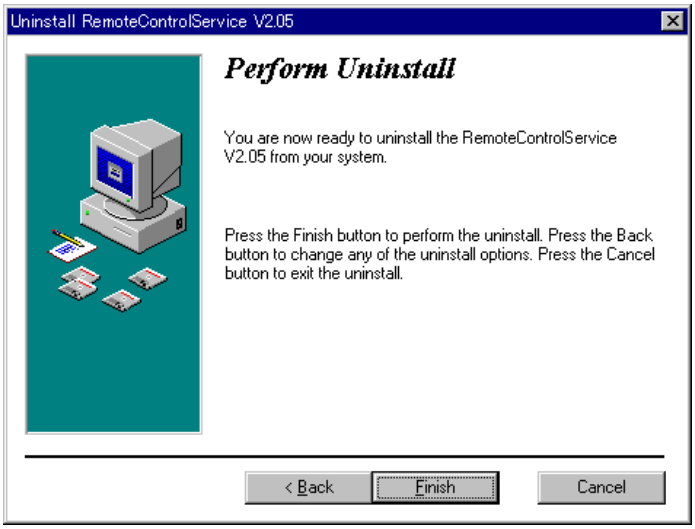
2 **「Automatic」を選択し、[Next] をクリックします。**

次の画面が表示されます。



3 **「No」を選択し、[Next] をクリックします。**

次の画面が表示されます。



4 **[Finish] をクリックすると、アンインストールが開始されます。**

アンインストールが終了すると、アンインストール画面が自動的に終了します。

7 RemoteControlService/LAN の起動と終了

■ 起動

RemoteControlService/LAN を起動するには、[スタート] ー [プログラム] ー [Fujitsu RemoteControlService] ー [Fujitsu RemoteControlService LAN] をクリックします。

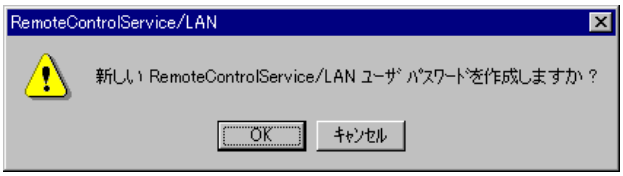
ポイント

- **初めて** RemoteControlService/LAN **を起動すると、**RemoteControlService/LAN **データディレクトリのフルパスを入力するように求められます。**

このデータディレクトリには、ヒストリファイルやメッセージログファイルなどのデータが保存されます。また、データファイルは RemoteControlService/LAN **を起動したユーザごとに保存されるため、サブディレクトリ＜ユーザ名＞がデータディレクトリに作成されます。データディレクトリ用の標準パス名が候補として表示されますので、変更しない場合はそのまま［OK］ボタンを押してください。変更する場合はフルパス名を入力して、［OK］ボタンをクリックしてください。**
［キャンセル］ボタンをクリックすると、RemoteControlService/LAN **は起動されません。**

ポイント

- **初めて** RemoteControlService/LAN **を起動すると、**RemoteControlService/LAN **ユーザパスワードの作成を求められます。**



  [OK] ボタンをクリックして、RemoteControlService/LAN **ユーザパスワードを作成してください。[キャンセル] ボタンをクリックすると、**RemoteControlService/LAN **は起動されません。**
  RemoteControlService/LAN **ユーザパスワードの作成方法については、「■ ユーザパスワード」（→** 194 **ページ）を参照してください。**

- RemoteControlService/LAN **を起動すると、「警告：ヒストリログファイルのサイズが大きすぎます。古いログを削除してください。」というメッセージが表示されることがあります。**
  この場合、[OK] **ボタンを押し、パスワードを入力した後、**[**表示**] - [**ヒストリログ**] **メニューを選択し、ログを確認してください。もし、不要なログがあれば、**[**削除**] **ボタンで削除することをお勧めします。ただし、**RemoteControlService **のデータディレクトリがあるディスクの空き容量に余裕がある場合は、ログを削除する必要はありません。**

■ 終了

RemoteControlService/LAN を終了するには、[ファイル] ー [閉じる] を選択してください。

8 RemoteControlService/LAN の使用

ここでは、RemoteControlService/LAN のメニューおよび使用方法の概略について説明します。RemoteControlService/LAN の操作方法の詳細については、該当するオンラインヘルプを参照してください。

ポイント

RemoteControlService/LAN の起動方法については、「「7 RemoteControlService/LAN の起動と終了」（→ 188 ページ）を参照してください。

RemoteControlService/LAN のメニュー

ここでは、RemoteControlService/LAN のメニューについて説明します。

RemoteControlService/LAN を起動し、メインウィンドウを開きます。

メインウィンドウでは、サーバへの接続を確立し、次のようなサーバ管理タスクを実行できます。

- サーバの追加と削除
- サーバのプロパティとデフォルト値の定義
- RemoteControlService/LAN とサーバとの接続
- サーバのリブートとリセットのオプション定義

■ ［ファイル］メニュー

［ファイル］メニューには、次のメニュー項目があります。

メニュー項目	説明
新規 ...	新規に追加するサーバのサーバ名と IP アドレスを入力します。
開く ...	サーバリストから目的のサーバを選択し、接続を確立します。
閉じる	選択したサーバへの接続を閉じます。リモートコンソールウィンドウも閉じられます。
削除 ...	サーバリストからサーバを削除します。
プロパティ ...	サーバのプロパティ（名前、IP アドレス、デバイスアドレスなど）を設定します。
デフォルト ...	サーバプロパティのデフォルト値を定義します。

メニュー項目	説明
設定 ...	データディレクトリやユーザパスワードなどを設定します。
終了	RemoteControlService/LAN を終了し、サーバへの接続を閉じます。接続がアクティブな場合、接続を閉じるかどうかの確認をまず求められます。

表 15：［ファイル］メニュー

■ ［表示］メニュー

［表示］メニューには、次のメニュー項目があります。

メニュー項目	説明
ツールバー	画面の上部にあるツールバーの表示と非表示を切り替えます。
ステータスバー	画面の下部にあるステータスバーの表示と非表示を切り替えます。
オブジェクトサマリ	サーバリストにあるすべてのサーバの現在のステータスを表示します。
ヒストリログ	すべてのアクションが記録されているヒストリファイルを表示します。
メッセージログ	すべてのメッセージが記録されているメッセージファイルを表示します。 Telnet ウィンドウまたはリモートコンソールウィンドウが開いているときには、この項目は表示されません。

表 16：［表示］メニュー

■ ［リセット／リブート］メニュー

［リセット／リブート］メニューは、リモートコンソールウィンドウがアクティブになっているときにのみ表示されます。

サーバに接続すると、［リセット／リブート］メニューのメニュー項目がアクティブになります。

［リセット／リブート］メニューには、次のメニュー項目があります。

メニュー項目	説明
コールドリセット	サーバを再起動します。
リセットして診断システムの起動 （RomPilot を継続する）	RemoteControlService/ 診断システムを使用して、サーバを IDE ストレージメディアからブートします（BIOS セットアップで定義したブート順序に関係なく）。 注：本機能は、サポートされていません。
次回のリセットオプション	次にシステムを開始するときの設定を定義します。この項目では、リモートドライブからの次のリスタートも定義できます。

メニュー項目	説明
ウェイクアップ	サーバのネットワークアダプタが Wakeup On LAN（WOL）をサポートしていると、管理端末から LAN 経由でサーバの電源を入れることができます。サーバの WOL 機能については、サーバの取扱説明書を参照してください。
次回接続時に一時停止	次の接続時に、BIOS POST を一時停止します。BIOS POST を再開するには、[実行（RomPilot をアンロードする）] を選択してください。

表 17：［リセット／リブート］メニュー

■ ［ウィンドウ］メニュー

サーバリストからサーバを選択すると、［ウィンドウ］メニューがアクティブになります。
［ウィンドウ］メニューには、次のメニュー項目があります。

メニュー項目	説明
重ねて表示	開いているウィンドウを重ねて表示ます。
並べて表示	開いているウィンドウを並べて表示します。
アイコンの整列	アイコンを整列します。
すべて閉じる	開いているウィンドウをすべて閉じます。

表 18：［ウィンドウ］メニュー

■ ［ヘルプ］メニュー

［ヘルプ］メニューには、次のメニュー項目があります。

メニュー項目	説明
概要	RemoteControlService/LAN の概要
新機能	新しい機能の概要
トピックの検索	RemoteControlService/LAN のヘルプシステムを呼び出します。
ヘルプの使い方	ヘルプを使用するためのヘルプです。
RemoteControlService/LAN オンラインマニュアル	オンラインマニュアルへのリンクです。
Fujitsu と連絡をとるには	Fujitsu への連絡方法。
RemoteControlService/LAN について	使用している RemoteControlService/LAN のバージョン情報を表示します。

表 19：［ヘルプ］メニュー

RemoteControlService/LAN のポップアップメニュー

ここでは、右クリックで開くことができる、RemoteControlService/LAN のポップアップメニューについて説明します。サーバの現在のステータスによっては、利用できないメニュー項目もあります。

メニュー項目	説明
RomPilot リモートコンソールウィンドウ	
閉じる	RomPilot リモートコンソールウィンドウを閉じます。
接続	サーバに接続します。
接続／セットアップ	サーバに接続し、BIOS セットアップを起動します。
切断	サーバへの接続を切断します。リモートコンソールウィンドウは開いたままです。
ウェイクアップ	サーバのネットワークアダプタが Wakeup On LAN（WOL）をサポートしていると、管理端末から LAN 経由でサーバの電源を入れることができます。サーバの WOL 機能については、サーバの取扱説明書を参照してください。
ディスクイメージの変更	リモートドライブでブートしている場合に、フロッピィ / イメージファイルを変更します。
プロパティ	目的のサーバプロパティ（名前、IP アドレス、デバイスアドレスなど）を定義します。
実行 （RomPilot を継続する）	［POST の一時停止］または［次回接続時に一時停止］により、サーバが POST 段階で一時停止した場合、［実行（RomPilot を継続する）］を使用すると継続できます。この機能を使用するのは、サーバが診断モードで稼動している場合だけにしてください。 注：診断モードはサポートされていません。
実行 （RomPilot をアンロードする）	［POST で一時停止］または［次回接続時に一時停止］により、サーバが POST 段階で一時停止した場合、［実行（RomPilot を継続する）］を使用すると継続できます。
直前の画面を復旧	直前に表示されていたリモートコンソールウィンドウが復旧されます。
画面の消去	［直前の画面を復旧］で表示されたリモートコンソールウィンドウをクリアします。
色の変更	リモートコンソールウィンドウの色パレットを変更します。
コールドリセット	サーバを再起動します。
リセットして診断システムを起動（RomPilot を継続する）	RemoteControlService/ 診断システムを使用して、サーバを IDE ストレージメディアからブートします（BIOS セットアップで定義したブート順序に関係なく）。 注：本機能は、サポートされていません。
次のリセットのオプション	次にシステムを再起動するときの設定を定義します。ここでは、リモートドライブからの次の再起動も定義できます。
次回接続時に一時停止	次の接続のセットアップ時に、実行コマンドが入力されるまで BIOS POST を中断します。
RCM ウィンドウ	
閉じる	RCM ウィンドウを閉じます。
切断	サーバへの接続を切断します。 RCM ウィンドウは開いたままです。
再接続	サーバへの接続を切断し、サーバを再起動します。

メニュー項目	説明
プロパティ	目的のサーバプロパティ（名前、IP アドレスなど）を定義します。
直前の画面を復旧	直前に表示されていた RCM ウィンドウ画面が表示されます。
再描画	RCM ウィンドウを再描画します。
画面の消去	RCM ウィンドウを消去します。
コールドリセット	サーバを再起動します。 Console Redirection の設定は、Disabled に変更されます。
電源 OFF	サーバの電源を OFF します。
次回接続時 BIOS Setup に入る	次の接続時に、BIOS セットアップを起動します。 「再接続」との併用はできません。
次のリセットオプション	次にシステムを再起動するときの設定を定義します。ここでは、リモートドライブからの再起動も定義できます。
ヘルプ	オンラインヘルプを表示します。
Telnet リモートマネージャウィンドウ	
閉じる	Telnet リモートマネージャウィンドウを閉じます。
接続	サーバに接続します。
切断	サーバへの接続を切断します。
エスケープシーケンスを送出する	サーバにエスケープシーケンスを出力します。
プロパティ	サーバプロパティを定義します。

表 20：ポップアップメニュー

パスワード保護

サーバへの不正なリモートアクセスを防ぐため、RemoteControlService にはパスワード保護機能があります。RemoteControlService には、ユーザパスワードとサーバパスワードの 2 つのパスワードが必要です。

■ ユーザパスワード

ユーザパスワードは、RemoteControlService/LAN にログインする場合の認証に使用します。

(1) ユーザパスワードの作成

初めて RemoteControlService/LAN を開始すると、パスワードの入力と確認をするよう求められます。

1 ［OK］をクリックします。

2 パスワードの入力、パスワード確認の入力後、［OK］をクリックします。

(2) ユーザパスワードの変更

ユーザパスワードを変更するには、次の手順に従います。

1 **［ファイル］-［設定］-［ユーザパスワード］メニュー項目を選択します。**

2 **古いパスワードを入力して、［OK］をクリックします。**

3 **新しいパスワードを入力して、［OK］をクリックします。**

ポイント　**ログイン時にパスワードを指定せずに、［キャンセル］をクリックすると、新しいパスワードを入力できます。ただし、サーバリストは削除されます。**

■ サーバパスワード

サーバパスワードは、RemoteControlService/LAN を使用してサーバの RomPilot/RCM にアクセスするために必要です。

サーバパスワードは、RomPilot セットアップまたはサーバの BIOS セットアップメニューで設定します（RomPilot セットアップの詳細については、「5 RomPilot の設定」（→ 180 ページ）を参照してください）。

パスワードは接続の確立ごとに必要になり、サーバの POST 時で入力する必要があります。POST の時間は、サーバのハードウェア構成によって異なります。

(1) パスワードプロンプトの無効化

サーバパスワードのプロンプトを無効にすると、接続の確立ごとにサーバパスワードを改めて入力する必要がなくなります。

ポイント　**RemoteControlService/LAN にサーバパスワードを保存してから、サーバパスワードプロンプトを無効にすると、サーバパスワードの入力を求められずに接続が確立されるようになります（保存方法は、「(2) RemoteControlService/LAN へのサーバパスワードの保存」（→ 196 ページ）を参照してください）。**

⚠注意　**パスワードプロンプトを無効にすると、セキュリティの危険を招く場合があることを忘れないでください。**

1 **［ファイル］-［プロパティ］を選択して表示されるサーバリストから、パスワードプロンプト無効にするサーバを選択します。**

サーバとの接続が確立されている場合は、そのサーバのプロパティが表示されます。

2 **［BIOS 拡張機能］タブをクリックします。**

3 **［接続するごとにパスワードを要求する］のチェックボックスをオフにします。**

(2) RemoteControlService/LAN へのサーバパスワードの保存

サーバパスワードは、RemoteControlService/LAN に保存できます。サーバパスワードを保存し、［接続するごとにパスワードを要求する］を無効にすると、サーバへの接続の確立時にパスワードプロンプトを非表示にできます。

1 **［ファイル］-［プロパティ］を選択して表示されるサーバリストから、パスワードを保存するサーバを選択します。**

サーバとの接続が確立されている場合は、そのサーバのプロパティが表示されます。

2 **［BIOS 拡張機能］タブをクリックし、［パスワードの入力］をクリックします。**

3 **パスワードを入力し、［OK］をクリックします。**

ポイント RomPilot **セットアップ時に定義したサーバパスワードは変更されません。**

リモートサーバの管理

RemoteControlService/LAN を使用してサーバをリモートで管理するには、サーバの RomPilot/RCM またはリモートサービスボード（Telnet）に接続します。

■ サーバの追加

サーバリストにサーバが登録されていない場合は、追加してください。

1 **［ファイル］-［新規］を選択するか、またはツールバーにある次のアイコンをクリックします。**

2 **新しいサーバの IP アドレスを入力し、オブジェクトタイプ（スタンダードサーバ／ブレードサーバ／拡張キャビネット）を選択し、［プロパティ］をクリックします。**

3 **［共通］ページで、サーバ名を入力します。**

4 **サーバにリモートサービスボードを取り付けている場合は、［デフォルト設定を使用］のチェックをはずし、［Telnet］をチェックし、［Telnet］ページの［接続先 IP アドレス］に、リモートサービスボードの IP アドレスを入力し、［OK］をクリックします。**

またこのとき、リダイレクションポートにはリモートサービスボードの [LAN Interface]-[Telnet Port] に設定したポート番号を設定してください。

リモートサービスボードのデフォルトは 2307 になっています。

5 **ブレードサーバを追加する場合は [Telnet] ページの［接続先 IP アドレス］にマネジメントブレードの IP アドレスを入力し、［OK］をクリックします。**

またこのとき、リダイレクションポートにはマネジメントブレードに設定しているポート番号を設定してください。マネジメントブレードのデフォルトは 3172 になっています。

■ サーバのリモートウィンドウを開く

サーバリストに登録されているサーバのリモートコンソールウィンドウを開くには、次の手順に従います。

1 **［ファイル］-［開く］を選択するか、またはツールバーにある次のアイコンをクリックします。**

2 **サーバリストから目的のサーバを選択し、［開く］をクリックします。**

リモートコンソールウィンドウが開きます。

ポイント

RemoteControlService は、サーバの RomPilot/RCM またはリモートサービスボードに接続することができます。

- **RomPilot に接続する場合**
  ［ファイル］－［プロパティ] をクリックし、［共通］ページで［BIOS 拡張機能の使用（Server)］をチェックし、［RomPilot］をチェックします。［RomPilot］ページの［UUID］と［MAC アドレス］は、RomPilot と接続すると自動的に入力されます。
- **RCM に接続する場合**
  ［ファイル］－［プロパティ］をクリックし、［共通］ページで［BIOS 拡張機能の使用（Server)］をチェックし、［RCM］をチェックします。
- **リモートサービスボードに接続する場合**
  ［ファイル］－［プロパティ］をクリックし、［共通］ページで［デフォルト設定を使用］のチェックをはずし、［Telnet］をチェックし、［Telnet］ページの［セカンダリ IP アドレス］に、リモートサービスボードの IP アドレスを入力します。

■ サーバへの接続

サーバの選択が完了したら、次の手順でサーバに接続します。

1 **リモートサービスボードまたはブレードサーバに接続する場合は、リモートウィンドウで右クリックし、ポップアップメニューの［接続］を選択するか、ツールバーにある次のアイコンをクリックします。**

RomPilot リモートコンソールウィンドウまたは RCM ウィンドウの接続は、サーバの POST 開始時にサーバからの SNMP トラップの送信によって開始されます。

RomPilot に接続する場合は、［接続／セットアップ］を選択して、BIOS セットアップを起動することもできます。

2 **RomPilot/RCM に接続した場合は、サーバパスワードを入力します（「■ サーバパスワード」（→ 195 ページ）も参照してください）。**

リモートサービスボードに接続した場合は、リモートサービスボードのユーザアカウントを入力します。（「リモートサービスボード（Telnet）のサポート」の「■ リモートサービスボードへの接続」（→ 201 ページ）参照）

■ サーバへの接続を終了する

サーバと RemoteControlService/LAN との接続を終了するには、次の手順に従います。

1 **右クリックし、ポップアップメニューの［切断］を選択するか、ツールバーにある次のアイコンをクリックします。**

サーバへの接続は閉じられますが、ウィンドウは開いたままです。

管理端末からのサーバの BIOS セットアップ

ここでは、RemoteControlService/LAN を使用し、LAN 経由でサーバの BIOS セットアップを起動する方法について説明します。

ポイント　**次のシナリオを実行するには、サーバを再起動する必要があります。サーバの OS が動作している場合は、ServerView を使用して、管理端末からサーバを再起動することができます。**

サーバリストにサーバが登録されていない場合は、「■ サーバの追加」（→ 196 ページ）を参照してサーバを追加してください。

1 **［ファイル］-［開く］を選択するか、またはツールバーにある次のアイコンをクリックします。**

2 **サーバリストから目的のサーバを選択し、［開く］をクリックします。**

3 **RomPilot リモートコンソールウィンドウで右クリックして、ポップアップメニューの［接続／セットアップ］を選択するか、または RCM ウィンドウで右クリックしてポップアップメニューの［次回接続時 BIOS Setup に入る］を選択します。**

4 **サーバを起動または再起動します。**

5 **サーバパスワードを入力します。**

（「■ サーバパスワード」（→ 195 ページ）を参照してください）
サーバとの接続が確立されると自動的に［F2］キーの入力がサーバに送信されます。

6 **サーバの POST 後に、サーバの BIOS セットアップが表示されます。**

管理端末からのサーバのブート

ここでは、RemoteControlService/LAN による、サーバのブート動作の制御方法について説明します。

■ RemoteControlService/LAN によるサーバ電源投入

ポイント

- **RemoteControlService/LAN を使用してサーバの電源を投入するには、サーバのネットワークアダプタが Wakeup On LAN（WOL）をサポートしていて、LAN 経由の電源投入が「Enabled」に設定されているか、またはサーバにリモートサービスボードが取り付けられているか、サーバがブレードサーバである必要があります。サーバの WOL 機能および設定については、サーバの取扱説明書を参照してください。**
- **RemoteControlService/LAN からサーバの電源を投入するには、そのサーバが RemoteControlService/LAN のサーバリストに入っていて、接続が確立されたことがある必要があります。**

サーバの電源投入は、以下の手順で行います。

WOL を使用する場合

1 **［ファイル］-［開く］を選択するか、またはツールバーにある次のアイコンをクリックします。**

2 **サーバリストから目的のサーバを選択し、［開く］をクリックします。**

3 **右クリックしてポップアップメニューの［ウェイクアップ］を選択するか、または［リセット／リブート］-［ウェイクアップ］を選択します。**

リモートサービスボードを使用する場合

「リモートサービスボード（Telnet）のサポート」の「■ サーバの保守」（→ 203 ページ）を参照してください。

■ リモートドライブからのサーバのブート

RemoteControlService/LAN と RomPilot/RCM を使用すると、リモートドライブからサーバをブートすることができます。

リモートドライブとは、管理端末のフロッピィディスクまたはイメージファイルです。

ポイント

- **リモートドライブからサーバをブートした場合、**MS-DOS **動作時もサーバをリモートコントロールできます。**
- **イメージファイルは、フロッピィディスクの内容をハードディスクにコピーしたものです。**
  このイメージファイルは、RemoteControlService/LAN **で作成できます。**
  ([**ファイル**] − [**プロパティ**] − [**リモートドライブ**] − [**イメージファイルの作成／コピー**]**)**
- **リモートドライブ機能を利用するには、**RomPilot/RCM **を使用する必要があります。**
  リモートサービスボードに接続しても、リモートドライブ機能は利用できません。
- RCM **はフロッピィディスクからのリモートドライブはサポートしていません。**
  RCM **でリモートドライブをご使用になるには、イメージファイルを作成して、イメージファイルから起動する設定にしてください。**

リモートドライブからのサーバのブートは、次の手順で行います。

1 **［ファイル］-［開く］を選択するか、またはツールバーにある次のアイコンをクリックします。**

2 **サーバリストから目的のサーバを選択し、［開く］をクリックします。**

3 **右クリックして、ポップアップメニューの［次回接続時に一時停止］（**RCM **の場合は、**[**次回接続時** BIOS Setup **に入る**]**）を選択します。**

4 **サーバを起動または再起動します。**

5 **サーバパスワードを入力します。**
（「■ サーバパスワード」（→ 195 ページ）を参照してください。）
サーバと接続されると、自動的にサーバの POST が一時停止します。

6 **［リセット／リブート］-［次回のリセットのオプション］を選択するか、右クリックして、［次回のリセットのオプション］を選択します。**

7 **［リモートドライブオプション］をクリックします。**

8 **［デフォルト設定を使用］のチェックをはずして、［フロッピー** A:**］または［イメージファイル］を選択し、［**OK**］をクリックします。**
［イメージファイル］を選択した場合は、イメージファイルを入力するか、［参照］でイメージファイルを指定します。

9 **［リモートドライブを有効にする］をチェックし、［コールドリモートブート］をクリックします。**
サーバが、リモートドライブから再起動します。

10 **サーバパスワードを入力します。**

サーバは、POST 後にリモートドライブから起動します。リモートウィンドウには、リモートドライブを示す RD が表示されます。

リモートサービスボード（Telnet）のサポート

ここでは、RemoteControlService/LAN による、リモートサービスボードのサポートについて説明します。

■ リモートサービスボードへの接続

リモートサービスボードには、リモートマネージャと呼ばれる Telnet インタフェースがあり、RemoteControlService/LAN から接続することができます。特に Telnet を使用すると、安全なコンソールリダイレクションをテキストモードで利用できます。
以下のサーバでは、Web インタフェースを使用してコンソールリダイレクションを利用できます（RemoteControlService/LAN では、コンソールリダイレクションを利用できません）。詳細は、リモートサービスボードの章を参照してください。

- PRIMERGY T850

リモートマネージャウィンドウでは、対象となるサーバに関する情報を確認できます。情報の中には、システム名のように、初めて ServerView エージェントを起動した後や、サーバが正しく設定された場合しか表示されないものもあります。
リモートマネージャを使用できるようにするには、リモートサービスボードのユーザアカウントでログインする必要があります。ログインすると、このイベントがイベントログに記録され、リモートマネージャのメインメニューが表示されます（「■ リモートマネージャメインメニュー（サーバ）」（→ 202 ページ））。
ユーザ名とパスワードのデフォルト値は、「ユーザ名（root ）」、「パスワード（fsc ）」です。ユーザ名「root」とパスワード「fsc」を入力すると、最初に今後もこのパスワードを使用するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。次に、リモートマネージャのメインメニューが表示されます。
［Ctrl］+［D］キーを押すと、いつでもログインプロセスを終了できます。

RemoteControlService/LAN から、リモートサービスボードへの接続は、以下の手順で行います。

1 **［ファイル］－［プロパティ］をクリックし、サーバのプロパティウィンドウを開きます。**

2 **［共通］ページで［デフォルト設定を使用］のチェックをはずし、［Telnet］をチェックし、［Telnet］ページの［セカンダリ IP アドレス］に、リモートサービスボードの IP アドレスを入力します。**

リモートサービスボードの Telnet ポート番号を変更している場合は、［デフォルト設定を使用］のチェックをはずして、［リダイレクションポート］に Telnet ポート番号を入力します。

3 **［OK］をクリックします。**

4 **［ファイル］－［開く］をクリックし、サーバを選択し、［開く］をクリックします。**

タイトルバーに「RSB」と表示された、リモートマネージャウィンドウが開きます。

5 **右クリックして、［接続］をクリックします。**

6 **リモートサービスボードのユーザ名とパスワードを入力します。**

■ リモートマネージャメインメニュー（サーバ）

サーバのリモートマネージャのメインメニューには、以下の項目があります。
また、ここで表示されるメニューはサーバにより異なります。サーバごとに使用可能なメニューが表示されます。
メニューはすべて英語です。

メニュー項目	説明
Console Redirection	**コンソールをリダイレクトするときに使用します。**
Console History	**記録されたコンソールの内容を表示するときに使用します。**
Remote Maintenance	**サーバの電源状態を制御するとき、リモートサービスボードのエラーログやイベントログのメッセージを確認するときに使用します。**
Enclosure Information...	**サーバ内の温度／電圧などの情報が表示されます。当メニューは、以下のサーバで表示されます。** • PRIMERGY T850
View T-850 VPDs (Vital Product Data)	PRIMERGY T850 **の** Vital Product Data **が表示されます。** **当メニューは、以下のサーバで表示されます。** • PRIMERGY T850
Change password	**パスワードを変更するときに使用します。**
Firmware Update	**ファームウェアをアップデートするときに使用します（当機能は未サポートです。また、当項目はファームウェアのバージョンに依存します）。**

カッコ内の番号や文字を入力すると、メニューの項目を選択できます。ユーザに使用が許可されていない機能には（-）が表示され、利用できない機能には（*）が表示されます。

[0] キーを押すと上位メニューへ移行します。最上位メニューの場合はリモートサービスボードとの接続を切断します。

このイベントは、リモートサービスボードのイベントログに記録されます。

■ コンソールリダイレクション

リモートサービスボードのコンソールリダイレクションによって、サーバの画面およびキーボード操作を、リモートコンソールへリダイレクトできます。
コンソールリダイレクションによって次の操作ができます。

- POST 中の画面表示
- BIOS セットアップ
- オペレーティングシステムがクラッシュした場合には、最新の内容とまだ表示可能な画面（テキストモード）を表示し、システムを復旧する。

コンソールリダイレクションを選択すると、サーバの画面がリモートマネージャウィンドウに転送されます。キーボードから入力する内容は、サーバのキーボードコントローラに送られます。
コンソールリダイレクションは、ティルデ（~）とピリオド（.）を 2 秒以内に続けて入力すると終了します。

■ 保存したコンソールの内容の表示

サーバを再起動したり画面の解像度を変更したりすると、直前の画面の内容はリモートサービスボードの 2 つのバッファの一方に保存されます。メニュー項目の［Console History］を選択すると、最近保存された画面の内容が表示されます。どれかキーを押すと、もう一方のバッファに保存された画面の内容が表示されます。この表示は、コンソールリダイレクション中の画面表示と同じ内容です。もう一度どれかキーを押すと、Remote Manager のメインメニューに戻ります。

■ サーバの保守

メインメニューの［Remote Maintenance...］を選択すると、以下のメニューが表示されます。

メニュー項目	説明
Immediate Power Off	**オペレーティングシステムの状態に関係なく、サーバの電源を切断します。**
Immediate Reset	**オペレーティングシステムの状態に関係なく、サーバを再起動します。**
Graceful Power Off	**サーバをシャットダウンします。リモートサービスボードが、シャットダウン要求をサーバの ServerView エージェントに送信しようとします。エージェントがインストールされていないなどの理由で要求を送信できない場合は、リモートマネージャは別のダイアログに進み、オペレーティングシステムの状態に関係なくサーバをシャットダウン（Immediate Power Off）するかどうかを尋ねるメッセージを表示します。**

メニュー項目	説明
Graceful Reset	サーバを再起動します。リモートサービスボードが、リセット要求をサーバの ServerView エージェントに送信しようとします。エージェントがインストールされていないなどの理由で要求を送信できない場合は、リモートマネージャは別のダイアログに進み、オペレーティングシステムの状態に関係なくサーバをリセット（Immediate Reset）するかどうかを尋ねるメッセージを表示します。
Power On	サーバの電源を投入します。
Raise NMI	保守員専用の機能です。選択しないでください。 選択した場合には、実行するかどうかをたずねるメッセージを表示しますので、「no」を指定してください（当項目は、サーバに依存します）。
View Eventlog	リモートサービスボードのイベントログの内容が、時間順に（最後のエントリが先頭）画面表示されます。
View Errorlog	リモートサービスボードのエラーログの内容が、時間順に（最後のエントリが先頭）画面表示されます。
Clear Error/Eventlog	リモートサービスボードのエラーログとイベントログの内容を削除します。
Firmware Update	ファームウェアをアップデートするときに使用します（当機能は未サポートです。また、当項目はファームウェアのバージョンに依存します）。
Configure IP Parameters	リモートサービスボードの IP address/Subnet Mask/GateWay address を変更するときに使用します（当項目は、ファームウェアのバージョンに依存します）。

■ サーバの情報表示

メインメニューの［Enclosure Information...］を選択すると、以下のメニューが表示されます。

メニュー項目	説明
View Eventlog	リモートサービスボードのイベントログの内容が、時間順に（最後のエントリが先頭）画面表示されます。
View Errorlog	リモートサービスボードのエラーログの内容が、時間順に（最後のエントリが先頭）画面表示されます。
Clear Error/Eventlog	リモートサービスボードのエラーログとイベントログの内容を削除します。
Temperature	温度に関する情報が表示されます。
Voltages	電圧に関する情報が表示されます。
Fans	ファンに関する情報が表示されます。
Power Supplies	電源に関する情報が表示されます。

■ リモートマネージャメインメニュー（拡張ディスク装置）

拡張ディスク装置のリモートマネージャのメインメニューには、以下の項目があります。
メニューはすべて英語です。

メニュー項目	説明
RAID Configuration 1	**当機能は使用しないでください。**
RAID Configuration 2	**当機能は使用しないでください。**
Remote Maintenance	**以下のときに使用します。** • **拡張ディスク装置の電源状態を制御するとき** • **エラーログやイベントログのメッセージを確認するとき** • **ファームウェアをアップデートするときに**
System Cofiguration	**拡張ディスク装置のシステム構成を確認するときに使用します。**
Change password	**パスワードを変更するときに使用します。**

カッコ内の番号や文字を入力すると、メニューの項目を選択できます。
[0] キーを押すと上位メニューへ移行します。最上位メニューの場合はリモートサービスボードとの接続を切断します。
このイベントは、リモートサービスボードのイベントログに記録されます。

■ RAID コンフィグレーション 1

当機能は使用しないでください。

■ RAID コンフィグレーション 2

当機能は使用しないでください。

■ 拡張ディスク装置の保守

拡張ディスク装置のメインメニューの [Remote Maintenance...］を選択すると、次のメニューが表示されます。

メニュー項目	説明
Power Off	**拡張ディスク装置の電源を切断します（拡張ディスク装置動作時使用禁止）。**
Power On	**拡張ディスク装置の電源を投入します。**
View Eventlog	**拡張ディスク装置リモートサービスボードのイベントログの内容が、時間順に（最後のエントリが先頭）画面表示されます。**
View Errorlog	**拡張ディスク装置リモートサービスボードのエラーログの内容が、時間順に（最後のエントリが先頭）画面表示されます。**
Clear Error/Eventlog	**拡張ディスク装置リモートサービスボードのエラーログとイベントログの内容を削除します。**

メニュー項目	説明
Firmware Update	拡張ディスク装置リモートサービスボードのファームウェアを更新します（当機能は未サポートです）。
Configure IP Parameters	リモートサービスボードの IP address/Subnet Mask/GateWay address を変更するときに使用します（当項目は、ファームウェアのバージョンに依存します）。

■ 拡張ディスク装置システム構成の確認

拡張ディスク装置のメインメニューの [System Configuration...] を選択すると、以下のメニューが表示されます。

メニュー項目	説明
Enclosure Cofiguration	拡張ディスク装置内の電源、ファン、ディスクなどのコンポーネントの数を表示します。
Power Supply	拡張ディスク装置内電源の状態を表示します。
Temperature	拡張ディスク装置内温度の状態を表示します。
Fans	拡張ディスク装置ファンの状態を表示します。
Door Lock	拡張ディスク装置ドアロックの状態を表示します。
Chassis Identification	拡張ディスク装置の筐体 ID を表示します。
Hard Disks	拡張ディスク装置内ハードディスクの状態を表示します。
Fibre Channel Port Bypass	ファイバーチャネルのバイパス状態を表示します。
Disk Array Controller	ディスクアレイコントローラの状態を表示します。
DAC-GBIC-State	GBIC Node の状態を表示します。

10 バックグラウンド情報

1 エージェントと管理コンソール

ネットワーク、システム、およびアプリケーションの管理の背後には、ネットワークコンポーネントから提供される管理情報にアクセスできるのは管理コンソールであるという基本的な考え方があります。つまり、ネットワーク、システム、およびアプリケーションに関連する情報はすべて、管理コンソールによって提供されているのです。この管理コンソールとは、通常ネットワークの 1 つのシステムにインストールされるソフトウェアパッケージのことです。

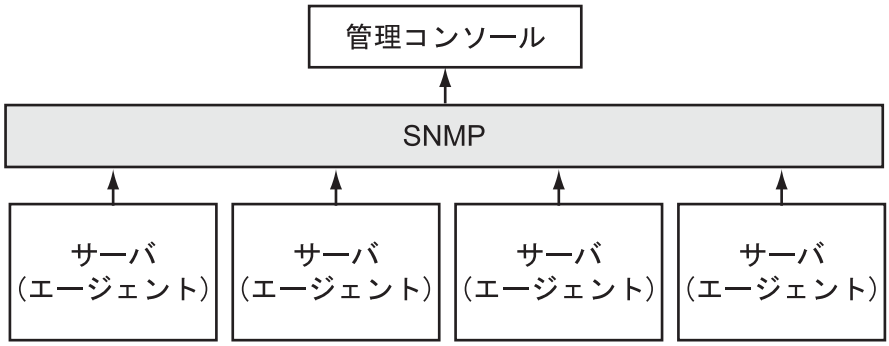


図 30：エージェントと管理コンソール

管理コンソールとネットワークコンポーネントとの間で交換される情報は、大まかに次の 2 つのカテゴリに分類することができます。

- 管理コンソールがネットワークコンポーネントに送信するジョブ。たとえば、アクションの開始やシステム利用のクエリを実行する命令など。
- ネットワークコンポーネントから管理コンソールへの自発的メッセージ。たとえば、コンポーネントのステータスを管理コンソールに通知するメッセージなど。

この管理情報のレイアウトと管理情報の交換規則を正式に定義する必要があります。この定義を管理プロトコルと呼びます。SNMP（Simple Network Management Protocol）が標準の管理プロトコルです。

管理コンソールでは、このプロトコルに基づいて通信できる監視対象ネットワークコンポーネント側に、同じような機能を持つものを必要とします。この管理コンソールと同様の機能を持っているものがエージェントです。エージェントは、ローカルのリソースとコンポーネントにアクセスでき、プロトコルを使用すると情報にもアクセスできます。この管理コンソールとエージェントとの相互関係は、管理コンソールとエージェントの原則とも呼ばれます。

エージェントは、OS 依存のソフトウェアで、ネットワークのサーバすべてにインストールする必要があります。エージェントには次の特性があります。

- プログラムとしては、きわめて小さく効果的である必要がある。エージェントの存在がコンポーネントそのものに影響を与えないように、大量のシステムリソースの使用は許されていない。

- 標準機能として、管理コンソールと通信する基本的な機能を備えている。
- 管理コンソールに対しては、影響を受けるネットワークコンポーネントとそれに関係する特性の代理となる。
- ネットワークの管理コンセプトに簡単に統合できる。

2 Management Information Base

管理コンソールとエージェントとの通信では、共通の管理プロトコルの実装が必要な要件となります。また、管理コンソールとそれに対応するエージェントは、どの情報の提供および要求が可能であるか、合意していなければなりません。したがって、リソース監視用の管理モデルが一致している必要があります。

管理モデルが一致すると、管理コンソールからエージェントに送信されたジョブが、受信したエージェントによって実行できることも保証されます。逆に言えば、管理コンソールは、ネットワークの特定のイベントに関連しているエージェントからのメッセージを正しく解釈できる必要があります。

したがって、両方の通信相手が、自由に使用できる共通の情報ベースを持っている必要があります。この共通の情報ベースは、Management Information Base（MIB）とも呼ばれます。

ネットワークのどのエージェントも MIB を提供しています。その結果、MIB により該当するコンポーネントの抽象データモデルが構成されます。

MIB の特殊な面としては、エージェントが MIB から提供された特別なリソースとして動作し、MIB を使ってエージェントが自身を設定できるという側面があります。これは、たとえば、Fujitsu エージェントが個々の MIB オブジェクトのしきい値の監視に使用される場合に行われます。

MIB に含める値を記述するには、正式な記述言語である ASN.1（Abstract Syntax Notation One）を使用します。ASN.1 は、国際標準規格 ISO 8824 および ISO 8825 で定義されています。

自分自身の担当範囲を認識するだけで済むエージェントとは反対に、管理コンソールでは、そのタスクを実行するために、ネットワーク全体の完全な情報ベースを必要とします。したがって、ネットワークでエージェントから提供されるすべての MIB ファイルが、管理コンソールシステムに存在する必要があります。

MIB 記述の次の 2 つのカテゴリが、エージェントにとって重要です。

- 国際標準化委員会によって承認された標準 MIB ファイル。たとえば、このような標準 MIB ファイルの 1 つが「MIB II」ファイルであり、インターネットのあらゆるネットワークコンポーネントでその使用が義務づけられています。MIB II ではすでにシステムとルータの管理用の適切なデータモデルが規定されています。
- メーカ独自の拡張が含まれているプライベート MIB ファイル。通常、ネットワークコンポーネントの新製品を発売するメーカは、標準 MIB の適用範囲を超えた、コンポーネントの管理面を記述するプライベート MIB ファイルを規定しています。

3 SNMP の基本原理

ServerView プログラムでは、Simple Network Management Protocol（SNMP）を使用します。
SNMP は Internet Engineering Task Force（IETF）によって承認された標準プロトコルで、TCP/IP ネットワークの管理用に世界中で使用されています。

SNMP は RFC1157 で定義されています。ここでの説明は、ネットワークコンポーネントの監視と制御、およびエージェントの設定に関連した SNMP の概要を簡単に要約するだけにとどめます。

SNMP のデータ要素

MIB に含まれている情報の個々の部分は、MIB 独自のオブジェクトによって記述されます。各オブジェクトでは、世界中で一意のオブジェクト識別子を受け取ります。アクセスタイプも指定されます。

SNMP のプロトコル要素

情報はプロトコル要素を使用してネットワーク上を転送されます。SNMP では、管理情報に含まれている値の要求、設定、および表示に、4 つの異なるプロトコル要素を必要とします。5 つ目のプロトコル要素（trap）を使用すると、エージェントは非同期で重要なイベントをレポートできます。

プロトコル要素	タイプ	機能
GetRequest PDU	0	**管理コンソールからの MIB オブジェクト要求を読み込む**
GetNextRequest PDU	1	**管理コンソールからの次の MIB 要求を読み込む（エンティティ ID 別）**
GetResponse PDU	2	**要求された値または設定された値が含まれている内容をエージェントから応答する**
SetRequest PDU	3	**管理コンソールからの MIB オブジェクトの要求を書き込む**
Trap PDU	4	**特別なイベント発生時の非同期メッセージ**

表 21：SNMP プロトコル要素

SNMP メッセージは SNMP ヘッダと PDU（プロトコルデータ単位）で構成されます。ヘッダにはバージョン識別コードと認証チェック用のコミュニティストリングが含まれています。PDU そのものは、PDU タイプ（表を参照）と「変数のバインド」のリストです。変数のバインドとは、MIB オブジェクトに値を割り当てることです。このリストは、MIB オブジェクトの名前と割り当てられる値で構成されます。

コミュニティ

コミュニティとは、SNMP を使用して相互通信する複数のシステム（管理コンソールとエージェント）を 1 つのグループにまとめたものです。グループは、グループ用のコミュニティストリングで一意に識別されます。同じコミュニティに属するシステムのみが相互に通信可能です。1 つのシステムが複数のコミュニティに属していることもあります。管理コンソールとエージェントが相互通信する場合、このコミュニティストリングがパスワードのように使用されます。エージェントは、管理コンソールからコミュニティストリングを取得してからでなければ、エージェントシステムで情報提供はできません。この制限は、SNMP パケットごとに適用されます。

読み取り専用または読み書き可能など、実行可能なアクセスタイプは、MIB のオブジェクトごとに定義されます。管理コンソールのエージェント情報に対するアクセス権も、コミュニティストリングにバインドされます。コミュニティストリングにバインドされたアクセス権によって、MIB アクセスタイプをさらに制限できます。これらのアクセス権の拡張はできません。読み取り専用アクセス権をオブジェクトに定義するように MIB 定義で規定されている場合、コミュニティストリングが読み書きアクセス権にバインドされていたとしても、そのオブジェクトを読み書き可能で使用することはできません。

コミュニティストリングとアクセス権の使用方法を次の例で説明します。

- 例

  ある SNMP エージェントが、public という名前のコミュニティに属し、読み取り専用アクセス権を持っています。public コミュニティには管理コンソールも含まれていて、この管理コンソールは public コミュニティストリングを使用して対応するメッセージを送信することにより、この SNMP エージェントからの情報を要求できます。同時に、この SNMP エージェントは、net_5 という名前の 2 つ目のコミュニティにも属しており、このコミュニティには読み書きアクセス権が関連付けられています。net_5 コミュニティには、もう 1 つ管理コンソールが含まれています。この例では、2 つ目の管理コンソール、つまり net_5 コミュニティの管理コンソールに、SNMP エージェントを介して書き込み操作を実行する権限が与えられます。

トラップ

特別なイベントがネットワークコンポーネントで発生した場合、SNMP エージェントは 1 つ以上の管理コンソールにメッセージを送信してそのイベントの発生を通知できます。このメッセージのことを SNMP ではトラップと呼んでいます。管理コンソールは、受け取ったトラップに基づいて、ネットワークで発生したイベントに対処できます。管理コンソールが SNMP トラップを受け取ったことは、コミュニティストリングでも表されます。SNMP エージェントがトラップメッセージを管理コンソールに送信する場合には、管理コンソールがメッセージを受け取るために必要なトラップのコミュニティストリングを使用する必要があります。

ServerView トラップのリストは、「付録」の「5 トラップリスト」（→ 318 ページ）に記載されています。

Fujitsu サーバ管理

サーバ管理の背後には、管理コンソールがネットワークにあるサーバの管理情報にアクセスするという基本的な考え方があります。

この機能を実現するために、それに合わせてサーバのハードウェアとファームウェアが設計されています。

エージェントは既存情報にアクセスし、SNMP を使用して管理コンソールがその情報にアクセスできるようにします。

11 トラップ

トラップは SNMP エージェントから送信される SNMP Protocol Data Unit アラームです。これは、エラーメッセージや、選択したしきい値レベルを超えているために発生するステータスの変化などの予期しなかったイベントを管理ステーションに通知するためのものです。

トラップは、次のいずれかのアラーム重大度を持っています。

- 危険
- 重度
- 軽度
- 情報

［アラーム］－［設定］から［共通設定］ウィンドウを開いて、各サーバと各重大度に対して異なる対策を選択できます。

- ログ
  イベントがデータベース表にあるアラームログリストに書き込まれます。
- ポップアップ
  ［アラームモニタ］ウィンドウが開きます。
- 危険アラームイベントは、ログファイルのアラームログリストに常に書き込まれます。

受信されるすべてのトラップは、アラームモニタに表示されますが、［アラームマネージャ］ウィンドウにはログファイルに書き込まれたイベントだけが表示されます。

「付録 5 トラップリスト」（→ 318 ページ）に代表的なトラップの概要を説明します。トラップはカテゴリのアルファベット順に分類され、カテゴリ内では名前のアルファベット順に分類されています。

12 InventoryView

InventoryView は ServerView のバージョン管理タスクの機能の一つです。バージョン管理タスクとは ServerView の一部分でサーバ管理タスクとバージョン管理タスクで共通のフレームワークを使用しています。サーバ管理タスクとバージョン管理タスクでは同じサーバの一覧を共有しています。

InventoryView のメインタスクは指定されたマシンのハードウェアとソフトウェアの構成の検査です。また、InventoryView 独自のインベントリ情報取得をサポートするネットワークのすべてのサーバ上で、InventoryView 機能を実行できるようにする統合管理ツールも提供しています。このツールを使用すると、システム管理者は、InventoryView のタスクを実行する中央管理ステーションを 1 つ（または複数）定義できるようになります。この機能はサーバ管理機能と類似しているため、InventoryView は ServerView の管理コンソールに組み込まれています。ServerView と InventoryView のタスクでは、管理対象のサーバの一覧として同じものを使用します。

1 構造

InventoryView は 2 つのモジュールで構成されています。

- 管理コンソール機能は、管理端末にて動作します。インストールしたコンポーネントに関するデータをエージェントから受け取るコンポーネントで構成されています。

  InventoryView では、インストールしたコンポーネントに関する情報を InventoryView SNMP エージェントから受け取ります。個々の結果は、InventoryView の更新済み表示とともにウィンドウに表示されます。

- エージェント機能は、各クライアントマシンで動作します。この機能は、各サーバのインベントリをネットワーク上で使用できるようにします。管理コンソールでは、特定サーバのこのインベントリ情報を取得し、それを評価して結果を表示します。

SNMP エージェントにより、特定マシンに関する InventoryView 情報がすべて提供されます。管理コンソールが現在ダウンしているクライアントの情報を表示できるようにするには、インベントリ情報をファイルに保存します。

InventoryView は、次のプラットフォームをサポートしています。

- Windows 2000 Server (ServicePack 1 以上)
- Windows NT 4.0 (ServicePack 6a 以上)

InventoryView は、ServerView の一部としてインストールされます。

2　サーバ管理タスクとの統合

ServerView はサーバ管理タスクとバージョン管理タスクを提供する共通の枠組です。この枠組は提供される他のコンポーネントとの統合のために開かれています。ServerView では中心となる管理対象のサーバの一覧を管理し、管理対象のサーバの追加と削除を行うことができます。サーバ管理と同様にアラーム管理にも関係があります。

タスクの選択

ServerView は、サーバ管理、およびバージョン管理の 2 つのタスクで構成されています。サーバの一覧からサーバを選択して開くと、サーバ管理のタスクが選択されているときは、ServerView ウィンドウが表示され、バージョン管理タスクが選択されているときは、InventoryView ウィンドウが表示されます。サーバ管理タスクとバージョン管理タスクは切り替えることができ、サーバ管理タスクが選択されると InventoryView ウィンドウは非表示になり、バージョン管理タスクが選択されると ServerView ウィンドウが非表示になります。

メインメニューで「表示」－「タスクバー」で、タスクバーの表示／非表示を切り替えることができます。タスクバーを非表示にしている場合は、「タスク」メニューを使用してタスクを切り替えることができます。こうすると、より広い領域を使用できます。

(1) タスクバー

タスクバーは、ServerView のメインウィンドウの左側にあります。その中にサーバ管理とバージョン管理の両方のタスクを表す画像ボタンが入っています。

(2) サーバ管理

タスクバーにあるサーバ管理ボタンを選択すると、Fujitsu ServerView のサーバ管理機能が使用可能になります。これで、メインメニューや「サーバの一覧」ウィンドウで提供される機能がサーバ管理タスクのものになります。

たとえば、ポップアップ メニューから「開く」を選択するか、サーバの一覧にあるサーバをダブルクリックすると、新しい ServerView ウィンドウが開きます。

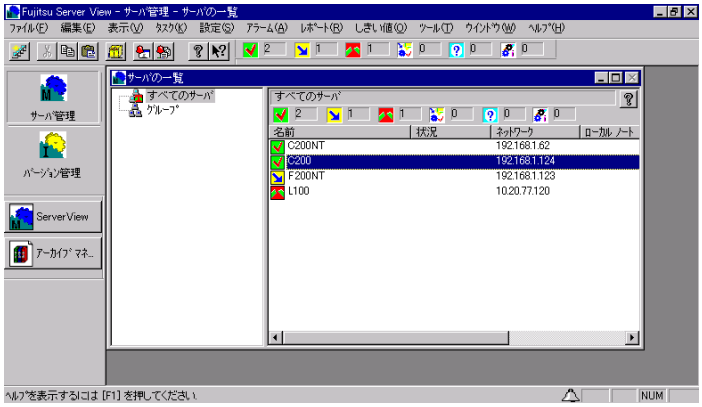


図 31：サーバの一覧ウィンドウ

(3) バージョン管理

タスクバーにあるバージョン管理ボタンを選択すると、Fujitsu ServerView のバージョン管理機能が使用可能になります。これで、メインメニューや「サーバの一覧」ウィンドウで提供される機能がバージョン管理タスクのものになります。
たとえば、ポップアップ メニューから「開く」を選択するか、サーバの一覧にあるサーバをダブルクリックすると、新しい InventoryView ウィンドウが開きます。

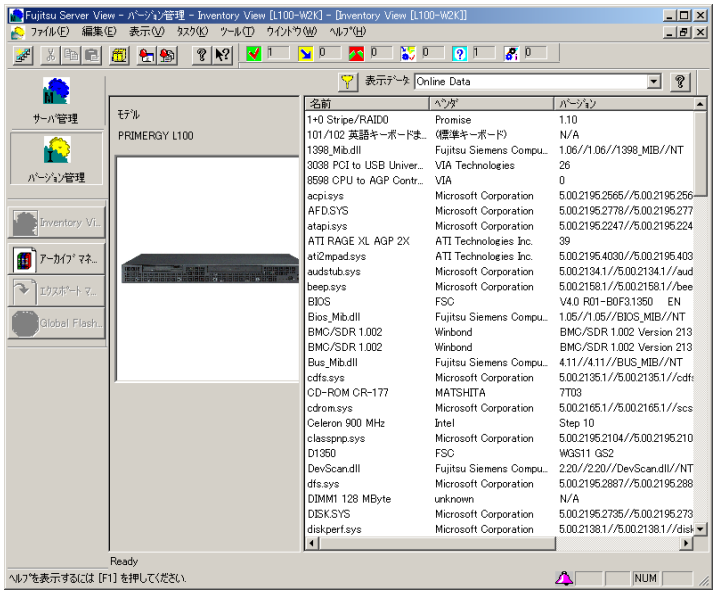


図 32：InventoryView

3 InventoryView ウィンドウ

InventoryView ウィンドウは、次の要素で構成されています。

- ウィンドウ上部のメニューバー
- 中央左側の Server アイコン
- 中央右側のコンポーネントのリスト
- ウィンドウ下部のステータスバー

InventoryView には、InventoryView SNMP エージェントによってリストアップされたコンポーネントすべてのリストが表示されます。InventoryView ウィンドウを開くと、インベントリ情報が SNMP によって取得され、（SNMP エージェントによって）検索されたコンポーネントのリストとして次の情報とともに表示されます。

- 名前列のコンポーネント名
- ベンダ列のコンポーネントのベンダ
- バージョン列のコンポーネントのバージョン
- コンポーネントタイプ列のコンポーネントのタイプ

対応する列のヘッダをクリックすると、列の値によってコンポーネントのリストをソートすることができ、マウスを使って列のヘッダの幅を変更すると列幅を変更できます。

InventoryView ウィンドウのメニューバーには、ドロップダウンリストが含まれています。このドロップダウンリストには、インベントリ情報のさまざまなソースのエントリが入っています。サーバのプロパティのアーカイブを使用すると、インベントリ情報は対応するアーカイブに書き込まれます。すると、このアーカイブをインベントリ情報のソースとして使用できます。ドロップダウンリストには次のエントリが含まれています。

- Archive Data：選択されたサーバの各アーカイブに対するアーカイブデータの表示
- Online Data ：オンラインデータの表示
- Last Data ：対応するサーバがダウンしている場合の最新データの表示
- Rescan Inventory：インベントリの再スキャン

［Online Data］が初期値で、実際のインベントリが表示されていることを意味します。ただし、確実に表示を最適化するために、Inventory View SNMP エージェントでは最後にインベントリが変更された日付が別情報として保存されます。Inventory View の管理コンソール機能では、別ファイルに実際のインベントリが格納されます。

［Online Data］を選択すると、格納されているインベントリ情報がなかったり、エージェントから取得したインベントリ情報の日付が現在のインベントリ情報の日付より新しい場合のみ、インベントリ全体が SNMP エージェントにより取得されます。選択したサーバがダウンしていて、最近格納されたインベントリデータが入っているファイルを利用できる場合は、［Last Data ］のエントリが表示され、このファイルのインベントリ情報が使用されます。［Rescan Inventory］のエントリでは、インベントリ情報の日付に関係なく、インベントリの完全再走査が実行されます。

また、InventoryView ウィンドウのドロップダウンリストの横にあるボタンをクリックすると、表示するコンポーネントタイプの選択を行うウィンドウが表示されます。

4　エクスポート機能

バージョン管理タスクには Inventory データのエクスポート機能が有り、サーバからデータをエクスポートすることができます。
詳細は次章「エクスポートマネージャ」を参照してください。

13 エクスポートマネージャ

エクスポートマネージャは ServerView のバージョン管理タスクの機能の一つで、ServerView からデータをエクスポートし、外部メディア（例：ファイル、データベース）に保存する事ができます。
このデータはサーバで使用される、モデル名、BIOS バージョン、プロセッサタイプについての情報から構成されていて、データについて編集、評価することが可能です。

エクスポートマネージャは以下の 3 つのセクションからなる GUI（グラフィカルユーザインタフェース）でエクスポートするデータに関しての設定を行います。

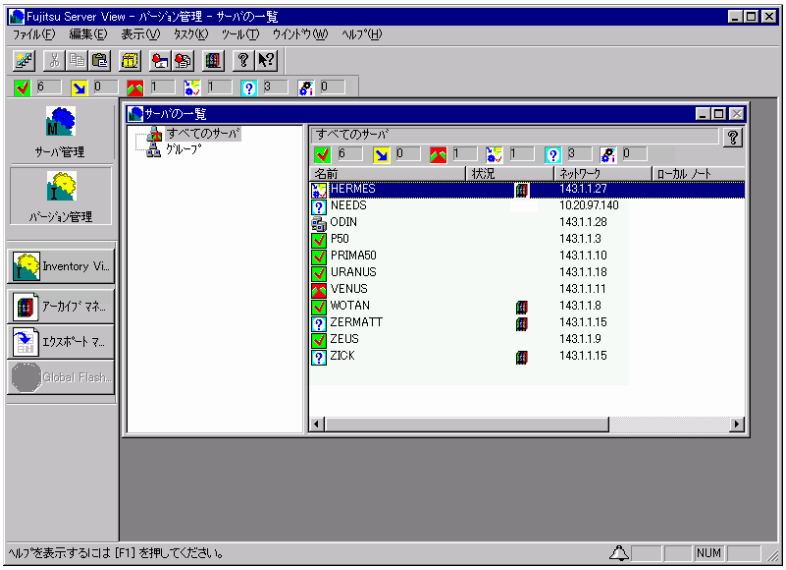
- エクスポートするデータの選択
- エクスポートするデータのフォーマットの選択
- エクスポートデータの格納場所の選択

さらに、エクスポートの進行状況の表示設定を行う事が可能です。

1　エクスポートマネージャの開始

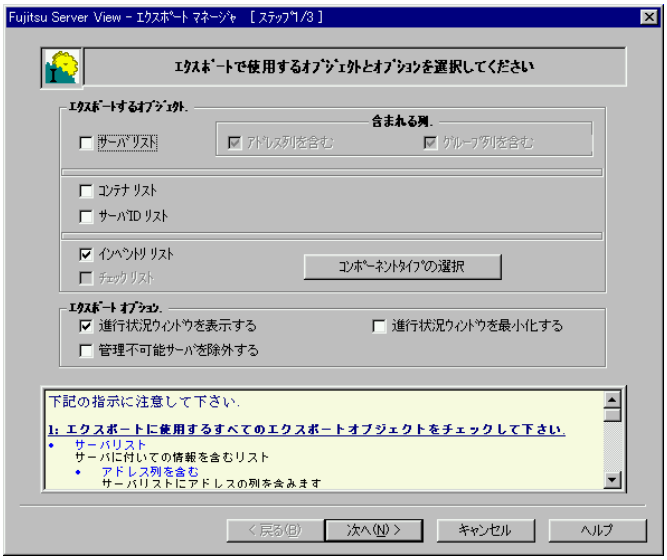
以下の手順でエクスポートマネージャを開始できます。

1　**バージョン管理ボタンをクリックし、バージョン管理コンポーネントを表示します。**



2　**サーバの一覧ウィンドウでエクスポートを行う（複数の）サーバ、またはサーバグループを選択すると［エクスポートマネージャ］ボタンがアクティブになります。この時、すべてのサーバ、またはグループを選択した場合、サーバの一覧上のサーバすべてがエクスポートされます。**

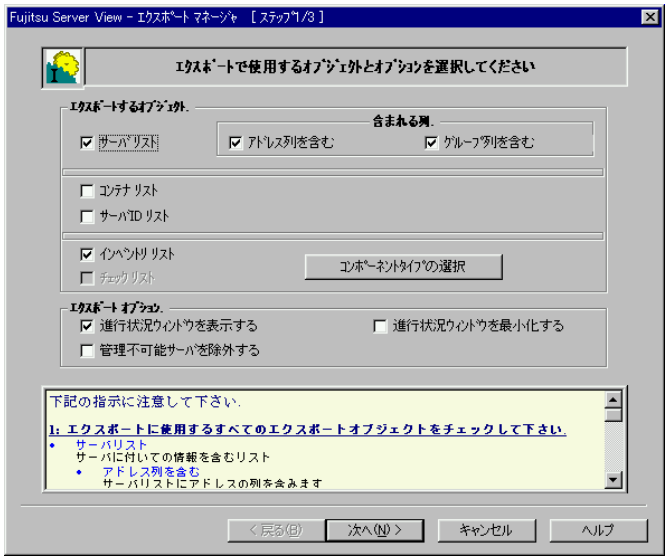
3　**エクスポートマネージャボタンをクリックするとエクスポートマネージャの一枚目のウィンドウが表示されます。**



また、［メイン］メニューの［ツール］と、サーバの一覧のプルダウンメニューからもエクスポートマネージャを開始できます。

2　エクスポートデータの定義とエクスポート操作

エクスポートマネージャの一枚目のウィンドウでは、選択した（複数の）サーバについてエクスポートするデータを定義します。さらに、進行状況の表示／非表示を選択できます。



サーバリスト

サーバについての情報を含むリストをエクスポートします。

アドレス列を含む

サーバのアドレスを追加エクスポートします。

グループ列を含む

サーバのアドレスを追加エクスポートします。

コンテナリスト

サーバについてのコンテナのリストをエクスポートします。
例：ベースボード、SCSI デバイス、LAN システム、サブシステムコンテナ

サーバ ID リスト

サーバ名や IP アドレスなどのサーバ ID のリストをエクスポートします。

インベントリリスト

サーバについてのすべててのインベントリデータを含むリストをエクスポートします。

進行状況ウィンドウを表示する

エクスポート作業が実行されている時、その進行状況を表示します。

進行状況ウィンドウを最小化する

進行状況ウィンドウを最小化してタスクバーに入れます。

管理不可能サーバを除外する

ServerView によって管理不可能なサーバをエクスポート作業の間除外します。

インベントリリストを選択した場合、個々のコンポーネントを選択するオプションウィンドウが使用できます。［コンポーネントタイプの選択］ボタンをクリックすると追加ウィンドウが表示されます。

コンポーネントタイプリストでは、エクスポート作業で必要とするコンポーネントを選択できます。[すべて選択] ／ [すべて無効] ボタンはそれぞれ、すべてのコンポーネントを選択状態／未選択状態にします。

クラス無し

選択リストにコンポーネントタイプとしてクラス無しを含みます。

その他

選択したサーバ上で、発生する可能性はあるが、今現在選択リスト中に存在しないコンポーネントタイプをエクスポート作業に加えます。

その他は複数のサーバがサーバの一覧で選択された場合、または選択したサーバが起動していない時にのみ利用可能です。

［OK］をクリックすると選択が反映され、［キャンセル］をクリックすると行った選択が無効になります。

［次へ］ボタンをクリックすると、エクスポートマネージャの次のステップに進みます。

3　エクスポートフォーマットの定義

エクスポートマネージャの 2 番目のウィンドウ（エクスポートマネージャ [ステップ 2/3]）では、エクスポートデータで使用する出力フォーマットを定義します。

CSV [Comma Separated Values]

　カンマ区切りテキストファイル（Microsoft EXEL）

ODBC [Open Database Connectivity]

　データベース（Microsoft Access / Microsoft SQL Server）

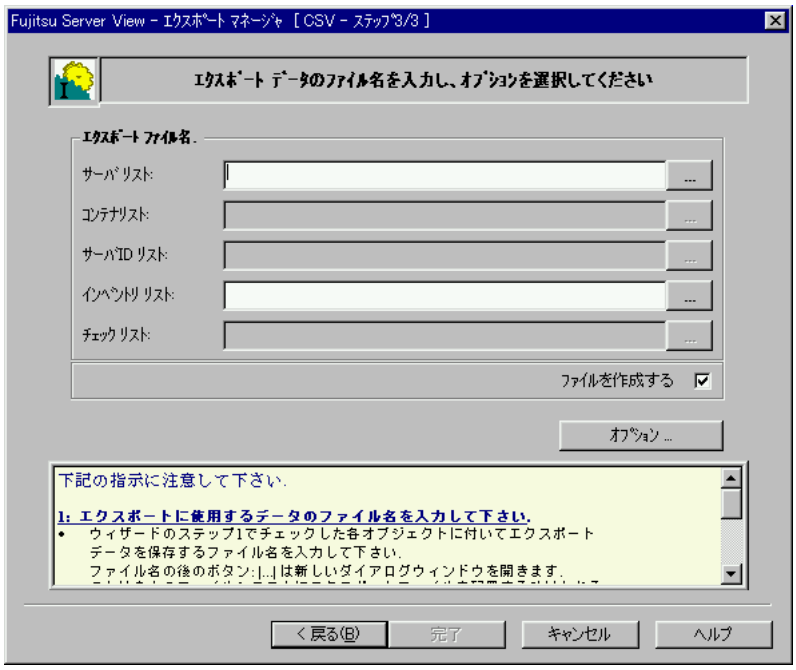
SQL [Structured Query Language]

　SQL スクリプト（Microsoft SQL Server）

フォーマットを選択したら、［次へ］ボタンをクリックしてエクスポートマネージャの 3 枚目のウィンドウに移動してください。3 枚目のウィンドウでは、データの格納場所を指定します。加えて追加情報の指定もあるため、フォーマットの選択により異なったウィンドウが表示されます。

4　CSV フォーマットでの保存作業の定義

2 番目のウィンドウで CSV フォーマットを選択した場合、以下のウィンドウが表示されます。



このウィンドウでは、リストが保存されるファイルの場所を指定できます。各リストごとに別のエクスポートファイルが作成されます。1 番目のウィンドウで選択したリストについてのみ入力可能です。上図ではサーバリストとインベントリリストが入力できます。

エクスポートファイル名

エクスポートファイルに使用する名前を指定します。各リストで別のファイル名を入力します。

ファイルを作成する

ファイルを作成するを選択して指定したファイルが既に存在する場合、新しいデータが格納される前に、元のファイルの内容は削除されます。

エクスポートファイル名の入力フィールド右側の［...］ボタンをクリックすると、ファイル格納場所を選択できるダイアログボックスが表示されます。

「[保存] ボタンをクリックするとウィンドウが閉じ、入力したファイル名がエクスポートマネージャのファイル名フィールドに入力されます。

エクスポートファイルの構造定義

[オプション] ボタンをクリックすると、区切りとテキスト区切りの設定を行う追加ウィンドウが表示されます。

区切り

区切り文字（セパレータ）としてタブ、セミコロン、コンマ、スペースから選択するか、またはその多の文字を使用します。初期値はコンマです。

テキスト区切り

テキスト区切り文字（デリミタ）を定義します。ダブルクォーテーション、シングルクォート、無し、から選択します。初期値はダブルクォーテーションです。

5　ODBC フォーマットでの保存作業の定義

2 番目のウィンドウで ODBC フォーマットを選択した場合、以下のウィンドウが表示されます。

このウィンドウでは、リストが保存されるデータベーステーブルを指定できます。各リストごとに別のテーブルが作成されます。1 番目のウィンドウで選択したリストについてのみ入力可能です。上図ではサーバリストとインベントリリストが入力できます。

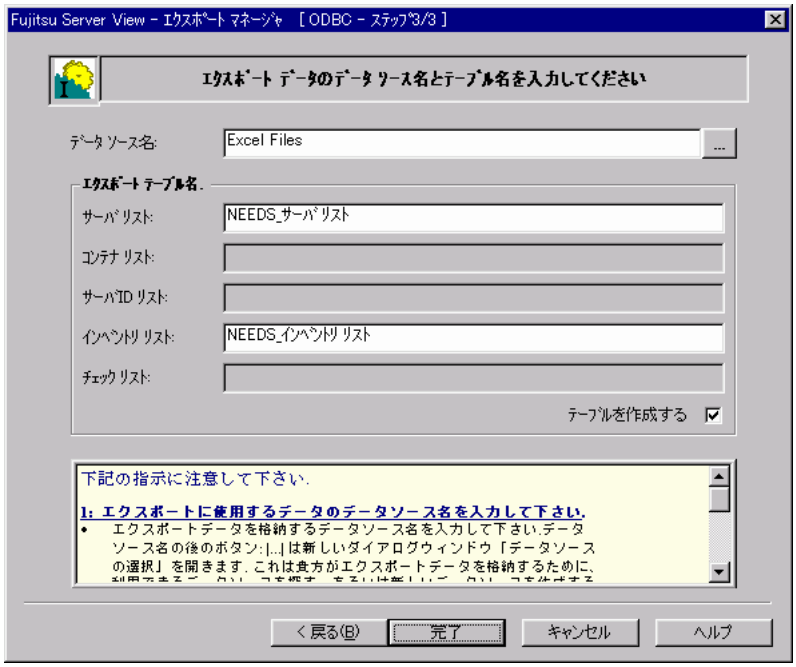
データソース名

エクスポートされたデータを、格納するデータベースの名前を指定します。

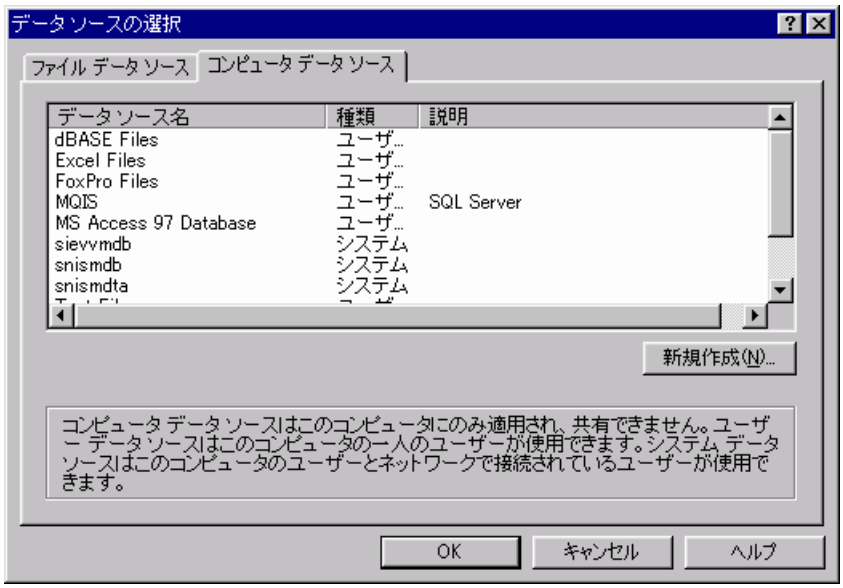
エクスポートテーブル名

エクスポートされたデータを、格納するテーブルの名前を指定します。各リストで別のテーブル名を指定します。テーブルを作成するを選択して指定したテーブルが既に存在する場合、新しいデータが格納される前に、元のテーブルの内容は削
除されます。

データソース名の入力フィールド右側の［...］ボタンをクリックすると、データソースを選択できるウィンドウが表示されます。



［新規作成］ボタンをクリックした場合、「データソースの新規作成」ウィンドウが表示されます。



このウィンドウでは要求するデータソースのタイプを選択できます。

ユーザデータソース

このマシンだけで使用し、作成したユーザのみが閲覧できます。

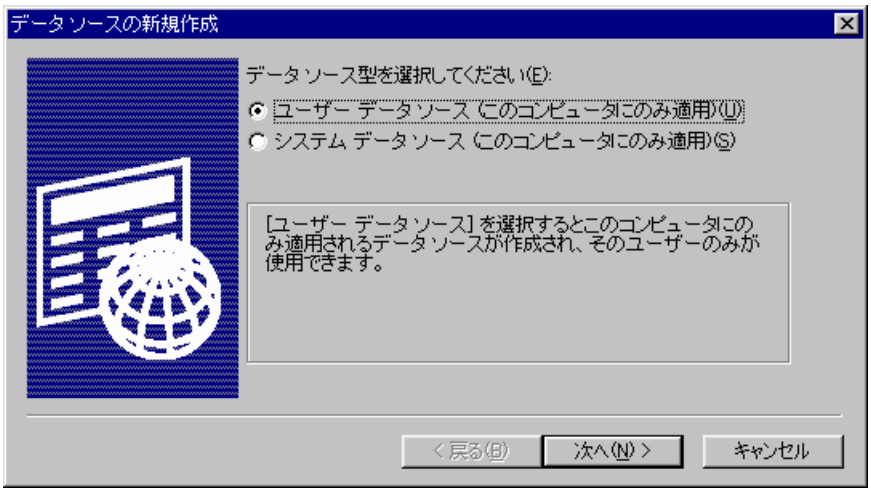
システムデータソース

このマシンのみで使用しますが、このマシンにログインしたユーザが閲覧できます。

［完了］ボタンをクリックすると、ウィンドウが閉じてデータソース名フィールドに名前が入力されます。

6　SQL フォーマットでの保存作業の定義

2 番目のウィンドウで SQL フォーマットを選択した場合、以下のウィンドウが表示されます。



このウィンドウでは、SQL スクリプトが保存されるファイルの場所を指定できます。さらに、各リストごとのテーブル名も指定します。後で SQL スクリプトをデータベースに読み込む時、この名前の下にテーブルが読み込まれます。1 番目のウィンドウで選択したリストについてのみ入力可能です。上図ではサーバリストとインベントリリストが入力できます。

ファイル名

エクスポートファイルに使用する名前を指定します。（拡張子：.sql）

ファイルを作成する

ファイルを作成するを選択して指定したファイルが既に存在する場合、新しいデータが格納される前に、元のファイルの内容は削除されます。

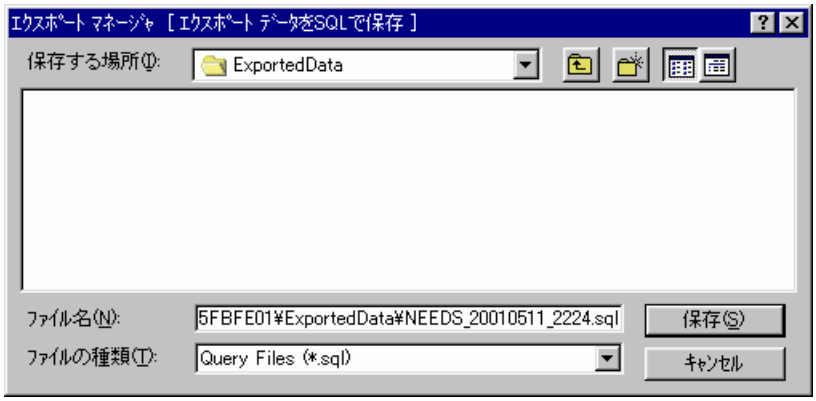
エクスポートテーブル名

エクスポートされたデータを格納するテーブルの名前を指定します。各リストで別のテーブル名を指定します。

テーブルを作成する

テーブルを作成するを選択し、指定したテーブルが既に存在する場合、新しいデータが格納される前に、元のテーブルの内容は削除されます。

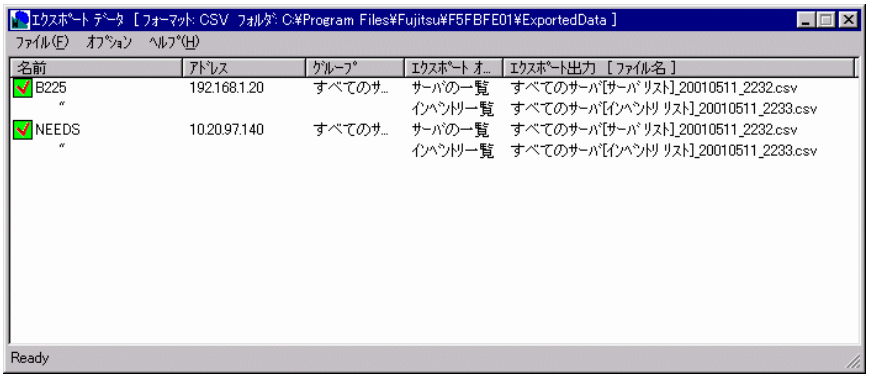
エクスポートファイル名の入力フィールド右側の［...］ボタンをクリックすると、ファイル格納場所を選択できるダイアログボックスが表示されます。



［保存］ボタンをクリックするとウィンドウが閉じ、入力したファイル名がエクスポートマネージャのファイル名フィールドに入力されます。

7　エクスポート作業の開始

エクスポート作業についてのすべての入力要求を完了すると、［完了］ボタンが実行可能になります。
1 枚目のウィンドウで［進行状況ウィンドウを表示する］を選択した場合、エクスポートデータウィンドウが開きます。



エクスポートデータウィンドウは、ServerView と同様のアイコンを用いて調査中の個々のサーバの情報を表示します。

- ステータスバーの「データの収集中です」は調査がまだ終了していない事を示し、「Ready」は調査が完了した事を示します。
- 各サーバリストの左側のアイコンは現在のデータ獲得の状態を示します。

下記の表は接続中に表示されるアイコンを示しています。

アイコン	意味
	データ収集が完全に終了しました。
	SNMP **タイムアウト、またはエラーが発生しました。**
	実行中ステータス。プロセス実行中のステータスは定義されていません。
	不明ステータス。サーバにアクセスできません。
	サーバに関連したエラーが発生しました。

■ ファイルメニュー

メニュー項目	説明
開く	エクスポートデータを表示します（「8 エクスポートデータの閲覧」（→ 236 ページ）参照）。このメニュー項目はエクスポート作業が完了した後に有効になります。
キャンセル	エクスポート作業をキャンセルします。このメニュー項目はエクスポート作業が未完了の時のみ有効です。

■ オプションメニュー

メニュー項目	説明
エクスポートファイル	エクスポート作業の追加オプションを選択できるウィンドウを開きます。［保存］をクリックすると新しい設定でエクスポート作業を繰り返します（CSV フォーマットの時のみ有効です）。
デフォルトアプリケーション	エクスポートデータの表示に使用するアプリケーションを選択します（「8 エクスポートデータの閲覧」（→ 236 ページ）参照）。

エクスポートマネージャの 1 枚目で「進行状況ウィンドウを表示する」を選択していなかった場合、エクスポート作業が完了するとエクスポートされたデータについての情報ウィンドウを表示します。

エクスポート作業の途中でエラーが発生した場合、エラーを検知したアプリケーションによってエラーテキストを含むウィンドウで通知されます。エラーが発生したサーバの左側のアイコンはそれに従って変更されます。エクスポート作業は直ちに中止されます。

8　エクスポートデータの閲覧

エクスポート作業が完了した時、進行状況ウィンドウのメインメニューの［ファイル］－［開く］からエクスポートデータの閲覧ができます。
［オプション］－［デフォルト アプリケーション］でエクスポートデータを閲覧するデフォルトのアプリケーションを選択する事が可能です。

ファイル拡張子に関連付けられたアプリケーションで開く

デフォルトのアプリケーションでデータを表示します。

以下で定義されたアプリケーションで開く

ユーザ定義のアプリケーションでデータを表示します。

Microsoft EXCEL ワークシートでの CSV 形式エクスポートデータの閲覧

Microsoft EXCEL ワークシートで CSV 形式エクスポートデータを閲覧するためには、次の先行条件を満たす必要があります。

- Microsoft EXCEL がインストールされている
- ［オプション］－［デフォルトアプリケーション］で「ファイル拡張子に関連付けられたアプリケーションで開く」を選択する

9　エクスポートされるコンテンツの一覧

下記に、生成されるコンテンツの一覧を表示します。

サーバリスト コンテンツ：

Server_ID
IP_Address
Server_Group
Server_Name
Location
Contact
Model
Serial_Number
BIOS_Version
Number_of_Processors
Number_of_Processor_Sockets
Processor_Type
Memory_Size_MB
Cache_KB
Number_of_File_Systems
Size_of_File_Systems_MB
Largest_Available_Space_MB
Operating_System

コンテナリスト コンテンツ：

Server_ID
Time
Functional_Container_No
Functional_Container_Name
Container_Parent_No

サーバ ID リスト コンテンツ：

Server_ID
Time
Server_Name
IP_Address

インベントリリスト コンテンツ：

Server_ID
Time
Component_Name
Product_Number
Vendor
Version
Component_Type
Manufacturing_Date
Serial_Number
Language
Functional_Container_No
Functional_Container_Name
Physical_Container_No
Physical_Container_Name

チェックリスト コンテンツ：

Server_ID
Time
Component_Name
Product_Number
Vendor
Version
Component_Type
Manufacturing_Date
Serial_Number
Language
Update_Status
Update_Information
Systemboard_Compatibility
Missing_Required_Components
Exclusion_Information
ComponentsAddedByRequirement
Functional_Container_No
Functional_Container_Name
Physical_Container_No
Physical_Container_Name

14 リモートサービスボード

ここでは、リモートサービスボード（RSB）、およびリモートサービスコントローラについて説明します。以降の説明において、特に断りがない限り、リモートサービスボードという記述はリモートサービスコントローラも含んでいます。

1 リモートサービスボードについて

リモートサービスボードは、専用の CPU・OS・通信インタフェース・電源により、サーバの状態に依存せずに動作し、サーバを監視するハードウェア製品です。
リモートサービスボードは、ServerView と連携し、以下の機能を管理者に提供します。

- サーバの状態監視（OS ハング、電源異常、温度異常、電圧異常）
- サーバ異常時の管理者への通知
- サーバ異常時の自動サーバシャットダウン
- サーバの遠隔操作（再起動、電源投入／切断）
- サーバのスケジュール運転

さらに、リモートサービスボードは、RemoteControlService と連携し、以下の機能を管理者に提供します。

- 管理コンソールからのサーバの POST 時の画面表示、キーボード操作

また、リモートサービスボードは、以下の通信インタフェースをサポートしています。

- LAN インタフェース
- シリアルインタフェース（モデム接続用）

また、リモートサービスボードを搭載した拡張ディスク装置では、以下の機能を提供します。

- 拡張ディスク装置の状態監視
- 拡張ディスク装置の異常時の管理者への通知
- 拡張ディスク装置の遠隔操作（電源投入／切断）
- 拡張ディスク装置のスケジュール運転
- 他リモートサービスボードと連携した電源制御（電源投入／切断）

2 ファームウェアのアップデート

リモートサービスボードを使用する場合、ファームウェアのアップデートが必要です。ファームウェアのアップデートは、ServerView CD-ROM から作成した Remote Service Board Utility を使用します。

なお、リモートサービスコントローラは、ファームウェアのアップデートを行う必要はありません。

Remote Service Board Utility のフロッピィディスクは以下の手順で作成できます。

なお、ファームウェアのアップデート方法については、リモートサービスボードに添付の取扱説明書を参照してください。

■ OS が Windows NT または Windows 2000 の場合

1 フォーマット済みのフロッピィディスク（2HD）を 1 枚用意します。

2 ServerView の CD-ROM 内の次のディレクトリにあるすべてのファイルをフロッピィディスクにコピーします。

```
<CD-ROM のドライブ >:¥Svmanage¥Tools¥RSBFlash
```

3 スタートメニューから、コマンドプロンプト画面を表示します。

[Windows NT の場合]

［スタート］－［プログラム］－［コマンドプロンプト］をクリックします。

[Windows 2000 の場合]

［スタート］－［プログラム］－［アクセサリ］－［コマンドプロンプト］をクリックします。

4 コマンドプロンプト画面で、ファイルの権限を変更します。

次のコマンドを実行します。

```
> a:      [Enter]
> abset   [Enter]
```

5 フロッピィディスクを取り外し、書き込み禁止状態にします。

■ OS が Linux の場合

1 フロッピィディスク（2HD）を 1 枚用意します。

2 スーパーユーザでログインします。

3 フロッピィディスクをフォーマットします。

フロッピィディスクをドライブにセットし、次のコマンドを実行します。

```
# fdformat /dev/fd0h1440
# mkfs -t msdos /dev/fd0h1440
```

4 **フロッピィディスクをマウントします。**

次のコマンドを実行します。

```
# mount -t vfat /dev/fd0 /mnt/floppy/
```

5 **ServerView の CD-ROM をマウントします。**

ServerView の CD-ROM をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。

```
# mount /mnt/cdrom/
```


ポイント **特定のアプリケーションがインストールされている場合には、CD-ROM 挿入と同時に自動的にマウントされます。**

6 **CD-ROM 内のユーティリティのディレクトリに移動します。**

次のコマンドを実行します。

```
# cd /mnt/cdrom/Svmanage/TOOLS/RSBFlash/
```

7 **モジュールをフロッピィディスクにコピーします。**

次のコマンドを実行します。

```
# cp -a *.* /mnt/floppy/
```

8 **ファイルの権限を変更します。**

次のコマンドを実行します。

```
# cd /mnt/floppy/
# chmod +w core.bin
```

9 **フロッピィディスクをアンマウントして、取り出します。**

フロッピィディスクを取り出す前には、必ずアンマウントしてください。

```
# cd
# umount /mnt/floppy/
```

10 **CD-ROM をアンマウントして、取り出します。**

CD-ROM を取り出す前には、必ずアンマウントしてください。

```
# umount /mnt/cdrom/
```

11 **フロッピィディスクを、書き込み禁止状態にします。**

3　ドライバのインストール

リモートサービスボードのドライバは、リモートサービスボードの有無にかかわらず、サーバに ServerView V02.51 以降の ServerView エージェンをインストールすると自動的にインストールされます。ServerView エージェントのインストール方法については「2 インストール」（→ 13 ページ）を参照してください。

ポイント

ServerView V02.51 **以降のバージョンでリモートサービスボードをサポートします。**
すでにサーバに ServerView V02.50 **がインストールされている場合は、管理コンソールのアンインストールを実行し、**PRIMERGY ServerView V02.51 **以降の** CD-ROM **内に格納されている「**UNAGENT.EXE**」を実行しアンインストールを行ってから、**ServerView V02.51 **以降を再度インストールしてください。**

OS が Windows の場合、ServerView をインストールした直後、またはリモートサービスボードを搭載した直後の OS 起動時に、リモートサービスボードが ServerView に認識されない場合があります。下記の手順に従い、確認・再認識・再インストールの処理を行ってください。

■ リモートサービスボードの確認

下記手順により、リモートサービスボードが ServerView に認識されていることを確認します。

1. **［スタート］－［プログラム］－［**Fujitsu ServerView**］－［**FujitsuServerView**］をクリックし、**ServerView **を開きます。**
2. **" サーバの一覧ウインドウ " から対象装置のサーバを選択し、ダブルクリックします。**
3. "ServerView **ウインドウ " の各ボタンが有効であることを確認します。**
   ServerView の初期処理に数分かかることがあります。［更新］ボタンをクリックして、各ボタンが有効になるまで待ちます。
4. **［アクション］ボタンをクリックします。**
5. **" アクションウインドウ " の［**RSB**］ボタンが無効である場合、「リモートサービスボードの再認識処理」を行います。**

■ リモートサービスボードの再認識処理

下記手順により、リモートサービスボードの再認識処理を行います。

1 **OS を再起動します。**

2 **「リモートサービスボードの認識」を行います。**

なお、この再認識処理を行った後、リモートサービスボードが認識されていない場合には、「ドライバの再インストール」を行います。

■ ドライバの再インストール

下記手順により、ドライバを再インストールします。

1 **管理者または管理者と同等の権限をもつユーザとしてログインします。**

2 **実行中のアプリケーションをすべて終了させます。**

3 **ServerView の CD-ROM から、以下を起動します。この処理により、エージェントがアンインストールされます。**

＜CD-ROM のドライブ＞：¥Svmanage¥Japanese¥Unagent.exe

4 **システムを再起動します。**

5 **ServerView の CD-ROM から、以下を起動します。**

＜CD-ROM のドライブ＞：¥Svmanage¥Tools¥Addagent.exe

6 **「Agent Installation Actions」ダイアログボックスが表示されます。**

7 **同時にインストールする他のエージェントを選択し、［OK］をクリックします。**

この処理により、デバイスドライバを含んだエージェントがインストールされます。デバイスドライバは、"Install ServerView agent" に含まれています。

デバイスドライバのインストールは、" インストール " ー " オプション装置の追加インストール処理 " も併せて参照してください。

8 **「リモートサービスボードの確認」を行います。**

なお、この再インストール処理を行ったあと、リモートサービスボードが認識されていない場合には、弊社担当保守員にご相談ください。

4　通信インタフェースの設定

お使いになる通信インタフェースに応じて、以下の手順で必要な項目を設定します。
リモートサービスボードの通信インタフェースの設定は、リモートサービスボードのドライバをインストールしてから行ってください。

LAN インタフェースの設定

■ OS が Windows NT または Windows 2000 の場合

1 **ローカルの Administrators グループに所属するユーザ名で、サーバにログインします。**
なお、Domain Admins グループでは、設定できません。

2 **実行中のアプリケーションをすべて終了させます。**

3 **次のプログラムを起動します。**

```
<システムドライブ>:¥Program Files¥Fujitsu
                  ¥F5FBAG01¥rsb_uty.exe
```

4 **[LAN Interface] タブを選択し、各項目を設定します。**

5 **各項目を設定後、[Apply] ボタンをクリックします。**

[LAN Interface] タブについては、「■ [LAN Interface] タブ」（→ 245 ページ）を参照してください。

■ OS が Linux の場合

1 **スーパーユーザでログインします。**

2 **ServerView の CD-ROM をマウントします。**
ServerView の CD-ROM をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。

```
# mount /mnt/cdrom/
```

ポイント　**特定のアプリケーションがインストールされている場合には、CD-ROM 挿入と同時に自動的にマウントされます。**

3 **CD-ROM 内のユーティリティを起動します。**

次のコマンドを実行します。

```
# /mnt/cdrom/Svmanage/TOOLS/RSB_UTY/rsb_uty
```

4 **「LAN Interface」を選択します。**

[1] [Enter] を押します。

5 **項目の編集を選択します。**

[e] [Enter] を押します。

6 **メッセージに従って各項目を設定します。**

ポイント

- **項目を入力後、[Enter] を押すと、次の項目編集に移ります。**
- **各項目の入力で、[Enter] のみを押した場合、その項目の設定は、変更されません。**
- **全項目の設定が完了すると、「LAN Interface」画面に戻ります。**

7 **設定を保存します。**

[s] [Enter] を押します。

8 **「LAN Interface」を終了します。**

[x] [Enter] を押します。

9 **ユーティリティを終了します。**

[x] [Enter] を押します。

10 **CD-ROM をアンマウントして、取り出します。**

CD-ROM を取り出す前には、必ずアンマウントしてください。

```
# umount /mnt/cdrom/
```

[LAN Interface] タブについては、「■ [LAN Interface] タブ」（→ 245 ページ）を参照してください。

■ [LAN Interface] タブ

以下に [LAN Interface] タブについて説明します。

設定項目	説明
Internet Protocol	
IP Address	**リモートサービスボードの IP アドレスを設定します。** **（設定必須　デフォルト値：**192.168.0.10**）**
Subnet Mask	**サブネットマスクを設定します。** **（設定必須　デフォルト値：**255.255.255.0**）**

設定項目	説明
Gateway	デフォルトゲートウェイサーバの IP アドレスを設定します。
Domain Name Server	
Use DHCP	DHCP を使用するかしないかを設定します。 ー enabled DHCP を使用します。 ー disabled DHCP を使用しません。
Use DNS	DNS を使用するかしないかを設定します。 ー enabled DNS を使用します。 ー disabled（デフォルト値） DNS を使用しません。
DNS Server	プライマリ DNS サーバを設定します。
DNS Server2	セカンダリ DNS サーバを設定します。
HTTP	
Port	Web インタフェースのポート番号を設定します。
Use SSL	SSL を使用するかしないかを設定します。 ー enabled SSL を使用します。 ー disabled SSL を使用しません。
Telnet	
Port	Telnet インタフェースのポート番号を設定します。 （デフォルト値：2307）
Drop Time	休止状態の Telnet 接続が自動的に切断されるまでの時間（秒）を設定します。（デフォルト値：600）
Console Colour	コンソールリダイレクションで使用する色を設定します。 • Monochrome 白黒 • ANSI Colours ANSI 規格の色指定
Charset Mapping	コンソールリダイレクション中のキャラクタコードを設定します。以下のいずれかより選択します。 • No Mapping キャラクタコードを変換しません。 • Map to VT100 VT100 のキャラクタコードに変換します。 • Map to WinAnsi ANSI 規格のキャラクタコードに変換します。

シリアルインタフェースの設定

■ OS が Windows NT または Windows 2000 の場合

1 **ローカルの Administrators グループに所属するユーザ名で、サーバにログインします。**
なお、Domain Admins グループでは、設定できません。

2 **実行中のアプリケーションをすべて終了させます。**

3 **次のプログラムを起動します。**

```
<システムドライブ>:¥Program Files¥Fujitsu
                ¥F5FBAG01¥rsb_uty.exe
```

4 **［Serial Line Configuration］タブを選択します。各項目を設定します。**

5 **各項目を設定し、[Apply] ボタンをクリックします。**

［Serial Line Configuration］タブについては、「■ ［Serial Line Configuration］タブ」（→ 248 ページ）を参照してください。

■ OS が Linux の場合

1 **スーパーユーザでログインします。**

2 **ServerView の CD-ROM をマウントします。**
ServerView の CD-ROM をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。

```
# mount /mnt/cdrom/
```

ポイント **特定のアプリケーションがインストールされている場合には、CD-ROM 挿入と同時に自動的にマウントされます。**

3 **CD-ROM 内のユーティリティを起動します。**

```
# /mnt/cdrom/Svmanage/TOOLS/RSB_UTY/rsb_uty
```

4 **「Serial Line Configuration」を選択します。**
[2] [Enter] を押します。

5 **項目の編集を選択します。**
[e] [Enter] を押します。

6 **メッセージに従って各項目を設定します。**

ポイント

- **項目を入力後、**[Enter] **を押すと、次の項目編集に移ります。**
- **各項目の入力で、**[Enter] **のみを押した場合、その項目の設定は、変更されません。**
- **全項目の設定が完了すると、「**Serial Line Configuration**」画面に戻ります。**

7 **設定を保存します。**

[s] [Enter] を押します。

8 **「**Serial Line Configuration**」を終了します。**

[x] [Enter] を押します。

9 **ユーティリティを終了します。**

[x] [Enter] を押します。

10 CD-ROM **をアンマウントして、取り出します。**

CD-ROM を取り出す前には、必ずアンマウントしてください。

```
# umount /mnt/cdrom/
```

［Serial Line Configuration］タブについては、「■ ［Serial Line Configuration］タブ」（→ 248 ページ）を参照してください。

■ ［Serial Line Configuration］タブ

以下に［Serial Line Configuration］タブについて説明します。

設定項目	説明
The serial interface should be used at all	リモートサービスボードのシリアルインタフェースを使用するかしないかを設定します。 －チェックボックス オン（デフォルト値） シリアルインタフェースを使用します。 －チェックボックス オフ シリアルインタフェースを使用しません。
Connection Type	シリアルインタフェースの接続タイプを設定します。 － direct（デフォルト値） RS-232C クロスケーブルで接続できます。 － dial-out 管理コンソールから接続することはできませんが、ポケットベルへのアラート通知はできます。 － dial-in 管理コンソールから接続することも、ポケットベルへのアラート通知もできます。 － dial-in/out 呼び出しがあったときにコールバックできます。ポケットベルへのアラート通知もできます － dial-in/out with extension 呼び出しがあったときにコールバックできます。ポケットベルへのアラート通知もできます。
Baud Rate	シリアルインタフェースの通信速度を設定します。
Init String	モデムの初期化コマンドを設定します。 たとえば、管理コンソールから接続（dial-in）する場合、「AT¥N3S0=1&D0¥J0¥Q0¥V2」と設定します。
Dial-out Prefix	コールバック（dial-in/out または dial-in/out with extension）する際のモデムの初期化コマンドを設定します。 たとえば、トーン回線で外線（0 発信）にコールバックする場合、「ATDT 0」と設定します。
Dial-out Number	コールバックする電話番号を設定します。

設定項目	説明
Dial-out Delay/ Callback Delay	呼び出しがあってからコールバックするまでの、待ち時間（秒）を設定します。
Use PPP	ダイヤルアップ接続時に、PPP を使用するかどうかを設定します。 管理コンソールからリモートサービスボードにダイヤルアップ接続する際は、「enabled 」を設定します。 － enabled ダイヤルアップ接続時に、PPP を使用します。 － disabled （デフォルト値） ダイヤルアップ接続時に、PPP を使用しません。 ダイヤルアップ接続時は、以下の IP アドレスが割り当てられます。 リモートサービスボード :192.168.0.11 管理コンソール :192.168.0.12

5　管理ユーザの設定

リモートサービスボードには、デフォルトで管理者権限をもつユーザ名「root」（パスワード「fsc」）が設定されています。セキュリティ確保のためにパスワードを必ず変更してください。

LAN インタフェースからのパスワードの変更

1 **サーバにログインします。**

2 [**スタート**] － [**プログラム**] － [Fujitsu ServerView] － [Fujitsu ServerView] **をクリックし、**ServerView **コンソールを起動します。**

3 **サーバの一覧にあるサーバのアイコンを選択し、**[**ファイル**] **メニューの** [**サーバのプロパティ**] **を選択します。**

[プロパティの設定] ウィンドウが開きます。

4 [**リモートサービスボード**] **タブを選択し、**[**設定**] **ボタンをクリックします。**

[ネットワークパスワード入力] ウィンドウが開きます。

5 **「ユーザ名（root）」と「パスワード（fsc）」を入力し、**[OK] **ボタンをクリックします。**

リモートサービスボードの Web インタフェースが開きます。

6 [User Accounts] **をクリックします。**

[User Accounts] ページが開きます。

7 [root] **をクリックします。**

ユーザ名：root の [Account] ページが開きます。

8 **以下の項目を入力し、**[Apply] **ボタンをクリックします。**

`Old Password`：`fsc` **を入力します。**
`New Password`：**新しいパスワードを入力します。**
`Confirm New Password`：**新しいパスワードを再度入力します。**

シリアルインタフェースからのパスワードの変更

1 **管理コンソールからリモートサービスボードへダイヤルアップ接続します。**

2 Web **ブラウザを起動し、アドレスバーに以下のいずれかのアドレスを入力します。**

－ http://192.168.0.11:< ポート番号（デフォルト 80）>　（SSL が disabled の場合）

- https://192.168.0.11:< ポート番号（デフォルト 443）> （SSL が enabled の場合）

  なお、初期状態では、ポート番号を指定する必要はありません。

[ネットワークパスワード入力] ウィンドウが開きます。

3 **「ユーザ名（root）」、「パスワード（fsc）」を入力し、[OK] ボタンをクリックします。**

リモートサービスボードの Web インタフェースが開きます。

4 **[User Accounts] をクリックします。**

[User Accounts] ページが開きます。

5 **[root] をクリックします。**

ユーザ名：root の [Account] ページが開きます。

6 **以下の項目を入力し、[Apply] ボタンをクリックします。**

`Old Password`	**：`fsc` を入力します。**
`New Password`	**：新しいパスワードを入力します。**
`Confirm New Password`	**：新しいパスワードを再度入力します。**

6　Web インタフェース

リモートサービスボードは Web インタフェースをサポートしており、以下の Web ブラウザからアクセスできます。

- Internet Explorer（Version 4.0 以降）
- Netscape（Version 4.5 以降）

リモートサービスボードに Web インタフェースからアクセスするには、Web ブラウザを起動し、アドレスバーに以下のいずれかのアドレスを入力します。

- http://<IP アドレス >:< ポート番号（デフォルト：80）>　（SSL が disabled の場合）
- https://<IP アドレス >:< ポート番号（デフォルト：443）>　（SSL が enabled の場合）

ポイント

- **リモートサービスボードにダイヤルアップ接続している場合は、IP アドレスに 192.168.0.11 を入力します。**
- **ServerView コンソールから、Web インタフェースにアクセスすることもできます。アクセス方法については、「3 ServerView の使用方法」の「5 リモートサービスボードのサポート」の「［Remote Service Board］プロパティページ」（→ 78 ページ）を参照してください。**

スタート画面

開始アドレスにアクセスし、ユーザ名とパスワードを入力して認証されると、スタート画面が表示されます。

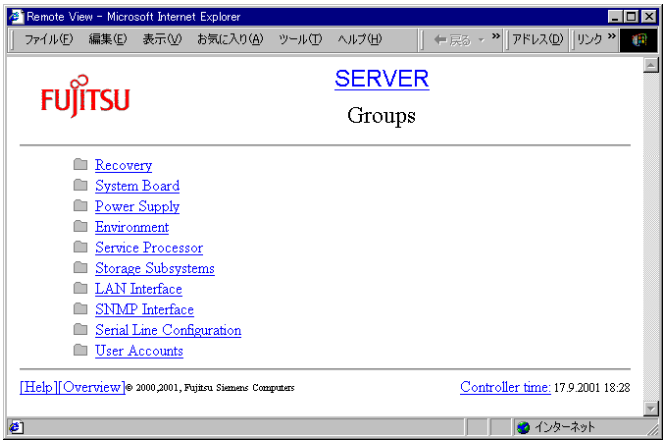


図 33：Web インタフェースのスタート画面

Web インタフェースは、すべてのページのヘッダ領域とフッタ領域が同じ方法で構成されています。
ヘッダ領域には、サーバ名と現在のページのタイトルが表示されます。
フッタ領域には、以下の 3 つのリンクが表示されます。

- [Help]
  各インタフェースの項目を詳しく説明するヘルプ（英語）を表示します。
- [Overview]
  「［Overview］ページ」（→ 254 ページ）を表示します。
  Web インタフェース内を簡単に移動するには、［Overview］のリンク先にあるスタート画面の拡張オプションを利用します。
- [Controller time]
  リモートサービスボードの時間を確認できる［System Board］ページを表示します。

[Overview] ページ

［Overview］ページでは、すべての機能グループへのリンクが展開された形で表示されます。
メニュー構成は、サーバにより異なる場合があります。

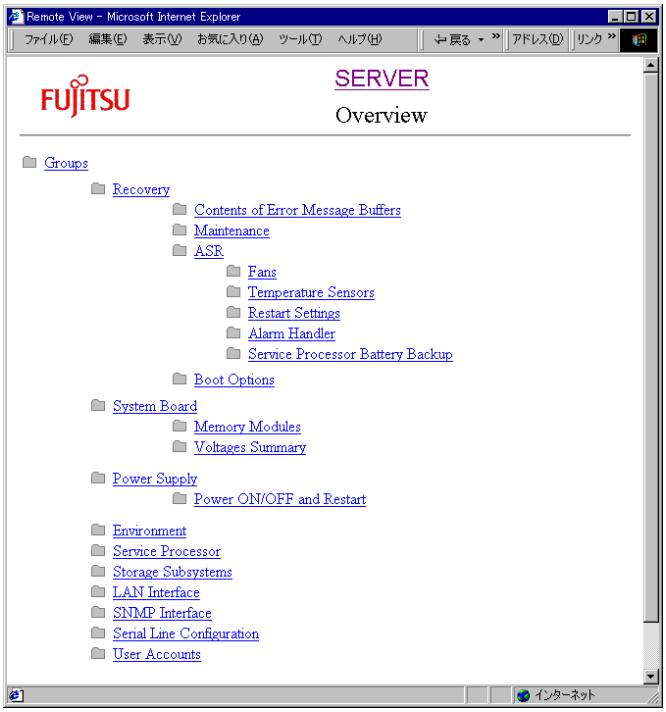


図 34：［Overview］ページ

各機能の概要を、以下に示します。監視中のサーバで ServerView エージェントが稼動している間は、Web インタフェースで以下の機能を利用できます。

- [Recovery]
  ログを表示したり、異常発生時のアクションとアラームハンドラなどを設定します（「［Recovery］ページ」（→ 256 ページ）参照）。
- [Contents of Error Message Buffers]
  エラーログとイベントログを表示します（「■［Contents of Error Message Buffers］」（→ 256 ページ）参照）。
- [Maintenance]
  CMOS バッテリの使用期限とファンの状態に関する情報を表示します（「■［Maintenance］」（→ 257 ページ）参照）。
- [ASR]
  ファン、温度、再起動時の動作、アラームハンドラの設定に関する情報を表示します（「■［ASR］」（→ 257 ページ）参照）。
- [Fans]
  ファンに関する情報を表示します。
- [Temperature Sensors]
  温度に関する情報を表示します。
- [Restart Settings]
  再起動設定を表示します。
- [Alarm Handler]
  アラームハンドラを設定します。
- [Service Processor Battery Backup]
  バッテリーパックの状態を表示します。
- [Boot Options]
  電源の投入 / 切断の理由と起動状態を表示します（「■［Boot Options］」（→ 257 ページ）参照）。
- [System Board]
  ベースボードに関する情報を表示します（「［System Board］ページ」（→ 264 ページ）参照）。
- [Memory Modules]
  メモリモジュールに関する情報を表示します。
- [Voltages Summary]
  電圧に関する情報を表示します。
- [Power Supply]
  電源に関する情報を表示します（「［Power Supply］ページ」（→ 264 ページ）参照）。
- [Power ON/OFF and Restart]
  電源 ON/OFF タイマーを設定します。
- [Environment]
  ファンの状態などに関する情報を表示します（「［Environment］ページ」（→ 264 ページ）参照）。

- [Service Processor]
  バッテリーパックの状態を表示します。また、リモートサービスボードのファームウェアをリモートで更新する操作を行います。
- [Storage Subsystems]
  リモートサービスボードを搭載した外部記憶装置と電源連動を行う情報を設定します（「[Storage Subsystems] ページ」（→ 265 ページ）参照）。
- ［LAN Interface］
  LAN インタフェースを設定します（「［LAN Interface］ページ」（→ 266 ページ）参照）。
- ［SNMP Interface］
  SNMP コミュニティとトラップの送信先を設定します（「［SNMP Interface］ページ」（→ 266 ページ）参照）。
- ［Serial Line Configuration］
  シリアルインタフェースを設定します（「［Serial Line Configuration］ページ」（→ 267 ページ）参照）。
- ［User Accounts］
  ユーザアカウントを設定します（「［User Accounts］ページ」（→ 267 ページ）参照）。
- ［Console Redirection］
  当メニューは、PRIMERGY T850 でのみ表示されます。
  Console Redirection を使用する場合に選択します（「［Console Redirection］ページ」（→ 267 ページ）参照）。
- ［LMC Status/Restart］
  当メニューは、PRIMERGY T850 でのみ表示されます。
  LMC の状態参照および再スタートの場合に選択します（「［LMC Status/Restart］ページ」（→ 269 ページ）参照）。

［Recovery］ページ

［Recovery］ページでは、ログを表示したり、異常発生時のアクションとアラームハンドラなどを設定できます。リモートサービスボードは、サーバの異常な運用ステータスを検出すると、ユーザにより設定された方法にしたがって対処します。たとえば、サーバがオーバーヒートし始めたときには自動的にシャットダウンし、指定した時間を経過したら再起動するように、設定することができます。
［Recovery］ページには、以下のページへのリンクが表示されています。

■ ［Contents of Error Message Buffers］

［Contents of Error Message Buffers］をクリックすると、［Contents of Error Message Buffers］ページが表示され、リモートサービスボードに記録されたエラーログとイベントログのメッセージを確認できます。サーバで ServerView エージェントが稼動している間は、サーバに記録されたエラーログとイベントログのメッセージも同時に確認できます。エラーログメッセージは「Critical Error Message」という表題の下に表示され、イベントログメッセージは「Non-critical Error Message」という表題の下に表示されます。

■ ［Maintenance］

［Maintenance］ページでは、ベースボードの CMOS バッテリの使用期限やファンの状態に関する情報を確認できます。また、ファンの障害時のアクションを設定することもできます。

■ ［ASR］

［ASR Properties］ページでは、ファン、温度、再起動時の動作、アラームハンドラの設定に関する情報を確認できます（「［ASR Properties］ページ」（→ 257 ページ）参照）。

■ ［Boot Options］

［Boot Options］ページでは、電源の投入 / 切断の理由と起動結果に関する情報が表示されます。表示される情報は、以下のとおりです。

- Error Halt Settings
  サーバの POST 時にエラーが発生した場合の動作の設定が表示されます。
- Current Boot
  現在の起動状態が表示されます。例えば、サーバで ServerView エージェントが稼動している場合は、os-running と表示されます。
- Current Boot Result
  POST の結果が表示されます。
- Last Power On Reason ／ Last Power Off Reason
  直前の電源投入および電源切断の結果が表示されます。
- Last Server Boot Result
  前回のシステムの起動の結果が表示されます。

［ASR Properties］ページ

［ASR Properties］ページでは、ファン、温度、再起動時の動作、アラームハンドラの設定に関する情報を確認できます。
［Recovery］ページには、以下のページへのリンクが表示されます。

■ ［Fans］

［Fans］ページでは、ファンの状態の表示と、ファン故障時のアクションを設定することができます。ファン故障の予兆監視のために、設定された時刻（Check Time）になると、ファンの動作テストが行われます。
アクションには、以下のオプションがあります。

- continue：
  ファン故障時にもサーバを継続稼動させます。
- shutdown and poweroff：
  ファン故障が発生すると、一定の遅延（delay）時間の後にサーバをシャットダウンします。故障したファンが、遅延時間内に復旧すると、シャットダウンは中止されます。

■ ［Temperature Sensors］

［Temperature Sensors］ページでは、温度の表示と、温度異常時のアクションを設定することができます。アクションには、以下のオプションがあります。

- continue
  温度異常時にもサーバを継続稼動させます。
- shutdown-power off
  温度が危険（Critical-Level）な値に達すると、サーバをシャットダウンします。

■ ［Restart Settings］

［Restart Settings］ページでは、自動再起動を実行する条件や OS ハングなどを検出するウォッチドッグを設定します。

- Action after Power Failure
  電源異常（停電等）時のアクションを設定します。例えば、停電により電源切断した後に、停電が回復した場合、自動的に電源を投入するように設定することができます。アクションには、以下のオプションがあります。
  - Previous state
    サーバを再起動（復電）する。
    ただし、サーバの電源が切断状態であった場合には、再起動しません。
  - Don’t restart server
    サーバを再起動（復電）しない。
  - Restart server
    サーバを再起動（復電）する。
  - Automatic Power on Delay <MM> Minutes
    サーバを再起動するまでの遅延時間（delay ：MM ［分］）を指定します。
    遅延時間は、高温異常時の場合などに、サーバを再起動（復電）する前に冷却するなどの目的で指定します。この遅延時間は、Don’t restart server を選択した場合にも有効で、ファン故障時、温度異常時に設定されたアクションによりサーバが自動シャットダウンされた場合、この遅延時間後に自動的に再起動（電源投入）されます。再起動は、最大で「Max Number of Reboot Tries」に設定された回数まで行われます。
  - Max Number of Reboot Tries
    ファン故障時、温度異常時に設定されたアクションによりサーバが自動シャットダウンされた場合に、再起動回数の最大値を指定します。
- Action after exceeding reboot tries
  Action after Power Failure による再起動（復電）、または Software/Boot Watchdog による再起動の最大リトライ回数と、再起動を最大リトライ回数繰り返した後のアクションを設定します。アクションには、以下のオプションがあります。
  - Stop rebooting and power off
    再起動を中止する。
    Software/Boot Watchdog による再起動の場合は、最大リトライ回数後にサーバの電源を自動的に切断します。

- Start diagnostic system

  診断システムを起動する。（未サポート。選択しないでください。）

- Software Watchdog

  サーバの OS ハング時のアクションを設定します。リモートサービスボードは、ServerView エージェントと定期的に通信することにより、OS ハングを監視します。リモートサービスボードは、ServerView エージェントとの通信が、OS シャットダウン処理されずに途絶えた場合、タイムアウト時間（timeout delay）後に OS ハングを検出し、アクションを実行します。アクションには、以下のオプションがあります。

  - Reboot

    再起動する。

  - Continue

    再起動しない。

ポイント

Reboot アクションを実行できるようにするには、サーバのシステムを次のように設定する必要があります。

- Windows NT4.0 **の場合**

  コントロールパネルの［システム］をダブルクリックし、［起動／シャットダウン］ページで［自動的に再起動する］のチェックをはずします。

- Windows 2000 **の場合**

  コントロールパネルの［システム］をダブルクリックし、［詳細］ページの［起動／回復］をクリックし、［自動的に再起動する］のチェックをはずします。

- Boot Watchdog

  サーバの OS 起動失敗時のアクションを設定します。リモートサービスボードは、サーバの POST が終了してから、ServerView エージェントが起動するまでの間隔を監視することにより、サーバの OS 起動を監視します。サーバの POST が終了してから、タイムアウト時間（timeout delay）の間に、リモートサービスボードと ServerView エージェントとの通信が開始されない場合、OS 起動失敗を検出し、アクションを実行します。アクションには、以下のオプションがあります。

  - Reboot

    再起動する。

  - Continue

    再起動しない。

■ ［Alarm Handler］

［Alarm Handler］ページでは、アラームハンドラの設定全体を確認できます。このページでは、アラームハンドラの有効化（Enabled）／無効化、テスト送信（Test Alarm）、削除（Delete）ができます。このページの下に表示される［Create］ボタンをクリックすると、目的の形式の新しいアラームハンドラを設定できます。該当するリンクをクリックすると、アラームハンドラの設定ページに移動します。テスト送信する場合は、「Enabled」をチェックし、［Apply］をクリックしてから、［Test Alarm］をクリックします。

アラームハンドラの設定は、タイプにより異なります。アラームハンドラには、以下のタイプがあります。

- signal（シグナル式ポケットベル用）
- numeric（数字式ポケットベル用）
- alpha（英数字式ポケットベル用）
- sms（ポケットベルまたは携帯電話への SMS メッセージ用）
- docomo（NTT DoCoMo のポケットベル用）
- smtp（SMTP メール用）

ポイント

日本国内では、以下のタイプだけ使用できます。その他のタイプは、使用しないでください。

- docomo
- smtp

選択項目が多いため、アラームハンドラの設定ページは複数のセクションに分かれています。セクションごとに［Apply］ボタンがあるため、各セクションを個別に変更できます。

この後の説明では、smtp を一例として取り上げます。docomo に関しては、smtp とは異なるオプションのみを説明します。

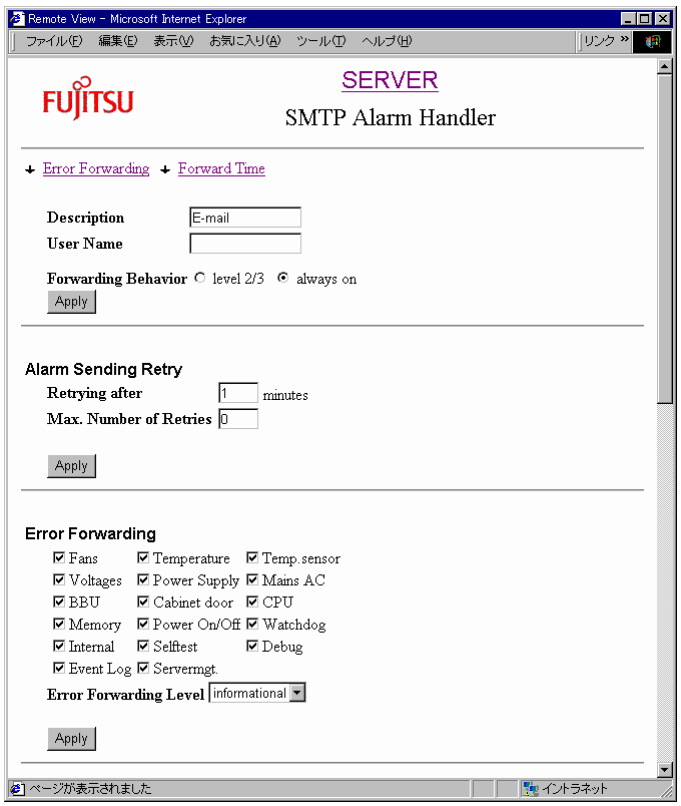


図 35：SMTP アラームハンドラ（Part 1）

- ［Description］
  任意の名前を入力します。ここに入力する文字列は、［Alarm Handler］ページの 2 番目の欄に表示されます。
- ［User Name］
  ユーザ名を入力します。［Description］を入力していない場合は、ここに入力したユーザ名が［Alarm Handler］ページの 2 番目の欄に表示されます。
- ［Forwarding Behavior］
  サーバで ServerView エージェントが稼動していない場合のみアラームを送信する（［level 2/3］）か、常にアラームを送信する（［always on］）かを選択します。
- Alarm Sending Retry
  このセクションでは、失敗した送信を再試行する間隔（［Retrying after <MM> minutes］）と、送信の最大試行回数（［Max. Number of Retries］）を設定します。
- Error Forwarding
  このセクションでは、送信するアラームのフィルタを設定します。アラームハンドラでは、アラームグループとエラーレベルで送信するアラームをフィルタできます。エラーレベルのフィルタにより、指定したレベルより重要度の低いアラームを送信しないようにできます。

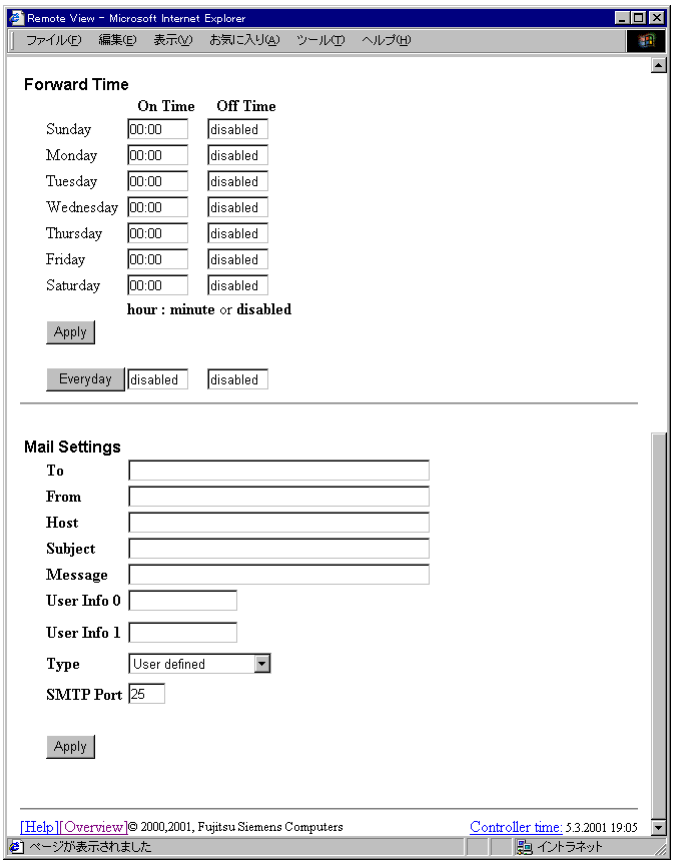


図 36：SMTP アラームハンドラ（Part 2）

- Forward Time

  ここでは、アラームハンドラを有効にする時間帯を設定できます。

  この設定により、平日、週末、夜間など時間帯に応じて、異なる送信先にアラームを送信することもできます。

  各曜日ごとに［On Time］と［Off Time］を設定できます。時間帯を指定せずに、常に送信したい場合は、［On Time］に「00:00」、［Off Time］に「disabled」を指定します。

- Mail Settings

  ここでは、メール送信に関する設定を指定します。

設定項目	説明
[To]	受信側の電子メールアドレスを入力します。
[From]	送信側の電子メールアドレスを入力します。
[Host]	SMTP サービスにアクセスするために使用するホストを入力します。
[Subject]	電子メールの件名を入力します（日本語は使用できません）。
[Message]	メッセージを入力します（日本語は使用できません）。
[User Info 0/1]	ITS format 用の情報を入力します。
[Type]	メッセージのタイプを選択します。次の値の中から選択できます。 • User defined 一般的なタイプのメール • ITS ITS フォーマットメール（未サポート。使用しないでください。） • Fujitsu REMCS Mail 富士通 REMCS メール（未サポート。使用しないでください。）
[SMTP Port]	SMTP サービスにアクセスするためのポート番号を入力します。

NTT DoCoMo アラームハンドラでは、SMTP アラームハンドラの「Mail Settings」の代わりに、以下の項目を設定します。

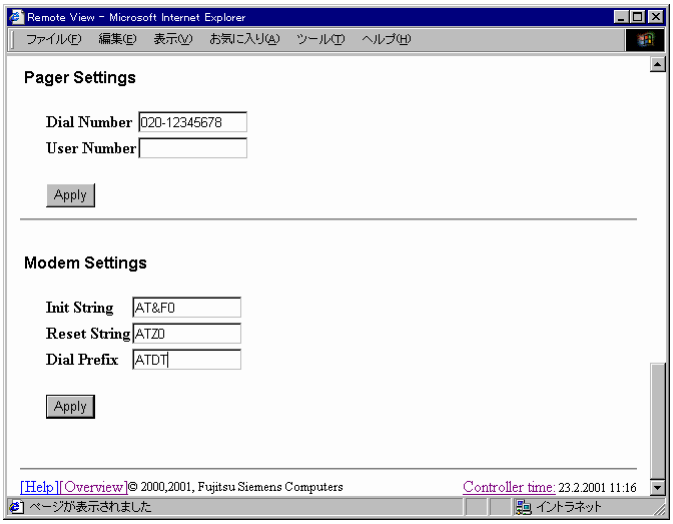


図 37：NTT DoCoMo アラームハンドラ

ー Pager Settings

設定項目	説明
[Dial Number]	**ポケット電話サービスを呼び出すために使用する電話番号を入力します。**
[User Number]	**呼び出すユーザの番号を入力します（入力不要）。**

ー Modem Settings

設定項目	説明
[Init String]	**モデムの初期化コマンドを入力します（例：AT&F0）。**
[Reset String]	**モデムのリセットコマンドを入力します（例：AT&Z0）。**
[Dial Prefix]	**ダイヤルモードのコードを入力します。たとえば、ダイヤル方法がパルスの場合は「ATDP」、トーンの場合は「ATDT」と入力します。**

ポケットベルに送信されるメッセージのフォーマットは、ServerView のアラームサービスと同様です。メッセージのフォーマットの詳細については、「■ 送信されるメッセージのフォーマットについて」（→ 136 ページ）を参照してください。

[Service Processor Battery Backup] ページ

[Service Processor Battery Backup] ページでは、リモートサービスボードに搭載するバッテリーパックの状態が表示されます。

ただし、バッテリーパックは、サポートしていません。また、本ページは、表示されない場合があります。

［System Board］ページ

［System Board］ページでは、サーバのベースボード、CPU、メモリモジュール、電圧に関する情報を確認できます。
［System Board］ページには、以下のページへのリンクが表示されます。

■ ［Memory Modules］

［Memory Modules］ページでは、メモリモジュールに関する情報を確認できます。

■ ［Voltages Summary］

［Voltages Summary］ページでは、電圧に関する情報を確認できます。

［Power Supply］ページ

［Power Supply］ページでは、サーバの電源ユニットの状態に関する情報を確認できます。
［Power Supply］ページには、以下のページへのリンクが表示されます。

■ ［Power ON/OFF and Restart］

［Power ON/OFF and Restart］ページでは、各曜日ごとに電源の投入時刻と切断時刻を設定できます。

［Environment］ページ

［Environment］ページでは、温度（Temperature）、ファン（Fans）、カバーの状態（Door Status）に関する情報を確認できます。温度異常、ファン故障時のアクションを設定することもできます。

[Service Processor] ページ

[Service Processor] ページでは、バッテリーパックの状態を表示します。
また、リモートサービスボードのファームウェアを、リモートで更新する操作を行います。
ただし、バッテリーパックは、サポートしていません。また、ファームウェアのリモート更新機能は、サポートしていません。

[Storage Subsystems] ページ

[Storage Subsystems] ページでは、リモートサービスボードを搭載した外部記憶装置と電源連動を行う情報を設定します。

[New Storage Subsystem] ボタンをクリックすると、連動させる対象装置を新規作成する [Storage Subsystems] ページが表示されます。

[Change] または [Delete] ボタンをクリックすると、既存の設定を変更、または削除できます。

[Storage Subsystems] ページでは、以下の設定を行います。

- [Name]
  対象装置のリモートサービスボードに設定されたユーザアカウントの Name を設定します。
- [Old Password]
  対象装置のリモートサービスボードに設定されたユーザアカウントのパスワードを設定します。本設定は、[Change] の場合に表示されます。
- [New Password]
  対象装置のリモートサービスボードに設定されたユーザアカウントのパスワードを設定します。
- [Confirm New Password]
  上記 [Password] に設定したパスワードを再度設定します。
- [IP Address]
  対象装置のリモートサービスボードに設定された IP アドレスを設定します。
- [Port]
  Port 番号を設定します。
- [Startup Delay]
  対象装置の電源を投入する遅延時間を設定します。
- [Retry Count]
  対象装置の電源投入／切断処理が失敗した場合のリトライ数を設定します。
- [Retry Interval]
  対象装置の電源投入／切断処理が失敗した場合のリトライの間隔を設定します。

ポイント

- **本情報を設定したサーバ（以下、管理装置と記述）の電源が投入／切断された場合、対象装置の電源が投入／切断されます。ただし、サーバは対象装置となりません。**
- **同一対象装置を設定した管理装置が複数台ある場合、次の動作となります。**
  - **管理装置のいずれか 1 台の電源が投入された場合、対象装置の電源が投入されます。**
  - **管理装置のすべての電源が切断された場合、対象装置の電源が切断されます。**

⚠注意

- **本情報を新規に作成した場合、電源制御は次回の管理装置の電源投入時から有効となります。**
- **本情報を削除した場合、対象装置は管理装置が電源切断されたものと見なします。**
- **対象装置を変更する場合、本情報は削除してください。その後、本情報を新規に作成してください。**
- **本情報は、管理装置・対象装置であるサーバ・拡張ディスク装置の電源が切断されている状態で設定（作成、変更、削除）することを推奨します。**
- **本機能により対象装置の電源制御を行う場合、対象装置のリモートサービスボードに設定されているユーザアカウントには、次の権限が許可されている必要があります。**
  Reset/Switch off

［LAN Interface］ページ

［LAN Interface］ページでは、リモートサービスボードの IP アドレスや、HTTP および Telnet のポート番号など、LAN インタフェースを設定できます。各項目の詳細は、本章の「3 ServerView の使用方法」（→ 67 ページ）を参照してください。

［SNMP Interface］ページ

［SNMP Interface］ページでは、SNMP コミュニティとトラップの送信先を設定できます。［New Community］ボタンをクリックすると、新しいコミュニティを作成できます。［New Trap Destination］ボタンをクリックすると、新しい送信先を作成できます。ServerView コンソールから、設定の変更を行う場合は、［Permissions］に「read/write」を指定してください。

ポイント

ServerView エージェントが稼働中に、ServerView コンソールから、ASR 設定や電源の投入／切断などを行う場合は、サーバのシステム上で「FUJITSU SERVER」グループに所属するユーザアカウントと同一のユーザ名とパスワードを持つユーザアカウントを、リモートサービスボードにも作成してください。サーバのシステム上のユーザアカウントの作成については、「2 インストール」の「5 インストール後の処理について」の「 管理ユーザを設定する（FULL/BASIC、またはサーバブレードで必要）」（→ 52 ページ）を参照してください。

[Serial Line Configuration] ページ

[Serial Line Configuration] ページでは、シリアルインタフェース、およびシリアルインタフェースに接続するモデムの全体的な設定を入力できます。データ形式は内部的に 8N1（データビット = 8、パリティビット = なし、ストップビット = 1）に設定されます。

シリアルインタフェースを利用する際は、[The serial interface should be used at all] をチェックします。

各項目の詳細については、本章の「3 ServerView の使用方法」（→ 67 ページ）を参照してください。

[User Accounts] ページ

[User Accounts] ページでは、新しいユーザ名の作成、パスワードと権限の設定、既存のユーザアカウントの削除などができます。ユーザ名に権限を設定しないと、そのユーザは読み取りアクセスしか許可されません。

既存のユーザ名または [New User Account] ボタンをクリックすると、ユーザアカウントを変更または新規作成できる [Account] ページが表示されます。

ポイント

ServerView エージェントが稼働中に、ServerView コンソールから、設定の変更を行う場合は、サーバのシステム上で「FUJITSU SERVER」グループに所属するユーザアカウントと同一のユーザ名とパスワードを持つユーザアカウントを、リモートサービスボードにも作成してください。サーバのシステム上でのユーザアカウントの作成については、「2 インストール」の「5 インストール後の処理について」の「管理ユーザを設定する（FULL/BASIC、またはサーバブレードで必要）」（→ 52 ページ）を参照してください。

[Console Redirection] ページ

当メニューは、PRIMERGY T850 でのみ表示されます。

[Console Redirection] ページでは、サーバのコンソールリダイレクションや、操作が行えます。

⚠注意

コンソールリダイレクションを使用する場合は、サーバの BIOS メニューより、コンソールリダイレクションのパスワードが設定されている必要があります。パスワード設定は、BIOS セットアップの以下のメニューで行います。

[System Security] ー [Remote Control Security Settings] ー [Enter Remote Control Password]

[Console Redirection] ページには以下のメニュー項目があります。

- Graphics Console
- Text Console
- View Windows Blue Screen
- LogOff
- Set Remote Control Keys

これらを選択すると、すべて Console Redirection の親ページが表示されます。
Console Redirection の親ページには以下のメニュー項目があります。

- [Redirect Server Console]
  サーバ動作中の表示や操作が行えます。
- [View Remote POST]
  選択するとサーバがリスタートし、サーバの POST の表示やキー操作が行えます。
- [View Windows Blue Screen]
  過去に発生した Windows ブルースクリーン画面の表示が行えます（最新の Windows ブルースクリーン画面）。

⚠注意 **ブルースクリーン画面を表示させるためには、ウォッチドック監視（Software Watchdog）を有効にしておく必要があります。**

- [Console LogOFF]
  コンソールリダイレクションを終了する場合に必ず LogOFF してください。これはセキュリティ上重要な操作です。
- [Set Remote Control Keys]
  コンソールリダイレクションで使用する特殊キーを別のキーに割り当てることができます。

⚠注意 **これらのメニューを選択すると、次画面で Remote Control Passwordを求められる場合があります。サーバのBIOSメニューで設定したコンソールリダイレクションのパスワードを入力してください。**

[LMC Status/Restart] ページ

[LMC Status/Restart] ページでは、現在の LMC との接続状態が表示されます。
また [Restart LMC] ボタンをクリックすることにより LMC を再スタートさせることが可能です。

⚠注意

- **LMC の再スタートは、LMC の状態が異常（Broken と表示）の場合、かつサーバの電源をオフにした状態で行ってください。**
  なお、LMC の状態が異常の場合には、各情報（FAN 情報、メモリ情報など）が正しく表示されません。また、各操作（電源／リセット操作など）が実行できません。
- **[Console Redirection] ページ、[LMC Status/Restart] ページの機能は、システム管理コントローラが行います。**
  これらのメニューを選択したとき、システム管理コントローラのユーザ名／パスワード入力画面が表示されることがありますので、リモートサービスボードの基本ユーザアカウント（User Accounts の最初のエントリ）に設定したユーザ名／パスワードを入力してください。入力後、システム管理コントローラの WEB ブラウザ（Advanced System Management）が開きますので、いったん閉じてから、再度上記項目を選択してください。

7　ダイヤルアップ接続

リモートサービスボードにモデムを接続すると、リモートサービスボードにダイヤルアップ接続できるようになります。

ポイント

リモートサービスボードにダイヤルアップ接続すると、以下の IP アドレスが割り当てられます。
リモートサービスボード：192.168.0.11
管理コンソール　　：192.168.0.12

管理コンソールからリモートサービスボードにダイヤルアップ接続を行う場合、以下の設定を行います。

■ リモートサービスボードの設定

本章の「4 通信インタフェースの設定」（→ 244 ページ）に従って、シリアルインタフェースの設定を行います。
推奨設定は、以下のとおりです。

設定項目	設定値
Connection Type	dial-in
Baud Rate	38400
Init String	AT¥N3S0=1&D0¥J0¥Q0¥V2
Use PPP	enabled

■ 管理コンソールの設定

以下の手順で、管理コンソールを設定します。

Windows NT4.0 の場合

1　**管理コンソールに管理者または管理者と同等の権限をもつユーザ名でログインします。**

2　**リモートアクセスサービスを設定します。**
コントロールパネルの［ネットワーク］アイコンをダブルクリックします。

3　**［ネットワーク］の［サービス］ページで、［リモートアクセスサービス］を選択し、［プロパティ］をクリックしてください。**
［リモートアクセスサービス］がインストールされていない場合は、［追加］をクリックして、［リモートアクセスサービス］をインストールしてください。

4　**［リモートアクセスセットアップ］で、［構成］をクリックします。**

5 **［ポート使用の構成］で、「ダイヤルアウトのみ」または「ダイヤルアウトと着信」を選択し、［OK］をクリックします。**

6 **［リモートアクセスセットアップ］で、［ネットワーク］をクリックします。**

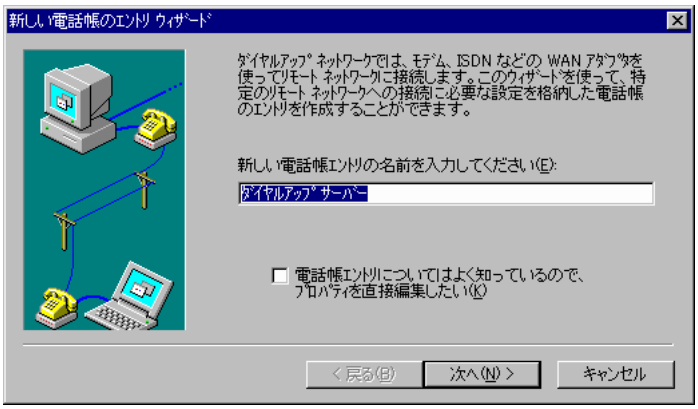
7 **［ネットワークの構成］の［ダイヤルアウトプロトコル］で、「TCP/IP」をチェックし、［OK］をクリックします。**

8 **［リモートアクセスセットアップ］で、［継続］をクリックします。**
設定を変更していない場合は、［キャンセル］をクリックします。

9 **［ネットワーク］で、［閉じる］をクリックし、管理コンソールを再起動し、管理コンソールにログインします。**
設定を変更していない場合は、［キャンセル］をクリックします。

10 **ダイヤルアップネットワークを設定します。**
［スタート］－［プログラム］－［アクセサリ］－［ダイヤルアップネットワーク］をクリックします。

11 **［所在地情報］が表示された場合は、各項目を入力し、［閉じる］をクリックします。**
［ダイヤルアップネットワーク］が表示された場合は、［新規］をクリックします。
［新しい電話帳のエントリウィザード］が表示されます。



12 **新しい電話帳のエントリの名前を入力し、［次へ］をクリックします。**
［サーバー］が表示されます。

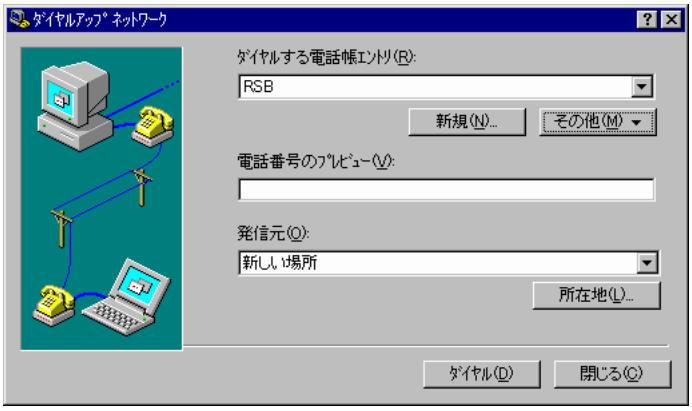
13 **いずれの項目も選択せずに、［次へ］をクリックします。**

［電話番号］が表示されます。

14 **リモートサービスボードの電話番号を入力し、［次へ］をクリックします。**

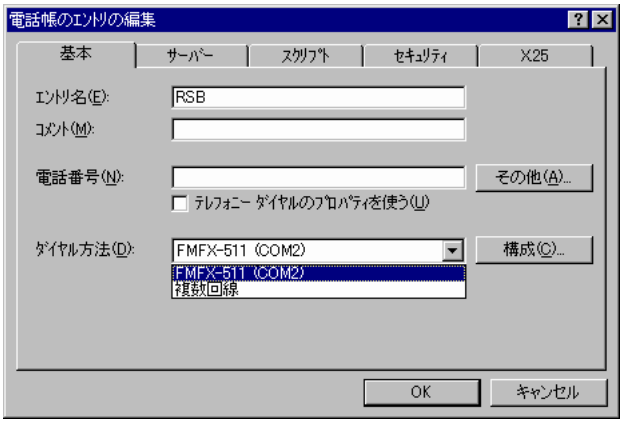
15 **［完了］をクリックします。**

［ダイヤルアップネットワーク］が表示されます。



16 **［その他］をクリックし、「エントリとモデムのプロパティの編集」をクリックします。**

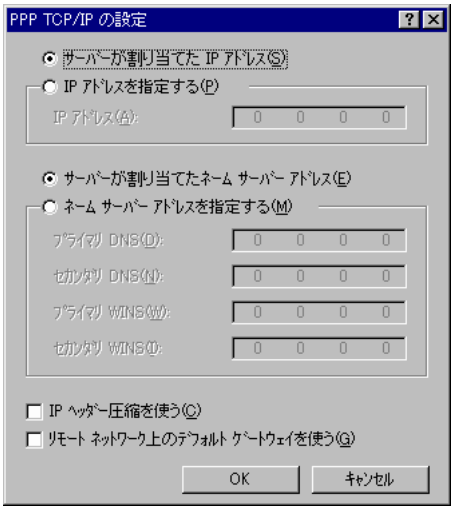
［電話帳のエントリの編集］が表示されます。



17 **［基本］ページで、「ダイヤル方法」から使用するモデムをクリックします。**

18 **［サーバー］ページで、「PPP: Windows NT, Windows 95 Plus, インターネット」をクリックし、「TCP/IP」をチェックし、［TCP/IP の設定］をクリックします。**

［PPP TCP/IP の設定］が表示されます。



19 **「IP ヘッダー圧縮を使う」と「リモートネットワーク上のデフォルト」のチェックをはずし、「サーバーが割り当てた IP アドレス」と「サーバーが割り当てたネームサーバーアドレス」をチェックし、［OK］をクリックします。**

［電話帳のエントリの編集］に戻ります。

20 **［スクリプト］ページで、「なし」をチェックします。**

21 **［セキュリティ］ページで、「クリアテキストを含む任意の認証を受け付ける」をチェックします。**

22 **［X25］ページで、「なし」をチェックし、［OK］をクリックします。**

［ダイヤルアップネットワーク］に戻ります。

23 **［ダイヤル］をクリックすると、ダイヤルアップ接続が開始されます。**

Windows 2000 **の場合**

1 **管理コンソールに管理者または管理者と同等の権限をもつユーザ名でログインします。**

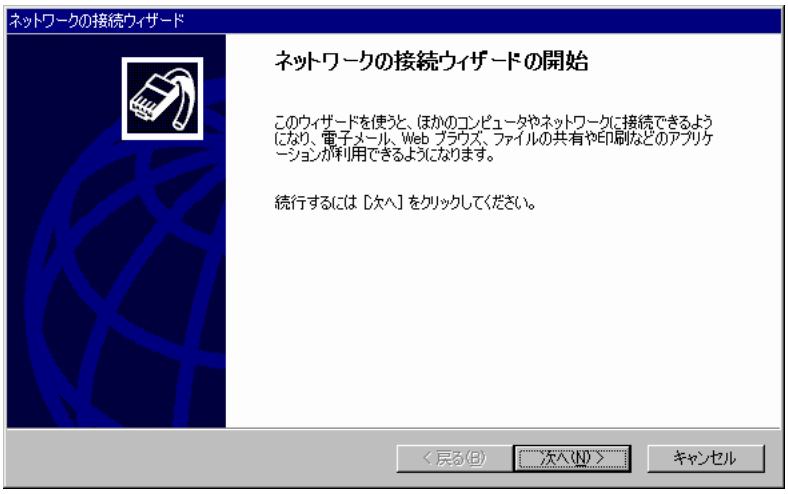
2 **ダイヤルアップネットワークを設定します。**

コントロールパネルの［ネットワークとダイヤルアップ接続］アイコンをダブルクリックします。

［ネットワークとダイヤルアップ接続］が表示されます。

3 **「新しい接続の作成」をダブルクリックします。**

［ネットワークの接続ウィザード］が表示されます。



4 **［次へ］をクリックします。**

5 **「プライベートネットワークにダイヤルアップ接続する」をチェックし、［次へ］をクリックします。**

6 **リモートサービスボードの電話番号を入力し、［次へ］をクリックします。**

7 **「自分のみ」をチェックし、［次へ］をクリックします。**

8 **接続に付ける名前を入力し、［完了］をクリックします。**

［ＸＸＸへ接続］（ＸＸＸは接続の名前）が表示されます。

9 **［プロパティ］をクリックします。**

［ダイヤルアップ接続］が表示されます。

10 **［オプション］ページで、「名前、パスワード、証明書などの入力を求める」をチェックします。**

11 **［セキュリティ］ページで、「標準（推奨設定）」をチェックします。**

12 **［ネットワーク］ページで、「PPP: Windows 95/98/NT4/2000, Internet」を選択し、「インターネットプロトコル（TCP/IP）」をチェックし、［プロパティ］をクリックします。**

［インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ］が表示されます。

13 **「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」をチェックし、［詳細設定］をクリックします。**

［TCP/IP 詳細設定］が表示されます。

14 **［全般］ページで、「リモートネットワークでデフォルトゲートウェイを使う」と「IP ヘッダーの圧縮を使う」のチェックをはずし、［OK］をクリックします。**

［インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ］に戻ります。

15 **［OK］をクリックします。**

［ダイヤルアップ接続］に戻ります。

16 **［共有］ページで、「この接続でインターネット接続の共有を有効にする」のチェックをはずし、［OK］をクリックします。**

［ＸＸＸへ接続］（ＸＸＸは接続の名前）に戻ります。

17 **リモートサービスボードに設定した、ユーザ名とパスワード（デフォルト：root、fsc）を入力し、［ダイヤル］をクリックすると、ダイヤルアップ接続が開始されます。**

付録

1　よくある質問とその回答

一般的な Q&A

- **「Fujitsu Server Control」って何ですか？**

  ServerView Full または Basic 、もしくは RAS 支援サービスのインストールを実行した時に、インストールされるソフトウェアです。
  ServerView もしくは RAS 支援サービスは当ソフトウェアがないと正しく動作しません。
  ServerView SNMP Agent のアンインストール（UNAGENT.EXE）では、初期状態で「Fujitsu Server Control」がインストールされていた場合、アンインストール処理後に、再インストールしています。これは RAS 支援サービスで当サービスが必要となるためです。

- **「Server Control Service」って何ですか？**

  「Fujitsu Server Control」のインストールを実行した時に、インストールされるサービスです。

- **SystemWalker と共存させる場合、SystemWalker を先にインストールする必要がありますか？**

  ServerView では特に、「SystemWalker を先にインストールしなくてはならない要件」は提示していません。
  どちらが先にインストールされても問題はありませんが、同一マシン上に SystemWalker と ServerView を共存させる場合にはコマンドプロンプトで下記コマンドを実行しないと、SystemWalker/ServerView ともにそのマシン上でトラップを受信できなくなります。

  ```
  MPMSTS ON
  ```

- **ServerView をインストールすると、C:¥Winnt¥Temp の下に「svtmpdir」というフォルダが作成されますが、これをインストールした後に消す事は可能ですか？**

  ```
  'NT¥svtmpdir' is 'svtmpdir'in c drive.
  'W2K¥svtmpdir' is 'svtmpdir'in c drive
  'W2K¥winnt_temp_svtmpdir' is 'svtempdir' in
  c:¥winnt¥temp.
  ```

  当フォルダにはデバック情報ファイルが格納されます。
  削除しても問題ありませんが、システム（Fujitsu ServerView Service サービス）を再起動した時に当フォルダは再作成されます。

- **ServerView の管理コンソールから監視できるサーバの数は何台ですか？**

  ServerView の管理コンソールから監視できるサーバの数に制限はありません。
  ただし、ServerView の管理コンソールからサーバを監視する場合に SNMP サービスを使用して情報を採取しています。したがって、監視対象サーバが増加すると、それだけネットワーク負荷が発生します。

- **ServerView で使用しているプロトコルとポート番号は何ですか？**

  ServerView 関連プログラムでは以下のプロトコル、ポートを使用しています。

  - ServerView
    - SNMP（TCP/UDP：161, 162）
    - PING：ICMP（**このプロトコルにはポート番号の概念はありません**）
  - AlarmService、WebExtension(Web サービス提供側)：
    - SNMP（TCP/UDP：161, 162）
    - HTTP（IIS **使用時** TCP：80）
      （ServerView Web-Server **使用時** TCP：3169）

    以下は SSL 接続を行うときのみ
    - HTTPS（IIS **使用時** TCP：443）
      （ServerView Web-Server **使用時** TCP：3170）
  - AlarmService、WebExtension(管理コンソール側)：
    - SNMP（TCP/UDP：161, 162）
    - HTTP（IIS **使用時** TCP：80）
      （ServerView Web-Server **使用時** TCP：3169）

    以下は SSL 接続を行うときのみ
    - HTTPS（IIS **使用時** TCP：443）
      （ServerView Web-Server **使用時** TCP：3170）

- **ＳＭＭ機能をサポートしていますか？**

  サポートしていません。
  ServerView がインストールされるサーバには SMM を搭載することはできません。ServerView では「RSB」カードと連携して、SMM 機能相当を実現します。

ServerView コンソールに関する Q&A

- **監視するサーバを指定するには？**
  - ー ServerView Full の場合：
    アプリケーションの起動後、最初に［サーバの一覧］ウィンドウが表示されます。
    TCP/IP を通して通信するサーバは、ユーザが設定する必要があります。
    ［サーバの一覧］ウィンドウで［新しいサーバ］ボタンをクリックすると、サーバを設定できます。
    続いて、サーバの IP アドレスと名前を入力するダイアログが表示されます（「8 新しいオブジェクトの定義と追加」（→ 86 ページ）参照）。

    LDSM 監視サーバの設定については、「6 LDSM 連携」（→ 161 ページ）章を参照してください。

  - ー ServerView Basic の場合：
    デフォルトでローカルマシンのみが監視対象になっています。
    監視対象の追加はできません。
- **電源 OFF/ON のスケジューリング機能はできますか？**
  ServerView Full または Basic がインストールされているサーバでは、スケジューリング運転を行うことができます。
  設定は ServerView の電源ダイアログを起動して、「電源オン／オフ タイマーの設定」を実施してください。

⚠注意

この機能は、すべてのサーバでサポートされている訳ではありません。
この設定は、スケジューリングを行うサーバの BIOS にも記憶されます。
このサーバから ServerView をアンインストールする前に必ず、スケジューリングを無効にしてください。有効なまま ServerView をアンインストールすると、スケジューリングによる電源 OFF 処理において、「サーバの ＯＳ をシャットダウンせずに電源 ＯＦＦ される」という危険性があります。

AlarmService に関する Q&A

- **Microsoft の Virtual Machine 以外の VM と共存しても大丈夫ですか？**

  Microsoft Virtual Machine（バージョン 5.0.3309 以上）と他の Virtual Machine（たとえば、Sun Java VM）が同じマシンに共存していても、ServerView は正常に動作します。

- **プロキシを使用したい場合、例外に「localhost」を登録しても AlarmService は正常動作しますか？**

  「localhost」を指定してもシステムによっては正常動作しますが、自マシンの IP アドレスを入力するようにしてください。

  （「ServerView 使用前情報を設定する （FULL/BASIC、または管理端末で必要）」（→ 51 ページ）参照）

- **メール送信テストのエラーコードはどんな意味ですか？**

  AlarmService において、メール送信テストを行い、エラー復帰した場合は以下を参照してください。復帰エラーコードが下記以外である場合は、開発元に問い合わせてください。

```
1:        SMTP server error
2:        Mail server error, wrong from or to
address ?
4001:  Malloc failed (possibly out of memory).
4002:  Error sending data.
4003:  Error initializing gensock.dll.
4004:  Version not supported.
4005:  The winsock version specified by gensock is
not supported by this winsock.dll.
4006:  Network not ready.
4007:  Can't resolve (mailserver) hostname.
4008:  Can't create a socket (too many simultaneous
links?)
4009:  Error reading socket.
4010:  Not a socket.
4011:  Busy.
4012:  Error closing socket.
4013:  Wait a bit (possible timeout).
4014:  Can't resolve service.
4015:  Can't connect to mailserver (timed out if
winsock.dll error 10060)
4016:  Connection to mailserver was dropped.
4017:  Mail server refused connection
```

- **管理端末をアンインストールする前にアラーム設定を退避できますか？**

  管理端末をアンインストールするとアラームの設定は削除されます。アンインストール前に以下のファイルを退避することによって、アラームグループに対するアクション設定を退避しておくことができます。

  <システムドライブ>：¥Program Files¥Fujitsu¥F5FBFE01¥ALARMSERVICE¥WWWROOT¥SnmpView¥uid¥1¥snism.dba
  退避ファイル　：AlarmFwd_xxx
  ただし、AlarmFwd_Server(.ini) **と**
  AlarmFwd_Severity(.ini) **を除く。**

⚠注意

上記ファイルのフォーマットは、今後のバージョンで変更されることが考えられるため、バージョンアップの際は開発元に確認してください。

2　トラブルシューティング

ServerView コンソールのトラブルシューティング

- **画面のプロパティのサーバの図が正しく表示されない場合**

  画面のプロパティで 256 色以下に設定した場合、ServerView または InventoryView ウィンドウに示されるサーバの図が正しく表示されないことがあります。
  正しくで表示するには 65536 色以上の環境でご使用ください。
  なお、256 色の場合でも、サーバの写真の表示が色落ちするだけで、動作自体には問題ありません。

- **アーカイブファイル、レポートファイルが作成されない場合**

  アーカイブファイルにデータが格納されていない、またはファイルが不完全な場合は、ServerView がディスクに空き領域がなくなったか、システムがディスクに空き領域がなくなったと判断した可能性があります。
  Program Files¥Fujitsu¥F5FBFE01 内のエラーログ ファイル「ArchErr.log」で、アプリケーションに何らかのエラーログが行われているかどうかを確認します。ディスクに空き領域がないことが原因で ServerView が ArchErr.log ファイルに書き込みを行えない場合は、エラーダイアログが現われます。

  実際にディスクの空き領域がなくなった場合は、一部のファイルを移動することで問題を解決できます。ディスクに空き領域が残っている場合は、ServerView を再起動する必要があります。また、ファイルをチェックしてコンピュータを再起動する方法も有効です。

  レポートファイルにデータが格納されていない場合も、同じ理由が考えられます。

- **リモートサービスボードを搭載したが ServerView に認識されない場合**

  ServerView をインストールした直後、または、リモートサービスボードを搭載した直後の OS 起動時に、リモートサービスボードが ServerView に認識されない場合があります。
  OS を再起動してください。

- **ServerView から MultiPath 画面を開けない場合**

  WindowsNT4 で DDM の MultiPath がインストールされている場合、NT-Agents の再インストールを行うと、ServerView から MultiPath 画面を開けなくなります。
  NT-Agents の再インストール後、DDM の MultiPath の再インストールを行ってください。

- **モデル名等が「Unknown」に表示される場合**

  ［ServerView］ウィンドウにおいて、モデル名等が「Unknown」に表示される場合があります。
  しばらく時間をおいてから、［ServerView］ウィンドウの［更新］ボタンをクリックしてください。

  また、上記の操作をおこなっても［ServerView］ウィンドウ上で「Unknown」が表示される場合、下記手順にしたがって操作してください。

  1 **システムを再起動**

  2 **ログイン直後に**［Fujitsu ServerView］-［SNMP Agents］-［Restart Services］**を起動**

  3 **「**Force Hardware Rescan**」を有効にして、**［Restart］**ボタンをクリック**

⚠注意 **通常は**［Restart Services］**を使用しないでください。**

- **電源／環境 ウィンドウで情報が正しく表示されない**

  電源および環境ウィンドウでは、情報が正しく表示されるまでに多少時間がかかる場合があります。しばらく時間をおいてから、画面を開き直してください。

- **エラーメッセージバッファの内容が表示されない場合**

  ［アクション］ウィンドウにおいて、エラーメッセージバッファの内容が表示されない場合があります。
  しばらく時間をおいてから［アクション］ウィンドウを開き直してください。

- ServerView **の起動に問題が発生した場合**

  ServerView の起動に問題が発生した場合は、ServerView ディレクトリで「CTTxxxx.tmp」（xxxx = 0000 ～ FFFF）という名前のファイルを削除してください。

- **デバイスの表示ができない場合**

  外部記憶装置のアダプタ名「Adaptec/DPT SCSI Raid 3200 Controller」を選択して「デバイスの表示」を行う場合は、各スロットごとに表示を確認してください。
  「デバイスの表示」画面での「アダプタ上のシステムドライバ」のコンブボックスでの表示はサポートしていません。

- ServerView **でのリビルドの状況が表示されない場合**

  RAID0+1 構成において、ServerView でのリビルド状況は表示されません（0% 表示）。
  RAIDmanager を使用して確認してください（StorageManager）。

- **システム識別灯表示ボタンが表示されない場合**

  - 監視対象機種が PRIMERGY C150 の場合：
    C150 にはシステム識別灯は存在していません。

  - それ以外の機種の場合：
    ServerView ウィンドウの左上に表示されるシステム識別灯表示ボタンが表示されない場合があります。この場合、以下の手順で AlarmService を再起動することによって、表示されるようになります。
    ［スタート］-［プログラム］-［Fujitsu ServerView］-［SNMP Agents］-［Restart Service］を選択して開き、「Restart Services」ウィンドウの［Restart］ボタンを押してください。再起動が完了すると「Restart Services completed successfully!」と表示されるので、［Exit］ボタンを押して「Restart Services」ウィンドウを閉じてください。

⚠注意

通常は［Restart Services］を使用しないでください。

AlarmService のトラブルシューティング

- **AlarmService でキー入力を行った時にビープ音がなる場合**

  Microsoft Virtual Machine のバージョンが古い可能性があります。
  ServerView AlarmService では、Microsoft Virtual Machine の バージョン 5.0.3309 以上 を必要とします。
  ServerView の CD-ROM から「SVMANAGE¥TOOLS 」ディレクトリ配下の「VMSETUP.EXE 」を実行してください。

- **AlarmService 画面が開けなくなってしまった場合**

  以下の場合に AlarmService が開けなくなります。

  - コンピュータ名、または IP アドレスを変更した場合
    AlarmService をインストール後にシステムのコンピュータ名、または IP アドレスを変更した場合、AlarmService は正しく動作しません。
    スタートメニューから「Change Computer Details」を実行してください。
    （「インストール後のコンピュータ情報変更」（→ 136 ページ）を参照）

  - プロキシ サーバを設定している場合
    プロキシ サーバを使用するように設定されている場合、画面が表示されない場合があります。現在使用しているマシンの IP アドレスに対しては、プロキシ サーバを介さないようにしてください。
    （「ServerView 使用前情報を設定する （FULL/BASIC、または管理端末で必要）」（→ 51 ページ）を参照）

- **トラップを受信すると、仮想メモリ不足エラーとなる場合**

  ServicePack が適用されていない可能性があります。

  ServerView では、TCP/IP プロトコルや SNMP サービスが必要となりますが、これらのソフトウェアをインストールした後にマイクロソフトが提供する Service Pack（ServerView では NT の場合は SP6a 以上、W2K の場合は SP1 以上を指定しています。）を適用していない場合は、このような現象が発生します。

  ServicePack を再度、適用してください。

- **テストトラップがタイムアウトになってしまう場合**

  ServerView Full または Basic のインストールを実行すると ServerView SNMP Agent がインストールされます。テストトラップはこの ServerView SNMP Agent が正しくインストールされているサーバに対して、実行することができます。

  テストトラップは、以下の場合にタイムアウトになります。

  - タイムアウト時間が短い場合

    ネットワークの状態によっては、デフォルトのタイムアウト時間では短い場合が考えられます。ネットワーク環境を確認した上で、タイムアウト時間を延ばしてみてください。

  - SNMP サービスが正しく設定されていない場合

    - **監視サーバにおいて、SNMP サービスのトラップ送信先に管理端末が登録されていますか？**
    - **監視サーバ／管理端末において、SNMP サービスのセキュリティにおいて、ご使用のコミュニティに対する権利は READ CREATE になっていますか？**
    - **SNMP サービスの設定変更後に、サービスの再起動を行いましたか？［Fujitsu ServerView］-［SNMP Agents］-［Restart Services］を実行してください。**

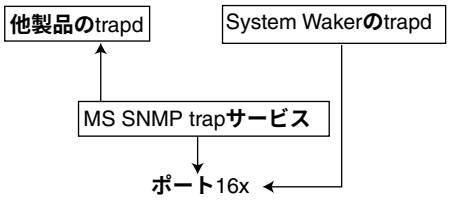
  - SNMP Agent が正しくインストールされていない場合

    ServerView の CD-ROM から「SVMANAGE」ディレクトリ配下の「UNAGENT.BAT」を起動して、SNMP Agent をアンインストールしたあとに、「TOOLS」ディレクトリ配下の「AddAgent.EXE」を起動し、必要な Agent を再インストールしてください。

  - SystemWalker がインストールされている場合

    原因としては、下記のように他製品と SystemWalker の trapd が共存している場合に、SystemWalker が SNMPtrap のポート 16x を見に行って、一人占めしてしまい、他者の trapd へ SNMP トラップが上がらなくなっていると思われます。

ー この逆もあります



この場合、コマンドプロンプトにおいて、mpmsts ON コマンドを実行することで、SystemWalker の trapd も MS SNMPtrap サービスからトラップを受けるようになり、両方の trapd にトラップが上がるようになります。

- **アラームが削除されない場合**

  アラーム マネージャまたはアラーム モニタにおいて、複数のアラームを削除する場合にいくつかのアラームが残ってしまう場合があります。この場合は、再度削除を実行してください。
  また、［共通設定］ウィンドウにおいて、指定した経過日数以上のアラームを削除するように設定できますが、この削除は指定日数経過後、新たにアラームを受信したときに実行されます。

- **スクリプトエラーが発生した場合**

  アラーム マネージャまたはアラーム モニタを使用中にスクリプトエラーが発生する場合があります。この場合、Fujitsu Alarm Service を閉じて、アラーム マネージャまたは、アラーム モニタを再起動してください。

  また、アラーム マネージャ画面を終了するときに、［閉じる］ボタンを押して終了しなかった場合、次回起動時にスクリプトエラーが発生する場合があります。
  アラーム マネージャ画面を終了するには［閉じる］ボタンを使用してください。
  この場合もアラーム マネージャを再起動してください。

- **アラーム マネージャ／アラーム モニタが自動更新されない場合**

  アラーム マネージャ／モニタの画面が更新されない場合があります。この場合、アラーム マネージャ／モニタを再起動してください。
  また、Microsoft Internet Explorer のキャッシュ機能を無効にすると、この問題を防ぐことができます。

3　留意事項

ServerView Frontend の留意事項

- **キーボード操作について**

  ショートカットキーやタブキーは正常に動作しない場合があります。マウスを使って操作してください。

- **ウインドウの操作について**

  ウインドウ メニューにおいて、「縦に並べる」処理は行わないでください。画面が乱れる場合があります

- ServerView **管理コンソールの終了操作について**

  ServerView 管理コンソールを終了する時は、開いているすべての ServerView 画面を終了してください。

- **メモリモジュールのマルチビットエラーについて**

  メモリモジュールでマルチビットエラー（UnCorrectable）が発生した場合、発生した場所、タイミングによっては OS が動作できなくなるため、当事象が報告されない場合があります。

- **外部記憶装置に対するアクション設定について**

  外部記憶装置に対するファン、および、温度センサ異常時のアクション設定は無効です。

- **レポート、またはしきい値のテーブル名に関する制限について**

  レポート、またはしきい値のテーブル名には空白を含む文字列は使用できません。
  テーブルの自体は作成できますが、選択を行うことができないため、削除や開始を行うことが不可能になります。

- **デバイスビュー ウィンドウについて**

  Windows NT V4.0 において、4mmdat.sys（テープ装置用ドライバ）がインストールされていない場合、デバイスビューウィンドウに、テープ装置が表示されません。

- UPS**（無停電電源装置）監視について**

  高機能無停電電源装置（NetpowerProtect シリーズ）の監視において、UPS 装置管理に使用している管理ソフトウェア（NetpowerView F）のバージョンが、V4.8 以前の場合、以下のことに注意してください。

  - UPS Configuration で UPS 接続設定を行うと、電源ウィンドウ中に UPS の図が表示されますが、正常状態においても、電源ケーブルが常に赤色（異常）表示となります。
  - UPS の状態は、UPS 装置に添付されている管理ソフトウェア（NetpowerView F）で確認してください。

- **メモリモジュール ウィンドウについて**

  メモリモジュールウィンドウにおいて、バンク番号は正しく表示されない場合があります。

- **アクション ウィンドウについて**

  再起動オプションにおいて、「Restart」または「Shutdown&off」を選択し、「0 分」（即時にシャットダウン）を指定した場合、直後に Abort Shutdown を実行しても無効になります。

- **WOL（Wakeup On LAN）機能について**

  WOL（Wakeup On LAN）機能によってクライアントから LAN 経由でサーバ本体の電源投入を行った場合、ServerView-［アクション］ウィンドウ内の「電源投入要因」が「N/A」表示になる場合があります。

- **オペレーティングシステム ウィンドウについて**

  OS が WindowsNT4 または Windows2000 の環境において、［オペレーティングシステム］ウィンドウ内の、「グローバル情報」の「現在のセッション」と「ピーク セッション」は未サポートです。

- **トラップの設定について**

  サーバのプロパティ画面において、以下のトラップを有効にしないでください。有効にした場合にはアラームが発生し続ける場合があります（「• イベントログ格納」（→ 293 ページ））。

  - Error entry in eventlog
  - Warning entry in eventlog
  - Infotmation entry in eventlog
  - Failure entry in eventlog
  - Success entry in eventlog

- **レポートマネージャの操作について**

  - レポートノートに 256 文字以上のデータを入力しないでください。256 文字以上入力された場合、256 文字以降のデータは無視されます。
  - 「レポートのテキスト表示」において、印刷を行うと画面が乱れることがありますが問題ありません。

- **レポートグラフの表示操作について**

  - レポートグラフの表示操作は、1 つずつ設定を行なってください。複数設定された場合、表示内容は保証しません。
  - レポート一覧でステータスが起動中のものを選択して、グラフの表示を行った場合、正しく表示されない場合があります。レポート一覧でもう一度選択しなおしてから、再度グラフを表示してください。

- **しきい値監視について**

  サーバでしきい値監視を実行する場合、以下の処理が行われます。

  - ServerView 管理コンソールがサーバのしきい値テーブルを保存します。
  - サーバ（エージェント）が設定要求を取得し、テーブルの変数を監視します。

  この情報は管理コンソールとサーバの両方で保持されるため、以下の状況で矛盾が生じることがあります。

  1. **（おそらく新たにインストールする際に）しきい値を停止せずに管理コンソールのサーバが削除され、そのあとサーバが新たに作成された場合：**
     この場合、管理コンソールはサーバが現在しきい値をとっていることを示しておらず、サーバはしきい値の監視を継続します。
     このため、エージェントのマニュアルを確認して、しきい値を停止するか、エージェントを再インストールします。
  2. **シャットダウンしたか、再インストールした可能性があるため、エージェントが値を監視しない場合：**
     この場合、管理コンソールはサーバが現在しきい値をとっていることを示していますが、サーバはしきい値をとっていません。
     このため、管理コンソール側でしきい値マネージャを使用して、そのサーバに対するしきい値を停止し、必要であれば再起動します。

  しきい値の情報に関しましては、以下の情報も参照してください。

  < **システムドライブ** >**：**`¥Program Files¥Fujitsu¥F5fbfe01¥Thresh.hlp`

- ASR **のプロパティ画面での操作について**
  - 「ポケットベル」タブは未サポートです。
  - 「FAN」設定において、任意の「FAN」を選択し「継続動作します」の指定を行ない、設定ボタンにより処理を行うと「シャットダウン待ち時間指定秒が範囲外である」というメッセージが表示される場合があります。再度設定処理を行ってください。
  - 「FAN」設定において、任意の「FAN」を選択し「シャットダウンする」の指定を行う場合、すべての有効な FAN について設定を行なってください。
  - 「FAN」設定において、CPU0 のファンに異常時シャットダウン時間を設定すると、ポップアップメッセージが表示される場合があります。再度設定を行なってください。
  - 複数の「ASR の設定」画面を同時に開かないでください。
  - アーカイブデータ表示時は、操作を行わないでください。

- ServerView **のステータス アイコン表示について**

  以下の条件において、ステータス アイコンが故障状態になる場合があります。

  1 **監視対象サーバにおいて、かつ、**

  2 OS **の立ち上がりで、かつ、**

  3 ServerView **監視プログラムが全て起動するまでサーバのアイコンが故障状態となる場合があります。**

  監視対象サーバが正常な場合、ServerView 監視プログラムがすべて起動されるとアイコンは正常になります。

- **外部記憶装置ウィンドウについて**
  - **［外部記憶装置］ウィンドウの接続スロットアダプタが正常に表示されない場合があります。しばらく時間をおいてから「外部記憶装置」ウィンドウを再起動してください。**
  - **［外部記憶装置］ウィンドウの 「接続されたデバイス数」が正しく表示されない場合があります。［デバイスの表示］ウィンドウで、「接続されたデバイス数」を確認するようにしてください。**
  - **［設定］ボタンをクリックすると、関連付けられたアプリケーションがインストールされているフォルダが開く場合があります。**
- Windows 2000 **におけるネットワーク情報**

  監視対象サーバが Windows 2000 で動作している場合、ネットワーク情報は正しく表示されません。

- **アーカイブの取得方法について**

  ServerView のサーバ一覧でサーバ名を右クリックすると表示されるメニューのうち、「現在のアーカイブ」は未サポートです。
  アーカイブの取得には、アーカイブマネージャを使用してください（「■ アーカイブ」の「1 アーカイブの開始」（→ 138 ページ）参照）。

AlarmService の留意事項

- **ウインドウの操作について**

  各画面において、「画面の最大化ボタン」、「標準にもどすボタン」を操作しないでください。画面が乱れる場合があります。
  乱れが生じた場合には、その画面を閉じて再度起動してください。

- **メール転送について**

  MAPI によるメール転送はサポートしていません。

⚠注意

テスト送信を行ったときの送信先は「宛先」に指定されたメールアドレスのみです。
「写し」に指定したメールアドレスには送信されません。

- **複数のアラーム設定ウィンドウの起動について**

  アラーム設定ウィンドウは複数開くことが可能な場合があります。
  この場合、１つのみを起動するようにしてください。

- **アラームフィルタの設定画面の終了操作について**

  アラームフィルタの設定画面を開いている場合は、アラーム マネージャを閉じる前にその画面を閉じてください。

- **処理中の画面を閉じる時の注意**

  処理中の画面（たとえば、アラームモニタで多くのアラームを削除するような処理を行った場合など）は、処理が完全に終了するまで画面を閉じないでください。処理が完全に終了する前に画面を閉じた場合は、処理は中止され正常に動作することができません。

- Basic **バージョンでのアラーム設定について**

  Basic バージョンの ServerView をご使用の場合は、共通設定画面において、「不明なサーバを除外」を無効にしないでください。

- RomPilot **トラップについて**

  RomPilot トラップに関するアラームにおいて、MAC アドレスが正しく表示されない場合があります。

- **イベントログ格納**

  次のすべての条件にあてはまる場合にアラームが発生しつづけることがあります。

  - システムに ServerView FULL または BASIC がインストールされている場合
  - 自サーバを監視対象としている場合
  - サーバのプロパティ画面において、以下のいづれかのトラップが有効となっている場合
    - Error entry in eventlog
    - Warning entry in eventlog
    - Infotmation entry in eventlog
    - Failure entry in eventlog
    - Success entry in eventlog
  - アラームの設定において、以下のいづれかの設定となっている場合
    - **［共通設定］ウィンドウのデフォルト アクションにおける「イベントログの格納」が有効**
    - **アラームグループ設定において、自サーバからのアラームに対するアクションとして「ログ」が有効**

  回避手段としては、サーバのプロパティ画面において上記トラップを無効とするか、アラームの設定において上記設定を無効とすることで防ぐことができます。

- **AC 切断／投入時のアラームについて**

  AC 切断／投入（UPS によるスケジュール運転を含む）によるシステム起動でメッセージがポップアップされたりイベントログ（エラー）が格納される場合があります。しかし、システム動作には影響ありません。

  ポップアップされるメッセージは以下のとおりです。

  「Alarm received from server ServerName
  An error was recorded on server ServerName.
  See server management event / error log (Recovery) for detailed information」

  格納されるイベントログは以下のとおりです（ソース：Server Control）。

  「An error was recorded on server N400. See server management event / error log (Recovery) for detailed information.」

- **リブート／シャットダウン時のエラーについて**

  リブートまたはシャットダウン時に、SVxxx.exe（SVFilterServer.exe、SVConvertServerList.exe 等）のエラーが発生する場合があります。
  しかし、再起動後のシステム動作には影響ありません。

- **ブロードキャスト転送について**

  ご使用の Windows Messenger サービスの問題により、ブロードキャスト転送が正しく実行されない場合があります。
  このサービスが正しく動作しているかどうかをテストするためには、DOS のコマンド プロンプトを開いて、次のコマンドを実行してください。
  ドメインの全ユーザに対するブロードキャスト転送をテストするためには、

  ```
  net send * <message>
  ```

  または

  ```
  net send /domain:<yourdomain> <message>
  ```

  セッション中の全ユーザに対するブロードキャスト転送をテストするためには、

  ```
  net send /users <message>
  ```

  特定の全ユーザに対するブロードキャスト転送をテストするためには、

  ```
  net send <user> <message>
  ```

これらのテストが１つでも失敗した場合は、ネットワークを確認してください。

⚠注意 **テスト結果のメッセージが正常終了であった場合でも、ドメインのアドミニストレータに対する「net send」は常に動作しないように見えます。**

- **ステーションの転送モードについて**

  ステーションの転送モードは、「通常」と「ダイレクト」の２種類が指定できます。
  「ダイレクト」指定時は、転送先のアラームモニタには転送したアラームタイプが表示されます。
  また、アラームマネージャでは、アラームタイプに「ServerView alarm passed through」と表示されます。

付録

RemoteConsoleService の留意事項

RemoteControlService のご使用にあたり、下記の留意事項があります。

- RomPilot

  PomPilot 機能は、サーバに依存します。Bios 拡張機能に RomPilot がサポートされていないサーバは、RomPilot 機能は使用できません。

- **リモートサービスボード**
  - コンソールリダイレクション機能は、サーバに依存します。本機能のサポートについては、サーバ本体に添付の取扱説明書を参照してください。
  - コンソールリダイレクションは、サーバの電源切断、リセット、および OS 起動時に自動的に終了します。コンソールリダイレクションが自動的に終了せず、画面が乱れた場合には、コンソールリダイレクション中のウィンドウを閉じてください。

- RCM（RemoteConsoleManager）
  - RCM 機能は、サーバに依存します。BIOS 拡張機能に RCM がサポートされていないサーバは、RCM 機能は使用できません。
  - RCM を使用するには、BIOS セットアップメニューにある Console Redirection の設定が必要です。この設定については、サーバ本体に添付の取扱説明書を参照してください。
  - RCM の設定には、以下のことに注意してください。
    - [Console Redirection]-[Connection over] **には、「Ethernet」を設定してください。**
    - [Console Redirection]-[Server Name] **には、RemoteControlService/LAN の［サーバ名］と同一名を設定してください。サーバ名が不一致の場合、接続時に以下のメッセージが表示され、接続できません。**

      `Could not resolve address for host（`**サーバ名**`）`

- [Console Redirection]-[Authorization password] **には、**"Present" **を設定してください。**

ー RCM の使用には、以下のことに注意してください。

- RCM **リモートコンソールウィンドウではツールバーの一時停止ボタン（ ）はサポートしていません。**
- **意図せずに［コールドリセット（**RCM **を無効にする）］または [コールドブート（**RCM **を無効にする）］を行った場合、コンソールリダイレクションは以下の方法で有効にできます。**

1 RemoteControlService **を起動します。**

2 **対象サーバの** OS **を起動します。**

3 ServerView **を起動します。**

4 ServerView **の［アクション］画面にある［再起動オプション］の［○診断システムの起動］を選択します。**

5 ServerView **の [アクション］画面にある** [Restart] **を実行します。**

対象サーバがシャットダウン＆再起動処理を行います。
サーバ起動時、対象サーバは Console Redirection の接続処理を行います。

6 RemoteControlService **で、**ConsoleRedirection **の接続を行います。**

7 BIOS **のセットアップユーティリティを起動します。**

セットアップユーティリティは、[F2] キーで起動できます。

8 **セットアップユーティリティの** [Console Redirection] **メニューにある** [Console Redirection] **を** [Enabled] **に設定します。**

9 **セットアップユーティリティの** [IPMI Configuration] **メニューにある** [Next Boot Use] **を** [Boot Selection] **に設定します。**

10 **セットアップユーティリティを終了します。**

リモートサービスボードの留意事項

リモートサービスボードのご使用にあたり、下記の留意事項があります。

- **リモートサービスボード**

  バッテリーパックは、サポートしていません。

- Web **インタフェース**

  ー 各ページの設定は、英数字を使用してください。

  ー FAN のチェックタイムなどのようにサーバ本体にのみ装備している機能の設定は、ドライバをとおしてサーバの Bios に記憶されます。このため、各ページの設定は、OS が稼働している状態で実施することを推奨します。

- ASR 機能である再起動リトライ回数超過時のアクションの「診断システム開始」は、使用しないでください。
  [Restart Settings] ページの [Action after exceeding reboot tries] には、「Start diagnostic system」を設定しないでください。
- OS の起動時、または、終了時に、FAN、温度、電圧、メモリなどの情報が正しく表示されない場合があります。いったん、[Overview] をクリックして再表示してください。
- ページの更新を行うと、直前の操作が繰り返される場合があります。設定、電源制御などの操作を行った場合は、いったん [Overview] をクリックし、[Overview] ページに移動してください。特に、以下の操作の後は、ご注意ください。
  - [Power ON/OFF Restart] **ページの「Restart」操作**
  - [Alarm Handler] **ページでの「Create」操作**
- サーバにサポートされていない機能に関する情報の表示、および設定は、 正しく動作しない場合があります。
- シリアルインタフェース（[Serial Line Configuration] ページ）において、以下の機能は使用できません。
  - **「Connection Type」の** "dial-in/out"
  - **「Connection Type」の** "dial-in/out with extension"
- LAN インタフェース（[LAN Interface Configuration] ページ）において、以下の設定はファームウェアの再起動後に有効となります。
  - **「HTTP」の** "Port"
  - **「HTTP」の** "Use SSL"
  - **「Telnet」の** "Redirection Source"

  なお、これらの設定を変更したあとサーバの電源が切断状態になると、ファームウェアが再起動します。

全般的な留意事項

- **アップデート インストールについて**

  アップデート インストールを行う場合、RAID カードが存在していると、［GAM Driver Installation］ウィンドウが表示される場合があります。
  ここでは［OK］ボタンをクリックしてください。
  そのあと、［Installation completed］ウィンドウが表示されますが、ここでも［OK］ボタンをクリックしてください。
- **アンインストール時の注意**

  アンインストール中にアプリケーションエラーが発生する場合がありますが、動作に問題はありません。
  ServerView インストール後に WebExtension をインストールしている場合、ServerView をアンインストールすると、WebExtension は動作できなくなります。先に WebExtension をアンインストールしてください。

- **ログファイル**

  ServerView をインストールするとログ情報格納フォルダ（「C:¥svtmpdir」、「C:¥winnt¥Temp¥svtmpdir」など）が作成されます。
  ログ情報は正常動作時にも作成／更新されます。
  ディスクの空き容量が少なくなった場合などに、ログ情報を削除することができます。
  ログ情報を削除する時は、ServerView を終了して、そのあと、サービス画面から Fujitsu AlarmService を停止してから行なってください。
  Fujitsu AlarmService を停止時にアプリケーションエラーが発生する場合がありますが、動作に問題はありません。

- ServerView Web-Server **と** SSL **について**

  ServerView Web-Server と SSL の組み合わせは WindowsNT4 のみのサポートです。
  Windows2000 で SSL 接続を使用したい場合は Web サーバとして IIS を使用してください。
  インストール時に Web サーバとして ServerView WebServer を選択し、「SSL と認証を有効にする」を有効にした場合、ServerView Web-Server とともに ModSSL と OpenSSL がインストールされます。
  この場合、URL として「http:」の代わりに「https:」、かつ、ポート番号に「3169」の代わりに「3170」を使用することで SSL 接続が可能になります。
  セキュリティ証明書を取得する必要があります。デフォルトでインストールされるセキュリティ証明書はテスト目的に限定して使用してください。
  詳しい情報は以下の OpenSSL のサイトを参照してください。

  ```
  http://www.openssl.org
  ```

  また、接続時に認証が求められるようになります。
  ユーザをを追加するには DOS プロンプトから以下の２つのコマンドを続けて実行してください。

  ```
  cd "<システムドライブ>:¥Program Files¥Fujitsu
  ¥F5fbfe01¥ServerView Services¥WebServer¥bin"
  htpasswd passwd <ユーザ名>
  ```

  以下のように 新しいパスワードが求められます。

  ```
  Automatically using MD5 format on Windows.
  New password:
  ```

  確認のために再度パスワードが求められます。

  ```
  Re-type new password:
  ```

  パスワードが一致した場合、以下のメッセージが表示され、ユーザが追加されます。

  ```
  Adding password for user <ユーザ名>
  ```

以下のメッセージが表示された場合は、パスワードが間違っています。コマンドの実行からやりなおしてください。

```
htpasswd: password verification error
```

ユーザを削除するには以下のファイルをメモ帳で開き、削除したいユーザ名が含まれる行を削除してください。

< **システムドライブ** >:¥Program Files¥Fujitsu ¥F5fbfe01¥ServerView Services¥WebServer¥bin¥passwd

デフォルトではユーザには「svuser」、パスワードには「fsc」が設定されています。
安全のため、このユーザを削除して、独自のユーザを追加してください。

付録

- BootRetryCounter **について**

  異常によるシャットダウン処理が発生した場合、正常に起動に成功しても、[ASR のプロパティ] − [再起動設定] 画面の [再起動リトライ回数の最大値] は減ったままで、自動的には回復しません。
  この値を回復するには、以下の手順を行ってください。

  1. ServerView **で該当するサーバを選択します。**
  2. **右クリックし、**[ASR **のプロパティ**] − [**再起動設定**] **タブをクリックします。**
  3. [**再起動リトライ回数の最大値**] **の右側にある** [**デフォルト**] **ボタンをクリックします（該当サーバへ一度もログイン作業を行っていない場合、ログインが要求されます）。**

- UPS **使用時の注意事項**

  UPS による復電、または、スケジュール運転を行う場合、サーバに自動的に電源を入れるために、サーバ本体に以下の設定をしてください。

  ［PRIMERGY F200、L200、P200、C200、C150 の場合］

  1. BIOS **のセットアップユーティリティを起動します。**
     セットアップユーティリティは、［F2］キーで起動できます。
  2. **セットアップユーティリティの**［Advanced］**メニュー** -［Power On/Off］-［Power Failure Recovery］**において、「**Previous State**」を設定します。**
  3. **セットアップユーティリティを終了します。**

  ［PRIMERGY L100 の場合］

  1. BIOS **セットアップユーティリティを起動します。**
     セットアップユーティリティは、サーバの起動時に［F2］キーで起動できます。
  2. **セットアップユーティリティの**［Power Management］**メニュー** -［Restart on AC/Power Failure］**において、以下を設定します。**

- Windows NT4.0 の場合：「Restore Last Power State」
- Windows 2000 の場合：「Always Power On」

3 セットアップユーティリティを終了します。

［PRIMERGY H450、R450 の場合］
下記のいずれかを設定してください。

- ServerView の［アクション］-［ASR］画面の［再起動設定］タブにおいて、「電源異常後のアクション」で「以前の状態」を設定します。
- SPMAN の［Server Management Control Settings］-［PowerFailBehavior］において、「0」（Restart Server）を設定します。
- RSB WebInterface の［Overview］-［Groups］-［Recovery］-［ASR］-［Restart Settings］-［Action after Power Failure］において、「Previous State」を設定します。

機種ごとの制限事項

■ PRIMERGY N800 での制限事項

以下の機能は、未サポートです。

- ServerView の［アクション］画面の［ブートオプション］
- ServerView の［アクション］-［メンテナンス］画面の［バッテリの情報］
- ServerView の［アクション］-［メンテナンス］画面の［選択したキャビネットのファン稼動状況］
- ServerView の［アクション］-［ASR］画面の［ファン］タブにおけるファンチェック時間
- ファンチェック時間が「N/A」のまま更新を行うと ServerView が異常終了しますので、注意してください。
- ServerView の［アクション］-［ASR］画面の［再起動設定］タブにおける電源異常後のアクション
- ServerView の［アクション］-［ASR］画面の［再起動設定］タブにおける自動電源投入までの待ち時間
- ServerView の［ベースボード］-［メモリ モジュール］画面のエラーカウントの開始
- ServerView の［ベースボード］-［メモリ モジュール］画面のエラーカウント
- ServerView の［ベースボード］-［使用率］画面の PCI バス
- ServerView の［電源］画面のシステムのタイプのステータス表示及び Trap 通知
- ServerView の［アクション］-［ASR］画面の「PowerON/OFF」タブの On Time 機能など

■ PRIMERGY L100 での制限事項

RemoteControlService

RemoteControlService の Console Redirection 機能について、コールドリセットを行なうと、Console Redirection 機能が無効となります。

以下の方法で Console Redirection 機能有効にすることができます。

1. **RemoteControlService を起動します。**
2. **対象サーバの OS を起動します。**
3. **ServerView を起動します。**
4. **ServerView の［アクション］画面にある［再起動オプション］の「○診断システムの起動」を選択します。**
5. **ServerView の［アクション］画面にある［Restart］を実行します。**
   対象サーバがシャットダウンと再起動処理を行います。
   サーバ起動時、対象サーバは Console Redirection の接続処理を行います。
6. **「RemoteControlService」で、ConsoleRedirection の接続を行います。**
7. **BIOS のセットアップユーティリティを起動します。**
   ［F2］キーを押してセットアップユーティリティを起動します。
8. **セットアップユーティリティの［Console Redirection］メニューにある「Console Redirection」を「Enabled」に設定します。**
9. **セットアップユーティリティの［IPMI Configration］メニューにある「Next Boot Use」を「Boot Selection」に設定します。**
10. **セットアップユーティリティを終了します。**

InventryView の表示

InventryView を表示させると、次のエラーメッセージが発生することがあります。

> **再度 `InventryView` を表示させてください。**
> `'[Components1].[CompLangCode].[NameResolv]` **からコンポーネント取得のエラー** `'`

IDE-RAID 監視

ServerStart を使用してインストールを行った場合、Fasttrak-IDE の監視プログラムはインストールされません。下記手順により再インストールしてください。

- アンインストール
  ServerView の CD-ROM から、以下の操作を行います。
  監視サーバの ServerView エージェントをアンインストールするため、以下を起動します。IDE-RAID 監視

  `<CD-ROM` **のドライブ** `>:\SVMANAGE\JAPANESE\UNAGENT.EXE`

- 再起動後
  オプション装置を追加監視するエージェントの追加インストールを行うため、以下を起動します。

  <CD-ROM **のドライブ** >:\SVMANAGE\TOOLS\ADDAGENT.EXE

  「Agent Installation Actions 」ダイアログボックスが表示されます。
  「Install PROMISE Fasttrak IDE Disk Array Agent」を選択してインストールを実行してください。

未サポート機能

以下の機能は未サポートです。

- ServerView の［アクション］-［メンテナンス］画面の［選択したキャビネットのファン稼動状況］
- ServerView の［アクション］-［ASR］画面の［ファン］タブにおけるファンチェック時間
- ServerView の［ベースボード］-［使用率］画面の PCI バス
- ServerView の［ベースボード］-［メモリ モジュール］画面のエラーカウントの開始
- ServerView の［ベースボード］-［メモリ モジュール］画面のエラーカウント
- ServerView の［ベースボード］-［メモリ モジュール］画面のシングルビットエラーカウント
- ServerView の［アクション］-［ASR］画面の「PowerON/OFF」タブにおける設定、動作
- ServerView の［電源］-［電源オン／オフ タイマの設定］画面の「PowerON/OFF」タブにおける設定、動作（RSB を搭載することによって使用可能です。）

■ PRIMERGY F200、L200、P200、C200 での制限事項

- ServerView の［アクション］-［ASR］画面の［再起動設定］タブにおいて、［電源異常後のアクション］で［サーバを再起動しない］を選択することはできません。
- ServerView の［アクション］-［ASR］画面の［再起動設定］タブにおいて、［起動監視］で［継続稼動する］を選択することはできません。
- ServerView の［アクション］-［ASR］画面の［再起動設定］タブにおいて、［ウォッチドックタイマ監視］で［継続稼動する］を選択することはできません。
- ASR プロパティの［ファン］タブ -［ファン異常時のアクション］／［温度センサ］タブ -［高温異常時のアクション］において、シャットダウンを行うように設定されており、［再起動設定］タブ -［再起動リトライ回数の最大値］が「１」に設定されている場合、異常発生時の電源オフ後に自動電源オンされません（「0」に設定した場合と同じ動作）。
  再起動を行いたい場合には「再起動リトライ回数の最大値」を「2」以上に設定して下さい。

■ PRIMERGY C150 での制限事項

- ServerView の［アクション］-［ASR］画面の［再起動設定］タブにおいて、［電源異常後のアクション］で［サーバを再起動しない］を選択することはできません。
- ServerView の［アクション］-［ASR］画面の［再起動設定］タブにおいて、［起動監視］で［継続稼動する］を選択することはできません。
- ServerView の［アクション］-［ASR］画面の［再起動設定］タブにおいて、［ウォッチドックタイマ監視］で［継続稼動する］を選択することはできません。
- ［システム識別灯］は存在しません。
  よって、ServerView 画面に［システム識別灯表示ボタン］は表示されません。

OS に RedHatLinux7.2 を使用した場合のみの制限事項を以下に示します。

- ［ASR］-［PowerON/OFF］で PowerON 時間の設定が行えますが、実際には時間がきても PowerOn しません（スケジュール PowerOn できません）。
- ［ASR］-［再起動設定］でサーバを再起動する設定にしても、PowerOn しません。

■ PRIMERGY F250、P250 での制限事項

- ServerView の［アクション］-［ASR ］画面の［再起動設定］タブにおいて、［電源異常後のアクション］の設定を変更することができません。
  ［電源異常後のアクション］の設定を変更する場合には、BIOS セットアップメニュー（[Advanced]-[Power On/Off]-[Power Failure Recovery]）を使用してください。
- ServerView の［アクション］-［ASR ］画面の［再起動設定］タブにおいて、［起動監視］で［継続稼動する］を選択することはできません。
- ServerView の［アクション］-［ASR ］画面の［再起動設定］タブにおいて、［ウォッチドックタイマ監視］で［継続稼動する］を選択することはできません。
- BIOS セットアップメニューで [Advanced]-[Power On/Off]-[Power Failure Recovery] に「Disabled」を設定している場合、「電源故障の後のアクションを選択してください。」を表示して、以下の設定を変更することができません。
  ServerView の [アクション］-［ASR］画面の［再起動設定］タブの各項目設定の変更は、次の方法で行ってください。
  - ［電源異常後のアクション］を同時に設定（いずれかを●にする）したあと、「適用」または「ＯＫ」を実行してください。
    なお、［電源異常後のアクション］は、変更（設定）できない項目であるため、元の状態（すべて○）に戻ります。
- CPU 温度が異常レベルに達した場合、誤った CPU Speed 率を示したトラップを通知することがありますが、サーバ本体は正しく動作しています。

```
CPU speed at server xxx changed to xxx percent of its
maximum speed.
The CPU speed can be changed by the server management
because of temperature problems.
```

■ PRIMERGY P250 での制限事項

- ［アクション］-［ASR ］-［ファン］の［FAN 8］の［ファン異常時のアクション］は、「指定した時間後にサーバをシャットダウンする」を選択し、時間を180 秒と設定してください。
  FAN8 は電源ユニットを冷却する FAN となっておりますので、危険防止のため必ずこの設定を行ってください。

■ PRIMERGY H450、R450 での制限事項

- OS 動作中にホットスワップで電源ユニットを交換した場合は、ServerView コンソール画面で以下のものが異常になります。
  - 電源画面で交換した電源ユニット
  - 環境画面で交換した電源ユニットの FAN

  正常な表示にするには、以下の操作を行います。
  ［スタート］-［プログラム］-［Fujitsu ServerView］-［SNMP Agnet］-［Restart Service］において、「Restart」を実行してください。
  処理終了後、「Exit」を実行してプログラムを終了してください。
- OS 動作中に CPU-FAN が停止状態になるとその CPU は無効表示となります。
  このとき、アクション画面の「エラーメッセージバッファの内容」の表示に「CPUn Disabel」が表示されますが、OS イベントログの格納およびメッセージのポップアップはされません。

■ PRIMERGY T850 での制限事項

- 電源ユニット、システムファン、メモリの搭載位置を示す番号について
  サーバ本体に表示されている番号、および BIOS セットアップユーティリティの［Error Log］メニューの表示とに差異があります。
  ポップメッセージおよびイベントログ番号の確認は ServerView コンソールにより表示される番号での確認をお願いします。
  ServerView での表示およびエラーメッセージログでは番号が 0 番から始まります。
  サーバ本体に表示されている番号は 1 番から始まります。
  BIOS セットアップユーティリティの「Error Log」番号は 1 番から始まります。
  詳細については、本体取扱説明書の『8.3.2 エラーログ／メッセージログの参照／保存／消去』中の『エラーログ／メッセージログ利用上の留意事項』を参照してください。
- ［環境］-［温度センサ］の［ステータス］において、温度が以下の「Reset warning」レベルになるまでは、「Warning」状態のままとなります。

	Warning	Reset warning
CPU	85 ℃	78 ℃
DASD	58 ℃	50 ℃
周囲	38 ℃	31 ℃

- ［ベースボード］-［電圧］の表示は RSB 電圧のみ表示されます。

- 電源異常が発生した場合、［電源］のアイコンが正常に反映されない場合があります。［電源］画面において、確認をしてください。
- 電源異常が発生した場合、下記メッセージが表示されます。

  Redundant power supply 0 in cabinet 0 at server **「サーバ名」** failed. System can become critical if another power supply fails.

  ［電源］画面において、確認をしてください。
- ［アクション］-［メンテナンス］-［選択したキャビネットのファン稼働状況］の回転数の表示について

  通常の回転数は 35 ～ 50%、高速回転時は約 70%となります。
- ［ベースボード］-［メモリモジュール］において、開始アドレスが正しく表示されません。
  すべてのメモリモジュールの先頭アドレスが 0 × FFF00000 となります。
- ウォッチドッグタイマ監視および起動監視の設定と、実際の動作が以下のように異なっています。
  ServerView による設定と実際の動作との対応は以下のようになります。

  ー ウォッチドッグタイマの場合

ServerView の設定 ：	実際の動作
Disabled	Disabled
1 ～ 2（分）	2.5（分）
3（分）	3.0（分）
4 ～ 120（分）	4.0（分）

  ー 起動監視の場合

ServerView の設定 ：	実際の動作
Disabled	Disabled
1（分）	1.0（分）
2（分）	2.0（分）
3（分）	3.0（分）
4（分）	4.0（分）
5（分）	5.0（分）
6 ～ 7（分）	7.5（分）
8 ～ 10（分）	10（分）
11 ～ 15（分）	15（分）
16 ～ 20（分）	20（分）
21 ～ 30（分）	30（分）
31 ～ 60（分）	60（分）
61 ～ 120（分）	120（分）

- ＯＳがハングアップ（ブルースクリーンも含む）したとき、リモートサービスボードへの Web アクセスが情報収集のために遅くなる場合があります。この状態になった場合は、数分間待ってからリモートサービスボードへの Web アクセスを行ってください。

4　アイコンリスト

アイコンは、1 つまたは複数のオブジェクトのステータスやその変化が一目で分かるように表されています。

Server List

Server List ウィンドウに表示されるアイコンのリストとその意味は次のとおりです。

アイコン	意味
	OK。すべてのコンポーネントは OK。
	エラー。1 つまたは 1 つ以上のコンポーネントでエラーが発生。
	ステータスが悪化。1 つまたは 1 つ以上のコンポーネントのステータスが悪化。
	管理不可能。コンポーネントのステータスを特定できない。
	調査ステータス。調査プロセス中の未定義のステータス。
	不明。サーバにアクセスできない。
	DeskInfo。DeskInfo ツールを開始可能。
	拡張サーバマネージャを起動できます。
	Intel LANDesk® Server Manager（LDSM）を起動できます。
	ServerView がサーバからアラームを受信。
	このサーバでのしきい値測定を開始。
	このサーバでアーカイブデータが使用可能。
	クラスタのステータスは正常。
	調査ステータス！調査プロセス中に未定義のステータス。
	エラー！クラスタの 1 つ以上のコンポーネントでエラーが発生。
	OK! クラスタのすべてのコンポーネントは OK。
	管理不可能。クラスタのステータスを特定できない。
	クラスタのステータスを特定できない。
	ステータスが悪化！クラスタの 1 つ以上のコンポーネントのステータスが悪化。
	サーバが反応しないため、RSB がセカンダリチャネルを介して応答します。

表 1：Server List ウィンドウのアイコン

付録

ポイント

サーバリストの LDSM サーバをダブルクリックすると、LDSM コンソールが開きます。異なる LDSM サーバを表示したい場合、まず LDSM コンソールを閉じてから、必要なサーバの LDSM コンソールをそのサーバをダブルクリックして開く必要があります。

ServerView メニュー

ServerView メニューに表示されるアイコンのリストとその意味は次のとおりです。

アイコン	意味
	メンテナンス **バッテリのサポート**
	ASR: **自動サーバ再構成** **自動サーバ検索**
	再起動 **サーバの再起動**
	サーバのシャットダウンが中止
	シャットダウンと OFF **サーバのシャットダウンと電源の切断**
	メモリモジュール
	温度（赤色 : 危険、緑色 : 稼働中、黄色 : スタンバイ状態、青色 : センサが故障、灰色 : 不明）
	ファン （赤色 : 故障、緑色 : 稼働中、黄色 : スタンバイ状態、青色 : 不明）
	サーバのドアが閉じられている
	サーバのドアが開いている
	サーバのケースが閉じられている
	サーバのケースが開いている

表 2：ServerView **メニューのアイコン**

Mylex の Device View ウィンドウ

Device View ウィンドウに表示されるアイコンのリストとその意味は次のとおりです。

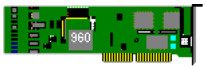
アイコン	意味
	Mylex コントローラ
MB または GB の能力	Mylex 赤色の文字 : 停止中 黄色の文字 : スタンバイモード 緑色の文字 : OK で稼働中 赤紫色の文字 : S.M.A.R.T. が故障 青色の文字 : 不明な状態または再構築状態
	ホスト

表 3：Device View ウィンドウのアイコン

DPT Disk Array Devices ウィンドウ

DPT Disk Array Devices ウィンドウに表示されるアイコンのリストとその意味は次のとおりです。

アイコン	意味
	ステータス : 最適（緑色）
	ステータス : 調査、警告、ステータス悪化、再構築、調査終了（黄色）
	ステータス : エラー、デバイスのフォーマット中、デバイスのセットアップ中（赤色）
	ステータス : 無効、欠落、セットアップされていない、消去済み（青色）

表 4：DPT Disk Array Devices ウィンドウのアイコン

ネットワークインタフェースウィンドウ

ネットワークインタフェースウィンドウに表示されるアイコンのリストとその意味は次のとおりです。

アイコン	意味
	イーサネットネットワークカード
Fast	ファストイーサネットネットワークカード
Multiport	イーサネットネットワークカード （複数のネットワーク接続、マルチポート）
Fast Multiport	ファーストイーサネットネットワークカード （複数のネットワーク接続、マルチポート）
	トークンリングネットワークカード
	FDDI ネットワークカード
	統計情報の入力
	統計情報の出力

表 5：ネットワークインタフェースウィンドウのアイコン

バスとアダプタウィンドウ

バスとアダプタウィンドウに表示されるアイコンのリストとその意味は次のとおりです。

アイコン	意味
Slot 1	システムボード上のスロットの位置 : スロット 1 が一番下
Slot 1	システムボード上のスロットの位置 : スロット 1 が一番上
	選択レベルの分岐が開いている
	選択レベルの分岐が閉じられている
	最低位置の選択レベル、これ以上選択できない

表 6：バスとアダプタウィンドウのアイコン

Alarm Manager ウィンドウと Alarm Monitor ウィンドウ

Alarm Manager ウィンドウと Alarm Monitor ウィンドウに表示されるアイコンのリストとその意味は次のとおりです。

アイコン	意味
	赤色のアラーム : 危険
	ピンク色のアラーム : 重度
	黄色のアラーム : 軽度
	青色のアラーム : 情報
	白色のアラーム : 不明
	ユーザのエントリによりアラームは確定済みである。
	このアラームにより、ほかの実行可能プログラムが起動された。
	このアラームに対してブロードキャスト メッセージが送信された。
	このアラームに対してメールが送信された。
	このアラームにより、ポケットベル呼び出しが起動された。
	このアラームは、マネージャまたは管理ステーションに送信される。
	このアラームは、ローカル NT イベントログに送信される。
	このアラームは、データベースに格納される。
	緑色 : ポケットベルを確認。
	黄色 : ポケットベルを完了。
	赤色 : ポケットベルあり（まだ動作中）
	緑色 : 転送を確認。
	黄色 : 転送を完了。
	赤色 : 転送あり（まだ動作中）

表 7：Alarm Manager ウィンドウと Alarm Monitor ウィンドウのアイコン

付録

クラスタのステータス（未サポート）

クラスタオブジェクトを表したアイコンのリストとその意味は次のとおりです。

アイコン	意味
	クラスタのステータスアイコン
	クラスタサーバノードのステータスアイコン
	クラスタグループのステータスアイコン
	クラスタリソースのステータスアイコン
	クラスタネットワークのステータスアイコン

表 8：クラスタオブジェクト

■ サーバノードのステータス

クラスタサーバノードのステータスアイコンとその意味は次のとおりです。

アイコン	意味
	不明 : ノードの状態を特定できない、または、この表のどの状態にも一致しない。
	アップ : サーバノードは稼働中。
	ダウン : サーバノードは故障中。
	停止 : サーバノードは、現在グループサービスを提供していない。
	結合 : サーバノードは現在クラスタサービスを開始しているが、まだ利用できる状態にはなっていない。
	使用不可 : サーバノードは使用できない。

表 9：クラスタサーバノードのステータスアイコン

■ グループのステータス

クラスタグループのステータスアイコンとその意味は次のとおりです。

アイコン	意味
	不明 : グループの状態を特定できない、または、この表のどの状態にも一致しない。
	オンライン : グループはオンライン状態。
	オフライン : グループはオフライン状態。
	部分的オンライン : グループは部分的にオンライン状態。
	故障 : グループは故障中。
	使用不可 : グループは使用できない。

表 10：クラスタグループのステータスアイコン

■ リソースのステータス

クラスタリソースのステータスアイコンとその意味は次のとおりです。

アイコン	意味
	不明 : リソースの状態を特定できない、または、この表のどの状態にも一致しない。
	オンライン : リソースは使用可能。
	オフライン : リソースは現在使用不可。
	故障 : リソースは故障中。
	オンライン待機中 : リソースの立ち上げ処理中。
	オフライン待機中 : リソースの停止処理中。
	オンラインステータス不確定 : リソースの状態を特定できず、現在使用できない。
	使用不可 : リソースは使用できない。
	継承済み : リソースは継承済み。
	初期化段階 : 現在リソースの初期化中。

表 11：クラスタリソースのステータスアイコン

■ ネットワークのステータス

クラスタネットワークのステータスアイコンとその意味は次のとおりです。

アイコン	意味
	不明 : ネットワークの状態を特定できない、または、この表のどの状態にも一致しない。
	アップ : ネットワークインタフェースはフル稼働中。
	シャットダウン : ネットワークはシャットダウン済み。
	接続中断 : クラスタの 1 つ以上のノードで相互間の通信ができない。
	使用不可 : ネットワークは使用できない。

表 12：クラスタネットワークのステータスアイコン

■ ネットワークインタフェースのステータス

クラスタネットワークインタフェースのステータスアイコンとその意味は次のとおりです。

アイコン	意味
	不明 : ネットワークインタフェースの状態を特定できない、または、この表のどの状態にも一致しない。
	アップ : ネットワークインタフェースは稼働中。
	故障 : ネットワークインタフェースは稼動していない。
	アクセス不可 : ネットワークインタフェースはほかのノードからアクセスできない。
	使用不可 : ネットワークインタフェースは使用できない。

表 13：クラスタネットワークインタフェースのステータスアイコン

■ ブレードサーバのステータス

ブレードサーバのステータスアイコンとその意味は次のとおりです。

アイコン	意味
	ブレードサーバのステータスは正常 (すべてのブレードのステータスは OK)
	ブレードサーバのステータスを調査中
	ブレードサーバのステータスが悪化 (少なくとも 1 つのブレードのステータスが悪化)
	ブレードサーバのステータスがエラー (少なくとも 1 つのブレードのステータスがエラー)
	管理不可能 (ブレードサーバが応答しない)
	不明。ブレードサーバにアクセスできない

表 14：ブレードサーバのステータスアイコン

■ ブレードサーバのステータス LED

ブレードサーバのステータス LED アイコンとその意味は次のとおりです。

アイコン	意味
	点灯中
	消灯中
	点滅中（システム異常を示します）

表 15：ブレードサーバのステータス LED アイコン

■ ブレードの種類

ブレードサーバ内の各ブレードの種類は次のとおりです。

アイコン	意味
	マネージメントブレード（マスタ）
	マネージメントブレード（スレーブ）
	スイッチブレード
	サーバブレード

表 16：ブレードの種類アイコン

その他のアイコン

特定のウィンドウに対応付けられないアイコンのリストとその意味は次のとおりです。

アイコン	意味
	CD-ROM（赤色 : エラー、緑色 : オンライン、黄色 : スタンバイ、青色 : 不明）
	通信デバイス（赤色 : エラー、緑色 : オンライン、黄色 : スタンバイ、青色 : 不明）
	CPU（赤色 : エラー、緑色 : オンライン、黄色 : スタンバイ、青色 : 不明）
	ジュークボックス、自動 CD-ROM チェンジャ（赤色 : エラー、緑色 : オンライン、黄色 : スタンバイ、青色 : 不明）
	MOD（赤色 : エラー、緑色 : オンライン、黄色 : スタンバイ、青色 : 不明）
	プリンタ（赤色 : エラー、緑色 : オンライン、黄色 : スタンバイ、青色 : 不明）
	スキャナ（赤色 : エラー、緑色 : オンライン、黄色 : スタンバイ、青色 : 不明）
	テープドライブ装置（赤色 : エラー、緑色 : オンライン、黄色 : スタンバイ、青色 : 不明）
	WORM 装置（Write Once Read Many）（赤色 : エラー、緑色 : オンライン、黄色 : スタンバイ、青色 : 不明）
	ハードディスク ハードディスク（赤色 : 故障、緑色 : OK）
	不明デバイス（赤色 : エラー、緑色 : オンライン、黄色 : スタンバイ、青色 : 不明）
	グラフィック表示
	グラフ表示
	テキストまたは表による表示
	ポケットベル監視（赤色 : エラー、緑色 : オンライン、黄色 : スタンバイ、青色 : 不明）
	OK
	管理不可
	調査モード
	エラー
	初期設定、環境 [< サーバ >]、または電源 [< サーバ >]

アイコン	意味
	ネットワーク関連のすべてのウィンドウ : **ネットワークインタフェース** [<Server>]、**トークンリング 統計情報** [<Server>]、**イーサネット** MAC **統計情報** [<Server>]、FDDI MAC **統計情報** [<Server>]
	外部記憶装置関連のすべてのウィンドウ : **外部記憶装置** [<Server>]、**デバイスの表示** [<Server>]、**外部記憶装置** : **パーティションビュー** [<Server>]、**外部記憶装置** : **ロジカルビュー** [<Server>], Mylex **ディスクアレイウィンドウ** : **デバイスビュー** [<Server>]、**アダプタビュー** [<Server>]、**物理デバイスビュー** [<Server>]
	システム情報（特に、OS**）**
	ベースボード [<Server>]
	Windows **デスクトップ上の** Server Manager、**サーバリスト**、ServerView[<Server>]、**アラームマネージャ**、**しきい値マネージャ**、**レポートマネージャ**、**しきい値リスト**、**レポートリスト**
	Windows **デスクトップ上の** Server Manager **のヘルプシステム**

表 17 **：その他のアイコン**

5 トラップリスト

以下は、OS の SNMP トラップを ServerView が受け付けたときに表示されるメッセージおよび OS イベントログ - [アプリケーション] に格納するものの一覧表です。

ソース名：Fujitsu ServerView Service

[アプリケーション] - [詳細] には、必ず下記のデータが記載されます。

ServerView received the following alarm from server < サーバ名 >:

dec

次の表は、dec トラップを掲載して、概要を示したものです。

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
diskFailureTrap	2	MAJOR	Disk %s in cabinet %d located on port %d; target %d on host: %s; subsystem: %s has failed.	
diskInformationTrap	4	INFORMATIONAL	Disk %s in cabinet %d located on channel %d; target %d on host: %s; subsystem: %s has recovered.	
powerSupplyFailureTrap	2	MAJOR	Power supply %d in cabinet %d on host: %s; subsystem: %s has failed.	
powerSupplyInformationTrap	4	INFORMATIONAL	Power supply %d in cabinet %d on host: %s; subsystem: %s has recovered.	
fanFailureTrap	2	MAJOR	Fan %d in cabinet %d on host: %s; subsystem: %s has failed.	
fanInformationTrap	4	INFORMATIONAL	Fan %d in cabinet %d on host: %s; subsystem: %s has recovered.	
cacheBatteryFailureTrap	2	MAJOR	Cache Battery %d on host: %s; subsystem: %s has failed.	
cacheBatteryLowTrap	3	MINOR	Cache Battery %d on host: %s; subsystem: %s has LOW state.	
cacheBatteryInformationTrap	4	INFORMATIONAL	Cache Battery %d on host: %s; subsystem: %s has good state.	
temperatureOverThresholdTrap	2	MAJOR	Temperature Sensor %d in cabinet %d on host: %s; subsystem: %s has exceeded WARNING threshold limit.	
temperatureInformationTrap	4	INFORMATIONAL	Temperature Sensor %d in cabinet %d on host: %s; subsystem: %s has recovered below WARNING threshold limit.	
communicationFailureTrap	1	CRITICAL	Agent on host: %s; subsystem: %s has lost communication with subsystem.	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
communicationInformationTrap	4	INFORMATIONAL	Agent on host: %s; subsystem: %s has recovered communication with subsystem.	
controllerFailureTrap	2	MAJOR	The Secondary Controller on host: %s; subsystem: %s has failed.	
controllerInformationTrap	4	INFORMATIONAL	The Secondary Controller on host: %s; subsystem: %s has recovered.	
lunFailureTrap	1	CRITICAL	LUN %s on host: %s; subsystem: %s has failed.	
lunReconstructTrap	3	MINOR	LUN %s on host: %s; subsystem: %s in now in reconstruct mode.	
lunReducedTrap	2	MAJOR	LUN %s on host: %s; subsystem: %s in now degraded.	
lunInformationTrap	4	INFORMATIONAL	LUN %s on host: %s; subsystem: %s in now optimal.	
externalInputFailureTrap	2	MAJOR	The External Input to the EMU in cabinet %d on host: %s; subsystem: %s indicates a failure.	
externalInputInformationTrap	4	INFORMATIONAL	The External Input to the EMU in cabinet %d on host: %s; subsystem: %s indicates a recovery.	

表 18：dec

desktrap

次の表は、desktrap トラップを掲載して、概要を示したものです。

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
sniTrapError	3	WARNING	No Text found in DeskMon.ini on %s	
sniSmartOK	4	NORMAL	SMART hard disk reports OK on %s	
sniSmartWarning	3	WARNING	SMART hard disk reports Warning on %s	
sniSmartError	1	CRITICAL	SMART hard disk reports Error on %s	
sniCoverClosed	4	NORMAL	The cover is closed on %s	
sniCoverOpened	1	CRITICAL	The cover has been opened on %s	
sniCoverSensorincorporated	4	NORMAL	The sensor for securing the cover is incorporated on %s	
sniCoverSensorMissing	1	CRITICAL	The sensor for securing the cover is missing or defective on %s	
sniCoverRecognition	4	NORMAL	The cover type cannot be recognized on %s	
sniCoverRecognitionMissing	1	CRITICAL	The sensor for recognizing the cover type is missing or defective on %s	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
sniFreeDiskSpaceOK	4	NORMAL	Free hard disk space is sufficient on %s.	
sniFreeDiskSpaceWarning	3	WARNING	Free hard disk space is low on %s.	
sniFreeDiskSpaceError	1	CRITICAL	Free hard disk space is extremely low on %s.	
sniMemoryChangesOK	4	NORMAL	The memory size has not changed on %s.	
sniMemoryChangesWarning	3	WARNING	The memory size increased on %s.	
sniMemoryChangesError	1	CRITICAL	The memory size decreased on %s.	
sniDeviceChangesOK	4	NORMAL	No changes in devices on %s.	
sniDeviceChangesWarning	3	WARNING	A device was added to system %s.	
sniDeviceChangesError	1	CRITICAL	A device was removed from system %s.	
sniAOLVoltage_Fan_TemperatureCritical	1	CRITICAL	A Voltage/Fan/Temperature is operating out of specification on %s	
sniAOLLANLeashCritical	1	CRITICAL	The computer was recently reconnected to the network on %s	
sniAOLProcessorTemperatureCritical	1	CRITICAL	The processor temperature is out of specification on %s	
sniAOLProcessor0MissingCritical	1	CRITICAL	The processor P0 was removed from the computer on %s	
sniAOLProcessor1MissingCritical	1	CRITICAL	The processor P1 was removed from the computer on %s	
sniAOLVoltage_FanCritical	1	CRITICAL	A Voltage/Fan is operating out of specification on %s	
sniAOLVoltageCritical	1	CRITICAL	A Voltage is operating out of specification on %s	
sniAOLFanCritical	1	CRITICAL	A Fan is operating out of specification on %s	
sniAOLFan_TemperatureCritical	1	CRITICAL	A Fan/Temperature is operating out of specification on %s	
sniAOLVoltage_TemperatureCritical	1	CRITICAL	A Voltage/Temperature is operating out of specification on %s	
sniAOLNICSMBusSlotCritical	1	CRITICAL	NIC with Capelookout has been plugged into a PCI slot without SMBus connection on %s	
sniAOLPresencePongCritical	1	CRITICAL	Received a presence pong reply on %s	
sniAOLHardwareMonitorCritical	1	CRITICAL	Hardware Monitor has detected an external event on %s	
sniAOL1_5VGTLVoltageCritical	1	CRITICAL	+1.5 GTL Voltage is out of specification on %s	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
sniFreeDiskSpaceOK	4	NORMAL	Free hard disk space is sufficient on %s.	
sniFreeDiskSpaceWarning	3	WARNING	Free hard disk space is low on %s.	
sniFreeDiskSpaceError	1	CRITICAL	Free hard disk space is extremely low on %s.	
sniMemoryChangesOK	4	NORMAL	The memory size has not changed on %s.	
sniMemoryChangesWarning	3	WARNING	The memory size increased on %s.	
sniMemoryChangesError	1	CRITICAL	The memory size decreased on %s.	
sniDeviceChangesOK	4	NORMAL	No changes in devices on %s.	
sniDeviceChangesWarning	3	WARNING	A device was added to system %s.	
sniDeviceChangesError	1	CRITICAL	A device was removed from system %s.	
sniAOLVoltage_Fan_TemperatureCritical	1	CRITICAL	A Voltage/Fan/Temperature is operating out of specification on %s	
sniAOLLANLeashCritical	1	CRITICAL	The computer was recently reconnected to the network on %s	
sniAOLProcessorTemperatureCritical	1	CRITICAL	The processor temperature is out of specification on %s	
sniAOLProcessor0MissingCritical	1	CRITICAL	The processor P0 was removed from the computer on %s	
sniAOLProcessor1MissingCritical	1	CRITICAL	The processor P1 was removed from the computer on %s	
sniAOLVoltage_FanCritical	1	CRITICAL	A Voltage/Fan is operating out of specification on %s	
sniAOLVoltageCritical	1	CRITICAL	A Voltage is operating out of specification on %s	
sniAOLFanCritical	1	CRITICAL	A Fan is operating out of specification on %s	
sniAOLFan_TemperatureCritical	1	CRITICAL	A Fan/Temperature is operating out of specification on %s	
sniAOLVoltage_TemperatureCritical	1	CRITICAL	A Voltage/Temperature is operating out of specification on %s	
sniAOLNICSMBusSlotCritical	1	CRITICAL	NIC with Capelookout has been plugged into a PCI slot without SMBus connection on %s	
sniAOLPresencePongCritical	1	CRITICAL	Received a presence pong reply on %s	
sniAOLHardwareMonitorCritical	1	CRITICAL	Hardware Monitor has detected an external event on %s	
sniAOL1_5VGTLVoltageCritical	1	CRITICAL	+1.5 GTL Voltage is out of specification on %s	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
sniFreeDiskSpaceOK	4	NORMAL	Free hard disk space is sufficient on %s.	
sniFreeDiskSpaceWarning	3	WARNING	Free hard disk space is low on %s.	
sniFreeDiskSpaceError	1	CRITICAL	Free hard disk space is extremely low on %s.	
sniMemoryChangesOK	4	NORMAL	The memory size has not changed on %s.	
sniMemoryChangesWarning	3	WARNING	The memory size increased on %s.	
sniMemoryChangesError	1	CRITICAL	The memory size decreased on %s.	
sniDeviceChangesOK	4	NORMAL	No changes in devices on %s.	
sniDeviceChangesWarning	3	WARNING	A device was added to system %s.	
sniDeviceChangesError	1	CRITICAL	A device was removed from system %s.	
sniAOLVoltage_Fan_TemperatureCritical	1	CRITICAL	A Voltage/Fan/Temperature is operating out of specification on %s	
sniAOLLANLeashCritical	1	CRITICAL	The computer was recently reconnected to the network on %s	
sniAOLProcessorTemperatureCritical	1	CRITICAL	The processor temperature is out of specification on %s	
sniAOLProcessor0MissingCritical	1	CRITICAL	The processor P0 was removed from the computer on %s	
sniAOLProcessor1MissingCritical	1	CRITICAL	The processor P1 was removed from the computer on %s	
sniAOLVoltage_FanCritical	1	CRITICAL	A Voltage/Fan is operating out of specification on %s	
sniAOLVoltageCritical	1	CRITICAL	A Voltage is operating out of specification on %s	
sniAOLFanCritical	1	CRITICAL	A Fan is operating out of specification on %s	
sniAOLFan_TemperatureCritical	1	CRITICAL	A Fan/Temperature is operating out of specification on %s	
sniAOLVoltage_TemperatureCritical	1	CRITICAL	A Voltage/Temperature is operating out of specification on %s	
sniAOLNICSMBusSlotCritical	1	CRITICAL	NIC with Capelookout has been plugged into a PCI slot without SMBus connection on %s	
sniAOLPresencePongCritical	1	CRITICAL	Received a presence pong reply on %s	
sniAOLHardwareMonitorCritical	1	CRITICAL	Hardware Monitor has detected an external event on %s	
sniAOL1_5VGTLVoltageCritical	1	CRITICAL	+1.5 GTL Voltage is out of specification on %s	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
sniFreeDiskSpaceOK	4	NORMAL	Free hard disk space is sufficient on %s.	
sniFreeDiskSpaceWarning	3	WARNING	Free hard disk space is low on %s.	
sniFreeDiskSpaceError	1	CRITICAL	Free hard disk space is extremely low on %s.	
sniMemoryChangesOK	4	NORMAL	The memory size has not changed on %s.	
sniMemoryChangesWarning	3	WARNING	The memory size increased on %s.	
sniMemoryChangesError	1	CRITICAL	The memory size decreased on %s.	
sniDeviceChangesOK	4	NORMAL	No changes in devices on %s.	
sniDeviceChangesWarning	3	WARNING	A device was added to system %s.	
sniDeviceChangesError	1	CRITICAL	A device was removed from system %s.	
sniAOLVoltage_Fan_TemperatureCritical	1	CRITICAL	A Voltage/Fan/Temperature is operating out of specification on %s	
sniAOLLANLeashCritical	1	CRITICAL	The computer was recently reconnected to the network on %s	
sniAOLProcessorTemperatureCritical	1	CRITICAL	The processor temperature is out of specification on %s	
sniAOLProcessor0MissingCritical	1	CRITICAL	The processor P0 was removed from the computer on %s	
sniAOLProcessor1MissingCritical	1	CRITICAL	The processor P1 was removed from the computer on %s	
sniAOLVoltage_FanCritical	1	CRITICAL	A Voltage/Fan is operating out of specification on %s	
sniAOLVoltageCritical	1	CRITICAL	A Voltage is operating out of specification on %s	
sniAOLFanCritical	1	CRITICAL	A Fan is operating out of specification on %s	
sniAOLFan_TemperatureCritical	1	CRITICAL	A Fan/Temperature is operating out of specification on %s	
sniAOLVoltage_TemperatureCritical	1	CRITICAL	A Voltage/Temperature is operating out of specification on %s	
sniAOLNICSMBusSlotCritical	1	CRITICAL	NIC with Capelookout has been plugged into a PCI slot without SMBus connection on %s	
sniAOLPresencePongCritical	1	CRITICAL	Received a presence pong reply on %s	
sniAOLHardwareMonitorCritical	1	CRITICAL	Hardware Monitor has detected an external event on %s	
sniAOL1_5VGTLVoltageCritical	1	CRITICAL	+1.5 GTL Voltage is out of specification on %s	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
sniAOLCPUCoreVoltageCritical	1	CRITICAL	CPU Core Voltage is out of specification on %s	
sniAOL3_3VStandbyCritical	1	CRITICAL	+3.3V Standby Voltage is out of specification on %s	
sniAOL5VoltageCritical	1	CRITICAL	+5V Voltage is out of specification on %s	
sniAOLHardwareMonitorInternalTemperatureCritical	1	CRITICAL	Hardware Monitor Internal Temperature is out of specification on %s	
sniAOLCPUDiodeSensorCritical	1	CRITICAL	CPU Diode Sensor is operating out of specification on %s	
sniAOLCPUFanCritical	1	CRITICAL	CPU Fan is operating out of specification on %s	
sniAOLChassisFanCritical	1	CRITICAL	Chassis Fan is operating out of specification on %s	
sniAOL12VoltageCritical	1	CRITICAL	+12V is operating out of specification on %s	
sniAOL3_3VoltageCritical	1	CRITICAL	+3.3V is operating out of specification on %s	
sniAOLCPUDiodeCritical	1	CRITICAL	Open/Short has occurred in the CPU Diode Sensor on %s	
sniAOL2_5VoltageCritical	1	CRITICAL	+2.5V is operating out of specification on %s	
sniAOLAmbientTemperatureCritical	1	CRITICAL	Ambient temperature is out of specification on %s	
sniAOLRemoteTemperatureCritical	1	CRITICAL	Remote Temperature is out of specification on %s	
sniAOLUndockEventCritical	1	CRITICAL	Surprised undock event (no information is available) on %s	
sniFreeSystemDiskSpaceOK	4	NORMAL	Free hard disk space on system disk is sufficient on %s.	
sniFreeSystemDiskSpaceWarning	3	WARNING	Free hard disk space on system disk is low on %s.	
sniFreeSystemDiskSpaceError	1	CRITICAL	Free hard disk space on system disk is extremely low on %s.	
sniLeaseExpirationOK	4	NORMAL	The lease contract has not yet expired or no expiration date has been set on %s.	
sniLeaseExpirationWarning	3	WARNING	The lease contract will expire soon on %s.	
sniLeaseExpirationError	1	CRITICAL	The lease contract has expired on %s.	

表 19：desktrap

dptscsi

次の表は、dptscsi トラップを掲載して、概要を示したものです。

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
dptHbaTemperatureVeryHighTrap	1	CRITICAL	Very high temperature on controller %d	
dptArrayStatusChangeFailedTrap	1	CRITICAL	Array failed on Controller %d Bus %d ID %d LUN %d.	
dptHbaVoltageChangeTrap	2	MAJOR	5V Voltage status is now %d on controller %d	
dptHbaTemperatureHighTrap	3	MINOR	High temperature on controller %d	
dptHbaEccRAMErrorUncorrectableTrap	2	MAJOR	Uncorrectable ECC error found on controller %d	
dptArrayStatusChangeDegradedTrap	2	MAJOR	Array on Controller %d Bus %d ID %d LUN %d running degraded.	
dptDevReqSenseSeriousErrorTrap	2	MAJOR	Serious: Request sense data for controller %d Bus %d ID %d LUN %d.	
dptDevArrayDataInconsistencyTrap	2	MAJOR	Array Data Inconsistency: Controller %d Bus %d ID %d LUN %d.	
dptHbaErrorTrap	2	MAJOR	controller %d reported a non-SCSI related error.	
dptDevFailedTrap	2	MAJOR	Drive failure on controller %d Bus %d ID %d LUN %d.	
dptDevSmartFailedTrap	2	MAJOR	SMART failure on controller %d Bus %d ID %d LUN %d reported.	
dptHbaAuxVoltageChangeTrap	2	MAJOR	An auxiliary voltage status is now %d on controller %d	
dptHbaEccRAMErrorCorrectedTrap	3	MINOR	Correctable ECC RAM Error detected on controller %d	
dptDevBlockReassignedTrap	3	MINOR	Block %d reassigned: Controller %d Bus %d ID %d LUN %d	
dptDevReqSenseErrorTrap	3	MINOR	Warning: Request sense data for controller %d Bus %d ID %d LUN %d.	
dptHbaVoltageNormalTrap	4	INFORMATIONAL	Normal 5V voltage restored on controller %d	
dptHbaTemperatureNormalTrap	4	INFORMATIONAL	Normal temperature restored on controller %d	
dptHbaEccRAMErrorNotFoundTrap	4	INFORMATIONAL	ECC RAM Error detected at %d on controller %d, but not found.	
dptDevStatusChangedTrap	4	INFORMATIONAL	Device status on Controller %d Bus %d ID %d LUN %d : %d.	
dptDevReqSenseTrap	4	INFORMATIONAL	Request sense data for controller %d Bus %d ID %d LUN %d.	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
dptArrayChangeTrap	4	INFORMATIONAL	Array change on controller %d Bus %d ID %d LUN %d.	
dptBatteryChangeTrap	4	INFORMATIONAL	Battery status is now %d on controller %d.	
dptHbaAuxVoltageNormalTrap	4	INFORMATIONAL	Normal auxiliary voltage restored on controller %d	
dptHbaNoSparesTrap	4	INFORMATIONAL	No available hot spares were detected during a scan on controller %d	
dptOtherTrap	4	INFORMATIONAL	Controller generated event: %s	

表 20：dptscsi

duralink

次の表は、duralink トラップを掲載して、概要を示したものです。

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
duralinkStatusTrap	4	INFORMATIONAL	Group %d Port %d port status is %d.	
duralinkPortUp	4	INFORMATIONAL	Group %s Port %s is up.	
duralinkPortDown	2	MAJOR	Group %s Port %s is down.	
duralinkPortStandby	4	INFORMATIONAL	Group %s Port %s is acting as a failover backup.	

表 21：duralink

dw

次の表は、dw トラップを掲載して、概要を示したものです。

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
sieDWNewConfig	4	INFORMATIONAL	DuplexWrite configuration for group %d was created or updated on server %s.	
sieDWPieceRemoved	4	INFORMATIONAL	DuplexWrite configuration for group %d was changed on server %s. Device %d, %d, %d, %d was removed.	
sieDWConfigRemoved	4	INFORMATIONAL	DuplexWrite group %d was removed on server %s.	
sieDWStatusSet	3	MINOR	Status of DuplexWrite group %d on server %s has changed (user request).	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
sieDWUpdateStatus	3	MINOR	Status of DuplexWrite group %d on server %s has changed (driver request).	
sieDWPieceRecovered	4	INFORMATIONAL	DuplexWrite group %d on server %s: Recovery successful.	
sieDWRecoverAborted	3	MINOR	DuplexWrite group %d on server %s: Recovery aborted.	
sieDWReservationConflict	2	MAJOR	DuplexWrite group %d on server %s: Reservation conflict occured - group is not accessible.	
sieDWConfigChanged	4	INFORMATIONAL	DuplexWrite on server %s: New configuration was found.	
sieDWConfigInvalidated	4	INFORMATIONAL	DuplexWrite group %d on server %s: Configuration information was invalidated.	
sieDWActiveLunChanged	4	INFORMATIONAL	DuplexWrite group %d on server %s: Device (%d, %d, %d, %d) is used for read commands.	
sieDWPieceFailed	1	CRITICAL	DuplexWrite group %d on server %s: Device (%d, %d, %d, %d) failed.	
sieDWRootFlagChanged	4	INFORMATIONAL	DuplexWrite group %d on server %s: Root flag changed.	
sieDWNameChanged	4	INFORMATIONAL	DuplexWrite group %d on server %s: Name changed.	
sieDWForceActive	4	INFORMATIONAL	DuplexWrite group %d on server %s: Device (%d, %d, %d, %d) forced active at next boot (snapshot).	
sieDWRefreshFinished	4	INFORMATIONAL	DuplexWrite data on server %s was updated.	
sieDWDiskRegistered	4	INFORMATIONAL	A disk on server %s was registered/ unregistered.	

表 22：dw

hd

次の表は、hd トラップを掲載して、概要を示したものです。

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
sniSMARTFailurePredicted	1	CRITICAL	SMART predicts failure on disk %d (%s), adapter %d (%s), on Server %s.	
sniSMARTMonitoringDisabled	4	INFORMATIONAL	SMART configuration has been changed on hard disk %d (%s), adapter %d (%s), on Server %s.	

表 23：hd

ldsm

次の表は、ldsm トラップを掲載して、概要を示したものです。

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
ldsmOKTrap	4	NORMAL	Intel LANDeskÆ Server Manager has reported: The computer's status is %s.	
ldsmInformationalTrap	4	NORMAL	Intel LANDeskÆ Server Manager has reported: The computer's status is %s.	
ldsmWarningTrap	3	MINOR	Intel LANDeskÆ Server Manager has reported: The computer's status is %s.	
ldsmCriticalTrap	1	CRITICAL	Intel LANDeskÆ Server Manager has reported: The computer's status is %s.	

表 24：ldsm

megaraid

次の表は、megaraid トラップを掲載して、概要を示したものです。

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
rtConfigUpdated	4	INFORMATIONAL	Host Adapter-%d: A New Configuration has been written.	
rtPhysicalDriveStateChange	4	INFORMATIONAL	Adapter-%d, Channel-%d, Target-%d: Drive State Changed from %s to %s.	
rtLogicalDriveStateChange	4	INFORMATIONAL	Adapter-%d, Logical Drive-%d: State Changed from %s to %s.	
rtInitializeStarted	4	INFORMATIONAL	Adapter-%d, Logical Drive-%d: Initialization Started.	
rtInitializeCompleted	4	INFORMATIONAL	Adapter-%d, Logical Drive-%d: Initialization Completed Successfully.	
rtInitializeAborted	4	INFORMATIONAL	Adapter-%d, Logical Drive-%d: Initialization Aborted by User.	
rtInitializeFailed	4	INFORMATIONAL	Adapter-%d, Logical Drive-%d: Initialization Failed.	
rtCheckConsistencyStarted	4	INFORMATIONAL	Adapter-%d, Logical Drive-%d: Check Consistency Started.	
rtCheckConsistencyCompleted	4	INFORMATIONAL	Adapter-%d, Logical Drive-%d: Check Consistency Completed. No Inconsistencies Found.	
rtCheckConsistencyAborted	4	INFORMATIONAL	Adapter-%d, Logical Drive-%d: Check Consistency Aborted by User.	
rtConsistencyCorrected	4	INFORMATIONAL	Adapter-%d, Logical Drive-%d: Check Consistency Operation Completed. Inconsistencies have been Cured.	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
rtCheckConsistencyFailed	4	INFORMATIONAL	Adapter-%d, Logical Drive-%d: Check Consistency Failed.	
rtReconstructionStarted	4	INFORMATIONAL	Adapter-%d, Logical Drive-%d: Reconstruction Started.	
rtReconstructionCompleted	4	INFORMATIONAL	Adapter-%d, Logical Drive-%d: Reconstruction Completed Successfully.	
rtReconstructionFailed	4	INFORMATIONAL	Adapter-%d, Logical Drive-%d: Reconstruction Failed.	
rtPredictiveFailuresExceeded	4	INFORMATIONAL	Adapter-%d, Channel-%d, Target-%d: Reported Predictive Failure. (Failure Threshold Exceeded) Drive Identification String = %s Sense Key = 0x%x, ASC = 0x%x, ASCQ = 0x%x.	
rtPredictiveFailuresFalse	4	INFORMATIONAL	Adapter-%d, Channel-%d, Target-%d: Reported Predictive Failure. (Failure Prediction Threshold Exceeded [FALSE]) Drive Identification String = %s Sense Key = 0x%x, ASC = 0x%x, ASCQ = 0x%x.	
rtCheckConditionStatus	4	INFORMATIONAL	Adapter-%d, Channel-%d, Target-%d: Command Completed with Sense_Key-0x%x ASC-0x%x ASCQ-0x%x.	
rtNewDriveInserted	4	INFORMATIONAL	Adapter-%d, Channel-%d, Target-%d: New Device Inserted.	
rtBatteryMissing	4	INFORMATIONAL	Adapter-%d: Battery Module is missing.	
rtBatteryVolatageLow	4	INFORMATIONAL	Adapter-%d: Battery Module Voltage is Low.	
rtBatteryTemperatureHigh	4	INFORMATIONAL	Adapter-%d: Battery Module Temperature Exceeded Danger Threshold.	

表 25：megaraid

mp

次の表は、mp トラップを掲載して、概要を示したものです。

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
sieMPError	1	CRITICAL	MultiPath group %d on server %s is down.	
sieMPRetry	2	MAJOR	Port %d of MultiPath group %d on server %s is down. Error on ID %d, Lun %d.	
sieMPActivePortChanged	4	INFORMATIONAL	Active port for MultiPath group %d changed on server %s. Port %d is now active port.	
sieMPReconfigured	4	INFORMATIONAL	MultiPath group %d reconfigured on server %s. Port %d was affected.	
sieMPStatusChanged	4	INFORMATIONAL	MultiPath behavior for group %d was changed on server %s.	
sieMPAutoRecovered	4	INFORMATIONAL	MultiPath group %d on server %s: Port %d recovered from error.	
sieMPErrorCleared	4	INFORMATIONAL	MultiPath group %d on server %s: Error for MultiPath port %d was cleared.	

表 26：mp

mylex

次の表は、mylex トラップを掲載して、概要を示したものです。

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
mylexAutoRebuildStarted	4	INFORMATIONAL	Automatic rebuild of device %d on channel %d was started at disk array adapter in slot %d. The standby device %d at channel %d will be used (Server %s).	
mylexManualRebuildStarted	4	INFORMATIONAL	Manual rebuild was started at disk array adapter in slot %d at server %s.	
mylexRebuildDone	4	INFORMATIONAL	Rebuild was successfully completed at disk array adapter in slot %d (Server %s).	
mylexRebuildCanceled	4	INFORMATIONAL	Rebuild was cancelled at disk array adapter in slot %d (Server %s).	
mylexRebuildStatus	4	INFORMATIONAL	Rebuild status at disk array adapter in slot %d: current drive=%d, drive size=%d MBytes; %d MBytes remaining (Server %s).	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
mylexRebuildError	2	MAJOR	Rebuild error at disk array adapter in slot %d: %d bad blocks detected (Server %s).	
mylexRebuildNewDeviceFailed	2	MAJOR	Rebuild finished at disk array adapter in slot %d: new device failed (Server %s).	
mylexRebuildLogicalDriveFailed	2	MAJOR	Rebuild finished at disk array adapter in slot %d: logical drive failed, %d bad blocks detected (Server %s).	
mylexParityCheckStarted	4	INFORMATIONAL	Parity check was started at disk array adapter in slot %d (Server %s).	
mylexParityCheckDone	4	INFORMATIONAL	Parity check was successfully completed at disk array adapter in slot %d (Server %s).	
mylexParityCheckCanceled	4	INFORMATIONAL	Parity check was cancelled at disk array adapter in slot %d (Server %s).	
mylexParityCheckStatus	4	INFORMATIONAL	Parity check status at disk array adapter in slot %d: current drive=%d, drive size=%d MB; %d MBytes remaining (Server %s).	
mylexParityCheckError	2	MAJOR	Parity check error at disk array adapter in slot %d: %d bad blocks detected (Server %s).	
mylexParityCheckLogicalDriveFailed	2	MAJOR	Parity check finished at disk array adapter in slot %d; logical drive failed: %d bad blocks detected (Server %s).	
mylexLogicalDriveOffline	1	CRITICAL	Logical drive %d at disk array adapter in slot %d is offline (Server %s).	
mylexLogicalDriveCritical	2	MAJOR	Logical drive %d at disk array adapter in slot %d is critical (Server %s).	
mylexLogicalDriveOnline	4	INFORMATIONAL	Logical drive %d at disk array adapter in slot %d is online (Server %s).	
mylexPhysicalDeviceDied	1	CRITICAL	Physical device %d on channel %d at disk array adapter in slot %d is DEAD (Server %s).	
mylexPhysicalDeviceAlive	4	INFORMATIONAL	Physical device %d on channel %d at disk array adapter in slot %d is now ONLINE (Server %s).	
mylexWriteBackError	2	MAJOR	Controller cache write back error at disk array adapter in slot %d: %d bad blocks (Server %s).	
mylexStateChangeTableFull	2	MAJOR	Cache state-change table full at disk array adapter in slot %d (Server %s).	
mylexAdapterDied	1	CRITICAL	Connection to disk array controller in slot %d on server %s lost.	
mylexAutoRebuildStarted2	4	INFORMATIONAL	Automatic rebuild of system drive %d was started at disk array adapter in slot %d at server %s	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ （%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
mylexManualRebuildStarted2	4	INFORMATIONAL	Manual rebuild of system drive %d was started at disk array adapter in slot %d at server %s.	
mylexRebuildDone2	4	INFORMATIONAL	Rebuild of system drive %d was successfully completed at disk array adapter in slot %d at server %s.	
mylexRebuildCanceled2	4	INFORMATIONAL	Rebuild of system drive %d was cancelled at disk array adapter in slot %d at server %s.	
mylexRebuildError2	2	MAJOR	Rebuild error on system drive %d at disk array adapter in slot %d at server %s.	
mylexRebuildNewDeviceFailed2	2	MAJOR	Rebuild of system drive %d finished at disk array adapter in slot %d: new device failed at server %s.	
mylexRebuildLogicalDriveFailed2	2	MAJOR	Rebuild of system drive %d finished at disk array adapter in slot %d: system drive failed at server %s.	
mylexInitializationStarted	4	INFORMATIONAL	Initialization of system drive %d started at disk array adapter in slot %d at server %s.	
mylexInitializationDone	4	INFORMATIONAL	Initialization of system drive %d successfully finished at disk array adapter in slot %d at server %s.	
mylexInitializationCanceled	4	INFORMATIONAL	Initialization of system drive %d canceled at disk array adapter in slot %d at server %s.	
mylexInitializationFailed	2	MAJOR	Initialization of system drive %d failed at disk array adapter in slot %d at server %s.	
mylexSystemDriveCreated	4	INFORMATIONAL	New system drive %d created at disk array adapter in slot %d at server %s.	
mylexSystemDriveDeleted	4	INFORMATIONAL	System drive %d deleted at disk array adapter in slot %d at server %s.	
mylexRaidExpansionStarted	4	INFORMATIONAL	RAID capacity expansion on system drive %d started at disk array adapter in slot %d at server %s.	
mylexRaidExpansionDone	4	INFORMATIONAL	RAID capacity expansion on system drive %d successfully finished at disk array adapter in slot %d at server %s.	
mylexRaidExpansionFailed	2	MAJOR	RAID capacity expansion failed on system drive %d at disk array adapter in slot %d at server %s.	
mylexSystemDriveBadBlock	3	MINOR	Bad block(s) detected on system drive %d at disk array adapter in slot %d at server %s.	
mylexSystemDriveSizeChanged	4	INFORMATIONAL	Size of system drive %d was changed at disk array adapter in slot %d at server %s.	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
mylexRaidTypeChanged	4	INFORMATIONAL	RAID type of system drive %d was changed at disk array adapter in slot %d at server %s.	
mylexPhysicalDeviceHotspare	4	INFORMATIONAL	Physical device %d on channel %d at disk array adapter in slot %d is now HOTSPARE (Server %s).	
mylexPhysicalDeviceHardError	3	MINOR	Hard error occurred at physical device %d on channel %d at disk array adapter in slot %d (Server %s).	
mylexPhysicalDeviceSoftError	3	MINOR	Soft error occurred at physical device %d on channel %d at disk array adapter in slot %d (Server %s).	
mylexPhysicalDeviceParityError	3	MINOR	Parity error occurred at physical device %d on channel %d at disk array adapter in slot %d (Server %s).	
mylexPhysicalDeviceMiscError	3	MINOR	Miscellaneous error occurred at physical device %d on channel %d at disk array adapter in slot %d (Server %s).	
mylexPhysicalDevicePrefailure	2	MAJOR	Prefailure alert from physical device %d on channel %d at disk array adapter in slot %d (Server %s). Device will fail in near future!	
mylexPhysicalDeviceUnconfigured	2	MAJOR	Physical device %d on channel %d at disk array adapter in slot %d is unconfigured (Server %s).	
mylexPhysicalDeviceAdded	2	MAJOR	Physical device %d on channel %d at disk array adapter in slot %d was added (Server %s).	
mylexPhysicalDeviceRemoved	2	MAJOR	Physical device %d on channel %d at disk array adapter in slot %d was removed (Server %s).	
mylexWriteBackError2	2	MAJOR	Controller cache write back error at disk array adapter in slot %d (Server %s).	
mylexGamDriverMissing	3	MINOR	GAM driver is either not installed or has failed to start; required version: %s (server %s).	
mylexGamDriverIncorrectVersion	3	MINOR	Incorrect version of GAM driver installed (%s); required version: %s (server %s).	
mylexSMARTFailurePredicted	1	CRITICAL	SMART predicts failure for disk %d on channel %d at disk array adapter in slot %d (Server %s).	
mylexSMARTConfigurationChanged	4	INFORMATIONAL	SMART configuration has been changed for disk %d on channel %d at disk array adapter in slot %d (Server %s).	
mylexBBUFound	4	INFORMATIONAL	A Battery Backup Unit was found on SCSI controller in slot %d (Server %s).	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
mylexBBUPowerLow	1	CRITICAL	The Battery Backup Unit power on SCSI controller in slot %d is low (Server %s). If this messages happens without power failure, replace the BBU.	
mylexBBUPowerOK	4	INFORMATIONAL	The Battery Backup Unit power on SCSI controller in slot %d is OK (Server %s).	

表 27：mylex

ntcluster

次の表は、ntcluster トラップを掲載して、概要を示したものです。

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
sniWpChangeUnknown	4	INFORMATIONAL	The cluster has sent the unknown notification 0x%X.	
sniWpChangeClusterNotFoundActive	1	CRITICAL	SNMP cannot access cluster software. Trap sent from server %s.	
sniWpChangeClusterActiveAgain	4	INFORMATIONAL	SNMP gained access to the cluster software. Trap sent from server %s.	
sniWpChangeClusterNoLongerActive	1	CRITICAL	SNMP lost access to the cluster software. Trap sent from server %s.	
sniWpChangeNodeDeleted	4	INFORMATIONAL	The node %s has been deleted.	
sniWpChangeNodeAdded	4	INFORMATIONAL	The node %s has been added.	
sniWpChangeNodeState	2	MAJOR	The node %s has changed its state.	
sniWpChangeResourceTypeDeleted	4	INFORMATIONAL	Resource type %s has been deleted.	
sniWpChangeResourceTypeAdded	4	INFORMATIONAL	Resource type %s has been created.	
sniWpChangeGroupDeleted	4	INFORMATIONAL	Group %s has been deleted.	
sniWpChangeGroupAdded	4	INFORMATIONAL	Group %s has been created.	
sniWpChangeGroupState	2	MAJOR	Group %s has changed its state.	
sniWpChangeGroupProperty	4	INFORMATIONAL	The properties of group %s have changed.	
sniWpChangeResourceDeleted	4	INFORMATIONAL	Resource %s has been deleted.	
sniWpChangeResourceAdded	4	INFORMATIONAL	Resource %s has been added.	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
sniWpChangeResourceState	2	MAJOR	Resource %s has changed its state.	
sniWpChangeResourceProperty	4	INFORMATIONAL	The properties of resource %s have changed.	
sniWpChangeRegistryAttributes	4	INFORMATIONAL	The attributes of registry key %s have been changed.	
sniWpChangeRegistryKey	4	INFORMATIONAL	Registry key %s has been created or deleted.	
sniWpChangeRegistryValue	4	INFORMATIONAL	A value of registry key %s has been changed.	
sniWpChangeNetworkDeleted	4	INFORMATIONAL	Network %s has been deleted.	
sniWpChangeNetworkAdded	4	INFORMATIONAL	Network %s has been created.	
sniWpChangeNetworkState	2	MAJOR	Network %s has changed its state.	
sniWpChangeNetworkProperty	4	INFORMATIONAL	The properties of Network %s have changed.	
sniWpChangeNetInterfaceDeleted	4	INFORMATIONAL	Network interface %s has been deleted.	
sniWpChangeNetInterfaceAdded	4	INFORMATIONAL	Network interface %s has been created.	
sniWpChangeNetInterfaceState	2	MAJOR	Network interface %s has changed its state.	
sniWpChangeNetInterfaceProperty	4	INFORMATIONAL	The properties of network interface %s have changed.	
sniWpNodeUp	4	INFORMATIONAL	Cluster node %s is online.	
sniWpNodeDown	4	INFORMATIONAL	Cluster node %s is offline.	
sniWpNodePaused	4	INFORMATIONAL	Cluster node %s has been paused.	
sniWpNodeJoining	4	INFORMATIONAL	Cluster node %s is joining.	
sniWpGroupOnline	4	INFORMATIONAL	Cluster group %s is online.	
sniWpGroupPartialOnline	4	INFORMATIONAL	Cluster group %s is partially online.	
sniWpGroupPending	4	INFORMATIONAL	Cluster group %s is pending.	
sniWpGroupOffline	4	INFORMATIONAL	Cluster group %s is offline.	
sniWpGroupFailed	2	MAJOR	Cluster group %s has failed.	
sniWpResourceOnline	4	INFORMATIONAL	Cluster resource %s is online.	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
sniWpResourceOffline	4	INFORMATIONAL	Cluster resource %s is offline.	
sniWpResourceFailed	2	MAJOR	Cluster resource %s has failed.	
sniWpNetworkUp	4	INFORMATIONAL	Cluster network %s reactivated.	
sniWpNetworkDown	4	INFORMATIONAL	Cluster network %s down.	
sniWpNetworkUnavailable	2	MAJOR	Cluster network %s unavailable.	
sniWpNetInterfaceUp	4	INFORMATIONAL	Cluster network interface %s reactivated.	
sniWpNetInterfaceFailed	2	MAJOR	Cluster network interface %s has failed.	
sniWpNetInterfaceUnreachable	2	MAJOR	Cluster network interface %s unreachable.	
sniWpNetInterfaceUnavailable	2	MAJOR	Cluster network interface %s unavailable.	

表 28：ntcluster

pichotplug

次の表は、pichotplug トラップを掲載して、概要を示したものです。

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
siePciHotPlugTrapHotRemoval	4	INFORMATIONAL	A Hot Removal action is started on physical slot %d (server %s).	
siePciHotPlugTrapHotReplace	4	INFORMATIONAL	A Hot Replace action is started on physical slot %d (Server %s).	
siePciHotPlugTrapEndHotPlugAction	4	INFORMATIONAL	The HotPlug action on physical slot %d is terminated %s (Server %s). The card state is : %s	
sieDeviceHotPlugTrapHotRemoval	4	INFORMATIONAL	A SCSI device <%s> on SCSI adapter <%s> (PCI Bus Number %d, Device Number %d) has been removed (server %s).	
sieDeviceHotPlugTrapHotReplace	4	INFORMATIONAL	A SCSI device <%s> on SCSI adapter <%s> (PCI Bus Number %d, Device Number %d) has been replaced (server %s).	
sieDeviceHotPlugTrapHotAdd	4	INFORMATIONAL	A SCSI device <%s> on SCSI adapter <%s> (PCI Bus Number %d, Device Number %d) has been added (server %s).	

表 29：pichotplug

powernet

次の表は、powernet トラップを掲載して、概要を示したものです。

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ （%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
communicationLost	1	CRITICAL	Communication lost between the agent and the UPS.	
upsOverload	1	CRITICAL	The UPS has sensed a load greater than 100 percent of its rated capacity.	
upsDiagnosticsFailed	1	CRITICAL	The UPS has failed its internal self-test.	
upsDischarged	1	CRITICAL	The UPS batteries are discharged.	
upsOnBattery	2	MAJOR	The UPS is now providing battery backup power.	
smartBoostOn	3	MINOR	The UPS has enabled SmartBoost.	
lowBattery	1	CRITICAL	The UPS system's batteries are low and will soon be exhausted.	
communicationEstablished	4	INFORMATIONAL	Communication established between the agent and the UPS.	
powerRestored	4	INFORMATIONAL	Normal power has been restored to the UPS.	
upsDiagnosticsPassed	4	INFORMATIONAL	The UPS has passed its internal self-test.	
returnFromLowBattery	4	INFORMATIONAL	The UPS has returned from a low battery condition.	
upsTurnedOff	2	MAJOR	The UPS is being switched off by a management station.	
upsSleeping	2	MAJOR	The UPS is going into sleep mode.	
upsWokeUp	4	INFORMATIONAL	The UPS has returned from sleep mode.	
upsRebootStarted	2	MAJOR	The UPS has started its reboot sequence.	
upsDipSwitchChanged	3	MINOR	The DIP switch settings on the UPS have been changed.	
upsBatteryNeedsReplacement	1	CRITICAL	The UPS batteries require immediate replacement.	
contactFault	1	CRITICAL	A Measure-UPS contact closure has faulted.	
contactFaultResolved	4	INFORMATIONAL	A Measure-UPS contact closure has returned to it's default state.	
hardwareFailureBypass	1	CRITICAL	The UPS is on bypass due to an internal fault.	
softwareBypass	3	MINOR	UPS put on bypass by user via software or front UPS panel.	
switchedBypass	3	MINOR	UPS put on bypass by user.	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
returnFromBypass	4	INFORMATIONAL	The UPS has returned from bypass mode.	
bypassPowerSupplyFailure	1	CRITICAL	The base module bypass power supply needs repair.	
baseFanFailure	1	CRITICAL	The base module fan needs repair.	
batteryPackCommLost	3	MINOR	Communication lost with external battery packs, check battery signal cable.	
batteryPackCommEstablished	4	INFORMATIONAL	Communication established with external battery packs.	
calibrationStart	4	INFORMATIONAL	A battery run time calibration test has been initiated.	
restartAgent	4	INFORMATIONAL	Agent restarting as commanded by manager.	
upsTurnedOn	4	INFORMATIONAL	A UPS is turned on.	
smartAvrReducing	3	MINOR	The UPS has enabled Smart-AVR voltage reduction.	
codeAuthenticationDone	4	INFORMATIONAL	Authentication on agent code image is done.	
upsOverloadCleared	3	MINOR	The overload condition has been cleared. .	
smartBoostOff	3	MINOR	The UPS has returned from smartboost.	
smartAvrReducingOff	3	MINOR	The UPS has returned from Smart-AVR voltage reduction.	
upsBatteryReplaced	3	MINOR	The UPS has returned from a bad battery fault.	
calibrationEnd	3	MINOR	The UPS has finished calibrating	
dischargeCleared	3	MINOR	The UPS discharge condition has been cleared.	
gracefullShutdown	3	MINOR	A gracefull shutdown has been initiated.	
outletOn	3	WARNING	An OUTLET has been turned on	
outletOff	3	WARNING	An OUTLET has turned off.	
outletReboot	3	WARNING	An OUTLET has rebooted.	
configChangeSNMP	3	WARNING	The SNMP configuration has been changed.	
configChangeOutlet	3	WARNING	An outlet configuration has been changed.	
accessViolationConsole	3	WARNING	Three unsuccessful logins have been attempted.	
accessViolationHTTP	3	WARNING	An unsuccessful attempt to login via HTTP.	
passwordChange	3	WARNING	Someone has changed the password on the PDU.	
badVoltage	3	WARNING	The output voltage is not within acceptable range.	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
badVoltageCleared	4	INFORMATIONAL	The output voltage has returned to an acceptable level.	
chargerFailure	3	WARNING	The battery charger has failed.	
chargerFailureCleared	4	INFORMATIONAL	The battery charger failure condition has been cleared.	
batteryOverTemperature	3	WARNING	The battery temperature threshold has been violated.	
batteryOverTemperatureCleared	4	INFORMATIONAL	The battery over temperature has been cleared.	
smartRelayFault	3	WARNING	SmartBoost(TM) or SmartTrim(TM) relay fault.	
smartRelayFaultCleared	4	INFORMATIONAL	SmartBoost(TM) or SmartTrim(TM) relay fault has been cleared.	
humidityThresholdViolation1	3	WARNING	Probe 1 humidity threshold violated.	
humidityThresholdViolationCleared1	4	INFORMATIONAL	A humidity threshold violation has been cleared on probe 1.	
temperatureThresholdViolation1	1	CRITICAL	A temperature threshold has been violated on probe 1.	
temperatureThresholdViolationCleared1	3	MINOR	A temperature threshold violation has been cleared on probe 1.	
humidityThresholdViolation2	1	CRITICAL	A humidity threshold has been violated on probe 2.	
humidityThresholdViolationCleared2	4	INFORMATIONAL	A humidity threshold violation has been cleared on probe 2.	
temperatureThresholdViolation2	1	CRITICAL	A temperature threshold has been violated on probe 2.	
temperatureThresholdViolationCleared2	4	INFORMATIONAL	A tempreature threshold violation has been cleared on probe 2.	
mupsCommunicationEstablished	4	INFORMATIONAL	Communication established between the agent and the MUPS.	
mupsCommunicationLost	1	CRITICAL	Communication lost between the agent and the MUPS.	
batteryIncrease	4	INFORMATIONAL	The number of batteries has increased.	
batteryDecrease	4	INFORMATIONAL	The number of batteries has decreased.	
powerModuleIncrease	4	INFORMATIONAL	The number of power modules has increased.	
powerModuleDecrease	4	INFORMATIONAL	The number of power modules has decreased.	
intelligenceModuleInserted	4	INFORMATIONAL	An intelligence module has been inserted.	
intelligenceModuleRemoved	4	INFORMATIONAL	An intelligence module has been removed.	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
rintelligenceModuleInserted	4	INFORMATIONAL	A redundant intelligence module has been inserted.	
rintelligenceModuleRemoved	4	INFORMATIONAL	An redundant intelligence module has been removed.	
extBatteryFrameIncease	4	INFORMATIONAL	An external battery frame has been added.	
extBatteryFrameDecrease	4	INFORMATIONAL	An external battery frame has been removed.	
abnormalCondition	2	SEVERE	An abnormal condition has been detected.	
abnormalConditionCleared	4	INFORMATIONAL	An abnormal condition has been cleared.	
deviceStatusChange	4	INFORMATIONAL	The status of the device being monitored has changed.	
noBatteries	3	WARNING	The UPS has no batteries attached.	
noBatteriesCleared	4	INFORMATIONAL	The UPS's batteries have been attached.	

表 30：powernet

SC

次の表は、sc トラップを掲載して、概要を示したものです。

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
testTrap	4	INFORMATIONAL	Test trap from server %s (no error).	
fanError	1	CRITICAL	Fan %d failed in cabinet %d of server %s.	
tempOk	4	INFORMATIONAL	Temperature at sensor %d in cabinet %d of server %s is within normal range.	
tempWarn	2	MAJOR	Temperature at sensor %d in cabinet %d of server %s has reached the warning level.	
tempCritical	1	CRITICAL	Temperature at sensor %d in cabinet %d of server %s has reached the critical level.	
trapOnBattery	1	CRITICAL	AC failure. Cabinet %d is running on battery power since %d seconds. In %d minutes server %s will shutdown.	
trapOnMains	4	INFORMATIONAL	Mains returned after power failure in cabinet %d at server %s.	
selftestWarning	3	MINOR	The Server Management controller in cabinet %d has detected an minor problem during selftest of server %s.	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
selftestError	1	CRITICAL	The Server Management controller in cabinet %d of server %s failed.	
svCommunicationFailure	3	MINOR	Communication with the Server Management controller in cabinet %d of server %s lost.	
scbUnconfiguredUPSDetected	4	INFORMATIONAL	UPS detected by server %s, but no UPS is configured.	
scbUPSNotdetected	2	MAJOR	A UPS is configured but no UPS detected by server %s.	
scbUnconfiguredBBUDetected	4	INFORMATIONAL	BBU detected by server %s, but no BBU is configured.	
scbBBUNotdetected	4	INFORMATIONAL	A BBU is configured but no BBU is detected by server %s.	
notEnoughCabinets	2	MAJOR	The actual number of storage extensions at server %s is lower than the configured.	
tooManyCabinets	3	MINOR	The actual number of storage extensions at server %s is higher than the configured.	
cabinetSwitchedOff	4	INFORMATIONAL	Cabinet %d was switched off because of %s (server %s).	
cabinetSwitchedOn	4	INFORMATIONAL	Cabinet %d was switched on because of %s (server %s).	
internalError	4	INFORMATIONAL	Internal error #%d in server management controller software. (module %s at server %s).	
serverShutdown	4	INFORMATIONAL	The reason %s causes a shutdown at server %s.	
fanCriticalError	4	INFORMATIONAL	Fan %d will fail in near future in cabinet %d of server %s.	
cabinetNotConfigured	4	INFORMATIONAL	Cabinet %d at server %s is not configured. Depending on the system type, run Server Configuration Utility (SCU) or Storage Extension Manager (SEMAN) and configure the cabinet!	
powerSupplyRemoved	4	INFORMATIONAL	Power supply %d in cabinet %d at server %s was removed.	
powerSupplyAdded	4	INFORMATIONAL	Power supply %d in cabinet %d at server %s was added.	
powerSupplyFailed	2	MAJOR	Power supply %d in cabinet %d at server %s failed.	
powerSupplyOk	4	INFORMATIONAL	Power supply %d in cabinet %d at server %s is working again.	
powerSupplyStatusCritical	1	CRITICAL	Insufficiant operating power supplies available in cabinet %d at server %s.	
fanOk	4	INFORMATIONAL	Fan %d in cabinet %d of server %s is working again.	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
tempSensorBroken	2	MAJOR	Temperature sensor %d in cabinet %d of server %s is broken or not connected.	
serverManagementDisabled	4	INFORMATIONAL	Server management BIOS on server %s is disabled. Enable it to have full server management functionality!	
trapAcFail	1	CRITICAL	AC failure in cabinet %d of server %s.	
trapDuplicateCabinetId	2	MAJOR	Two or more cabinets have the same ID %d on server %s.	
trapEventLog	2	MAJOR	An error was recorded on server %s. See server management event / error log (Recovery) for detailed information.	
tempSensorOk	4	INFORMATIONAL	Temperature sensor %d in cabinet %d of server %s is working again.	
svCommunicationEstablished	4	INFORMATIONAL	Communication with the Server Management controller in cabinet %d of server %s established again.	
correctableMemErrorAddr	3	MINOR	Correctable memory error at address %d in cabinet %d of server %s.	
uncorrectableMemErrorAddr	1	CRITICAL	Uncorrectable memory error at address %d in cabinet %d of server %s.	
correctableMemErrorBank	3	MINOR	Correctable memory error at bank %d in cabinet %d of server %s.	
uncorrectableMemErrorBank	1	CRITICAL	Uncorrectable memory error at bank %d in cabinet %d of server %s.	
correctableMemErrorModule	3	MINOR	Correctable memory error at module %d in cabinet %d of server %s.	
uncorrectableMemErrorModule	1	CRITICAL	Uncorrectable memory error at module %d in cabinet %d of server %s.	
correctableMemError	3	MINOR	Correctable memory error in cabinet %d of server %s.	
uncorrectableMemError	1	CRITICAL	Uncorrectable memory error in cabinet %d of server %s.	
powerOffTimeReached	4	INFORMATIONAL	The power-off time is reached in cabinet %d on server %s! System shutdown in %d minutes.	
frontDoorStatusChanged	4	INFORMATIONAL	The front door status of cabinet %d on server %s has changed.	
housingOpenStatusChanged	4	INFORMATIONAL	The housing open status of cabinet %d on server %s has changed.	
sniScRedundantFanFailed	2	MAJOR	The redundant fan %d failed in cabinet %d of server %s. System can become critical if another fan in this group fails.	
sniScRedundantPowerSupplyFailed	2	MAJOR	Redundant power supply %d in cabinet %d at server %s failed. System can become critical if another power supply fails.	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
sniScVoltageOk	4	INFORMATIONAL	Power supply voltage %d (%s) in cabinet %d at server %s is within normal range again.	
sniScVoltageTooLow	1	CRITICAL	Power supply voltage %d (%s) in cabinet %d at server %s is too low.	
sniScVoltageTooHigh	1	CRITICAL	Power supply voltage %d (%s) in cabinet %d at server %s is too high.	
sniScFanAdded	4	INFORMATIONAL	The fan %d was added into cabinet %d of server %s.	
sniScFanRemoved	4	INFORMATIONAL	The fan %d was removed from cabinet %d of server %s.	
sniScShutdownCancelled	4	INFORMATIONAL	Shutdown at server %s cancelled by the user.	
sniScCpuSpeedChanged	4	INFORMATIONAL	CPU speed at server %s changed to %d percent of its maximum speed. The CPU speed can be changed by the server management because of temperature problems.	
sieScPowerOn	4	INFORMATIONAL	The reason %s causes a power on at server %s.	
sieScNoBootCpu	4	INFORMATIONAL	System boot of the server %s failed, because no valid boot cpu available.	
sieScPostError	4	INFORMATIONAL	The reason %s causes a power on at server %s.	
sieScSetupEntered	4	INFORMATIONAL	The bios setup is entered at server %s.	
sieScBootError	4	INFORMATIONAL	No bootable operation system found at server %s.	
sieScBootWatchdogExpired	4	INFORMATIONAL	Boot watchdog of server %s expired.	
sieScSoftwareWatchdogExpired	4	INFORMATIONAL	Software watchdog of server %s expired.	
sieScUserAuthenticationFailure	2	MAJOR	User authentication failure detected at server %s, interface %d, performing protocol %s.	
sieScDiagnosticBoot	4	INFORMATIONAL	Server %s is performing a diagnostic boot.	
sieScBootRetryCountZero	2	MAJOR	Boot retry counter is zero on server %s. On next critical error shutdown the server will no longer try to reboot. System will run diagnostic system or switch off.	
sieScMessageLogFull	3	MINOR	"The ServerView message log on server %s in cabinet %d is full.No more messages can be logged.Please clear unneeded log entries as soon as possible!"	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
memErrorModulePrefailure	2	MAJOR	Memory module failure is predicted for module %d in cabinet %d of server %s.	
memErrorModuleFailing	2	MAJOR	MAJORMemory module %d in cabinet %d of server %s is failing. Too many errors have occured.This module will automatically be disabled on next reboot.	
memErrorModuleReplaced	2	MAJOR	Memory module module %d in cabinet %d of server %s had failed and was replaced by a hot-spare module.	

表 31：sc

serverview

次の表は、serverview トラップを掲載して、概要を示したものです。

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
sniSvGenericTrapForward	4	INFORMATIONAL	The server %s sent the trap <%s> to ServerView application at station %s	
sniSvPagerOff	4	INFORMATIONAL	Pager number %d should be turned off.	
sniSvServerStateChanged	4	INFORMATIONAL	The server %s has changed its state to %s	
sniSvPassThroughTrapForward	4	INFORMATIONAL	%s	
sieSvAlarmServiceCommand	4	INFORMATIONAL	Command %d from server %s.	
fscAsTestMail	4	INFORMATIONAL	The Alarm Service on server %s sends a test mail.	
fscAsTestPager	4	INFORMATIONAL	The Alarm Service on server %s tests a pager.	
fscAsStopTrapListenService	4	INFORMATIONAL	The ServerView Alarm Service Trap Listen Service on server %s stops.	

表 32：serverview

status

次の表は、status トラップを掲載して、概要を示したものです。

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
sieStTrapStatusChanged	4	INFORMATIONAL	System status has changed at server %s.	

表 33：status

trap

次の表は、trap トラップを掲載して、概要を示したものです。

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
sniNWVolSysMounted	4	INFORMATIONAL	Volume SYS is mounted on server %s	
sniNWSysVolumeDismounted	1	CRITICAL	Volume SYS is dismounted on server %s	
sniNWVolumeMounted	4	INFORMATIONAL	Volume %s is mounted on server %s	
sniNWVolumeDismounted	4	INFORMATIONAL	Volume %s is dismounted on server %s	
sniNWDownServer	1	CRITICAL	Server is going down: %s	
sniNWExitToDos	1	CRITICAL	Server exits to DOS : %s	
sniNWModuleUnloaded	4	INFORMATIONAL	Module %s is unloaded on server %s	
sniNWClearConnection	4	INFORMATIONAL	A connection is cleared on server %s	
sniNWLoginUser	4	INFORMATIONAL	A user logged into server %s	
sniNWCreateBinderyObj	4	INFORMATIONAL	A bindery object is created on server %s	
sniNWDeleteBinderyObj	4	INFORMATIONAL	A bindery object is deleted on server %s	
sniNWChangeSecurity	4	INFORMATIONAL	Security change has occurred on server %s	
sniNWActivateScreen	4	INFORMATIONAL	A screen is activated on server %s	
sniNWUpdateScreen	4	INFORMATIONAL	A screen is updated on server %s	
sniNWUpdateCursor	4	INFORMATIONAL	The cursor position is updated on server %s	
sniNWKeyWasPressed	4	INFORMATIONAL	A key is pressed on server %s	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
sniNWDeactivateScreen	4	INFORMATIONAL	A screen is deactivated on server %s	
sniNWTrusteeChange	4	INFORMATIONAL	Trustee is changed on server %s	
sniNWOpenScreen	4	INFORMATIONAL	A Screen is opened on server %s	
sniNWCloseScreen	4	INFORMATIONAL	A Screen is closed on server %s	
sniNWModifyDirEntry	4	INFORMATIONAL	Directory entry is changed on server %s	
sniNWNoRelinquishControl	1	CRITICAL	The NLM %s has not relinquished control on server %s	
sniNWThreadSwitch	4	INFORMATIONAL	A thread switch has occurred on server %s	
sniNWModuleLoaded	4	INFORMATIONAL	Module %s is loaded on server %s	
sniNWCreateProcess	4	INFORMATIONAL	A Process is created on server %s	
sniNWDestroyProcess	4	INFORMATIONAL	A Process is destroyed on server %s	
sniNWNewPublic	4	INFORMATIONAL	A new public symbol is registered on server %s	
sniNWProtocolBind	4	INFORMATIONAL	A protocol is bound to a MLID on server %s	
sniNWProtocolUnbind	2	MAJOR	A protocol is unbound from a MLID on server %s	
sniNWAllocateConnection	4	INFORMATIONAL	A connection is allocated on server %s	
sniNWLogoutConnection	4	INFORMATIONAL	A user has logged out of server %s	
sniNWMLIDRegister	4	INFORMATIONAL	A MLID is registered on server %s	
sniNWMLIDDeRegister	4	INFORMATIONAL	A MLID is deregistered on server %s	
sniNWDataMigration	4	INFORMATIONAL	A files data has been migrated on server %s	
sniNWDataDeMigration	4	INFORMATIONAL	A files data has been demigrated on server %s	
sniNWQueueAction	4	INFORMATIONAL	A queue is activated, deactivated, created or deleted on server %s	
sniNWAlert	4	INFORMATIONAL	A Netware Alert message is written to the console on server %s. Module %s: %s	
sniNWCreateObject	4	INFORMATIONAL	A Directory Service object is created on server %s	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
sniNWDeleteObject	4	INFORMATIONAL	A Directory Service object is deleted on server %s	
sniNWRenameObject	4	INFORMATIONAL	A Directory Service object is renamed on server %s	
sniNWValueChanged	4	INFORMATIONAL	A Directory Service object's value changed on server %s	
sniNWCloseFile	4	INFORMATIONAL	A file is closed on server %s	
sniNWChangeTime	4	INFORMATIONAL	Time has changed or a nonuniform time adjustment has occurred on server %s	
sniInvPollTrapExceeded	4	INFORMATIONAL	Threshold exceeded : %s, on Server %s	
sniInvPollTrapUnderflow	4	INFORMATIONAL	Threshold underflow : %s, on Server %s	
sniInvPollDeltaExceeded	4	INFORMATIONAL	DELTA-Threshold exceeded : %s, on Server %s	
sniInvDeltaTrapUnderflow	4	INFORMATIONAL	DELTA-Threshold underflow : %s, on Server %s	
sniInvTrapInvalid	4	INFORMATIONAL	Threshold Invalid: %s, on Server %s	
sniInvTrapValid	4	INFORMATIONAL	Threshold Valid: %s, on Server %s	
sniNTDownServer	4	INFORMATIONAL	Server is going down : %s	
sniNTLoginUser	4	INFORMATIONAL	A user logged into server %s	
sniNTChangeSecurity	4	INFORMATIONAL	Security change has occurred on server %s	
sniNTTrusteeChange	4	INFORMATIONAL	A trustee is changed on server %s	
sniNTAlert	4	INFORMATIONAL	An NT Alert message is written to the eventlog (Control String: %s) on server %s.	
sniNTChangeTime	4	INFORMATIONAL	Time has changed or a nonuniform time adjustment has occurred on server %s	
sniNTRegChangeName	4	INFORMATIONAL	Keyname in registry has been changed on server %s	
sniNTRegChangeAttr	4	INFORMATIONAL	Attributes for a key or its subtree in registry has been changed on server %s	
sniNTRegChangeLastWrite	4	INFORMATIONAL	Last write time for a key or its subtree in registry has been changed on server %s	
sniNTRegChangeSecurity	4	INFORMATIONAL	Security for a key or its subtree in registry has been changed on server %s	
sniNTFileChangeName	4	INFORMATIONAL	A file name has been changed, created or deleted on server %s	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
sniNTFileChangeDirName	4	INFORMATIONAL	A directory name has been changed, created or deleted on server %s	
sniNTFileChangeAttr	4	INFORMATIONAL	File or directory attributes have been changed on server %s	
sniNTFileChangeSize	4	INFORMATIONAL	File size has been changed on server %s	
sniNTFileChangeLastWrite	4	INFORMATIONAL	Last write time on a file has been changed on server %s	
sniNTFileChangeSecurity	4	INFORMATIONAL	Security on a file has been changed on server %s	
sniNTEventLogError	4	INFORMATIONAL	New specified error entry is in eventlog on server %s	
sniNTEventLogWarning	4	INFORMATIONAL	New specified warning entry is in eventlog on server %s	
sniNTEventLogInformation	4	INFORMATIONAL	New specified information entry is in eventlog on server %s	
sniNTEventLogSuccess	4	INFORMATIONAL	New specified success entry is in eventlog on server %s	
sniNTEventLogFailure	4	INFORMATIONAL	New specified failure entry is in eventlog on server %s	

表 34：trap

F5emt2o

次の表は、F5emt2o トラップを掲載して、概要を示したものです。

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
ldsmTrap-Monitored	4	INFORMATIONAL	LDSM has reported: %s %s %s %s	
ldsmTrap-Informational	4	INFORMATIONAL	LDSM has reported: %s %s %s %s	
ldsmTrap-Recovered	4	INFORMATIONAL	LDSM has reported: %s %s %s %s	
ldsmTrap-NonCritical	4	INFORMATIONAL	LDSM has reported: %s %s %s %s	
ldsmTrap-Critical	4	INFORMATIONAL	LDSM has reported: %s %s %s %s	
ldsmTrap-NonRecoverable	4	INFORMATIONAL	LDSM has reported: %s %s %s %s	

表 35：F5emt2o

Servervi

次の表は、Servervi トラップを掲載して、概要を示したものです。

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
svisorTrapType	4	INFORMATIONAL	Servervisor has reported: %s	

表 36：Servervi

Asmpro

次の表は、Asmpro トラップを掲載して、概要を示したものです。

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
trapTemperatureWarning			The agent will send a trap of this type when temperatures exceed the first level threshold value.	
trapTemperatureCritical			The agent will send a trap of this type when temperatures exceed the second level threshold value.	
trapECC1BitError			The agent will send a trap of this type when an ECC 1-bit error occurs.	
trapECCMBitError			The agent will send a trap of this type when an ECC multiple-bit error occurs.	
trapFanStop			The agent will send a trap of this type when any fan stops functioning.	
trapVoltage			The agent will send a trap of this type when any voltage reading exceeds the safe operating range.	
trapCPUUtilization			The agent will send a trap of this type when percent CPU utilization exceeds the threshold value.	
trapBusUtilization			The agent will send a trap of this type when percent bus utilization exceeds the threshold value.	
trapMemoryUtilization			The agent will send a trap of this type when percent memory utilization exceeds the threshold value.	
trapVolumeUtilization			The agent will send a trap of this type when percent volume utilization exceeds the threshold value.	
trapNICCounter			The agent will send a trap of this type when any NIC statistical counter exceeds the threshold value.	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
trapPSFail			The agent will send a trap of this type when any power supply fails.	
trapACFail			The agent will send a trap of this type when AC power fails.	
trapPowerFanFail			The agent will send a trap of this type when any power sub-system fan fails.	
trapBatteryFail			The agent will send a trap of this type when UPS battery fails.	
trapChassisIntrusion			The agent will send a trap of this type when chassis intrusion occurs.	
trapFuseFail			The agent will send a trap of this type when fuse failed.	
trapRPSFail			The agent will send a trap of this type when redundant power supply is failed.	
trapRPSFanFail			The agent will send a trap of this type when redundant power supply fan is failed.	
trapBiosEventLog			The agent will send a trap of this type when bios has new eventlog.	
trapBiosEventLogUtilization			The agent will send a trap of this type when bios eventlog utilization exceeds threshold.	
trapCPUAbnormal			The agent will send a trap of this type when CPU has internal error.	
trapAssetChange			The agent will send a trap of this type when asset is changed.	

表 37：Asmpro

brocade

次の表は、brocade トラップを掲載して、概要を示したものです。

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
swFault	1	CRITICAL	Faulty reason: %d	
swSensorScn	4	INFORMATIONAL	%s: is currently in state %d	
swFCPortScn	4	INFORMATIONAL	Port Index %d changed state to %d	
swEventTrap	4	INFORMATIONAL	Event %d: %s (severity level %d) - %s	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
swFabricWatchTrap	3	WARNING	Threshold %s in Class/Area %d at index %d has generated event %d with %d on %s. This event is %d	
swTrackChangesTrap	4	INFORMATIONAL	%s	

表 38：brocade

cmc32

次の表は、cmc32 トラップを掲載して、概要を示したものです。

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
alarmTemperature1	1	CRITICAL	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarmTemperature2	1	CRITICAL	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarmFan1	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarmFan2	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarmVoltage	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarmSmoke	1	CRITICAL	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarmVibration	1	CRITICAL	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarmUPS1	3	MINOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarmUPS2	3	MINOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarmDoor	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarmAnalogAux1	3	MINOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarmAnalogAux2	3	MINOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
msgAccess	3	MINOR	Location: %s, Message: %s by %s from: %s, contact %s	
okTrap	4	INFORMATIONAL	No Alarm in: %s, Message: %s from: %s	
alarm1	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarm2	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
alarm3	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarm4	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarm5	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarm6	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarm7	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarm8	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarm9	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarm10	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarm11	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarm12	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarm13	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarm14	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarm15	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarm16	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarm17	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarm18	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarm19	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarm20	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarm21	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarm22	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarm23	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarm24	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarm25	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
alarm26	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarm27	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarm28	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarm29	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarm30	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarm31	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarm32	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarm33	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarm34	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	
alarm35	2	MAJOR	Location: %s, Message: %s from: %s, contact %s	

表 39：cmc32

Ldcm

次の表は、Ldcm トラップを掲載して、概要を示したものです。

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
ldcmUnknownTrap	4	NORMAL	Client Manager has reported an event on the computer %s: %s	
ldcmInfoTrap	4	NORMAL	Client Manager has reported an event on the computer %s: %s	
ldcmOkTrap	4	NORMAL	Client Manager has reported an event on the computer %s: %s	
ldcmWarningTrap	3	MINOR	Client Manager has reported an event on the computer %s: %s	
ldcmCriticalTrap	1	CRITICAL	Client Manager has reported an event on the computer %s: %s	
ldcmFatalTrap	1	CRITICAL	Client Manager has reported an event on the computer %s: %s	

表 40：Ldcm

PPC

次の表は、PPC トラップを掲載して、概要を示したものです。

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
communicationLost	1	CRITICAL	Communication to the UPS has been lost.	
upsOverLoad	1	CRITICAL	The UPS has sensed a load greater than 100 percent of its rated capacity.	
upsDiagnosticsFailed	1	CRITICAL	The UPS has failed its internal diagnostic self-test.	
upsDischarged	1	CRITICAL	The UPS has just started a runtime calibration discharge.	
upsOnBattery	2	MAJOR	The UPS has switched to battery backup power.	
boostOn	3	MINOR	The UPS has enabled Boost.	
lowBattery	1	CRITICAL	The UPS batteries are low and will soon be exhausted.	
communicationEstablished	4	INFORMATIONAL	Communication with the UPS has been established.	
powerRestored	4	INFORMATIONAL	Normal power has been restored to the UPS.	
upsDiagnosticsPassed	4	INFORMATIONAL	The UPS has passed its internal self-test.	
returnFromLowBattery	4	INFORMATIONAL	The UPS has returned from a low battery condition.	
upsTurnedOff	2	MAJOR	The UPS is being switched off by a management station.	
upsSleeping	2	MAJOR	The UPS is going into sleep mode.	
upsWokeUp	4	INFORMATIONAL	The UPS has woke up from sleep mode.	
upsRebootStarted	2	MAJOR	The UPS has started its reboot sequence.	

表 41：PPC

RFC1157

次の表は、RFC1157 トラップを掲載して、概要を示したものです。

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
rfc1157ColdStart	3	MINOR	Station reinitialized.	
rfc1157WarmStart	3	MINOR	Station reinitialized.	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
rfc1157LinkDown	1	CRITICAL	Communication link failed at the station %d.	
rfc1157LinkUp	3	MINOR	Communication link restored at the station %d.	
rfc1157Authentication Failure	3	MINOR	Unauthorized message received.	
rfc1157EGPNeighborLost	2	MAJOR	Neighboring station down.	

表 42：RFC1157

ROMPILOT

次の表は、ROMPILOT トラップを掲載して、概要を示したものです。

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
rpWarmResetTrap	4	INFORMATIONAL	RomPilot machine %s with MAC address %m has performed a warm reset and is running the BIOS POST.	
rpColdResetTrap	4	INFORMATIONAL	RomPilot machine %s with MAC address %m has performed a cold reset and is running the BIOS POST.	
rpDiagResetTrap	3	MINOR	RomPilot machine %s with MAC address %m has performed a diagnostic reset and is running the BIOS POST.	
rpIDEResetTrap	3	MINOR	RomPilot machine %s with MAC address %m has performed an IDE disk reset and is running the BIOS POST.	
rpBootTrap	4	INFORMATIONAL	RomPilot machine %s with MAC address %m is starting to boot its Operating System.	
rpPostFtlErrorTrap	2	MAJOR	RomPilot machine %s with MAC address %m has detected a fatal error during BIOS POST.	
rpPostConErrorTrap	3	MINOR	RomPilot machine %s with MAC address %m has detected a conditional error during BIOS POST.	
rpPostWarngTrap	3	MINOR	RomPilot machine %s with MAC address %m has detected a conditional error during BIOS POST.	
rpSecurityTrap	2	MAJOR	RomPilot machine %s with MAC address %m has detected an attempted security breach.	
rpNosUpTrap	4	INFORMATIONAL	RomPilot machine %s with MAC address %m has loaded its Operating System.	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
rpCriticalTrap	2	MAJOR	RomPilot machine %s with MAC address %m has sent a critical trap.	
rpDisconnectTrap	4	INFORMATIONAL	RomPilot machine %s with MAC address %m has sent a disconnect trap and will end communications abruptly.	
rpReconnectTrap	4	INFORMATIONAL	RomPilot machine %s with MAC address %m has sent a reconnect trap. This means that the RomPilot enabled machine is able to resume communications.	
rpPostWarningTrap	3	MINOR	RomPilot machine %s with MAC address %m has detected a warning during BIOS POST.	
rpPostConditionalTrap	3	MINOR	RomPilot machine %s with MAC address %m has detected a conditional error during BIOS POST.	
rpPostFatalTrap	2	MAJOR	RomPilot machine %s with MAC address %m has detected a fatal error during BIOS POST.	

表 43：ROMPILOT

tapealrt

次の表は、tapealrt トラップを掲載して、概要を示したものです。

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
tapeAlertTrap1	3	MINOR	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Device Has Problems Reading Data	
tapeAlertTrap2	3	MINOR	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Device Has Problems Writing Data	
tapeAlertTrap3	3	MINOR	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Device Has Detected Read or Write Data Error	
tapeAlertTrap4	1	CRITICAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Device Has Detected Faulty Media [%s]	
tapeAlertTrap5	1	CRITICAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Device May Have Read Fault - Call Helpline	
tapeAlertTrap6	1	CRITICAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Device May Have Write Fault - Call Helpline	
tapeAlertTrap7	3	MINOR	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Device Has Detected Worn Out Media [%s]	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
tapeAlertTrap8	3	MINOR	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Media Loaded In Tape Device Is Not Data Grade	
tapeAlertTrap9	1	CRITICAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Device Attempted Backup to Write-Protected Tape	
tapeAlertTrap10	4	INFORMATIONAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Device Eject Attempted When Media Locked	
tapeAlertTrap11	4	INFORMATIONAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Device Attempted Backup/Restore To Cleaning Tape	
tapeAlertTrap12	4	INFORMATIONAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Media Loaded In Tape Device Is Unsupported Type	
tapeAlertTrap13	1	CRITICAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Device Has Detected Snapped Tape	
tapeAlertTrap14	1	CRITICAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Device Has Detected Snapped Tape	
tapeAlertTrap15	3	MINOR	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Device Has Memory Chip in Cartridge Failure [%s]	
tapeAlertTrap16	1	CRITICAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Cartridge Ejected While Actively Writing/Reading	
tapeAlertTrap17	3	MINOR	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Device Has Detected Read Only Media	
tapeAlertTrap18	3	MINOR	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Device Has Detected Corrupted Directory On Tape	
tapeAlertTrap19	4	INFORMATIONAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Device Has Detected Worn Out Media [%s]	
tapeAlertTrap20	1	CRITICAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Device Needs Cleaning	
tapeAlertTrap21	3	MINOR	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Device Requests Routine Cleaning	
tapeAlertTrap22	1	CRITICAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Device Has Detected Worn Out Cleaning Cartridge	
tapeAlertTrap23	1	CRITICAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Device Has Detected Invalid Cleaning Cartridge	
tapeAlertTrap29	3	MINOR	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Device Requires Preventative Maintenance	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
tapeAlertTrap30	1	CRITICAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Device Has Hardware Fault - Reset Drive	
tapeAlertTrap31	1	CRITICAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Device Has Hardware Fault - Call Helpline	
tapeAlertTrap32	3	MINOR	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Device Has Host Interface Fault	
tapeAlertTrap33	1	CRITICAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Device Has Eject Media Request	
tapeAlertTrap34	3	MINOR	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Device Has Firmware Download Fault	
tapeAlertTrap35	3	MINOR	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Device Humidity Specification Exceeded	
tapeAlertTrap36	3	MINOR	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Device Temperature Specification Exceeded	
tapeAlertTrap37	3	MINOR	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Device Voltage Specification Exceeded	
tapeAlertTrap38	1	CRITICAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Device Predicted to Fail - Call Helpline	
tapeAlertTrap39	3	MINOR	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Device May Have Hardware Fault - Run Diagnostics	
tapeAlertTrap40	1	CRITICAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Device Has Autoloader Communications Fault	
tapeAlertTrap41	1	CRITICAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Device Detects Stray Tape In Autoloader	
tapeAlertTrap42	3	MINOR	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Device Has Autoloader Mechanism Fault	
tapeAlertTrap43	1	CRITICAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Tape Device Has Autoloader Door Open	
tapeAlertTrap44	1	CRITICAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Autoloader Has Hardware Fault - Call Helpline	
tapeAlertTrap45	1	CRITICAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Autoloader Cannot Operate Without Magazine	
tapeAlertTrap46	3	MINOR	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Autoloader Predicted to Fail - Call Helpline	
tapeAlertTrap256	1	CRITICAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Library Has Drive Communications Fault	
tapeAlertTrap257	3	MINOR	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Library Has Changer Mechanism Fault	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
tapeAlertTrap258	1	CRITICAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Library Has Hardware Fault - Reset Library	
tapeAlertTrap259	1	CRITICAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Library Has Hardware Fault - Call Helpline	
tapeAlertTrap260	3	MINOR	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Library May Have Hardware Fault - Run Diagnostics	
tapeAlertTrap261	1	CRITICAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Library Has Host Interface Fault	
tapeAlertTrap262	3	MINOR	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Library Predicted to Fail - Call Helpline	
tapeAlertTrap263	3	MINOR	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Library Requires Preventative Maintenance	
tapeAlertTrap264	1	CRITICAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Library Humidity Specification Exceeded	
tapeAlertTrap265	1	CRITICAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Library Temperature Specification Exceeded	
tapeAlertTrap266	1	CRITICAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Library Voltage Specification Exceeded	
tapeAlertTrap267	1	CRITICAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Library Detects Stray Tape In Drive	
tapeAlertTrap268	3	MINOR	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Library Has Problems Picking Cartridge from Slot	
tapeAlertTrap269	3	MINOR	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Library Has Problems Placing Cartridge into Slot	
tapeAlertTrap270	3	MINOR	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Library Has Problems Loading Cartridge into Drive	
tapeAlertTrap271	1	CRITICAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Library Door is Open	
tapeAlertTrap272	1	CRITICAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Library Has Mechanical Fault with Mailslot	
tapeAlertTrap273	1	CRITICAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Library Cannot Operate Without Magazine	
tapeAlertTrap274	3	MINOR	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Library Security Has Been Compromised	
tapeAlertTrap275	4	INFORMATIONAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Library Security Mode Changed	
tapeAlertTrap276	4	INFORMATIONAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Library Manually Turned Offline	
tapeAlertTrap277	4	INFORMATIONAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Library Drive Turned Offline	
tapeAlertTrap278	3	MINOR	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Library Has Problems Reading Barcode Labels	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
tapeAlertTrap279	1	CRITICAL	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Library Inventory is Inconsistent	
tapeAlertTrap280	3	MINOR	Hba%d:Channel%d:ScsiID%d Invalid Library Operation Attempted	

表 44：tapealrt

Upsman

次の表は、Upsman トラップを掲載して、概要を示したものです。

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
communicationLost	1	CRITICAL	Communication with the UPS has been lost.	
upsOverload	1	CRITICAL	The UPS has sensed a load greater than 100 percent of its rated capacity.	
upsTurnedOff	2	MAJOR	The UPS is being switched off by a management station.	
communicationEstablished	4	INFORMATIONAL	Communication with the UPS has been established.	
powerRestored	4	INFORMATIONAL	Normal power has been restored to the UPS.	
upsOnBattery	2	MAJOR	The UPS system has switched to battery backup power.	
testStarted	4	INFORMATIONAL	UPS test has been started.	
testCompleted	4	INFORMATIONAL	UPS test has been completed.	
upsBatteryLow	2	MAJOR	UPS Battery Low.	
upsShutdownImminent	4	INFORMATIONAL	UPS Shutdown Imminent.	
upsmanStarted	4	INFORMATIONAL	UpsMan service started.	
upsmanTrapInputBad	2	MAJOR	Abnormal input condition	
upsmanTrapOutputOverloadRemoved	4	INFORMATIONAL	Overload Removed	
upsmanTrapBatteryBad	2	MAJOR	Bad battery	
upsmanTrapTempBad	2	MAJOR	Bad temperature	
upsmanTrapTempBadRemoved	4	INFORMATIONAL	Bad temperatureRemove	
upsmanTrapFatalFault	1	CRITICAL	Fatal fault	

表 45：Upsman

ddm

次の表は、ddm トラップを掲載して、概要を示したものです。

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ （%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
fscDdmNewConfig	4	INFORMATIONAL	Configuration for DuplexWrite group %d/%d/%d/%d was created or updated on server %s.	
fscDdmPieceRemoved	4	INFORMATIONAL	DuplexWrite piece %d/%d/%d/%d was removed from group on server %s	
fscDdmConfigRemoved	4	INFORMATIONAL	DuplexWrite group %d/%d/%d/%d was removed on server %s.	
fscDdmStatusSet	3	MINOR	Status of DuplexWrite piece %d/%d/%d/%d on server %s has changed (user request).	
fscDdmUpdateStatus	3	MINOR	Status of DuplexWrite piece %d/%d/%d/%d on server %s has changed (driver request).	
fscDdmPieceRecovered	4	INFORMATIONAL	DuplexWrite piece %d/%d/%d/%d successfully recovered on server %s.	
fscDdmRecoverAborted	3	MINOR	DuplexWrite piece %d/%d/%d/%d aborted Recover process on server %s.	
fscDdmReservationConflict	4	INFORMATIONAL	Reservation conflict occured on DuplexWrite group %d/%d/%d/%d on server %s - group is not accessible.	
fscDdmConfigChanged	4	INFORMATIONAL	DuplexWrite has found a new configuration on server %s.	
fscDdmConfigInvalidated	4	INFORMATIONAL	Configuration information was invalidated for DuplexWrite group %d/%d/%d/%d on server %s.	
fscDdmActiveLunChanged	4	INFORMATIONAL	DuplexWrite piece %d/%d/%d/%d is used for read commands on server %s.	
fscDdmPieceFailed	1	CRITICAL	DuplexWrite piece %d/%d/%d/%d failed on server %s.	
fscDdmRootFlagChanged	4	INFORMATIONAL	RootDisk flag changed on DuplexWrite group %d/%d/%d/%d on server %s.	
fscDdmForceActive	4	INFORMATIONAL	DuplexWrite piece %d/%d/%d/%d marked forced active on server %s (Snapshot).	
fscDdmNameChanged	4	INFORMATIONAL	Name of DuplexWrite group %d/%d/%d/%d has changed on server %s.	
fscDdmPathFailed	1	CRITICAL	MultiPath path %d/%d/%d/%d failed on server %s.	
fscDdmRetry	2	MAJOR	MultiPath path %d/%d/%d/%d failed on server %s - retry successful on other port.	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
fscDdmActivePortChanged	4	INFORMATIONAL	MultiPath path %d/%d/%d/%d is active on server %s.	
fscDdmReconfigured	4	INFORMATIONAL	MultiPath configuration changed on server %s.	
fscDdmStatusChanged	4	INFORMATIONAL	Status of MultiPath path %d/%d/%d/%d has changed on server %s.	
fscDdmAutoRecovered	4	INFORMATIONAL	MultiPath path %d/%d/%d/%d automatically recovered on server %s.	
fscDdmErrorCleared	4	INFORMATIONAL	Error cleared on MultiPath path %d/%d/%d/%d on server %s.	
fscDdmPnPRemove	4	INFORMATIONAL	Plug and Play Removal occured on server %s.	
fscDdmPnPNew	4	INFORMATIONAL	Plug and Play Add occured on server %s.	
fscDdmCluster	4	INFORMATIONAL	Cluster configuration changed on server %s.	

表 46：ddm

fasttrak

次の表は、fasttrak トラップを掲載して、概要を示したものです。

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
trpUnknown	4	INFORMATIONAL	Unknown	
trpEccError	1	CRITICAL	ECC Error on Disk	
trpDiskDown	2	MAJOR	Disk Set Down by Driver	
trpDiskOffline	2	MAJOR	Disk set offline by driver	
trpDiskPlugin	3	MINOR	New Disk Plugged In	
trpAryBadSector	4	INFORMATIONAL	Bad sector encountered	
trpRebuildStart	4	INFORMATIONAL	Rebuild started	
trpSyncStart	4	INFORMATIONAL	Synchronization Started	
trpRetryDisk	3	MINOR	Retry Disk Task	
trpArrayOffline	2	MAJOR	Array Offline	
trpArrayCritical	1	CRITICAL	Array Critical	
trpArrayRebuildComplete	4	INFORMATIONAL	Rebuild Completed	
trpArraySyncComplete	4	INFORMATIONAL	Unknown	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
trpMediaError	1	CRITICAL	Media Error on Disk	
trpReserveSectorError	3	MINOR	Reserved Sector Error	
trpRebuildAborted	1	CRITICAL	Rebuild Aborted	
trpSyncAborted	1	CRITICAL	Sync. Aborted	
trpECCFixFail	1	CRITICAL	ECC Fix Failed	
trpSyncCompError	3	MINOR	Sync. Compare Error	
trpSwapBoxPowerDown	4	INFORMATIONAL	Swap Box Power Down	
trpSwapBoxPowerUp	4	INFORMATIONAL	Swap Box Power Up	
trpSwapBoxBadSwap	3	MINOR	Swap Box, Bad Swap	
trpSwapBoxOverTemp	3	MINOR	Swap Box Over Temp	
trpSwapBoxFanStopped	3	MINOR	Swap Box Fan Stop	
trpSwapBox12VOutOfRange	3	MINOR	12V Out of Range	
trpSwapBox5VOutOfRange	3	MINOR	5V Out of Range	

表 47：fasttrak

Mlxraid

次の表は、Mlxraid トラップを掲載して、概要を示したものです。

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
physdevOnline	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] A hard disk has been placed online.	
physdevHotspare	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] A hard disk added as hot spare.	
physdevHardError	3	MINOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] Hard disk error found.	
physdevPfa	3	MINOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] Hard disk PFA condition found, this disk may fail soon.	
physdevAutoRebuildStart	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] An automatic rebuild has started.	
physdevManualRebuildStart	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] A rebuild has started.	
physdevRebuildDone	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] Rebuild is over.	
physdevRebuildCanceled	3	MINOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] Rebuild is cancelled.	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
physdevRebuildError	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] Rebuild stopped with error.	
physdevRebuildNewdevFailed	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] Rebuild stopped with error. New device failed.	
physdevRebuildSysdevFailed	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] Rebuild stopped because logical drive failed.	
physdevDead	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] A hard disk has failed.	
physdevFound	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] A new hard disk has been found.	
physdevGone	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] A hard disk has been removed.	
physdevUnconfigured	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] A previously configured disk is now available.	
physdevExpandcapacityStart	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] Expand Capacity Started.	
physdevExpandcapacityDone	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] Expand Capacity Completed.	
physdevExpandcapacityError	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] Expand Capacity Stopped with error.	
physdevCommandTimeout	3	MINOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] SCSI command timeout on hard device.	
physdevCommandAbort	1	CRITICAL	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] SCSI command abort on hard disk.	
physdevCommandRetried	3	MINOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] SCSI command retried on hard disk.	
physdevParityError	3	MINOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] Parity error found.	
physdevSoftError	3	MINOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] Soft error found.	
physdevMiscError	3	MINOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] Misc error found.	
physdevReset	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] SCSI device reset.	
physdevActivespare	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] Active spare found.-	
physdevWarmspare	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] Warm spare found.-	
physdevReqsense	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] Request Sense Data available.	
physdevInitStarted	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] Initialization started.	
physdevInitDone	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] Initialization completed.	
physdevInitFailed	3	MINOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] Initialization failed.	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
physdevInitCanceled	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] Initialization canceled.	
physdevWriterecDead	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] A hard disk failed because write recovery failed.	
physdevResetDead	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] A hard disk failed because SCSI bus reset failed.	
physdevDblccDead	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] A hard disk failed because double check condition occured.	
physdevRemovedDead	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] A hard disk failed because device is missing.	
physdevGrosserrDead	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] A hard disk failed because of gross error on SCSI processor.	
physdevBadtagDead	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] A hard disk failed because of bad tag from the device.	
physdevScsitmoDead	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] A hard disk failed because command to the device timed out.	
physdevSysresetDead	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] A hard disk failed because of the system reset.	
physdevBsyparDead	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] A hard disk failed because of busy status or parity error.	
physdevBycmdDead	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] A hard disk set to failed state by host.	
physdevSeltmoDead	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] A hard disk failed because access to the device met with a selection time out.	
physdevSeqerrDead	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] A hard disk failed because of a sequence error in the SCSI bus phase handling.	
physdevUnknownstsDead	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] A hard disk failed because device returned an unknown status.	
physdevNotrdyDead	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] A hard disk failed because device is not ready.	
physdevMissingDead	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] A hard disk failed because device was not found on start up.	
physdevCodwrfailDead	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] A hard disk failed because write operation of the 'Configuration On Disk' failed.	
physdevBdtwrfailDead	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] A hard disk failed because write operation of 'Bad Data Table' failed.	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
physdevOffline	3	MINOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] Physical device status changed to offline.	
physdevStandby	3	MINOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] Physical device status changed to Hot Spare.	
physdevRebuild	3	MINOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] Physical device status changed to rebuild.	
physdevIdMismatch	3	MINOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] Physical device ID did not match.	
physdevFailedStart	3	MINOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] Physical device failed to start.	
physdevOffsetSet	3	MINOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] Physical device negotiated different offset than config.	
physdevSetBusWidth	3	MINOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] Physical device negotiated different bus width than config.	
physdevMissingOnstartup	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] Physical drive missing on startup.	
physdevRebuildStartFailed	3	MINOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] Rebuild startup failed due to lower disk capacity.	
physdevMovingToOtherChn	3	MINOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] Physical drive is switching from a channel to the other channel.	
physdevOfflineDeviceMadeOnline	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] Temporary-Dead physical drive is automatically made online.	
physdevStandbyRebuildStart	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] A standby rebuild has started.	
fibredevLoopidSoftaddrOccurred	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d :] Device Loop Id Conflict (Soft Addressing) Detected.	
sysdevCheckStart	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d logdrv: %d :] Consistency check is started.	
sysdevCheckDone	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d logdrv: %d :] Consistency check is finished.	
sysdevCheckCanceled	3	MINOR	[ctl: %d logdrv: %d :] Consistency check is cancelled.	
sysdevCheckError	2	MAJOR	[ctl: %d logdrv: %d :] Consistency check on logical drive error.	
sysdevCheckSysdevFailed	2	MAJOR	[ctl: %d logdrv: %d :] Consistency check on logical drive failed.	
sysdevCheckPhysdevFailed	2	MAJOR	[ctl: %d logdrv: %d :] Consistency check failed due to physical device failure.	
sysdevOffline	2	MAJOR	[ctl: %d logdrv: %d :] Logical drive has been made offline.	
sysdevCritical	2	MAJOR	[ctl: %d logdrv: %d :] Logical drive is critical.	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
sysdevOnline	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d logdrv: %d :] Logical drive has been placed online.	
sysdevAutoRebuildStart	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d logdrv: %d :] An automatic rebuild has started on logical drive.	
sysdevManualRebuildStart	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d logdrv: %d :] A manual rebuild has started on logical drive.	
sysdevRebuildDone	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d logdrv: %d :] Rebuild on logical drive is over.	
sysdevRebuildCanceled	3	MINOR	[ctl: %d logdrv: %d :] Rebuild on logical drive is cancelled.	
sysdevRebuildError	2	MAJOR	[ctl: %d logdrv: %d :] Rebuild stopped with error.	
sysdevRebuildNewdevFailed	2	MAJOR	[ctl: %d logdrv: %d :] Rebuild stopped with error. New device failed.	
sysdevRebuildSysdevFailed	2	MAJOR	[ctl: %d logdrv: %d :] Rebuild stopped because logical drive failed.	
sysdevInitStarted	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d logdrv: %d :] Logical drive initialization started.	
sysdevInitDone	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d logdrv: %d :] Logical drive initialization done.	
sysdevInitCanceled	3	MINOR	[ctl: %d logdrv: %d :] Logical drive initialization cancelled.	
sysdevInitFailed	2	MAJOR	[ctl: %d logdrv: %d :] Logical drive initialization failed.	
sysdevFound	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d logdrv: %d :] A logical drive has been found.	
sysdevGone	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d logdrv: %d :] A logical drive has been deleted.	
sysdevExpandcapacityStart	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d logdrv: %d :] Expand Capacity Started.	
sysdevExpandcapacityDone	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d logdrv: %d :] Expand Capacity Completed.	
sysdevExpandcapacityError	2	MAJOR	[ctl: %d logdrv: %d :] Expand Capacity stopped with error.	
sysdevBadblock	1	CRITICAL	[ctl: %d logdrv: %d :] Bad Blocks found.	
sysdevSizechanged	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d logdrv: %d :] System drive size changed.	
sysdevTypechanged	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d logdrv: %d :] System drive type changed.	
sysdevBaddatablock	2	MAJOR	[ctl: %d logdrv: %d :] Bad data blocks found. Possible data loss.	
sysdevWrLunMap	3	MINOR	[ctl: %d :] System drive LUN mapping has been written to config.	
sysdevDatareadFromBlockInBdt	2	MAJOR	[ctl: %d logdrv: %d :] Attempt to read data from block that is marked in Bad Data Table	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
sysdevDataForBlockLost	2	MAJOR	[ctl: %d logdrv: %d :] Data for Disk Block has been lost due to Logical Drive problem	
sysdevOfflineDeviceMadeAvailableWithDataloss	2	MAJOR	[ctl: %d logdrv: %d :] Temporary-Offline RAID5/RAID3 array is available to the user again with the possibility of data loss in the array.	
sysdevOfflineDeviceMadeAvailable	2	MAJOR	[ctl: %d logdrv: %d :] Temporary-Offline RAID0+1/RAID1/RAID0/JBOD array is available to the user again.	
sysdevStandbyRebuildStart	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d logdrv: %d :] An standby rebuild has started on logical drive.	
fmtfanFailed	2	MAJOR	[ctl: %d enclosure: %d unit: %d :] Fan failure.	
fmtfanOk	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d enclosure: %d unit: %d :] Fan has been restored.	
aemiFanFailed	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d Fan: %d :] Fan failure.	
fmtfanNotpresent	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d enclosure: %d :] Storage cabinet fan is not present.	
fmtpowerFailed	2	MAJOR	[ctl: %d enclosure: %d unit: %d :] Power supply failure.	
fmtpowerOk	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d enclosure: %d unit: %d :] Power supply has been restored.	
aemiPwrSupplyFailed	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d Power Supply: %d :] Power supply failure.	
fmtpowerNotpresent	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d enclosure: %d :] Storage cabinet power supply is not present.	
fmtheatBad	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d Heat Sensor: %d :] Over temperature. Temperature is above 70 degrees Celsius.	
fmtheatCritical	3	MINOR	[ctl: %d enclosure: %d unit: %d :] Temperature is above 50 degrees Celsius.	
fmtheatOk	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d enclosure: %d unit: %d :] Normal temperature has been restored.	
aemiOverTemperature	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d Heat Sensor: %d :] Over temperature.	
fmtheatNotpresent	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d enclosure: %d :] Storage cabinet temperature sensor is not present.	
fmtstwkFailed	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d :] Storage Works enclosure reported failure state.	
fmtstwkCritical	3	MINOR	[ctl: %d chn: %d :] Storage Works enclosure reported critical state.	
fmtstwkOk	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d chn: %d :] Storage Works enclosure reported normal state.	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
fmtUpsDisabled	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d :] Uninterruptible Power Supply Disabled.	
fmtUpsAcFail	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d :] Uninterruptible Power Supply AC Failed.	
fmtUpsBatLow	3	MINOR	[ctl: %d :] Uninterruptible Power Supply Battery Low.	
fmtUpsFailed	2	MAJOR	[ctl: %d :] Uninterruptible Power Supply Failed.	
fmtUpsOk	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d :] Uninterruptible Power Supply Normal.	
enclfanFailed	2	MAJOR	[ctl: %d enclosure: %d unit: %d :] Fan failure.	
enclfanOk	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d enclosure: %d unit: %d :] Fan has been restored.	
enclfanNotpresent	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d enclosure: %d unit: %d :] Fan is not present.	
enclpowerFailed	2	MAJOR	[ctl: %d enclosure: %d unit: %d :] Power supply failure.	
enclpowerOk	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d enclosure: %d unit: %d :] Power supply has been restored.	
enclpowerNotpresent	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d enclosure: %d unit: %d :] Power supply is not present.	
enclheatBad	2	MAJOR	[ctl: %d enclosure: %d unit: %d :] Temperature is over safe limit. Failure imminent.	
enclheatCritical	3	MINOR	[ctl: %d enclosure: %d unit: %d :] Temperature is above working limit.	
enclheatOk	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d enclosure: %d unit: %d :] Normal temperature has been restored.	
enclheatNotpresent	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d enclosure: %d unit: %d :] Temperature sensor is not present.	
enclaccessCritical	3	MINOR	[ctl: %d enclosure: %d :] Enclosure access critical.	
enclaccessOk	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d enclosure: %d :] Enclosure access has been restored.	
enclaccessOffline	2	MAJOR	[ctl: %d enclosure: %d unit: %d :] Enclosure access is offline.	
enclsesSoftaddrOccurred	2	MAJOR	[ctl: %d enclosure: %d :] Enclosure Soft Addressing Detected.	
enclaccessReady	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d :] Enclosure services ready	
systemStarted	4	INFORMATIONAL	Array management server software started successfully.	
ctldevWritebackError	2	MAJOR	[ctl: %d :] Write back error.	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
ctldevStateTableFull	3	MINOR	[ctl: %d :] Internal log structures getting full,PLEASE SHUTDOWN AND RESET THE SYSTEM IN THE NEAR FUTURE.	
ctldevDead	1	CRITICAL	[ctl: %d :] Controller is dead. System is disconnecting from this controller.	
ctldevReset	3	MINOR	[ctl: %d :] Controller has been reset.	
ctldevFound	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d :] Controller is found.	
ctldevGone	1	CRITICAL	[ctl: %d :] Controller is gone. System is disconnecting from this controller.	
ctldevBbuFound	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d :] BBU Present.	
ctldevBbuPowerLow	3	MINOR	[ctl: %d :] BBU Power Low.	
ctldevBbuPowerOk	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d :] BBU Power OK.	
ctldevPowerOff	1	CRITICAL	[ctl: %d :] Controller is gone. System is disconnecting from this controller.	
ctldevPowerOn	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d :] Controller powered on	
ctldevOnline	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d :] Controller is online.	
ctldevOffline	1	CRITICAL	[ctl: %d :] Controller is gone. System is disconnecting from this controller.	
ctldevCritical	3	MINOR	[ctl: %d :] Controller's partner is gone, controller is in failover mode now.	
ctldevBbuRecondStart	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d :] BBU reconditioning is started.	
ctldevBbuRecondDone	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d :] BBU reconditioning is finished.	
ctldevBbuRecondAbort	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d :] BBU reconditioning is canceled.	
ctldevInstallationAborted	2	MAJOR	[ctl: %d :] Installation aborted.	
ctldevFirmwareMismatch	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] Controller firmware mismatch.	
ctldevBbuNoresponse	3	MINOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] BBU removed.	
ctldevWarmBootError	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] WARM BOOT failed.	
ctldevConservCacheMode	3	MINOR	[ctl: %d :] Controller entered Conservative Cache Mode.	
ctldevNormalCacheMode	3	MINOR	[ctl: %d :] Controller entered Normal Cache Mode.	
ctldevDevStartCmplt	3	MINOR	[ctl: %d :] Controller Device Start Complete.	
ctldevSoftEccCorrected	3	MINOR	[ctl: %d :] Soft ECC error Corrected.	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
ctldevHardEccCorrected	3	MINOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] Hard ECC error Corrected.	
ctldevBbuRecondNeeded	2	MAJOR	[ctl: %d :] BBU Recondition Needed.	
ctldevRemovedPtnr	3	MINOR	[ctl: %d :] Controller's Partner Has Been Removed.	
ctldevBbuOutOfService	2	MAJOR	[ctl: %d :] BBU out of service.	
ctldevUpdatePtnrStatus	3	MINOR	[ctl: %d :] Updated partner's status.	
ctldevRelinquishPtnr	3	MINOR	[ctl: %d :] Relinquished partner.	
ctldevInsertedPtnr	3	MINOR	[ctl: %d :] Inserted Partner.	
ctldevDualEnabled	3	MINOR	[ctl: %d :] Dual Controllers Enabled.	
ctldevKillPtnr	3	MINOR	[ctl: %d :] Killed Partner.	
ctldevNexus	3	MINOR	[ctl: %d :] Dual Controllers entered Nexus.	
ctldevBadBootromImage	2	MAJOR	[ctl: %d :] Controller Boot ROM Image needs to be reloaded.	
ctldevBadMacAddress	1	CRITICAL	[ctl: %d :] Controller is using default non-unique world-wide name.	
ctldevMirrorRaceRecoveryFailed	2	MAJOR	[ctl: %d :] Mirror Race recovery failed.	
ctldevMirrorCriticalDrive	1	CRITICAL	[ctl: %d :] Mirror Race on critical drive.	
systemStartedNew	4	INFORMATIONAL	System started.-	
systemSizeTableFull	4	INFORMATIONAL	Size table full.-	
systemUserLoggedIn	4	INFORMATIONAL	User logged in.-	
systemUserLoggedOut	4	INFORMATIONAL	User logged out.-	
systemAlive	4	INFORMATIONAL	Server alive.	
systemDead	2	MAJOR	Lost connection to server, or server is down.	
autobootChanged	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d :] Automatic reboot count has changed.	
channelFailed	3	MINOR	[ctl: %d chn: %d :] Channel Failed.	
channelOk	3	MINOR	[ctl: %d chn: %d :] Channel Online.	
channelScsiBusDead	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d :] Back End SCSI Bus Dead.	
channelScsiBusAlive	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d chn: %d :] Back End SCSI Bus Alive.	
channelFiberDead	2	MAJOR	[ctl: %d chn: %d :] Back End Fibre Dead.	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
channelFiberAlive	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d chn: %d :] Back End Fibre Alive.	
logEmpty	3	MINOR	[ctl: %d :] Event Log Empty.	
logOutSync	3	MINOR	[ctl: %d :] Event Log Entries Lost.	
logRequestSense	3	MINOR	[ctl: %d chn: %d tgt: %d :] Request Sense	
logSetRtc	3	MINOR	[ctl: %d chn: %d :] Set Real Time Clock.	
cfgNew	3	MINOR	[ctl: %d :] New Configuration Received.	
cfgClear	3	MINOR	[ctl: %d :] Configuration Cleared.	
cfgInvalid	3	MINOR	[ctl: %d :] Configuration Invalid.	
cfgCodAccessError	3	MINOR	[ctl: %d :] Configuration On Disk Access Error.	
cfgCodConverted	3	MINOR	[ctl: %d :] Configuration On Disk Converted.	
cfgCodImportFailed	3	MINOR	[ctl: %d :] Configuration On Disk Import Failed.	
debugDumpGenerated	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d :] A Debug Dump exists on this system.	
debugDumpGeneratedPartner	4	INFORMATIONAL	[ctl: %d :] A Debug Dump exists on this system.	
fatalHang	2	MAJOR	Internal Controller is in the hung state.	
fatalBrkp	2	MAJOR	Internal Controller has encountered a Firmware breakpoint.	
i960HwErr	2	MAJOR	Internal Controller has encountered i960 processor specific error.	
sarmHwErr	2	MAJOR	Internal Controller has encountered Strong-ARM processor specific error	

表 48：fasttrak

clariion

次の表は、clariion トラップを掲載して、概要を示したものです。

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
clarTrap	4	INFORMATIONAL	FibreCat error: %s on host: %s, error number: %d, event code: %d, serial number: %s	

表 49：clariion

S31

次の表は、S31 トラップを掲載して、概要を示したものです。

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ （%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
s31TestTrap	4	INFORMATIONAL	Test trap from server %s (no error).	
s31MgmtBladeAdded	4	INFORMATIONAL	Management blade %d at server %s was added.	
s31MgmtBladeRemoved	4	INFORMATIONAL	Management blade %d at server %s was removed.	
s31MgmtBladeOk	4	INFORMATIONAL	Management blade %d at server %s status is ok.	
s31MgmtBladeError	2	MAJOR	Management blade %d at server %s status is error.	
s31MgmtBladeCriticalError	1	CRITICAL	Management blade %d at server %s status is critical.	
s31ServerBladeAdded	4	INFORMATIONAL	Server blade %d at server %s was added.	
s31ServerBladeRemoved	4	INFORMATIONAL	Server blade %d at server %s was removed.	
s31ServerBladeOk	4	INFORMATIONAL	Server blade %d at server %s status is OK.	
s31ServerBladeError	2	MAJOR	Server blade %d at server %s status is error.	
s31ServerBladeCriticalError	1	CRITICAL	Server blade %d at server %s status is critical.	
s31SwitchBladeAdded	4	INFORMATIONAL	Switch blade %d at server %s was added.	
s31SwitchBladeRemoved	4	INFORMATIONAL	Switch blade %d at server %s was removed.	
s31SwitchBladeOk	4	INFORMATIONAL	Switch blade %d at server %s status is OK.	
s31SwitchBladeError	2	MAJOR	Switch blade %d at server %s status is error.	
s31SwitchBladeCriticalError	1	CRITICAL	Switch blade %d at server %s status is critical.	
s31SysFanAdded	4	INFORMATIONAL	System fan %d at server %s was added.	
s31SysFanRemoved	4	INFORMATIONAL	System fan %d at server %s was removed.	
s31SysFanOk	4	INFORMATIONAL	System fan %d at server %s status is OK.	
s31SysFanError	2	MAJOR	System fan %d at server %s status is error.	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
s31SysFanCriticalError	1	CRITICAL	System fan %d at server %s status is critical.	
s31SysTempOk	4	INFORMATIONAL	Temperature at system temperature sensor %d of server %s is within normal range.	
s31SysTempError	2	MAJOR	Temperature at system temperature sensor %d of server %s is out of normal range.	
s31SysTempCriticalError	1	CRITICAL	Temperature at system temperature sensor %d of server %s has reached the critical level.	
s31SysTempSensorOk	4	INFORMATIONAL	System temperature sensor %d of server %s is working again.	
s31SysTempSensorBroken	2	MAJOR	System temperature sensor %d of server %s is broken or not connected.	
s31SysPowerSupplyAdded	4	INFORMATIONAL	Power supply unit %d at server %s was added.	
s31SysPowerSupplyRemoved	4	INFORMATIONAL	Power supply unit %d at server %s was removed.	
s31SysPowerSupplyOk	4	INFORMATIONAL	Power supply unit %d at server %s is working again.	
s31SysPowerSupplyError	2	MAJOR	Power supply unit %d at server %s failed.	
s31SysPowerSupplyCriticalError	1	CRITICAL	Insufficiant operating power supplies unit available in power supply unit %d at server %s.	
s31ServerPowerOn	4	INFORMATIONAL	Server blade %d at server %s is powered on.	
s31ServerPostError	2	MAJOR	Server blade %d at server %s is posted error.	
s31ServerBootError	2	MAJOR	No bootable operation system found at server blade %d of server %s.	
s31ServerShutdown	1	INFORMATIONAL	Server blade %d at server %s is shutdowned.	
s31ServerSoftwareWatchdogExpired	2	MAJOR	Software watchdog at server blade %d of server %s expired.	
s31ServerBootWatchdogExpired	2	MAJOR	Boot watchdog at server blade %d of server %s expired.	
s31UserAuthenticationFailure	2	MAJOR	User authentication failure detected at server %s, performing protocol %s.	
s31TrapEventLog	2	MAJOR	An error was recorded on server %s. See server management event error log (Recovery) for detailed information.	
s31ServerBladeNewAdd	4	INFORMATIONAL	Server blade %d at server %s is added on a empty slot.	
s31ServerBladeHotReplace	4	INFORMATIONAL	Server blade %d at server %s is added on a marked for hot replacement slot.	

TRAP-TYPE	ID	エラーのクラス	詳細メッセージ（%d：任意の数字、%s：システム変数）	備考
s31ServerPowerOff	4	INFORMATIONAL	Server blade %d at server %s is powered off.	
s31SysTempSensorAdded	2	MAJOR	System temperature sensor %d of server %s is added.	
s31SysTempSensorRemoved	2	MAJOR	System temperature sensor %d of server %s is removed.	

表 50：S31

6　しきい値リスト

しきい値の監視に使用する ServerView 変数の概要を次に示します。

監視される値

次に示すしきい値が監視対象となります。

値	意味
DAC960-AdapterInfo-Values	DAC960 アダプタ設定のしきい値
DAC960-PhysicalDevice-Values	DAC960 アダプタに接続するデバイスのデバイスエラーのしきい値
Environment-Values	ファン速度のしきい値
Ethernet-MAC-Statistics	イーサネット MAC エラーのしきい値
FDDI-MAC-Statistics	FDDI-MAC エラーのしきい値
FDDI-Port-Statistics	FDDI ポートエラーのしきい値
Interface-Values	インタフェース統計情報とインタフェースエラーのしきい値
IP-Info	IP 統計情報のしきい値
Memory-Values	メモリエラーのしきい値
NetWare-Info	NetWare 接続のしきい値
OnOffTimes	電源のオン / オフ時間のしきい値
PC-Inventory-CPUValues	CPU 使用のしきい値
PC-Inventory-FileSystem	使用可能ブロックのしきい値
PC-Inventory-Info	マウント済みファイルシステムのしきい値
SystemBoard-Info	バスのロードのしきい値
SystemControl-Info	キャビネット数のしきい値
TokenRing-MAC-Statistics	TokenRing エラーのしきい値
UPS-Values	バッテリによる稼動時間のしきい値

表 51：しきい値 : 監視される値

概要

■ DAC960-AdapterInfo-Values

値	意味
mylex.NumChannels	現在のチャネル数
mylex.NumLogicalDrives	現在の論理ドライブ数
mylex.NumPhysicalDevices	現在の物理デバイス数

表 52：しきい値 : DAC960-AdapterInfo-Values

■ DAC960-PhysicalDevice-Values

値	意味
physDev960.HardError Count	ハードウェアエラーカウント（設定済み DAC ディスクのみ）
physDev960.MiscErrorCount	さまざまなエラーカウント（設定済み DAC ディスクのみ）
physDev960.ParityError Count	パリティエラーカウント（設定済み DAC ディスクのみ）
physDev960.SoftErrorCount	ソフト（通常）エラーカウント（設定済み DAC ディスクのみ）

表 53：しきい値 : DAC960-PhysicalDevice-Values

■ Environment-Values

値	意味
fan.CurrentMaxSpeed	最大パワー時のファンの現在速度（回転 / 分）（-1 = 不明）
fan.CurrentSpeed	ファンの現在速度（回転 / 分、-1 = 不明）

表 54：しきい値 : Environment-Values

■ Ethernet-MAC-Statistics

値	意味
ethS.AlignmentErrors	長さは整数バイトではなく、FCS チェックをパスしていない、特定のインタフェース上で受信したフレーム数。
ethS.CarrierSenseErrors	特定のインタフェース上でのフレームの送信時に、キャリア検出テストが失敗して実行されなかった回数。
ethS.DeferredTransmissions	媒体がビジー状態のため、特定のインタフェース上で最初の送信に遅れがあったフレーム数。
ethS.ExcessiveCollision	過度の衝突のため、特定のインタフェース上での送信に失敗したフレーム数。
ethS.FCSErrors	長さは整数バイトであるが、FCS チェックをパスしていない、特定のインタフェース上で受信したフレーム数。
ethS.FrameTooLongs	最大許容フレームサイズを超えた、特定のインタフェース上で受信したフレーム数。
ethS.InternalMacReceive Errors	内部 MAC サブレイヤ受信エラーのため、特定のインタフェース上での受信に失敗したフレーム数。
ethS.InternalMacTransmit Errors	内部 MAC サブレイヤ送信エラーのため、特定のインタフェース上での送信に失敗したフレーム数。
ethS.LateCollisions	512 ビットを超えるパケットの送信後、特定のインタフェース上で衝突を検出した回数。
ethS.MultipleCollision Frames	複数の衝突が発生したため送信が除去された特定のインタフェース上で、正常に送信されたフレーム数。
ethS.SingleCollisionFrames	1 つの衝突が発生したため送信が除去された特定のインタフェース上で、正常に送信されたフレーム数。
ethS.SQETestErrors	特定のインタフェースに対して、SQE TEST ERROR メッセージが PLS サブレイヤによって生成された回数。

表 55：しきい値 : Ethernet-MAC-Statistics

■ FDDI-MAC-Statistics

値	意味
fddiM.ErrorsCts	Error_Count（ANSI MAC 2.2.1 を参照）
fddiM.FrameCts	Frame_Count（ANSI MAC 2.2.1 を参照）
fddiM.LostCts	Lost_Count（ANSI MAC 2.2.1 を参照）

表 56：しきい値 : FDDI-MAC-Statistics

■ FDDI-Port-Statistics

値	意味
fddiP.LCTFailCts	接続管理中に、リンク信頼テストに連続して失敗した回数。
fddiP.LemCts	電源投入時、ゼロにリセットされるだけのリンクエラーモニタがカウントするエラー数。
fddiP.LemRejectCts	リンクが拒否された時間数のリンクエラー監視回数。

表 57：しきい値 : FDDI-Port-Statistics

■ Interface-Values

値	意味
if.InDiscards	上位レイヤプロトコルでパケットを使用できないようにしたエラーがないのに、廃棄するよう選択された進入パケット数。
if.InErrors	上位レイヤプロトコルでパケットを使用できないようにしたエラーが含まれている進入パケット数。
if.InNUcastPkts	上位レイヤプロトコルに送信された（ブロードキャストではない）非マルチキャストパケット数。
if.InOctets	フレーム指示キャラクタを含め、インタフェース上で受信した合計バイト数。
if.InUcastPkts	上位レイヤプロトコルに送信されたサブネットワークのユニキャストパケット数。
if.InUnknownProtos	不明またはサポートされないプロトコルのため廃棄された、インタフェース経由での受信パケット数。
if.OutDiscards	パケットを送信できないようにしたエラーが検出されなくても、廃棄するよう選択された送出パケット数。
if.OutErrors	エラーにより送信できなかった送出パケット数。
if.OutNUcastPkts	廃棄されたり送信されなかったパケットを含め、上位レベルプロトコルが非ユニキャストアドレスに送信を要求した合計パケット数。
if.OutOctets	フレーム指示キャラクタを含め、インタフェース上で送信された合計バイト数。
if.OutQLen	出力パケットキューの長さ（パケット内）
if.OutUcastPkts	廃棄されたり送信されなかったパケットを含め、上位レベルプロトコルがサブネットワークのユニキャストアドレスに送信するよう要求した合計パケット数。
if.Speed	インタフェースの現在の帯域幅の見積もり（ビット / 秒）。

表 58：しきい値 : Interface-Values

■ IP-Info

値	意味
ip.ForwDatagrams	このエンティティが最終 IP 宛先でないため、データグラムを最終宛先に転送する経路を検索しようと試みた、入力データグラム数。
ip.InReceives	誤って受信したデータグラムを含め、インタフェースから受信した合計入力データグラム数。
ip.OutRequests	送信を要求したため、ローカル IP ユーザプロトコル（ICMP を含む）が IP に提供した合計 IP データグラム数。

表 59：しきい値 : IP-Info

■ Memory-Values

値	意味
memModule.Errors	最後のエラーカウントがリセットされてから、このモジュールで発生した（パリティ）エラー数（-1 = 不明）。

表 60：しきい値 : Memory-Values

■ NetWare-Info

値	意味
sniNW.ConnectionsInUse	現在使用されている接続数。
sniNW.PeakConnectionsUsed	使用された接続のピーク数。

表 61：しきい値 : NetWare-Info

■ OnOffTimes

値	意味
#power.OffDuration	システムの存続期間において、電源がオフになっていた時間（時間で表示、-1 = 不明）。
power.OnCounts	サーバの存続期間において、電源がオンになった回数（-1 = 不明）。
power.OnDuration	システムの存続期間において、電源がオンになっていた時間（時間で表示、-1 = 不明）

表 62：しきい値 : OnOffTimes

■ PC-Inventory-CPUValues

値	意味
sni.CPUUtilization	CPU がデータを処理している時間のパーセント

表 63：しきい値 : PC-Inventory-CPU values

■ PC-Inventory-FileSystem

値	意味
sni.AvailableBlocks	ファイルシステムの未使用ブロック数（未使用ブロック * ブロックサイズ = ファイルシステムで使用可能なバイト数）

表 64：しきい値 : PC-Inventory-FileSystem

■ PC-Inventory-Info

値	意味
sni.MountedFileSystems	現在マウントされているファイルシステム数。

表 65：しきい値 : PC-Inventory-Info

■ SystemBoard-Info

値	意味
utilization.EisaLoad	EISA バス上のロード（パーセント表示、不明の場合は -1）
utilization.PciLoad	PCI バス上のロード（パーセント表示、不明の場合は -1）。新たにインプリメンテーションする場合は、このオブジェクトを使用しないでください。このオブジェクトは pciUtilizationTable になりました。

表 66：しきい値 : SystemBoard-Info

■ SystemControl-Info

値	意味
NumberCabinets.Detected	検出されたキャビネット数（サーバそのものが含まれるため、最小値は 1）。

表 67：しきい値 : SystemControl-Info

■ TokenRing-MAC-Statistics

値	意味
tokS.AbortTransErrors	送信中、ステーションが異常終了区切り記号を送信すると、このカウンタが増加される。
tokS.ACErrors	ステーションが A と C が等しく 0 である AMP フレームまたは SMP フレームを受信してから、最初に AMP フレームを受け取らずに、A と C が等しく 0 である別の SMP フレームを受信した場合に、このカウンタが増加される。これは、AC ビットを正しく設定できないステーションであることを示す。
tokS.BurstErrors	ステーションにより 5 つのハーフビット期間に遷移がないことが検出されると、このカウンタが増加される。（バーストファイブエラー検出）
tokS.FrameCopiedErrors	ステーションが特別なアドレスにアドレス指定されたフレームを認識し、FS フィールドの A ビットが 1 にセットされ、回線瞬断または重複アドレスの可能性があることを検出した場合に、このカウンタが増加される。
tokS.InternalErrors	ステーションが内部エラーを認識した場合に、このカウンタが増加される。
tokS.LineErrors	フレームまたはトークンがステーションによりコピーまたは繰り返され、フレームまたはトークンの E ビットが 0 であり、さらに次の条件のいずれか 1 つが存在している場合に、このカウンタが増加される。 1. フレームまたはトークンの SD と ED との間に非データビットが存在する（J ビットまたは K ビット）。 2. フレームで FCS エラーが発生している。
tokS.LostFrameErrors	ステーションが送信中で、その TRR タイマの期限が切れている場合に、このカウンタが増加される。
tokS.ReceiveCongestions	ステーションが特別なアドレスにアドレス指定されたフレームを認識しても、利用可能なバッファ容量がなく、ステーションで輻輳が発生していることを示す場合に、このカウンタが増加される。
tokS.SoftErrors	インタフェースが検出した通常の（ソフト）エラー数。この数は、このインタフェースが送信したことが記録されている不良 MAC フレーム数とちょうど一致する。
tokS.TokenErrors	稼動中のモニタとして動作しているステーションが、トークンを送信する必要のあるエラー状態を認識した場合に、このカウンタが増加される。

表 68：しきい値 : TokenRing-MAC-Statistics

■ UPS-Values

値	意味
ups.TimeOnBattery	UPS がバッテリ電源に切り換わってから経過した時間。

表 69：しきい値 : UPS-Values

7 略語

略語	意味
APC	American Power Conversion (Manufacturer)
API	Application Programming Interface
ASIC	Application Specific Integrated Circuit
ASM	Advanced Server Management
ASN.1	Abstract Syntax Notation One
ASR&R	**自動再構成／自動再起動**（Automatic Server Reconfiguration and Restart）
AT	Attention
ATDP	Attention Dial Pulse
ATDT	Attention Dial Tone
AVR	Automatic Voltage Regulator
BBU	**バッテリバックアップユニット**（Battery Backup Unit）
BIOS	Basic Input/Output System
CA	Computer Associates (Manufacturer)
CAN	Controller Area Network(s)
COD	Configuration on Disk
CPU	**中央演算処理装置**（Central Processing Unit）
CSMA/CD	Carrier sense multiple access with collision avoidance
DAC	Disk Array Controller
DACCF	A configuration utility for Mylex-controllers
DMI	Desktop Management Initiative
DNS	**ドメインネームサービス**（Domain Name Service）
DPT	Distributed Processing Technology
DSM	Distributed State Machine
DW	Duplex Write
EGP	Exterior Gateway Protocol
EISA	Enhanced Integrated System Architecture
EMC	Manufacturer of high-available enterprise disk-sub-systems.
EMU	Electromagnetic Unit
FDDI	Fiber Distributed Data Interface
GAM	Global Array Manager Stimmt das so?
GSM	Global System for Mobile Communication
HBA	Host Bus Adapter
ICMP	Internet Control Message Protocol
ID	Identifier
IETF	Internet Engineering Task Force
IP	**インターネットプロトコル**（Internet Protocol）
IPX	Internet Packet Exchange
ISA	Integrated System Architecture
ISDN	**サービス統合デジタル網**（Integrated Service Digital Network）
ISO	**国際標準化機構**（International Standardization Organization）

略語	意味
LAN	ローカルエリアネットワーク（Local Area Network）
LDSM	Intel LanDesk® ServerManager
MAC	媒体アクセス制御（Medium Access Control）。OSI 参照モデルの接続層に相当します。
MAPI	Messaging Application Programming Interface
MIB	Management Information Base
MIF	Management Information Format
MODEM	変調装置 / 復調装置（Modulator / Demodulator）
MSCS	Microsoft Cluster Server
NDIS	ネットワークドライバインタフェース仕様（Network Driver Interface Specification）
NDS	Network Directory Service
NETBEUI	Netbios Extended User Interface
NETBIOS	Net-Basis-Input-/Output-System
NIC	Network Information Center
NLM	Netware Loadable Module
NNM	Network Node Manager
NT	New Technology
OID	オブジェクト ID（Object ID）
OS	オペレーティングシステム（Operating System）
OSI	開放型システム間相互接続（Open system Interconnection）
PCI	Peripheral Component Interconnect
PCMCIA	Personal Computer Memory Card International Association
PDA	予防保守（Prefailure Detection and Analysis）
PDU	Protocol Data Unit
PFA	Prefailure Analysis
PLS	物理信号制御（Physical Signaling）。OSI 参照も出るの物理層に相当します。
POST	Power On Self Test
PPC	Manufacturer of uninteruptible power supply units
PPP	Point to Point Protocol
PPTP	Point to Point Tunnel Protocol
RAID	Redundant Array of Independent Disks
RAS	リモートアクセスサービス（Remote Access Service）
RFC	Request for Comments
RFS	リモートファイルシステム（Remote File System）
RSB	Remote Service Board
SCSI	Small Computer System Interface
SCU	Server Configuration Utility
SLIP	Serial Line Internet Protocol
S.M.A.R.T	セルフモニタリングおよびレポーティング技術（Self Monitoring and Reporting Technology）
SMS	1. Short Message Systerm 2. Systems Management System
SNMP	簡易ネットワーク管理プロトコル（Simple Network Management Protocol）
SQL	Structural Query Language

略語	意味
SSA	SNMP Subagent
SuSe	A LINUX-Distributor
TAP	Telocator Alphanumeric Protocol
TCP/IP	**転送制御プロトコル** / **インターネットプロトコル**（Transmission Control Protocol / Internet Protocol）
TRR	Token Ring Repeater
UCP	Universal Computer Protocol
UPS	Uninteruptible Power Supply
WAN	**広域ネットワーク**（Wide Area Network）
WINS	Windows **インターネットネームサービス**（Windows Internet Name Services）

索引

あ

アーカイブマネージャ 137
アイコン 306
アイコン（クラスタのステータス）....312
アイコン（グループのステータス）....313
アイコン（サーバノードのステータス）
.....312
アイコン（その他のアイコン）.....316
アイコン（ネットワークインタフェースウィンドウ）.....310
アイコン（ネットワークインタフェースのステータス）.....314
アイコン（ネットワークのステータス）
.....314
アイコン（バスとアダプタウィンドウ）
.....310
アイコン（ブレードサーバのステータス LED）.....315
アイコン（ブレードサーバのステータス）
.....315
アイコン（ブレードの種類）.....315
アイコン（リソースのステータス）....313
アイコン（Alarm Manager ウィンドウ）
.....311
アイコン（Alarm Monitor ウィンドウ）
.....311
アイコン（DPT Disk Array Devices ウィンドウ）.....309
アイコン（Mylex の Device View ウィンドウ）
.....309
アイコン（Server List）.....307
アイコン（ServerView メニュー）.....308
アクション 93
アラームアイコンの削除 125
アラームサービス 124
アラーム設定 129
アラームの管理 72
アラームの転送 132
アラームの表示 125
アラームマネージャ 125
アラームメニュー 81
アラームモニタ 127
アンインストール（管理コンソール）..59
アンインストール（サーバ).....61

い

インストール 13
インストールスクリプト 32
インストールの準備 17
インストール（ServerView Basic）.....155

う

ウィンドウ 142
ウィンドウメニュー 82

か

外部アプリケーション 117
外部記憶装置 97
外部記憶装置 - DuplexWrite 105
外部記憶装置 - MultiPath 103
外部記憶装置 - RAID コントローラ ...101
環境 110
監視機能 70
管理機能 7
管理コンソール 1

く

クラスタのプロパティウィンドウ 144

こ

構成情報 92
コミュニティ 211

さ

サーバの一覧ウィンドウ 83
サーバのフィルタ 131
サーバの一覧ウィンドウ 68
サーバブラウザウィンドウ 86
サービスプロバイダ ITS へのメールの転送
.....133

し

しきい値 112, 121
しきい値一覧 123
しきい値の管理 73
しきい値マネージャ 121
しきい値メニュー 81
しきい値リスト 376
しきい値（DAC960-AdapterInfo-Values）
.....376
しきい値（DAC960-PhysicalDevice-Values）
.....377
しきい値（Environment-Values）.....377
しきい値（Ethernet-MAC-Statistics）....378
しきい値（FDDI-MAC-Statistics）.....378
しきい値（FDDI-Port-Statistics）.....378
しきい値（Interface-Values）.....379
しきい値（IP-Info）.....379
しきい値（Memory-Values）.....380
しきい値（NetWare-Info）.....380
しきい値（OnOffTimes）.....380
しきい値（PC-Inventory-CPUValues）..380
しきい値（PC-Inventory-FileSystem）...380
しきい値（PC-Inventory-Info）.....381
しきい値（SystemBoard-Info）.....381
しきい値（SystemControl-Info）.....381
しきい値（TokenRing-MAC-Statistics）.382
しきい値（UPS-Values）.....382
システムセキュリティ 8

せ

設定メニュー 81

た

タスクメニュー 80
単位の設定 118

つ

ツールメニュー 82

て

データのエクスポート 141
デバイスの表示 100, 102
デフォルト 112
デフォルト値の管理 75
デフォルトの設定 117
電源 109

と

統合オプション 10
動作環境 13
動作環境（ServerView エージェント）.. 14
動作環境（ServerView マネージャ）.... 15
トラップ 211, 213
トラップ（EMC）.....376

ね

ネットワークインタフェース 112

は

パーティションビュー 98

ひ

表示メニュー 80

ふ

ファイルメニュー 79
ブリッジコントローラの詳細 102
プロパティウィンドウ 143

へ

ベースボード 108
ヘルプメニュー 82
編集メニュー 80

ほ

ポケットベルの設定 134

ま

マルチパスステータス 104

め

メールの設定 133
メールの転送 133

も

モニタ機能 7

ゆ

ユーザ認証 118

よ

予防保守機能 7

り

リカバリ機能 6, 71
リモートアクセスサービス 8
リモートサービスボード 10, 77, 239

れ

レポート 112, 119
レポート一覧 120
レポートの管理 74
レポートマネージャ 119
レポートメニュー 81

ろ

ロジカルビュー 99

A

Asmpro 349
ASR 設定 144

B

brocade 350

C

clariion 372
cmc32 351
Configuration Group 105

D

ddm 361
dec 318
desktrap 319
dptscsi 325
duralink 326
dw 326

F

fasttrak 362
Firewall の設定 48
Fujitsu サーバ管理 212
F5emt2o 348

G

Global Flash 141

H

hd 327
Help 70
httpd サービスの自動起動設定 47

I

IIS 22
Internet Information Server 22
InventoryView 215
InventoryView ウィンドウ 218

L

Ldcm 353
LDSM 161
ldsm 328
LDSM 連携 161

M

Management Information Base 209
megaraid 328
Mlxraid 363
mp 330
mylex 330

N

ntcluster 334

P

pichotplug 336
powernet 337
PPC 354

R

RAS 8
RemoteControlService 177
RemoteControlService（システム用件）
.....179
RFC1157 354
ROMPILOT 355
RPM の上書きインストール 42
RPM バージョンの確認 42
RSB 10, 77, 239

S

S.M.A.R.T. サポート 10
sc 340
Server View を使用する前に 67
Servervi 349
ServerView 1
serverview 344
ServerView Basic 11, 155
ServerView Web-Server 22
ServerView エージェント 1, 207
ServerView 管理コンソール 1
ServerView マネージャ 207
SNMP サービスの自動起動設定 47
SNMP のデータ要素 210
SNMP のプロトコル要素 210
status 345
SystemWalker 連携 163
S31 373

T

tapealrt 356
trap 345

U

Upsman 360

W

Write ステータス 106